

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	イノベーションの志					授業形態	講義
授業コード	AIV1110001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	中村 伊知哉						
授業概要	<p>本学は「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」ことを教育理念とし、経営と情報通信技術に関する理論と実践力、国際的なコミュニケーション能力、これらを組み合わせた応用力を主体的に身に付け、国際社会と地域社会の産業発展に貢献する人材を育成する大学である。本授業ではこの「イノベーション」について理解を深めるとともに、イノベーションを生み出し、イノベーターとなるために必要な資質や素養を身につけるための土台を様々な事例を学ぶことにより構築する。</p> <p>具体的には、分野ごとにイノベーション事例を取り上げ、情報社会におけるICTを使ったイノベーションとは何かについて、自分なりの解を導き出す。各インプットを基にグループワークで意見交換を交え、他者と比較の中で、自身のビジョンステートメントを構築する授業構成をとる。</p> <p>また、イノベーションを起こす人材となるために必要なことは何か、自らイノベーションを起こすために何をするかを考え自分なりのイノベーター像、イノベーションのあり方を検討し、この後の本学での学びの素地とする。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>情報社会におけるイノベーションについて基本的な考え方を理解すること。</p> <p>常に変化する世界の流れの中でも、イノベーションを生み出し、イノベーターになるためのスキルとマインドを身につけること。</p>						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション：情報社会におけるイノベーションとは何か1 iU Channel iU 紹介（本学の紹介動画）を視聴し、本学及び学長が目指すiUの姿を理解する。</p>						
第2回	<p>イントロダクション：情報社会におけるイノベーションとは何か2 iU Channel iU 紹介（本学の紹介動画）を視聴し、本学及び学長が目指すiUの姿を理解する。</p>						
第3回	<p>ICTとイノベーション(1) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel ショート講義集1「キミたちがいてボクがいる」を視聴し、ICTが実社会に及ぼす影響を考える。</p>						
第4回	<p>ICTとイノベーション(2) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel ショート講義集1「キミたちがいてボクがいる」を視聴し、ICTが実社会に及ぼす影響を考える。</p>						
第5回	<p>ICTとイノベーション(3) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel ショート講義集2「キミたちがいてボクがいる」を視聴し、ICTが実社会に及ぼす影響を考える。</p>						
第6回	<p>ICTとイノベーション(4) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel ショート講義集2「キミたちがいてボクがいる」を視聴し、ICTが実社会に及ぼす影響を考える。</p>						
第7回	<p>ICTとイノベーション(5) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel 「きょうのiU」を視聴し、本学が開学から作り上げてきたものを振り返り、次に自分たちが作り上げるものを考える。</p>						
第8回	<p>ICTとイノベーション(6) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel 「きょうのiU」を視聴し、本学が開学から作り上げてきたものを振り返り、次に自分たちが作り上げるものを考える。</p>						
第9回	<p>ICTとイノベーション(7) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel 「学長くん ガチョーン」を視聴し、本学の超客員教授を始めとするイノベーターたちと学長の対談を通し、イノベーション人材の基礎を学ぶ。</p>						
第10回	<p>ICTとイノベーション(8) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel 「学長くん ガチョーン」を視聴し、本学の超客員教授を始めとするイノベーターたちと学長の対談を通し、イノベーション人材の基礎を学ぶ。</p>						
第11回	<p>ICTとイノベーション(9) （ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴） iU Channel 「学長くん ガチョーン」を視聴し、本学の超客員教授を始めとするイノベーターたちと学長の対談を通し、イノベーション人材の基礎を学ぶ。</p>						

第12回	ICTとイノベーション(10) (ビジネス分野、ICT分野及びグローバル分野でのICTを用いたイノベーションについて動画視聴) iU Channel「学長くん ガチョーン」を視聴し、本学の超客員教授を始めとするイノベーターたちと学長の対談を通し、イノベーション人材の基礎を学ぶ。
第13回	ICTとイノベーション(11) (情報社会におけるイノベーションについての講義)
第14回	ICTとイノベーション(12) (情報社会におけるイノベーションについての講義)
第15回	最終発表、まとめ(13) (イノベーションの志のまとめ)
成績評価の方法	最終レポート30%、授業レポート70%
準備学修(予習・復習、課題等)	参考書を読んでおくこと。 参考URLを視聴しておくこと。 ■視聴動画 中村伊知哉学長によるiU Channel https://www.youtube.com/c/iUCHANNEL
教科書	
参考書	■視聴動画 中村伊知哉学長によるiU Channel https://www.youtube.com/c/iUCHANNEL ■参考文献 「超ヒマ社会をつくる」(ヨシモトブックス) 「新版 超ヒマ社会をつくる - アフターコロナはネコの時代 -」(ヨシモトブックス)
備考	
昨年度からの振り返り	「iUとは」を皆さんで考える講義です。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	スタディスキル					授業形態	講義
授業コード	SSK1110001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	加藤 直人						
授業概要	大学生は社会で貢献するための準備期間であり、自分が興味関心を持つ分野について主体的に学ぶとともに、社会に出ていくにあたって企業におけるプレゼンテーションに代表されるように今度は自らが情報発信をしなければならないという立場にもなる。本講義では有意義な大学生活を送るために、基本となるアカデミックスキルや社会人基礎力など、入学時に立てた目標を実現する力を身につける。具体的には、課題に取り組みながら大学生活を送るために必要なコミュニケーション、情報収集と活用、レポートやプレゼンテーションなどを身につけるとともに、取り上げる課題やテーマから大学での学びや将来の目標を考える。						
授業の目的・到達目標	有意義な4年間の大学生活を送るための基本となる、大学において学ぶ（授業、課外活動）ことのスキルを身につけることを目的とする。そして、本専門職大学の学生として、自覚を持って行動できるようになることを目標とする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション スタディスキルとは、スタディスキルで何を学ぶのか						
第2回	目標の振り返りと本科目における課題設定 情報リテラシー、レポート、プレゼンテーション、コミュニケーションの観点から自己分析し、本講義で何を学ぶのかを明確にする						
第3回	情報リテラシー① インターネットの利用の仕方、SNSの利用の仕方、利用上の注意						
第4回	情報リテラシー② 図書館の利用、専門書・文献の収集、検索方法、読み方						
第5回	レポート① 考えのまとめ方、レポートの書き方						
第6回	レポート② Word初歩（文書作成ソフト使用時の注意点）						
第7回	レポート③ Excel初歩（表計算を用いたデータ作成）						
第8回	レポート④ 文書の書き方						
第9回	プレゼンテーション① プレゼン資料の作り方						
第10回	プレゼンテーション② PowerPoint初歩						
第11回	プレゼンテーション③ 全員発表						
第12回	コミュニケーション① 議論、質疑応答の仕方						
第13回	コミュニケーション② 自己理解、相互理解						
第14回	コミュニケーション③ 発信力、表現力、傾聴力						
第15回	まとめ 課題や本科目を通じて得た気づき、目標の再設定						
成績評価の方法	・講義内タスク：講義で学んだ知識、理解度の確認を行う（60%） ・課題：レポート、プレゼンテーション、まとめの内容（40%）						

準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中だけでなく、大学生生活や家庭生活においても常にスタディスキルを意識すること。 ・講義資料を公開する予定なので、復習では講義資料中のキーワードを自分の講義ノートであらためて整理し（2時間程度）、実践すること。
教科書	
参考書	<p>教科書：必要な資料は随時配布する。</p> <p>参考文献：</p> <p>『大学での学びをアクティブにする アカデミック・スキル入門』 伊藤 奈賀子（編集）中嶋祥子（編集）、有斐閣、2019年</p> <p>『ゼミで学ぶスタディスキル』 南田 勝也（著）矢田部 圭介（著）山下 玲子（著）、北樹出版、2011年</p>
備考	この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。
昨年度からの振り返り	<p>今年度も、未来予想図として、履歴書の「ガクチカ」（学生生活において力を入れたこと）を書くことを取り上げる。</p> <p>これは、次のことを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次には、臨地実務実習に向けて「ガクチカ」を書く必要があるが、それを例にして実践的な文章の書き方を学ぶ。 ・大学生を有意義に過ごすため、具体的な目標を設定する。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	英語コア・スキルズ I					授業形態	演習
授業コード	EC11120001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	奥村 耕一、柿崎 理、後藤 亮						
授業概要	<p>現代社会において、グローバルに活躍するためには英語力は必要不可欠である。この科目では、入学前までの学習を基礎に、基本的な知識・技能を駆使して、アウトプットの強化を図っていく。基本的に各授業では、日常生活などを題材に、個人やグループで、Input-Intake-Outputのプロセスで集中トレーニングを行い、最終的に1分程度のプレゼンテーションの基礎を養う。また、与えられた課題を解決するための言語活動やペアやグループで与えられたトピックに関するスモール・トークを行い、やり取りの基礎を養う。特に集中トレーニングでは、音読、シャドーイング、ディクテーション等、音声によるインプットを取り込みながら、アウトプットにつなげる活動を行い、近い将来において自律して学べる方法を学ぶ。</p> <p>この科目では、展開科目のビジネス英語実習Ⅰ～Ⅳにおいて、本科目で培った力を生かすことも狙いとしている。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語を取り込み、それを駆使する能力を高め、実際の英語使用のための学び方を習得する。 実際のやり取りや発表の場面を想定した言語活動を行うことを通じて、基礎的なコミュニケーションをとることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>オリエンテーション 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語のコア・スキルとは何か？ 英語が使えるようになる基礎を身につけるための学習方法 目標、概要、予定、評価方法、オンライン教材、Google Classroomの使用方法 アンケート調査 						
第2回	<p>オリエンテーション 2</p> <ul style="list-style-type: none"> レベルチェックテスト Input → Intake (Practice) → Output プロセスでの学び方（英語の内容理解、文構造の確認、発音・語彙の習得から英語の再生・産出を行う言語学習の基本） 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 教材の扱い方 Input活動: リスニング + リーディング、Intake活動: 音読、穴埋め音読、再生、Output活動（プレゼンテーションに向かう活動）（以下、Input-Intake-Output活動） Daily Talk（日常の話題でやり取りを行い、即興で表現する技能の向上を図る活動）の導入 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> Daily Talk 1 Input-Intake-Output活動 1 レベルチェックテスト集計結果、英語教育の現状から、学習のあり方の再考 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> Daily Talk 2 Input-Intake-Output活動 2 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> Daily Talk 3 Input-Intake-Output活動 3 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> Task Activity 1（与えられた場面や条件下でやり取りする活動）（以下、Task Activity） Input-Intake-Output活動 3 の獲得度確認とInput-Intake-Output活動 4 への取り組み 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> Task Activity 2 Input-Intake-Output活動 4 の獲得度確認とInput-Intake-Output活動 5 への取り組み 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> Task Activity 3 Input-Intake-Output活動 5 の獲得度確認とInput-Intake-Output活動 6 への取り組み 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> スキルテスト 1（やり取り） Input-Intake-Output活動 7 への取り組み 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> Daily Talk 4 Input-Intake-Output活動 7 の獲得度確認とInput-Intake-Output活動 8 への取り組み 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> Daily Talk 5 Input-Intake-Output活動 8 の獲得度確認 1分間プレゼンテーションへの取り組み 1 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 1分間プレゼンテーションへの取り組み 2 						
第14回	<ul style="list-style-type: none"> 1分間プレゼンテーション（スキルテスト 2（発表）） 						
第15回	<ul style="list-style-type: none"> 前期の振り返りと今後の学習課題 授業改善アンケート 						

成績評価の方法	発表・やり取りなどの実技面（20%） 各回の授業への参加度・貢献度（40%） 各回の課題提出状況と英語の獲得度（40%）
準備学修（予習・復習、課題等）	各回30～60分を想定。 復習：授業で触れた表現の練習とそれをういた自己表現 課題：授業内で課す動画またはテキスト（文字）による自己表現の提出、授業内での学びに関するレポート、オンライン教材によるインプットの増加とスキルアップ
教科書	
参考書	適宜紹介する。
備考	授業における学習の状況に応じて、練習や言語活動の内容や進め方が変わる場合がある。 授業では、各自のパソコンを使用するので、毎回の用意が必要である（ノートまたはタブレットが別に必要な場合は使用可）。
昨年度からの振り返り	昨年度の授業改善アンケート結果から、今年度も引き続き、ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、互いに学び合うことを重視するとともに、さらに個別最適化学習の機会も設定する。 授業は少人数クラスで、多様なレベルの仲間が互いの事情を理解し、効果的に取り組むことが重要である。 授業では、個人個人が目標を設定して、各個人の英語レベルに応じて取り組む場面がある。 オンライン教材は、授業外に英語に触れる機会を保障するための課題として与えられる。次の授業時間に取り組みの度合いとして、教材内で触れた英語の獲得度を確認する。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	数学基礎A					授業形態	講義
授業コード	FMA1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	磯 俊樹						
授業概要	経営分野、工学分野等における実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。こうした課題を解くためには、数学的な課題の捉え方や考え方が重要となる。本科目では基礎的な解析学として「微分」「積分」をテーマに取り上げ、解析学の基本的な内容を学んでいく。これらの理論や考え方は、経営分析やデータサイエンスなどの分野の学習を深めるうえで基本的な考え方となる。「微分」「積分」において重要な基本概念について学ぶとともに、理解をより深めるために、本科目がデータサイエンスの分野でどのように利用されているなど、実際の応用例との関りについても学ぶ。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「微分」「積分」に出てくる数式について、その意味や考え方を説明できる。 ・既に習得した知識を駆使することで、新規に出てきた数式であっても、大まかな数式の意味を解釈する（“数式を読む（解釈する）”）ことができることを目標とする。 						
授業計画							
第1回	イントロダクション 「数式を読む！」など実用的な数学な考え方を学ぶ						
第2回	微分・積分の概要 微分・積分の定性的な意味やデータサイエンス等での事例を学ぶ						
第3回	微分・積分のための基礎ツール（1） 微分積分を学ぶ上で必要な数列を学ぶ						
第4回	微分・積分のための基礎ツール（2） 微分積分を学ぶ上で必要な指数関数・対数関数・三角関数を学ぶ						
第5回	微分（1） 導関数の定義や関数の挙動を分析する方法（関数の極値等）を学ぶ						
第6回	微分（2） 初等関数の微分、積の微分、合成関数の微分を学ぶ						
第7回	微分（3） テイラー展開や関数近似を学ぶ						
第8回	多変数関数の微分（1） 偏微分の定義、極値問題を学ぶ						
第9回	多変数関数の微分（2） ラグランジェの未定係数法を学ぶ						
第10回	微分のまとめ ここまでの微分の内容についてまとめる						
第11回	積分（1） 積分の基本計算を学ぶ						
第12回	積分（2） 置換積分と部分積分を学ぶ						
第13回	多変数関数の積分 重積分の変数変換を学ぶ						
第14回	積分のまとめ ここまでの積分の内容についてまとめる						
第15回	まとめ これまで学習した内容とデータサイエンス分野との関りについてまとめる						
成績評価の方法	期末レポート：50% 課題レポート：40% 上記以外のレポート提出（適時）や授業取り組み状況等の学習意欲：10%						
準備学修（予習・復習、課	予習（事前学習）：各単元の内容をテレビ（放送大学などの数学の講義）の視聴やインターネット、文献等で1つ以上調べ、レポートにまとめる。						

題等)	復習（事後学修）：各単元で学んだ各手法に関連する演習問題をインターネットや文献等で2つ以上調べ、レポートにまとめる（あわせて各回1時間程度）
教科書	
参考書	<p>教科書： 必要により、授業時にプリントを配布、または参考資料を適宜指示する。</p> <p>◎参考文献（一般教養向け） 『データサイエンスのための数学』 椎名洋 他（著）、講談社、2019年 『最短コースでわかるディープラーニングの数学』 赤石雅典(著)、日経BP社、2019年</p> <p>◎参考文献（理系一般教養向け） 『大学教養 微分積分』 加藤文元(著)、数研出版、2019年 『チャート式 大学教養 微分積分』 加藤文元(著)、数研出版、2019年</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な技術解説書に出てくる数式の意味が解釈できることを目指している。 従って、単に公式に値を入れて解くことよりも“数式を読む（数式の意味を理解する）”ことに重点を置いた授業を行う。 ・授業では演習に時間を割けないので、各自が復習を兼ねて実施することを前提とする。 ・教員のオフィスアワー等を利用した個別対応による指導も可能である。 ・高校数学で数学II、B、IIIまでの履修をしていない場合は、放送大学などで数学の講義を視聴した上での授業参加が望ましい。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 ・受講する学生の素養に応じて、簡単なサンプルコード（Python）を活用する場合がある。
昨年度からの振り返り	<p>講義の内容が“具体的に何に利用されるか？”の問いに応えるために、データサイエンスに必要な数学の考え方に対象を絞り、適時、具体例を紹介しながら進めていく。また、数学履修状況や将来的な志向が学生によって大きく異なるので、各自が必要に応じて積極的に個別対応を利用するように指導していく。</p> <p>理解をより深めるために、授業やレポート等で演習の機会を増やすようにする。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	リサーチ入門					授業形態	講義
授業コード	SRB1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生						
授業概要	<p>社会科学の調査・分析の手法をもとにリサーチの基本を学ぶ。社会調査の概要を理解するとともに、実際にリサーチする対象を設定し、リサーチを実施しながら授業を進めていく。</p> <p>まず、文献やインターネット等を用いながら、個々人の関心事に基づいてリサーチ（調査）したい対象を決める。次に、そのリサーチによってどのような「 이슈」（＝達成すべき課題／解決すべき問題）に取り組みたいのかを明らかにしていく。その上で、様々な 이슈に取り組むためにはどのようなリサーチ手法があるのかを理解し、取り組もうとしている 이슈に適したリサーチ手法を絞り込んでいく。グループワークによって実際にリサーチを実施し、その結果をレポートにまとめてプレゼンテーションし、他のグループの学生からのフィードバックを受ける。それに基づいて、 이슈に取り組むためにさらに必要なリサーチを見極め、再度実施する。このサイクルを複数回行い、リサーチによって 이슈に迫っていく。</p> <p>本科目を通じ、さまざまな事象を実証的・構造的に明らかにし、 이슈に取り組んでいくための方法、特に資料やデータの収集と分析の具体的な方法とその特徴について実際のリサーチを行いながら習得し、今後の様々な科目の学習の基礎となる知識・スキル・経験を身につけることを目指す。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真の 이슈（達成すべき課題／解決すべき問題）を明らかにすることの重要性とそのための方法論を理解する。 ・ リサーチは、 이슈に取り組むための「手段」であることを理解する。 ・ さまざまなリサーチ手法の概要と目的、それらの特徴や実施方法、活用例を説明できるようになる。 ・ 資料やデータの収集と分析に必要な知識やスキルを身につける。 ・ 真の 이슈の決定、リサーチの企画・設計・実施、リサーチ結果の 이슈への活用まで行うことを通じ、リサーチの重要性と有用性、その限界や課題を理解する。 						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の趣旨と進め方を理解する。また、リサーチの目的、価値、方法などについての概略を理解する。 						
第2回	<p>リサーチ戦略の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべてのリサーチにおいて最も重要な「リサーチ戦略」の考え方や手法を学ぶことにより、的確なリサーチを実施できるようになる。 ・ とりわけ重要な「リサーチによって達成すべき課題を決める」ステップ、ならびに「 이슈」概念について理解を深め、リサーチの第一歩を正しく開始できるようになる。 						
第3回	<p>データ分析ストーリーの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のデータ分析に取り掛かる前に、どのような方針と手順でデータ分析を行うかという一連の流れを決めなければならない。この一連の流れを「データ分析ストーリー」という。 ・ データ分析ストーリーの構築に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、リサーチにおいて適切にデータを収集、分析し、意思決定に貢献できるようになる。 						
第4回	<p>調査テーマの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の調査テーマを与えられたとき、調査テーマを適切に理解して、適切なリサーチ課題・リサーチ 이슈を設定できるようになる。 ・ そのために重要な、分解チャートの作り方を学ぶ。 						
第5回	<p>リサーチの種類と既存情報の調査（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的なリサーチ手法を概観することによって、リサーチの全体像をつかむ。 ・ 個々のリサーチ手法の特徴を理解し、目的に応じて適切な手法を選択できるようにする。 ・ さらに、文献などの既存情報の調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、既存情報を有効に活用してリサーチを効果的に実施できるようになる。 						
第6回	<p>リサーチの種類と既存情報の調査（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定のテーマに関する「既存情報の調査」の計画書を作成することによって、 이슈に基づいたリサーチの計画方法を体験的に身につける。 						
第7回	<p>アンケート調査（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、定量データを有効に活用してリサーチを効果的に実施できるようになる。 						
第8回	<p>アンケート調査（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査テーマに基づいて的確なリサーチ 이슈を設定し、アンケート調査を適切に計画する。 						
第9回	<p>アンケート調査（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査の質問票の作成を実際に行い、その考え方や手順を体験的に理解する。 						
第10回	<p>リサーチの倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リサーチにおいて遵守しなければならない倫理を学び、社会に対する責任を果たすことのできる職業人になる。 						

第11回	インタビュー調査（1） ・インタビュー調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、定性データを有効に活用してリサーチを効果的に実施できるようになる。
第12回	インタビュー調査（2） ・インタビュー調査のイシューを定めて調査計画を立案し、インタビューフローを作成できるようになる。
第13回	インタビュー調査（3） ・インタビューを実際に行い、インタビューの流れとその中でコミュニケーションを体験的に修得する。
第14回	インタビュー調査（4） インタビュー調査の報告書を作成できるようになる。
第15回	リサーチ能力の向上 ・これまで学んできたことを順に振り返りながら、自らのリサーチ力をさらに高めていくための方法と考え方を学ぶ。
成績評価の方法	・授業貢献度：50% ・課題：50%
準備学修（予習・復習、課題等）	・講義内で指示された課題に個人またはグループで取り組む。 ・講義資料を再読して講義の内容の理解を深め、知識を定着させる。 ・講義で紹介された参考文献や教材などを活用して発展的な学習を行う。
教科書	
参考書	『大学生のためのリサーチリテラシー入門: 研究のための8つの力』 山田剛史、林創（著）、ミネルヴァ書房、2011年 『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」』 安宅和人（著）、英治出版、2010年 『基本がわかる 実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方 [定量調査編]』 蛭川速、吉原慶（著）、日本能率協会マネジメントセンター、2020年 『基本がわかる 実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方 [定性調査編]』 石井栄造（著）、日本能率協会マネジメントセンター、2019年 『EXCELマーケティングリサーチ&データ分析 [ビジテク] 2013/2010/2007対応』 千野直志他（著）、翔泳社、2014年 『EXCELビジネス統計分析 [ビジテク] 第3版 2016/2013/2010対応』 末吉正成、末吉美喜（著）、翔泳社、2017年 『電通現役戦略プランナーのヒットをつくる「調べ方」の教科書』 阿佐見綾香（著）、PHP研究所、2021年 『独学大全』 読書猿（著）、ダイヤモンド社、2020年 『問題解決大全』 読書猿（著）、フォレスト出版、2017年 『最新版 論文の教室』 戸田山和久（著）、NHK教室、2022年
備考	
昨年度からの振り返り	一部、グループワークへの参加度が非常に低い学生がおり、その学生が所属するグループの作業に支障が生じていた。そこで次年度は、そういった支障を軽減するように授業デザインを改善する。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	英語コア・スキルズII					授業形態	演習
授業コード	EC21120001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	奥村 耕一、柿崎 理、後藤 亮						
授業概要	この科目では、「英語コア・スキルズI」で培った知識・技能を駆使し、英語使用の学び方を生かして、アウトプットの強化をさらに図る。特に、自律した英語使用者となるために、授業をプロジェクトベースで行う。詳しくは、授業内で行うが、プロジェクトベースの授業とは、各自が英語を使うためのゴールを設定し、そのゴールに到達するために必要な表現を調べ、練習して、習得することを基本とする。また、ゴール到達で得られた成果物を実際にグローバルに発信することも目論む。 この科目では、展開科目のビジネス英語実習Ⅰ～Ⅳでは、本科目で培った力をさらに生かすことも狙いとしている。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の英語使用のための学び方を生かして、目的に応じてグローバルに発信するための表現とは何かを体得する。 ・実際のやり取りや発信の場面を想定した活動を行うことを通じて、基礎的なコミュニケーションをとることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コア・スキルズⅠから学んだこととは何か？ 今後の学習課題と半年間の展望 ・目標、概要、後期の予定、評価方法の確認 ・スピーチ準備 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用（即興でまとまった内容を話す技能の向上を図る活動）1 ・スピーチ発表 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用2 ・Input活動: リスニング＋リーディング＋Intake活動: 音読、穴埋め音読、再生＋Output活動: プレゼンテーションに向かう活動（以下、Input-Intake-Output活動） ※以後、授業外の取り組みとして行ない、英語の獲得度を授業内で確認 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用2 ・プロジェクト活動1（導入：目標設定、コンテンツ探索、発信内容の吟味、英語表現の確認、発信の仕方についての確認） 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動2（フィールドリサーチ） 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用3 ・プロジェクト活動3（英語表現の確認、提示資料の作成、発信練習） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用4 ・プロジェクト活動4（発表リハーサル） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト発表会1 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用5 ・プロジェクト活動5（導入：目標設定、コンテンツ探索、発信内容の吟味、英語表現の確認、発信の仕方についての確認） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動6（フィールドリサーチ） 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用6 ・プロジェクト活動7（英語表現の確認、提示資料の作成、発信練習） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用7 ・プロジェクト活動8（動画作成） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talkの応用8 ・プロジェクト活動9（動画作成） ・Input-Intake-Output活動での獲得度確認 						
第14回	プロジェクト発表会2						
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・自律学習方法のまとめ ・授業改善アンケート 						

成績評価の方法	プロジェクトの成果度（20%） 各回の授業への参加度・貢献度（40%） 各回の課題提出状況と英語の獲得度（40%）
準備学修（予習・復習、課題等）	各回30～60分を想定。 予習：プロジェクトを達成するために次の授業までに必要な取り組み 復習：授業で触れた表現の練習とそれを用いた自己表現 課題：授業内で課す動画またはテキスト（文字）による自己表現の提出、授業内での学びに関するレポート、オンライン教材によるインプットの増加とスキルアップ
教科書	
参考書	適宜紹介する。
備考	授業における学習の状況に応じて、トレーニングや言語活動の内容や進め方が変わる場合がある。 授業では、各自のパソコンを使用する（ノート・タブレット等が別に必要な場合は使用可）。
昨年度からの振り返り	昨年度の授業改善アンケートと科目独自の振り返りアンケート結果から、今年度も引き続き、ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、互いに学び合うことを重視するとともに、さらに個別最適化学習の機会も設定する。 授業は少人数クラスで、多様なレベルの仲間が互いの事情を理解し、効果的に取り組むことが重要である。 授業では、個人個人が目標を設定して、各個人の英語レベルに応じて取り組む場面がある。 オンライン教材は、授業外に英語に触れる機会を保障するための課題として与えられる。次の授業時間に取り組みの度合いとして、教材内で触れた英語の獲得度を確認する。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	数学基礎B					授業形態	講義
授業コード	FMB1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	落合 慶広						
授業概要	<p>経営分野、工学分野等における実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。こうした課題を解くためには、数学的な課題の捉え方や解き方が重要となる。本科目では基礎的な線形代数として「ベクトル」「行列」「線形方程式」などをテーマに取り上げ線形代数の基本的な内容を学んでいく。これらの理論や考え方は、データ分析やソフトウェア、IoT設計などの分野の学習を深めるうえで基本的な考え方となる。「ベクトル」「行列」「線形方程式」などの基本概念について学ぶとともに、演習を通して各手法の本質や適用方法についての理解を深める。</p> <p>本授業では、こうした数学的素養の基礎となる線形代数について学ぶと共に、これに関連する各科目への入り口までを講義する。なお、本授業では数学の面白さや経営学、情報通信技術での有用性が十分理解できるような授業を行う。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ベクトル」「行列」「線形方程式」など線形代数の基本的な内容について、それぞれの考え方を説明できる。 ・適用する目的や対象に応じて各技術を使い分けられることができる。 						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ■線形代数のガイダンス ベクトルと行列（1） ベクトルの考え方、図形表現など基本概念 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ■ベクトルと行列（2） ベクトル、行列の基本演算と内積 ベクトルとベクトル空間、図形のベクトル表現 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ■ベクトルと行列（3） 行列の基本変形（掃き出し法）と連立方程式の解法 連立一次方程式の解の存在（重要事項まとめ） 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ■行列式（1） 行列式の計算方法と基本変形 行列式と逆行列 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ■行列式（2） 余因子行列とクラメルの法則 行列式と余因子展開 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ■ベクトル空間（1） 一次従属と一次独立 部分空間 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ■ベクトル空間（2） 外積とベクトル空間 部分空間と基底、次元 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ■線形写像、線形変換（1） 線形写像と行列、 ベクトル空間と積空間、和空間、直和 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ■線形写像、線形変換（2） 核と像 線形代数の基本定理 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ■直交変換、直交化 内積と直交変換 正規直交基底とグラムシュミットの直交化 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ■固有値、固有ベクトル 固有値と固有ベクトル、固有空間 線形変換とその特徴 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ■対角化（1） 行列の対角化 実対象行列の対角化 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ■対角化（2） 対角化できるための条件 						

第14回	<p>■三角化 対角化できない行列の三角化</p>			
第15回	<p>■二次形式 最小二乗法と二次形式 二次形式と最適化法</p>			
成績評価の方法	<p>各講義内容の理解や応用力を下記の観点から評価する。 ・各授業で「課題」を出します。これをノートに解き、写真を撮影して、課題レポートとして提出して下さい（75%）。 課題を解くために、授業資料、本、インターネット等で調べ学習をして解いて頂いて結構です。 ・課題の中に、少し難しい「発展課題」も出題し、加点します（15%）。 ・授業中での取り組み状況、発表や質疑応答なども評価し、加点します（10%）。</p> <p>■レポート提出方法 ・手書きにより作成したレポートの写真(jpegフォーマット,縦×横:480×640pixel)を原則とします。 この写真をPowerPointに貼り付けられ、1ファイルに20枚程度の写真を付けられ、圧縮した保存すると、5ファイルまで登録できます。 写真はjpeg形式で提出してください。</p> <p>■注意点 ★問題を第三者に公開することは禁止します。(著作権など、いろいろな問題が発生します) ★但し、各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。 ★他人が作成した回答をそのまま転記したレポートの写真、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。 ・Word,PowerPoint等により、「電子文字を用いて作成した」レポートは、電子的コピーが容易に作成でき、誰が作成したかの判別が困難な為、不可(配点なし)とします。 ・解き直しの場合も、途中の計算過程、作図の補助線など、自身が作成した事が分かるように、記載してください(通常、自身で実施すれば、必ず、このようになります)。</p>			
準備学修(予習・復習、課題等)	<p>予習:各授業ごとに事前に配布される資料を見て内容を理解し、重要事項をノートに書き出して下さい。分からない点は調べ学習をしてください。(15~30分程度) 授業:授業中に出した問題をノートに解いたり、気づいた事をノートに書き出して下さい。(90分授業) 復習:授業中に出した問題で不正解だった問題+追加課題、独自課題をノートに解いて提出。(15~30分程度)</p> <p>■授業資料:各授業の授業資料を配布する</p> <p>■教科書として使える参考図書 「線形代数入門」(新装版),坂松和夫,岩波書店,2018(基礎事項を幅広く丁寧に解説,対角化,三角化,二次形式も記載) 「線形代数」,藤原毅夫,岩波書店,1996(初学者向き.基礎項目を簡潔に解説、固有値問題,対角化も記載) 「線形代数入門」,斎藤正彦,東京大学出版会,1966(基礎事項を幅広く解説,対角化、二次形式も記載)</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布				
参考書	<p>■読み物 「高校数学でわかる線形代数—行列の基礎から固有値まで(ブルーボックス)」竹内淳,講談社,2010 (線形代数の基本項目を分かり易く解説) 「キーポイント 線形代数」,薩摩順吉,四ツ谷晶二,岩波書店,1992(線形代数の基本項目を分かり易く解説)</p> <p>■非常に幅広い内容を網羅した参考図書 「東京大学工学教程 基礎系数学 線形代数I」,室田一雄,杉原正顯,丸善出版,2015 「東京大学工学教程 基礎系数学 線形代数II」,室田一雄,杉原正顯,丸善出版,2015 「ストラング:線形代数イントロダクション(原著第4版)」,ギルバート・ストラング(著),松崎公紀,新妻弘(訳),近代科学社,2015(練習問題,応用が非常に豊富)</p>			
備考				
昨年度からの振り返り	<p>授業資料を事前資料として提示しますので、事前に予習した上で授業に臨んで下さい。 また、事前資料中の課題について、授業中にグループ学習を行い、レポート課題を解く力も養いますので、積極的にご参加ください。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	数学基礎C					授業形態	講義
授業コード	FMC1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	磯 俊樹						
授業概要	経営分野、工学分野等における実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。こうした課題を解くためには、数学的な課題の捉え方や考え方が重要となる。本科目では、経営の最適化や需要予測、ビッグデータなどの分野の学習を深めるうえで基本的な考え方となる基礎的な確率統計について学ぶ。また、「確率統計」において重要な基本概念について学ぶとともに、本科目がデータサイエンスの分野でどのように利用されているなど、実際の応用例との関りについても学ぶ。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「確率」「統計」などに出てくる数式について、その意味や考え方を説明できる。 ・既に習得した知識を駆使することで、新規に出てきた数式であっても、大まかな数式の意味を解釈する（“数式を読む（解釈する）”）ことができることを目標とする。 						
授業計画							
第1回	確率の基礎（1） 事象や確率など基本的な概念などを学ぶ						
第2回	確率の基礎（2） 条件付き確率の基礎を学ぶ						
第3回	確率の基礎（3） 独立と排反の違いなどを学ぶ						
第4回	確率の基礎（4） ベイズの定理や周辺化などを学ぶ						
第5回	確率の応用（1） 条件付き確率を用いた応用例を学ぶ						
第6回	確率の応用（2） 確率漸化式やベイズ推定の基本的な考え方などを学ぶ						
第7回	まとめ（1） これまで学習した確率の内容をまとめる						
第8回	統計の基礎（1） 確率変数と確率分布を学ぶ						
第9回	統計の基礎（2） 離散型確率分布の概要を学ぶ						
第10回	統計の基礎（3） 連続型確率分布の概要を学ぶ						
第11回	統計の基礎（4） 最尤法など点推定の概要を学ぶ						
第12回	統計の基礎（5） 仮説検定の基本的な考え方と手法の概要を学ぶ						
第13回	まとめ（2） これまで学習した統計の内容をまとめる						
第14回	多次元の確率変数と分布関数 確率ベクトル、共分散、相関係数、独立と無相関などの基礎を学ぶ						
第15回	まとめ（3）総合演習 これまで学習した内容とデータサイエンス分野との関りについてまとめる						
成績評価の方法	期末レポート：50% 課題レポート：40% 上記以外のレポート提出（適時）や授業取り組み状況等の学習意欲：10%						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（事前学習）：各単元の内容をテレビ（放送大学などの数学の講義）の視聴やインターネット、文献等で1つ以上調べ、レポートにまとめる。						

	復習（事後学修）：各単元で学んだ各手法に関連する演習問題をインターネットや文献等で2つ以上調べ、レポートにまとめる（あわせて各回1時間程度）
	教科書
参考書	<p>教科書： 必要により、授業時にプリントを配布、または参考資料を適宜指示する。</p> <p>◎参考文献（一般教養向け） 『データサイエンスのための数学』 椎名洋 他（著）、講談社、2019年</p> <p>◎参考文献（理系一般教養向け） 『統計学入門（基礎統計学Ⅰ）』 東京大学教養学部統計学教室（編集）、東京大学出版会、1991年</p> <p>◎参考文献（実応用向け） 『見えないものをさぐる－それがベイズ：ツールによる実践ベイズ統計』 藤田一弥（著）、フォワードネットワーク（監修）、オーム社、2015年 『データ分析のための数理モデル入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 『分析者のためのデータ解析学入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 “データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門” 阿部真人（著）、ソシム株式会社、2021年 “本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門” 杉山聡（著）、ソシム株式会社、2022年</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な技術解説書に出てくる数式の意味が解釈できることを目指している。従って、単に公式に値を入れて解くことよりも“数式を読む（数式の意味を理解する）”ことに重点を置いた授業を行う。 ・本科目の性質上、微分積分に関する基礎知識（「数学基礎A」履修レベル）があることが望ましい。 ・授業では演習に時間を割けないので、各自が復習を兼ねて実施することを前提とする。 ・教員のオフィスアワー等を利用した個別対応による指導も可能である。 ・高校数学で数学II、B、IIIまでの履修をしていない場合は、放送大学などの数学の講義を視聴した上での授業参加が望ましい。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 ・受講する学生の素養に応じて、簡単なサンプルコード（Python）を活用する場合がある。
昨年度からの振り返り	<p>講義の内容が“具体的に何に利用されるか？”の問いに応えるために、データサイエンスに必要な数学の考え方に力点を置くことに対象を絞り、適時、具体例を紹介しながら進めていく。また、数学履修状況や将来的な志向が学生によって大きく異なるので、各自が必要に応じて積極的に個別対応を利用するように指導していく。</p> <p>理解をより深めるために、授業やレポート等で演習の機会を増やすようにする。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	キャリアデザインⅠ					授業形態	講義
授業コード	CD11110001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	富澤 豊、所 由紀						
授業概要	1年間の大学生活を経て得た気づき、課題を整理するとともに、入学時に立てた目標や行動計画の振り返りを行い、就職活動および自らの起業活動につながるキャリアプラン、行動計画を考える。合わせて、改めて仕事や職業への理解を深め、働くことやキャリアデザインの概念を学ぶことで、キャリアについてのより具体的なアクションにつなげられるように展開する。これらを通じ大学生活やその後の人生をどのように作っていくかを考え、自分自身のキャリアを主体的に想像していく土台を作る。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成について理解し、自己の目指す方向性を見極め、目標が設定できる。 ・自分自身を振り返り、客観視する視点や考え方を得ることで、自己理解を深め、就職活動での実践を行うことができる。 ・また仕事や働くことに対する理解を深め、イノベーション人材となるためのキャリアデザインを行い、職業人の基礎となる力を醸成する。 						
授業計画							
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IU生としてのキャリア問題の理解 ・「キャリア理論」の理解 <p>サニー・ハンセン「統合的人生設計」、ダグラス・ホール「プロティアンキャリア」 ジョン・クランボルツ「計画された偶然」</p>						
第2回	<p>就活対策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就活の現状 ・就活サイトの活用 <p>最新の就活動向を知ることで、今後の自分自身の就職活動や臨地実務実習先選定に向けての意識を高める。 また、就職情報サイトを活用しながら、実際に企業研究や自己分析の方法を学ぶ。</p>						
第3回	<p>企業と起業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の意味、業種と職種 ・日本における中小企業施策（スタートアップ支援） 						
第4回	<p>モノのバリューチェーンを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノの流れを通じて世の中のしくみと企業の役割を俯瞰的に理解する。商流・物流・情報流を理解する。世の中にどのような「仕事」があるのかを理解する。 						
第5回	<p>コミュニケーションスキル（基本）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接対策の基本を理解する。 ・1対1面接の注意点、グループディスカッションの注意点。 ・それぞれの練習。 						
第6回	<p>就活対策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー（言葉使い、身だしなみ他） <p>社会人と関わっていくために重要となるのが「ビジネスマナー」。講義では、基本的なマナーを押さえて、第一印象アップを目指す。自信を持って実習や就職活動に臨むための内容である。</p>						
第7回	<p>就活対策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシートの書き方（採用担当はどこを見るか） ・職業適性検査対策 <p>近年、インターンシップでも選考がある企業が増えている。講義では、ESの文章の書き方や採用担当が評価するエントリーシートの内容について解説する。また、適性検査の対策も確認する。</p>						
第8回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のキャリア、卒業までにやることの計画立案 ・2年生のうちに高めておきたいビジネススキル、卒業までの目標を考える。 						
成績評価の方法	授業への参加態度（受講態度、発言回数、発言の内容、グループワークへの積極姿勢など）（70%） 授業における提出物（30%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	各回テーマに応じた課題を毎回30～60分程度の予習・復習を行う。						

教科書

参考書	授業内で適宜指示する。
備考	本授業はマイナビ社が担当する回がある。
昨年度からの 振り返り	グループ討議への積極的な参加姿勢、討議への貢献も成績の対象となります。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	職業倫理					授業形態	講義
授業コード	BET1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	島津 実伸、中井 良太						
授業概要	本授業では、ICT業界で働く者として、コンテンツを作る上で最低限知っておくべき内容や、現代社会が持つ様々な課題事項への理解を深める。ケースメソッド、ゲスト講師の講義で最新の課題を取り上げながら、パワハラ、セクハラなどハラスメントの定義や対応方法、インターネット上で広告が炎上する理由、炎上の際の企業の適切な対処方法、性と多様性をめぐる問題など、企業の倫理、ITの倫理について考える。						
授業の目的・到達目標	<p>企業人として必要となる倫理について基礎から学び、グローバル化した多様な社会の中で倫理的に判断し行動できるようになることを第一の目的とする。</p> <p>具体的な達成目標としては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業倫理とは何かについて説明することができる。 2. 個人情報とプライバシーの問題について法的観点を含めて理解することができる。 3. ハラスメントの定義について理解し、その対処法を現実の問題に応用することができる。 4. ジェンダーについて多様な視点から問題点を理解することができる。 <p>ことを挙げる。</p>						
授業計画							
第1回	倫理とは：倫理とはどのようなものか、道徳や哲学とどう違うのかを学ぶ						
第2回	倫理学の基礎的考え方						
第3回	応用倫理としての職業倫理						
第4回	個人情報とプライバシー1：誹謗中傷						
第5回	個人情報とプライバシー2：プライバシー						
第6回	事例ディスカッション1：小グループに分かれて個人情報とプライバシーに関する事例についてディスカッションする						
第7回	中間まとめ						
第8回	企業倫理と社会的責任						
第9回	企業の責任とハラスメント1：企業にとってのインターネット						
第10回	企業の責任とハラスメント2：ハラスメントとは						
第11回	事例ディスカッション2：小グループに分かれて企業の責任とハラスメントに関する事例についてディスカッションする						
第12回	多様な社会に対応するための基礎的知識						
第13回	インターネット時代のジェンダー問題1：セクシュアリティとジェンダー（1）						
第14回	インターネット時代のジェンダー問題2：セクシュアリティとジェンダー（2）						
第15回	授業のまとめ						
成績評価の方法	最終レポート100%						
準備学修（予習・復習、課題等）	あらかじめ各回の授業内容を提示しているため、その内容に沿った予習（90分）、及び復習（90分）を行うこと。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	『改訂新版情報倫理』高橋滋子他、技術評論社、2020年、ISBN-13：978-4297110819 『現代社会の倫理を考える〈5〉職業の倫理学』田中朋弘他、丸善、2002年、ISBN-13：978-4621070581 『現代社会の倫理を考える〈3〉ビジネスの倫理学』梅津光弘、丸善、2002年、ISBN-13：978-4621049921						
備考	現代社会はこれまでの画一的な価値に従うものから、個々人の多様性に応じた多様な価値観を前提とした社会に変革しています。本授業を通して、社会の中でビジネスをしていく上で必要となる倫理を基礎から学ぶことで、多様な状況に自律的に対応できる力を身につけてください						

	い。
昨年度からの振り返り	抽象的な議論が分かりにくかったとの声があったため、具体的な例を増加して改善を図りました。また、授業内容がわかりやすいものとなるよう、授業デザインを修正しました。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	先端グローバル社会					授業形態	講義
授業コード	LGS1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小林 久美子						
授業概要	<p>過去から現在のグローバルで起きている変化、今後の人口動態と未来予測を踏まえた将来のグローバル社会の潮流を理解し、これらをICTが支える可能性について探求する。</p> <p>具体的には持続可能な開発目標（SDGs）17のゴールをもとに、その概要と今日的な課題とそれに向けた取り組みの現状について概説する。また、グローバルな課題設定と自らの生活や学びがどのようにつながっているのかを考える。これらの学習を通じ、自分なりにグローバル社会に対し、ICTやビジネスなど本学での学びがどのように寄与していくのかを考える。</p> <p>最終的にはテーマを絞り、個人・グループでの実行計画を策定する。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>目的：持続可能な開発目標（SDGs）を実例で学ぶ。</p> <p>目標：持続可能な社会の仕組みを理解し、自らが持つ課題へ関係づけることができるようになる。</p>						
授業計画							
第1回	ガイダンス・地球と人間活動の関係性を解説する。						
第2回	持続可能な開発目標（SDGs）						
第3回	アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み・偏見）						
第4回	ソーシャルビジネス						
第5回	災害とパンデミック						
第6回	気候変動・環境破壊						
第7回	エネルギー・水資源						
第8回	貧困と飢餓						
第9回	廃棄物						
第10回	食品廃棄・フードロス						
第11回	多様性・ジェンダー・少子高齢化						
第12回	DX（デジタルトランスフォーメーション）						
第13回	経済成長と企業の責任・役割						
第14回	社会課題とステークホルダーの関係性						
第15回	1回から14回のまとめ、持続可能な社会とは						
成績評価の方法	授業内課題50% 最終課題50%						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：テーマに関する文献リサーチ（45分） 復習：授業課題への取り組み（45分）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	参考書・資料等は授業の中で適宜紹介する。						
備考							
昨年度からの振り返り	グループワークおよび個人ワークの時間を多く配分する。						

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業名	英語アカデミックリテラシー					授業形態	演習
授業コード	ALE1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug						
授業概要	<p>本授業では、英語をビジネスやICTの現場で活用し、コミュニケーションを図るだけでなく、海外の大学や国内外の研究機関で求められる発表能力を高めるものである。</p> <p>具体的には、前半ではInternational Baccalaureate(IB)などを題材に、海外の大学レベルで求められる基礎能力や知識を概観し、そこで用いられる英語表現そのものとあわせて学ぶことで、国内外のアカデミックリテラシーの基礎を習得する。後半ではまた、ICTやビジネスの学術論文や製品・サービスの説明書を読み書きするために必要な語彙力、表現力を学ぶことで、アカデミックと実践を繋ぐための知識と方法論を習得する。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の大学レベルで求められるアカデミックリテラシーの習得 ・ 英語でのレポートや論文に求められる語彙力、表現力などの習得 						
授業計画							
第1回	<p>INTRO</p> <p>このコースでは、ChatGPT、Perplexity AI、および WordTune、ProWritingAid、Quillbot などのその他の AI 駆動型テキスト生成ツールを使用して、学生にアカデミック ライティングを紹介します。AI ツールを使用して、クラスでのディスカッションやライティング課題のコンテンツを生成します。学習プロセスの一環として、足場、フレーミング、リフレーミングも組み込まれます。最終論文を修正する方法を学ぶことに加えて、学生は GPTZero を使用して学術的な不正行為や盗作を回避します。</p> <p>This course introduces students to academic writing by using ChatGPT, Perplexity AI, and other AI-driven text generation tools such as WordTune, ProWritingAid, and Quillbot. The use of AI tools will be used to generate content for class discussions and writing assignments. As part of the learning process, scaffolding, framing, and reframing will also be incorporated. In addition to learning how to revise their final thesis papers, students will also use GPTZero to avoid academic dishonesty or plagiarism.</p> <p>Week 01: Introduction</p> <ul style="list-style-type: none"> o Using Mendeley, Word, and Google Scholar o Using APA format in writing <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 01 – Establishing a Research Territory [5% of final grade] • No HW 						
第2回	<p>They Say</p> <ul style="list-style-type: none"> o Week 02: Starting with what others are saying <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • Homework 01 – [3% of final grade] 						
第3回	<p>They Say</p> <ul style="list-style-type: none"> o Week 03: The art of summarizing <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 02 – Describing Research Gaps [5% of final grade] • Homework 02 – [3% of final grade] 						
第4回	<p>They Say</p> <ul style="list-style-type: none"> o Week 04: The art of quoting <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • Homework 03 – [3% of final grade] 						
第5回	<p>I Say</p> <ul style="list-style-type: none"> o Week 05: Three ways to respond <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 03 – Stating Your Aims [5% of final grade] • Homework 04 – [3% of final grade] 						
第6回	<p>I Say</p> <ul style="list-style-type: none"> o Week 06: Three ways to respond 						

	<ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • Homework 05 – [3% of final grade]
第7回	<p>I Say</p> <p>o Week 07: Three ways to respond</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 04 – Describing the Scope and Organization [5% of final grade] • Homework 06 – [3% of final grade]
第8回	<p>Putting It All Together</p> <p>o Week 08: Connecting the parts</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • Homework 07 – [3% of final grade]
第9回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 09: Entering conversations about academic literature</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 05 – General Literature Review [5% of final grade] • Homework 08 – [3% of final grade]
第10回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 10: Writing in the Sciences</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • Homework 09 – [3% of final grade]
第11回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 11: Writing in the Social Sciences</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 06 – Referencing [5% of final grade] • Homework 10 – [3% of final grade]
第12回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 12: Conduct a Deep Analysis of an Academic Article</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz 04 • No Homework
第13回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 13: Plagiarism</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 07 – Sampling and Data Collection [5% of final grade] • No Homework
第14回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 14: Academic Writing Workshop 1</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Quiz • No Homework
第15回	<p>In Specific Academic Context</p> <p>o Week 15: Academic Writing Workshop 2</p> <ul style="list-style-type: none"> • Quiz 08 – Data Analysis and Discussion [5% of final grade] • No Homework • FINAL Thesis due
成績評価の方法	<p>格付けは、次の内容で構成されます。</p> <p>クイズ (8) = 40% [各クイズ 5%]</p> <p>宿題 (10) = 30% [週 2 ~ 11 の宿題ごとに 3%]</p> <p>最終論文 = 30%</p>

	<p>Grading will consist of the following: Quizzes (8) = 40% [5% each quiz] Homework (10) = 30% [3% each homework assignment weeks #2 – 11] Final Thesis = 30%</p>
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>このコースは、留学生を念頭に置いて設計されています。このプログラムは、学生が英語のエッセイとレポートを書くのに役立つように設計されています。このコースでは、学生はタームペーパー、論文、学位論文の文献レビューを準備する方法を学びます。コース全体を通して、公開されたレビューからの例を提供して、説明したガイドラインを説明します。 毎週1つの大規模な全体的なレビューを行うのではなく、毎週、管理しやすい小さな部分に分割します。 今日のアカデミックライティングへの期待に応えるための実践的なアドバイスや、デジタルライブラリの使用方法について説明します。 また、書誌および学術的な盗作に関する包括的な議論もあります。 コースにはいくつかの主要なセクションがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 執筆プロセス 2. 文章の要素 3. 言語の問題 4. 書くための語彙 5. モデルを書く <p>The course was designed with international students in mind. The program is designed to help students succeed in writing English-language essays and reports. In this course, students learn how to prepare literature reviews for term papers, theses, and dissertations. Throughout the course, examples from published reviews are provided to illustrate the guidelines discussed. Rather than doing one large, holistic review every week, we break it up into smaller, manageable parts each week. You will find practical advice on how to navigate today's academic writing expectations, as well as instructions on how to use digital libraries. There is also a comprehensive discussion of bibliographic and academic plagiarism. There are several major sections in the course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The writing process 2. Elements of writing 3. Language issues 4. Vocabulary for writing 5. Writing models
教科書	
参考書	<p>本講座のテキストを購入する必要はありません。 ChatGPT や Perplexity AI などの最近の技術的ブレイクスルー アプリケーションは、このコースの執筆および研究セクションで学習および適用されます。 Students will not be required to purchase textbooks. Recent technological breakthrough applications such as ChatGPT and Perplexity AI are studied and applied in the writing and research sections of this course.</p>
備考	None.
昨年度からの振り返り	<p>各回の授業は「反転授業」という形式に沿って行われますので、生徒中心のスタイルになります。そのため、教室に来る前に十分な準備をしておく必要があります。生徒には、自宅で自習するための資料や学習資料などがすべて配布されます。生徒が授業に来ると、伝統的な「宿題」の演習を行います-自分の能力、スキル、理解力を試すために。グループを作り、生徒はグループの成功に貢献しなければなりません。 このコースは、学生が自分の主張をアカデミックな方法で提示できるように支援するために作成されました。各クラスセッションはアカデミックライティングの向上に向けて動き、多くの視点を表しています。このコースには、学生が重要な問題について耳を傾け、考え、書くよう促す読み物のアンソロジーも含まれています。</p> <p>Each class session will follow the "flipped classroom" format, which means it is a student-centered style. Therefore, students must be well prepared before coming to the classroom. Students will be given all the information, study materials, and other documents to self-study at home. When students come to class, they will complete traditional "homework" exercises -in order to test their ability, skills, and understanding. Groups will be created, and students must contribute to the group's success. The course has been created to assist students to present their arguments in an academic manner. Each class session moves towards improving academic writing and represents a multitude of perspectives. The course also includes an anthology of readings that will prompt students to listen, think, and write about important issues.</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	科学史					授業形態	講義
授業コード	HSE1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	大和 淳司						
授業概要	科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般に考えられているが、人間の営みである以上、科学も歴史の中で誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。とりわけ近代科学は17世紀西欧社会において誕生したと考えられ、近世・近代日本における自然研究および近代日本への西欧科学の導入を当時の歴史的な文脈の中で理解することは、現代科学の理解にとっても重要である。以上を踏まえ、本講義では「科学」とは何かについて歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とする。						
授業の目的・到達目標	科学の発展してきた歴史を理解し、現在の科学技術文明がどのような背景を持っているかを説明できること。そうした文脈における現在の技術の価値と、今後の発展の方向性を予測し議論できるようになること。						
授業計画							
第1回	授業ガイダンスおよび科学史の意義とスコープ。第1章「科学」という言葉に沿って、科学、科学者について理解を深める。						
第2回	第2章 アリストテレス的自然観に沿って、古代天文学、古代運動論のセントラル・ドグマについて理解し、素朴な直観との関係性、現代科学との関係性について議論する。						
第3回	第3章 科学革命（Ⅰ）に沿って、コペルニクス、ケプラーの発見を理解し、これに基づくセントラル・ドグマの破壊と新たな宇宙観について議論する。						
第4回	第4章 科学革命（Ⅱ）に沿って、ガリレオ、ニュートンによる発見と理論およびその位置づけを理解し、論証と実験の関係、天界と地上の統一理解への道筋について議論する。						
第5回	第5章 科学革命（Ⅲ）に沿って、デカルトの二元論と心身問題を理解し、心の哲学と現代の脳科学の関係について議論する。						
第6回	第6章 科学の制度化に沿って、大学の成立と科学革命への流れを理解し、それらの現在に至る影響と特に日本における大学と科学の成立過程と現在の意義について議論する。						
第7回	第7章 科学の方法に沿って、演繹法と帰納法について理解し、仮説演繹法とあわせて実際に使えるように基本的な訓練を実施する。						
第8回	第8章 科学の危機に沿って、ラプラスの悪魔、非ユークリッド幾何学の発見、ニュートン力学の破綻と因果律の破れといった、数学、物理学の危機について議論する。						
第9回	第9章 論理実証主義と統一科学に沿って、ラッセルの論理結合記号による定式化を理解し、ヴェイトゲンシュタインの論理哲学の概要と検証可能性の概念について議論する。						
第10回	第10章 第11章 第12章 を概観し、カール・ホパーの反証可能性、プラグマティズム、クーンのパラダイム論について理解し、各々の関係と歴史的な位置付けについて議論する。						
第11回	第13章 科学社会学の展開に沿って、科学社会学の成立過程を理解し、マートンノルムとストロングプログラムを背景として発生したソーシャル事件の意味について議論する。						
第12回	第14章 科学の変貌と科学技術革命に沿って、日本における「科学技術」という語の成立背景と2つの大戦を経て成立した産業科学技術とその規範について議論する。						
第13回	第15章 および 補章 に沿って、科学技術の倫理について理解し、科学技術社会論（STS）に基づき3.11以降の科学技術の信頼と責任とリスクについて議論する。						
第14回	計算機科学の歴史を概観し、高速化、高集積化の流れに基づく世代論と同時に、集中と分散を繰り返した過程について必然性と偶然性の分析に基づき議論する。						
第15回	ネットワークとソフトウェアの歴史を外観し、工学的発展と社会的役割の変遷と社会における受容過程について科学的に基づき開発側ユーザー側の双方の視点で議論を行う。						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験50% ・ 授業内での提出物35% ・ 授業内での発言等の貢献度15% 						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回の教科書指定範囲を読んでおくこと。 復習：授業の振り返りとして新たな用語を調べてノートに書くこと。課題のある回はこれを実施する。 （予習・復習を合わせて2～4時間程度）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			

科学哲学への招待	野家啓一	ちくま学芸文庫	978-4-480-09575-6	その他必要に応じて資料を配布
参考書				
備考				
昨年度からの振り返り	グループワークの充実を望む声が多かったため、復習課題について授業内でのグループワークを実施し、それを反映した内容を提出する形式を一部の回で取り入れる予定。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	ICTと人間					授業形態	講義
授業コード	HBI1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	有馬 俊、佐藤 千尋、太田 智美、油木田 大祐、池田 梨花、柴崎 美奈						
授業概要	日々進化するICTは、個々の要素が著しく進歩しつづけているだけでなく、急速に私たちの日常生活の中にも導入されている。よって、言葉だけは聞き慣れていても、基本的な技術や性能を理解しないまま誤用してしまう場合もある。本講義では、光、電気、電波、などの基礎知識から、情報の量や単位、情報の品質に直結する通信の速度、文字データの標準や音声・画像・映像などのマルチメディア技術と適用、企業活動や事業活動の中で汎用化している技術やプロセス、身の回りのインターネットサービスの種類と活用方法など、一般社会人に求められる社会基盤としてのITに関する活用知識を修得する。						
授業の目的・到達目標	本授業では前半に様々なICT技術を活用したプロトタイピングを実現するための基本的なリテラシーを、後半にそれらの技術をいかに人間の社会や生活を豊かにするために応用していくかの基礎的な方法論を学んでいく。この両輪を軸に調査、制作、評価の一連のサイクルから経験的にもものづくりのコンピテンシーを身に付けることを目的とする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション 今後の授業の進め方を説明する						
第2回	キャリアデザイン1 自らの人生を振り返り、今後のキャリアを考える素材を収集する						
第3回	キャリアデザイン2 収集した素材を元にキャリアデザインをしてピアレビューをする						
第4回	エスノグラフィー1 人間の生活を理解するために行う調査方法である「民族誌調査」を実践する						
第5回	エスノグラフィー2 実践した調査で得てきた素材の分析手法、再構築のためのモデルなどを会得する						
第6回	プロトタイピングの技術1 プロトタイピングに必要なツールやソフト等の使い方を学ぶ						
第7回	プロトタイピングの技術2 プロトタイピングに必要なツールやソフト等を使用して実際にプロトタイプを作成する						
第8回	インタラクティブデザイン1 既存のICT技術を活用して実際にインタラクティブなプロトタイプを制作する						
第9回	インタラクティブデザイン2 より具体的な場面を想定したインタラクティブなプロトタイプを制作する						
第10回	ビジュアルデザイン1 ビジュアルデザインの基礎知識を学ぶ						
第11回	ビジュアルデザイン2 実際のコンテンツ制作を通してビジュアルデザインの知識を応用する						
第12回	映像制作1 簡単な映像制作を通して基礎的な映像撮影技法を学ぶ						
第13回	映像制作2 簡単な映像制作を通して基礎的な映像編集技法を学ぶ						
第14回	社会創造1 様々な技術やデザインを社会に浸透させていくために必要な知識やパースペクティブを学ぶ						
第15回	社会創造2 具体的な場面やコンテキストを想定しながら、社会に技術やデザインを浸透させていくアイデアを考える						
成績評価の方法	100% 課題提出（各回ごとの課題提出率/締め切り順守度/課題作品のクオリティ）						
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回授業の課題制作を通して予習、復習とみなす。						

教科書

参考書	
備考	昨年から大幅に内容を変更し、複数の教員によるオムニバス形式の授業になります。また、ほとんどが個人課題となります。
昨年度からの 振り返り	

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	英米文学演習					授業形態	演習
授業コード	ELR1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	阿部川 久広						
授業概要	本授業は英米文学を題材とし、英文解釈（単語、構文理解、文法など）を行うだけでなく、その作品が作られた時代背景、文学上の位置付け、著者の作り出した世界観などを学ぶものである。英米文学の代表的な作品のいくつかをピックアップし、英米文学における代表的な作品を選出し、その中の主題となる記述をもとに授業を展開する。音読や精読を中心として内容を解釈し、その時代背景、文学上の位置付け、著者の作り出した世界観などを学ぶ。本授業を通じ、英語表現を身につけるだけでなく、真の意味での人間に対する深い洞察力を養い、グローバルな環境での議論に耐えうる世界観、人生観を構築するための武器としての教養をあわせて身につける。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英米文学の英文解釈を通じて英語力の向上を図る。 ・英語圏の歴史や文化的な背景、世界観の理解を通じた教養を身につける。 						
授業計画							
第1回	導入編～文学とは君たちにとって何だったか（議論+課題） アメリカ文学のテーマと全体像 Herman Melville "Moby Dick" 精読、音読						
第2回	Herman Melville "Moby Dick" -2 精読、音読 バケモノの子						
第3回	Mark Twain 人と時代 Mark Twain ""Adventures of Huckleberry Finn"-1 精読、音読						
第4回	Mark Twain ""Adventures of Huckleberry Finn"-2 精読、音読						
第5回	フィッツジェラルドの歴史的な位置づけ、その影響 F. Scott Fitzgerald "The Great Gatsby"-1 精読、音読						
第6回	F. Scott Fitzgerald "The Great Gatsby"-2 精読、音読 華麗なるギャツビー						
第7回	アメリカ文学の巨星としてのフォークナー William Faulkner "The Sound and Fury" "Light in August" 他-1 精読、音読						
第8回	William Faulkner "The Sound and Fury" "Light in August" 他-2 精読、音読						
第9回	ロストジェネレーション、テーマと文体、短編 Ernest Hemingway "A Farewell to Arms" "The Old Man and the Sea" "A Day's Wait" 他-1 精読、音読						
第10回	Ernest Hemingway "A Farewell to Arms" "The Old Man and the Sea" "A Day's Wait" 他-2 精読、音読						
第11回	カズオイシグロは、日本人作家か Kazuo Ishiguro "Kulala and the Sun" 他-1 精読、音読						
第12回	カズオイシグロは、日本人作家か Kazuo Ishiguro "Kulala and the Sun" 他-2 精読、音読						
第13回	日米をつなぐ作家 村上春樹 ノルウェイの森 Norwegian Wood（日本語英語） 精読、音読						
第14回	音楽と文学 Beatles "Norwedgian Wood" "No Reply" "Nowhere Man" "In My Life" "Hey Jude" "Let it Be" 他						
第15回	君たちにとって、これから文学は何なのか～議論～レポート 予備：Hemingway, Shakespeare, The Police, Paul Austerや、Queen, Eagles などから。（14回の講義からの補遺）						
成績評価の方法	(1) 出席した上での、クラスでの意見発表や討議の回数と内容60% (2) 講義ごとのレポート内容20% (3) レポート(最終提出) 20%						
準備学修（予習・復習、課題等）	講義で扱う作家のうち、少なくとも一人の作品を1作品以上、日本語で良いので読んでおくこと。Beatlesなど楽曲のあるものは少なくとも2曲以上、聴いてくること。						
教科書							

書名	著者	出版社	ISBN	備考
講義アメリカ文学史入門編	渡辺利雄	研究社	978-4-327-47222-1	
参考書	「ヘミングウェイで学ぶ英文法」 倉林秀男・河田英介（株式会社アスク出版）ISBN978-4-86639-280-6			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に積極的に参加ください（議論、音読）そして読むことを楽しんでください。 2. 講義で扱う書籍には限りがあります。自分の好きな英米小説、できれば一生読み続けられるものを、大学在学中に1つでもいいので見つけてください。 			
昨年度からの振り返り	<ol style="list-style-type: none"> 1. Shakespeare, Faulknerについて解説する時間を設けるよう講義を調整します。 2. 講義で取り扱う予定以外でも、注目すべき作家（Paul Auster, Stuart Dybek, Rebecca Brownなど）は極力、取り上げます。 3. Queenの楽曲も極力、取り上げます。 			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業名	キャリアデザインⅡ					授業形態	講義
授業コード	CD21110001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	富澤 豊、所 由紀						
授業概要	入学からインターンシップまでの3年間の学習や経験を通じて得たこと、感じたことを振り返り、卒業後の活躍を見据えたキャリアプランやキャリアを考える要素となる今日的な話題、考え方について学習を進める。大学生活の中での活動を履歴書、エントリーシートに整理することで、これまでの振り返りと自己理解を深める。また、インターンシップでは、実際の企業などで実践的な業務を行ってきた。この経験の中で考えた職業人として必要なスキル、知識、社会人基礎力について整理し、今後の大学生活において何を実現させていくのか、そのためにどのような学びを深めるのかを考え、キャリアプランや行動計画を作成する。キャリアに関する今日的な話題を取り上げることで、多角的に自己や周囲のキャリアについて興味関心を持ち、主体的に学び選択していく素地を作る。上記を通じ、残る大学生活や今後の職業人生に対し、主体的に行動する、選び取るための意識と判断基準を持つことを目指す。						
授業の目的・到達目標	これまでの学習やインターンシップを経て得た学びをもとに、自分や周囲のキャリアプランや職業選択を主体的に行うための意識づけ、判断基準を持つ。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション ・臨地実務実習を振り返る。 ・就活の現状を確認する。						
第2回	自分の棚卸し① ・人生スゴロク「金の糸（中・高校生編）」を実施。 自分の中・高校生時代の経験を振り返り、現在の自らの行動につながっているものは何か確認する。そのつながりが、未来の自分の職業と関わってくることを想定している。						
第3回	自分の棚卸し② ・自分らしさ、価値観、特技、関心事は何か 自分らしさということを中心に、自己PRにつながることを考える。						
第4回	就活対策① ・適性診断テスト 就職活動を進めていくうえで、自己理解を深めることはとても重要である。この回の講義では、適性診断ツールMATCHplusを受検して、客観的な視点から自分自身の特性を知ることを目指す。						
第5回	就活対策② ・エントリーシート作成 ・就活マナー再確認 ・会社説明会における注意事項 就職活動が本格的に始まる直前のこのタイミングだからこそ、知っておいてほしい本選考対策を解説する。つまづきやすいエントリーシート、マナー、会社説明会参加時の注意を中心に実施する。						
第6回	就活対策③ 模擬面接、模擬GD 選考の中で、特に事前対策が重要なのが面接・グループディスカッションである。講義内で対策方法を理解し、実践形式でグループディスカッションを体験することで本番に臨む準備を整える。						
第7回	就活対策④ 適性検査模擬試験 書類選考の前後で実施されることが多い適性検査。現時点での自分自身の実力を測るために講義内で模擬試験を実施する。受検結果から自分の得意と苦手を知り、対策へとつなげることを意識する。						
第8回	まとめ ・卒業までにやることの再確認、プラン修正など						
成績評価の方法	授業への参加態度（70%）、授業における提出物（30%）から総合的に判断する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	事前準備学習30分～60分。今回の振り返りのための復習30分程度。						

教科書

参考書	教科書を含め、必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの 振り返り	前年度は開講していませんが、「キャリアデザインⅠ」と同じスタイルで実施いたします。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	マネジメント（経営学基礎）					授業形態	講義
授業コード	IMG1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	三澤 一文						
授業概要	イノベーションは、科学・技術に関する革新的な発明や発見だけでなく、コンビニエンスストアや宅急便のような新しいビジネスのしくみを生み出すこともその一つである。近年は、日々、進歩するICT（インターネット、AI、仮想・拡張現実、ロボット、など）を効果的に活用することで、ますます、イノベーションを起こし易くなっている。 本授業では、経営学における戦略論や組織論の観点から、イノベーションを（偶発ではなく）体系的に生み出す戦略（狙い）や組織・プロセス（進め方）の考え方の基礎を学習する。具体的には、事業戦略の策定に必要な方法論や、計画の実行段階で重要となる組織と個人のマネジメントに関する諸理論について、事例の分析や演習、グループ討議を通じて修得する。						
授業の目的・到達目標	イノベーションにかかわる経営戦略・組織論である「イノベーション・マネジメント」の基礎を修得することを目的とする。本授業を履修することで、ビジネスのアイデアを顧客への新たな価値提供に結び付け、事業として成長させる方法と進め方が理解できる。また、必修科目の「イノベーションプロジェクト」を始め、他の授業科目の学習を円滑に進めることができ、起業を含むビジネスの実践が具現化できる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション： なぜ経営学を学ぶのか？ 本授業で学習する講義の全体像と方法論の概要						
第2回	組織論の基礎（1）： 周囲の変化に気づかず徐々に凋落してしまわないためには？ 意思決定・選択の方法論、集団と個人の意思決定の特徴と留意点、オープンな対話コミュニケーションの重視						
第3回	組織論の基礎（2）： 周囲の変化をいち早く察知してイノベーションを起こすには？ 試行錯誤の持続化、規律あるチームワークの発揮、目的を追求する強いリーダーシップ						
第4回	戦略論のステップ1： なぜ多くの人は未来に目を向けないのか？ 未来予測の方法論、イノベーションの普及曲線、イノベーションを妨げる組織の特徴						
第5回	戦略論のステップ2： 新ビジネスのヒントと成功の要因を発見するには？ 市場・顧客セグメンテーション、大きな社会変化への着眼、ビジネスの流れの大局把握と競合比較分析						
第6回	戦略論のステップ3： 顧客に新しいメリットを提供できる有望な事業や製品を企画するには？ 市場の成熟度評価、競争環境の体系的分析、新市場開拓（ブルーオーシャン戦略）の留意点						
第7回	戦略論のステップ4： イノベーションを起こすための計画づくりの方法は？ 顧客起点の発想、3つの典型的な戦略、イノベーションと商業化の両立						
第8回	戦略論のステップ5： 戦略の実行開始の際に直面する典型的な問題は？ 強みと機会の活かし方、弱みや脅威への対応策、客観的判断と主観的判断の両立						
第9回	戦略論のステップ6： 戦略の実行過程で発生するさまざまな困難を乗り越えるには？ ハードスキルとソフトスキルの連携、有形資源と無形資源の活用、理論と実践の両立						
第10回	戦略論のステップ7： イノベーションを継続して成功させるには？ 組織の存在意義（バードパス）の周知徹底、周辺事業への段階的拡大、サービタイゼーション（ICT活用のサービス化）などによる事業領域の拡張						
第11回	戦略論のステップ8： ビジネスを長期的に成長し続けられる組織になるには？ ステークホルダー（企業の利害関係者）理論、ユニークで大胆な事業ビジョン（未来像）、日々の活動の使命（ミッション）と行動指針						
第12回	戦略論のステップ9： イノベーションの実現をスピードアップさせるには？ 外部資源の効果的活用、顧客中心の仕事の流れと連携、実践的知恵（ストリート・スマート）の重視						

第13回	戦略論のステップ10： 起業を成功させるための基本法則は？ リンスタートアップ（無駄なく素早く繰り返し改良する）、ICT活用による事業成長の加速、事業の買収・提携戦略			
第14回	全体振り返り： 授業全体の総括と質疑応答、自由討議			
第15回	授業内期末レポート： 本授業を通じての気づきや発見、将来のビジネスに応用したいこと、などについて授業内でレポートを作成する			
成績評価の方法	毎回の授業内討議への参加、発表：30% 毎回の授業課題の提出：40% 授業内期末レポート：30%			
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回の授業内クラス討議を円滑に進めるために、授業前にUNIPAに掲示する講義資料や教科書の読了などの予習が必要。 毎回の授業の課題を指定期日までにUNIPAにアップすること。 第15回授業での授業内期末レポートの作成方法については、別途、担当教員から指示する。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
チーズはどこへ消えた？	スペンサー・ジョンソン	扶桑社	4-594-03019-X	電子図書版の購入を推奨
参考書	『イノベーションの考え方』清水洋, 日本経済新聞出版, ISBN978-4-296-11634-8			
備考	「マネジメント（経営学基礎）」の方法論はビジネスだけでなく広範囲に多くの場面でも応用できますので、学内外のプロジェクトや日常生活でも活用する（練習する）ように心がけてください。 この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度授業のフィードバックにもとづき、毎講義の授業内グループ討議の学習効果を上げるため、学生間の相互学習がさらに図れるようにする。			

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	マーケティング基礎					授業形態	講義
授業コード	MK11220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	富澤 豊						
授業概要	マーケティングの基礎的な概念とその発想法を習得することで、情報通信技術を用いたビジネスやサービスを検討する中で、実務としてマーケティング戦略の立案、戦術の策定ができるようにする。具体的にはビジネスの現場で活用するためのマーケティングの基本的な知識やスキル、理論を幅広く学ぶ。身近な商品・サービスの実例を用いて、経営に欠かせないマーケティングの基礎知識を理解する。あわせて、デジタルマーケティングやソーシャルメディアを活用したマーケティングなど今日の話題を学ぶことで、ビジネスの現場でマーケティングを活用するための知識・スキルを習得する。						
授業の目的・到達目標	マーケティングの基礎理論を理解し、情報通信技術とビジネス、マーケティングとの関係性と実践方法を説明できるようになる。						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 マーケティングとは何か ●目標 マーケティングの重要性の理解。起業との関係性。 ●理解すること 稼ぐこと、儲けること、ビジネスにおけるマーケティングの意義。 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 マーケティングの基本的な考え方 ●目標 人間の基本的行動とマーケティングの関係性 ●理解すること 日常の何気ない行動に潜んだマーケティング活動。 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 STP戦略①Segmentation ●目標 視点を多角的に持つことの重要性の理解と会得。 ●理解すること あらゆる分野を広く学ぶべきなのはなぜか。 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 STP戦略②Targeting、Positioning ●目標 ポジショニング戦略の理解とその実践方法の会得。 ●理解すること さまざまな距離感をつかむことの重要性。 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 4P・4C①Product ●目標 自らが関わる製品・サービスの価値とは何かを理解する。 ●理解すること 品質とはなにか。 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 4P・4C②Price ●目標 自らが関わる製品・サービスはどのような価格設定をすればよいのかを理解する。 ●理解すること 価格戦略。買ってほしいと思う瞬間のこと。 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 4P・4C③Promotion ●目標 自らが関わる製品・サービスをどのように広めるのがよいのかを理解する。 ●理解すること 「伝説」とは何か。 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 4P・4C④Place ●目標 自らが関わる製品・サービスはどのような売り方をすればよいのかを理解する。 						

	<ul style="list-style-type: none"> ●理解すること 顧客接点の重要性。 			
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 ネーミングとパッケージ ●目標 名前・外観がもたらす効用について理解する。 ●理解すること 第一印象の重要性。 			
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 サービス・マーケティング ●目標 対顧客もしくは見込み顧客にどのようなサービスを提供すればよいのか理解する。 ●理解すること カタチのないものを提供すること。 			
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 マーケティング・リサーチ ●目標 事業戦略、市場戦略を考えるうえで必要なマーケティング調査について理解する。 ●理解すること 市場分析の意味。 			
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 街のマーケティング ●目標 エリアマーケティングの最新手法を理解し、自らの事業への活用を検討する。 ●理解すること 地域特性を考慮したマーケティングの考え方について理解を深める。 地域データのデジタル化はどこまで可能か。 			
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 Webマーケティング ●目標 手軽であるがゆえに難しいWebに関するマーケティングを理解する。 マーケティングの今日的な手法について理解を深める。 			
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 スポーツマーケティング ●目標 世界規模のイベントで用いられるマーケティング手法を理解する。 ●理解すること 儲ける仕組みづくり。 			
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ●授業内容 マーケティングの未来 ●目標 これまでの振り返りをし、マーケティングを体系的に捉え、自らの事業への活用法を適切に説明できる。 ●理解すること 1回目から14回目の授業内容。 			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回での事例検討レポートおよび授業態度・参加度（40%） ・期末のレポート（60%） 			
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回の授業内容について、事前に教科書などをよく読み、当回についての課題をやってから授業に臨むこと。授業では、当回の内容を確認し（約30分）、学生からの発表をもとに、討議中心に行うものとする。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
戦略的想像力を養うマーケティングの着眼点	富澤 豊	祇園書房	9798412436944	Amazonでのみ購入可能
参考書				
備考	この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	事前学習をしたうえで、教員との討議中心に行います。随時グループ討議も行います。指定教科書および必要な書籍をよく読んでから授業に参加すること。討議への参加態度、協力的な姿勢も評価に入ります。			

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	法務リテラシー I					授業形態	講義
授業コード	LL11230001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	境 真良						
授業概要	IT/ICT事業を自ら起ち上げ、実施していく上で、社会制度としての法システムへの理解はかせない。我が国の法システムの概要を、民法・経済法の領域を中心に解説していく。その中で、法規定の形だけでなく、それがどのように執行され事業における得失をどう生み出していくのかという視点から、理解を深める。						
授業の目的・到達目標	以下の点についてその概要を理解する。 ・我が国の法システム ・民法のしくみと機能 ・商法と競争法の仕組みと機能 ・労働法の仕組みと機能						
授業計画							
第1回	ガイダンス～我が国の法と法システム 「法律」/三権分立と司法システム/判例とは何か/人権/憲法						
第2回	民法（1）～基本的考え方 人、契約、債権・債務関係、債務履行/正常な過程と異常な過程/法人/法律行為						
第3回	民法（2）～契約 契約の成立/契約の内容と効果/契約の終了/契約の限界						
第4回	民法（3）～債権 契約と債権/債権/債権の消滅と契約の終了						
第5回	民法（4）～物権 物権/物権とその効果/権利の衝突とその解決						
第6回	民法（5）～民法編のまとめ 契約/権利・義務関係の変動と対抗要件/民法の狙い						
第7回	商事法（1）～商事法制と会社 商法と民法/商行為/会社/法人の種類/株式会社とは						
第8回	商事法（2）～会社① 会社の設立/資本金/会社の運営/会社の終了と再生						
第9回	商事法（3）～会社② 資本金再論/証券/株式市場/企業を巡る債権債務と企業会計						
第10回	商事法（4）～金融を巡る制度 融資と投資/銀行の機能/手形と小切手/会社の終了と金融秩序						
第11回	商事法（5）～競争を巡る法制 「正しい」商行為/外観を巡る規律/競争と競争法制						
第12回	刑事罰と不法行為 民法と刑事法の不法行為/両罰規程/適用の考え方とその異同						
第13回	裁判（1）～概観 司法の独立/民事裁判と刑事裁判/裁判と判決の効果/親告罪						
第14回	裁判（2）～権利行使としての裁判 民事裁判のプロセス/保全手続/本訴/民事執行/法務戦略のデザイン						
第15回	まとめ 総括/契約と契約書の意義/形式と実体とその解離とその限界/企業経営と法務						
成績評価の方法	毎授業時実施するグループワーク及び中間レポート50% 期末テスト（リモート授業時は期末レポート）50%						
準備学修（予習・復習、課題等）	法令については、授業時に主要部分抜粋を配布するので、事前に目を通しておくこと。また、授業時に次回の主要事項を指示した場合には、インターネットなどで事前調べをしておくこと。なお、授業で言及する話題は情報技術、経済原理や現実のサービス動向、商品動向まで多岐						

	に及びますが、授業で言及したキーワードについては、インターネットなどで関連分野のことがらと共に調べること（各回30～60分程度は必要）
教科書	
参考書	<p>教科書：指定しません。授業時に毎回レジュメ及び必要により参考資料を配布する。</p> <p>参考文献： 事業時に参照した法令は、適宜e-Gov法令検索（http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/）などで調べること。 産業動向や業界事情については、ITmedia（http://www.itmedia.co.jp/）やCNET Japan（http://japan.cnet.com/）など各種情報通信関連サイトなどに定期的に目を通し、最新の状況をキャッチアップすること。</p>
備考	
昨年度からの振り返り	<p>昨年度ゼミで露見した、学生の「事業」理解の甘さを痛感し、会社法と資金調達のあるり方に重点をおくことにした。 労働法については、完成年度に入ったため、リテラシーIIに回すことにした。 授業後半のグループワーク＋発表について、Slackを利用した発表はよいが、まだやり方に改善の余地がある。修正したい。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	アカウントティング入門					授業形態	講義
授業コード	AC11230001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	ICTの進歩により飛躍的な発展を遂げるビジネス社会で有為な人材として活躍するためには、ビジネス社会の共通言語である会計を学ぶことが重要である。この授業では、会計を初めて学ぶ人達を対象に、会計の全般的で基礎的な内容を平易に解説する。会計といえば、一般的に企業会計を意味することが多い。会計情報は企業を取り巻く各種ステークホルダー（利害関係者）の意思決定に利用されるからである。そこで、企業において会計が果たす役割を外部報告会計（財務会計）と内部報告会計（管理会計）という2つの相互関連する視点で取り扱い、会計の基本的な考え方とその守備範囲についてわかりやすく説明する。						
授業の目的・到達目標	ICTを利用してビジネス社会で活躍する人材の育成をめざし、必要とされる会計の基礎知識を広く習得することを目的としている。これにより、会計の基本的考え方・必要性が理解できるようになる。とりわけ、会計情報の重要性をより深く学び、会計をビジネスのツールとして利用できるようになることが目標である。						
授業計画							
第1回	ガイダンス・・会計とは何だろう。会計は何に役立つだろう。 －会計の意義・目的・仕組みについて－						
第2回	会計について深掘りする。 －会計の対象、会計の分類、会社の健康チェック－						
第3回	会計情報の重要性を理解する。 －財務3表（B/S,P/L,C/F）の係わり－						
第4回	会社の財政状態表示とは －貸借対照表(B/S)のひな形と表示内容－						
第5回	会社の経営成績表示とは －損益計算書(P/L)のひな形と表示内容－						
第6回	キャッシュの流れを考えよう。 －キャッシュ・フロー計算書(C/F)のひな形と表示内容－						
第7回	財務諸表作成のプロセス① －簿記のルール：仕訳と転記の基礎－						
第8回	財務諸表作成のプロセス② －簿記のルール：仕訳と転記の確認－						
第9回	財務諸表作成のプロセス③ －簿記のルール：試算表(T/B)の作成－						
第10回	財務諸表作成のプロセス④ －簿記のルール：精算表(W/S),決算書(F/S)の作成－						
第11回	財務諸表作成のプロセス⑤ －簿記一巡の手続きの確認－						
第12回	会社に影響を及ぼす会計制度 －日本における企業会計法の概要－						
第13回	会計の基本的な前提条件 －会計の理論構造－						
第14回	外部報告会計と内部報告会計について －財務会計と管理会計の範囲－						
第15回	管理会計の考え方 －コーヒー缶の値段のつけ方－						
成績評価の方法	授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点30% 最終試験70%（授業範囲すべてを含む）						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：毎回完結型のテーマによる授業のため、関連する事例等をインターネット等で調べておく。 復習：授業時に適宜配布するレジュメ（グーグルクラスルームより配信）と講義内容の復習						

	授業時に適宜課す課題（-googleクラスルームより送受信）については平常点に係るので、提出準備をしておく。 （あわせて1時間程度）
教科書	
参考書	教科書：すべてオリジナルのレジュメ形式で毎回配布する。 参考文献： ◎『会計学入門（第5版）』櫻井久勝、日経文庫、2021年10月。 ◎『日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級合格トレーニング』（最新バージョン）TAC株式会社 『会計学基礎論第六版』神戸大学、2019年10月。 『管理会計入門（第2版）』加登豊、梶原武久（共著）、日経文庫、2017年6月。 『管理会計・入門（第4版）』浅田孝、頼誠、鈴木研一、中川優、佐々木郁子（共著） 有斐閣アルマ、2022年8月。 その他テーマごとに適宜提示する。
備考	授業クラスごとに設定した-googleクラスルームで授業用資料を配布・連絡します。 履修者はこちらからの連絡後、速やかに所属するクラスルームへ登録し、資料を授業前に用意して授業に臨んで下さい。
昨年度からの振り返り	会計(アカウンティング)は、簿記と共にビジネスの世界の共通言語とされ、大変重要である。とはいえ、昨年度からの授業では、当初オリジナルな用語の使い方、内容の難しさに、会計を苦手とする学生が多かった。 そこで、その基礎となる簿記システムの初歩を学ぶことにより、会計の内容をより理解しやすくなるように工夫している。全15回という短期間で会計のすべてを網羅・解説することは難しいが、この授業では簿記一巡の手続きについて3分の1の時間を割いている。簿記は会計を学ぶ上での基礎知識であり会計ではないが、これを学ぶことにより、少しでも難しいあるいは苦手とされやすい会計に興味を持ち、その重要性が理解されることを期待する。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	オペレーションズマネジメント					授業形態	講義
授業コード	OPM1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	三澤 一文						
授業概要	企業の現場にとって、「価格競争に陥らないような独創的な製品やサービスを開発したい」「製品開発のスピードで他社より勝りたい」「コスト競争をもっと上げたい」「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった要望に応えられる方法論はたいへん重要である。本授業では、企業の活動全般（製品・サービスの企画開発、原材料や部品の調達、生産、流通、販売、経営管理、など）を対象に、いかなる企業にとっても重要なコスト削減や時間短縮、品質向上、顧客満足度向上を実現するオペレーション（仕事の進め方や日々の仕事のやり方）の構築・改善・改革の方法論を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	無理にもものづくりやサービス開発のスピードを上げると、出来上がりの品質が悪くなる可能性がある。また、製品の訴求力にこだわり過ぎるとコスト競争に勝てなくなる可能性も高まる。AIなどの先進デジタル技術を積極活用するには、温存されがちな旧来の情報システムの淘汰、刷新が重要になる。 このように、現実にもものづくりやサービス開発を成功させるには、これらの相反、矛盾する複数の要望のあいだでの微妙な調整が欠かせない。本授業を受講することで、以上のような、企業のものづくりやサービス開発の現場で実際に起きている典型的な問題とその原因を理解し、さらにそれらの問題の解決方法を習得することができる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション： オペレーションとは「物事を巧みに行うための方法・手段」「仕事の進め方や日々の仕事のやり方」 本授業全体の概要紹介						
第2回	オペレーションズマネジメントの基礎理論（1）： なぜ、オペレーションズマネジメントはイノベーションに必要不可欠なのか？ 品質・コスト・スピードの新しい均衡関係をデザインするQCD理論						
第3回	オペレーションズマネジメントの基礎理論（2）： なぜ、あの企業は継続してロングセラー商品を生み出せるのか？ ロングセラー商品を生み出すためのPLM（プロダクト・ライフサイクル・マネジメント）理論						
第4回	独創性開発のイノベーション（1）： なぜ、企業は不毛な値引き競争に陥るのか？ 類似サービス・商品の間で没個性化し、無用に汎用化を進めてしまうコモディティ化の罠						
第5回	独創性開発のイノベーション（2）： サービス・商品の独創性を持続させる脱コモディティ化の戦略とは？ 脱コモディティ化に成功した企業事例						
第6回	スピードアップのイノベーション（1）： なぜ、新規事業の開発は滞るのか？ 新商品・新サービスの立ち上げスピードを著しく低下させるサイロ化現象						
第7回	スピードアップのイノベーション（2）： 新規事業・製品開発のスピーディな進め方とは？ スピーディに新商品・新サービスの立ち上げるためのプロセス（仕事の流れ）						
第8回	コスト削減のイノベーション（1）： なぜ、コストは思うように下がらないのか？ 見えるコストと見えないコストの両方のコスト削減の重要性						
第9回	コスト削減のイノベーション（2）： 抜本的なコスト削減に成功した企業事例 モジュール化、アウトソーシング、サプライチェーンマネジメント（SCM）						
第10回	品質向上のイノベーション（1）： 日本製は本当に品質が良いのか？ 品質の考え方の3つの変化（定義の変化、範囲の変化、基準の変化）						
第11回	品質向上のイノベーション（2）： 顧客満足を格段に上げる品質向上の方策とは？ リピート購入率が高い顧客を増やすためのNPS（ネット・プロモーター・スコア）						
第12回	デジタル化のイノベーション（1）： なぜ、企業はAIをうまく使いこなせないのか？ AI活用、オープン・イノベーション、コ・クリエーション（共創）の留意点						

第13回	デジタル化のイノベーション (2) : 日本のDX (デジタルトランスフォーメーション) の成功率を高める方法は? DXの国内外の成功企業事例			
第14回	全体振り返り : 授業全体の総括と質疑応答、自由討議			
第15回	授業内期末レポート : 本授業を通じての気づきや発見、将来のビジネスに応用したいこと、などについて授業内でレポートを作成する			
成績評価の方法	毎回の授業内討議への参加、発表 : 30% 毎回の授業課題の提出 : 40% 授業内期末レポート : 30%			
準備学修 (予習・復習、課題等)	毎回の授業内クラス討議を円滑に進めるために、授業前にUNIPAに掲示する講義資料や参考書の読了などの予習が必要。 毎回の授業の課題を指定期日までにUNIPAにアップすること。 第15回授業での授業内期末レポートの作成方法については、別途、担当教員から指示する。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『技術マネジメント入門』、三澤 一文、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-11132-8 『DXとは何か』、坂村健、株式会社KADOKAWA、ISBN978-4-04-082339-3			
備考	「オペレーションズ・マネジメント」の方法論はビジネスだけでなく広範囲に多くの場面でも応用できますので、学内外のプロジェクトや日常生活でも活用する (練習する) ようにこころがけてください。			
昨年度からの振り返り	昨年度授業のフィードバックにもとづき、毎講義の授業内グループ討議の学習効果を上げるため、学生間の相互学習がさらに図れるようにする。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	マーケティング応用					授業形態	講義
授業コード	MK21220001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	富澤 豊						
授業概要	マーケティングの応用編として、実際に自分が作ったモノを販売する過程で、1年次に学んだマーケティングの基礎的理論を実践することで、より具体的な課題を発見し、その解決法を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	SUZURI、UTmeなどの製作・販売サイトを通じて、自ら作成した商品売る過程を通じて、マーケティングの基本戦略といえる4Pを実践することが目的である。体系的に学んだマーケティングの理論を実践することにより、その問題点を自ら把握し、それを克服する方法を考える。マーケティング基礎を履修した上で、さまざまなケースにおける応用方法について学び、その実践的な応用方法を理論的に説明することができるのが到達目標である。						
授業計画							
第1回	1. オリエンテーション - 授業内容の説明 - 各回への展開 - 使用する販売サイトの紹介						
第2回	2. 商品計画 (Product) - どんなモノを作るのか決める						
第3回	3. 価格設定 (Price) - 価格設定の検討 - 価格設定の方法を理解する						
第4回	4. 売場設定 (Place) - 販売予定のサイト以外でどのように売るか						
第5回	5. 販促計画 (Promotion) - SNSをはじめたコミュニケーションをどのように行うか						
第6回	6. 状況報告① - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異						
第7回	7. 状況報告② - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異						
第8回	8. 状況報告③ - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異						
第9回	9. 中間発表 - 売上、利益 - ターゲット層の反応						
第10回	10. 計画修正 - 計画の修正、微調整を行う						
第11回	状況報告④ - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異						
第12回	状況報告⑤ - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異						
第13回	状況報告⑥ - 計画の進捗						

	<ul style="list-style-type: none"> - 販売状況 - 戦略との差異
第14回	状況報告⑦ <ul style="list-style-type: none"> - 計画の進捗 - 販売状況 - 戦略との差異
第15回	15. 最終発表（レポート） <ul style="list-style-type: none"> - 売上、利益 - ターゲット層の反応 - 何が一番重要だったか
成績評価の方法	各回での事例検討レポート（30%） 討議への参加態度（50%） 期末のレポート（20%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> - 最終レポートの内容で評価する - 販売実績（売上・利益）（10%） - マーケティング戦略の実行内容（40%） - マーケティング戦略の理解度（50%）
教科書	
参考書	日経Xトレンド（通常料金2500円/月）を必ず購読すること。
備考	対象となる企業は、社会情勢等により変更となる場合があります。 1年次「マーケティング基礎」の単位を取得している方が対象となります
昨年度からの振り返り	毎回必ず予習をし、討議に参加し、毎回レポートを提出していただきます。 討議への参加態度、協力的な姿勢も評価に入ります。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	アカウントティング応用					授業形態	講義
授業コード	AC21230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	<p>「アカウントティング入門」で学んだ会計の基本知識をもとに、この授業では財務会計と管理会計の応用領域についてエッセンスを学ぶ。前者の分野では、企業の健康状態をチェックするために必要な会計情報は、カルテともいえるべき財務諸表から得られる。そのため、財務諸表の体系および内容をさらに理解し、分析できなければビジネスに役立たない。とりわけ財務3表とも呼ばれる貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関連性とそれらの計算構造の仕組みを理解していくことが重要となってくる。</p> <p>後者の分野では、企業等の経営管理者が組織運営にあたって不可欠なシステムの構造と機能についてより理解を深め、同時に、管理会計上で直面する課題解決のために、それらの手法を実際に活用できるような知識を習得することが重要である。ここでは、主に利益管理、原価管理、意思決定、および管理会計の新たな展開にかかわるテーマを中心に取り上げ、実際の事例を交えながら学んでいく。</p> <p>どちらの分野も相互関連的であり、また、単なる実践的な会計処理方法を学ぶだけではなく、その理論的根拠や応用事例も同時に理解することで、企業価値を高める創造力をも身につけることを目指している。</p> <p>昨年同様に、実際の企業の決算書（有価証券報告書）を調べ、利用しながら体験的に学んでもらう。</p>						
授業の目的・到達目標	この授業を通じて、会計情報の重要性、財務諸表の読み方、分析ができるようになり、ICTを利用した企業の発展およびグローバル社会への対応が可能となる。同時に、企業の付加価値を高める創造力を養うことが目標である。						
授業計画							
第1回	ガイダンス －企業の変化と会計情報－						
第2回	①貸借対照表（資産会計） －資産の区分表示とその内容－						
第3回	②貸借対照表（資産会計） －資産の評価基準と流動・固定の分類基準－						
第4回	③貸借対照表（負債会計） －負債の分類とその構成内容－						
第5回	④貸借対照表（資本会計） －資本の分類と構成内容－						
第6回	①損益計算書（損益会計） －損益項目の分類と構成内容－						
第7回	②損益計算書（損益会計） －営業外損益の例：外貨建て取引の検討－						
第8回	③損益計算書（損益会計） －工事進行基準と工事完成基準－（予定）						
第9回	キャッシュ・フロー計算書の作成 －直接法と間接法の表示－						
第10回	連結財務諸表の仕組みと作成方法						
第11回	①経営分析の基本 －静態分析と動態分析について－						
第12回	②経営分析の基本 －収益性・安全性・成長性の分析－						
第13回	財管一致に関する問題 －管理会計的視点から－						
第14回	原価計算の種類と考え方						
第15回	会計の応用分野について －会計の新たな展開（IFRSと研究開発費、ESG、SDGs、DX化の方向性と組織の問題等）－						
成績評価の方法	4. 試験および成績評価の方法と基準 授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点30% 最終試験70%（授業範囲すべてを含む）						

準備学修（予習・復習、課題等）	<p>準備学修（予習・復習、課題等）</p> <p>予習：毎回完結型のテーマによる授業のため、関連する事例等をインターネット等で調べておく。</p> <p>復習：授業時に適宜配布するレジュメと講義内容の復習</p> <p>授業時に適宜課す課題については平常点に係るので、提出準備をしておく。</p> <p>（あわせて1時間程度）</p>
教科書	
参考書	<p>教科書／参考文献</p> <p>教科書：すべてオリジナルのレジュメ形式で毎回配布する。</p> <p>参考文献：</p> <p>桜井久勝著『財務会計講義 第23版』中央経済社 2022年。</p> <p>伊藤邦雄著『新・現代会計入門 第5版』日本経済新聞社2022年。</p> <p>岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子著『管理会計 第2版』中央経済社、2008年。</p> <p>櫻井通晴著『管理会計 第七版』同文館出版、2019年。</p> <p>その他必要に応じ適宜参考文献を紹介する。</p>
備考	<p>毎回、各所属クラスごとに設定したグーグルクラスルームで、授業に使用するレジュメ・資料等を配布します。授業前に準備しておくこと。</p> <p>課題についてもすべてグーグルクラスルームで配信します。</p>
昨年度からの振り返り	<p>会計(アカウンティング) 応用の授業は、1年次の会計(アカウンティング) 入門を履修済みの学生を履修条件としている。会計の重要性はいうまでもないが、苦手としている人が多い。いわゆるHOW-TO形式の本で「初心者にもわかる本」を読めば簡単に理解されるものではない。ビジネス系の他の科目と異なり、この科目を理解するには、まず基礎知識の修得が必要である。それはこの科目のオリジナルな用語法、システム(理論構造)を理解する必要があるからで、本来は簿記システムの総合的理解と地道な努力あってこそ、道が開ける科目である。その上で、この科目の実践的な役立ちが見えてくる。決して派手さはないが、着実に会計思考力を身に付けることで、財務戦略としてのファイナンスとの関連性を理解し、確実にビジネスにとって強力な武器として役立つ。受講する学生諸君の地道な努力に期待する。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	法務リテラシー II					授業形態	講義
授業コード	LL21230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	境 真良						
授業概要	法務リテラシーIの講義内容を前提として、IT/ICT事業に関わる、あるいは自ら立ち上げ、実施していく上で必要になる諸法について、電気通信に関する事業者責任、知的財産の取扱い、表現規制への対応を中心として解説していく。						
授業の目的・到達目標	以下の点についてその概要を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・電気通信事業法の規制概要と、主として届出電気通信事業者に係る事業責任の構造 ・知的財産の取扱い、特に自らの事業を媒介として生じた問題に対する事業責任 ・広告の表示にまつわる社会的責任 ・射幸性の社会的制御の仕組みと基準 						
授業計画							
第1回	ガイダンス～法リテIの総括 三権の役割/民法と刑事法/民法法制の基本フレーム/商取引と企業経営を巡る法務/行政法と知的財産法						
第2回	IT/ICTを巡る法制度（1） 電気通信事業法概論/通信とは何か/通信と放送と電波制度/電気通信事業法が事業者に課す主な責務/特別な内容の通信に関する責務/電気通信事業者のその他の責務						
第3回	IT/ICTを巡る法制度（2） 個人情報保護法概論/個人情報とは何か/個人情報の利活用を巡る制約/同意の効果とそのやり方/個人情報の漏洩パターン/問題の発生とその收拾						
第4回	IT/ICTを巡る法制度（3） サイバーセキュリティとは何か/問題の発生とその態様/問題を誰がどう防いでいるか/事業者の責任とその遂行/サイバーセキュリティを巡る法制/責任が発生しても事業を存続させるために						
第5回	IT/ICTを巡る法制度（4） 表現の責任と媒介者の責任/カラオケ法理～独立犯か共犯か/違法情報公開とその收拾/著作権侵害コンテンツ公開とその收拾/プロバイダ責任制限法概論/名誉毀損とその收拾						
第6回	コンテンツを巡る法制度（1） 著作権法概論/著作権法の世界観/保護される複製、保護されない複製/許諾をとるべき相手/自分が使う時、誰かに使わせる時						
第7回	コンテンツを巡る法制度（2） ウェブサイト制作と著作権/制作過程におけるコンテンツの取扱い/複製の範囲～独創性と類似性と依拠性/インライン表示の取扱いと引用/コンテンツ制作を委託した場合/出来上がったウェブサイトについて						
第8回	コンテンツを巡る法制度（3） 創造と派生のエコシステム/プログラムの著作物/コンテンツの二次創作/ライセンス方式/主要なライセンスとその方式						
第9回	消費者保護を巡る法制度（1）～広告と射幸性① 広告のメカニズム/広告を巡る問題と責任の所在/広告主の責任と特商法他の規律/広告表示者の責任/広告とウィルス供用罪/「不適切な情報」の拡散と法的、社会的責任						
第10回	消費者保護を巡る法制度（2）～広告と射幸性② 娯楽性と射幸性/景表法概論/景表法と賭博罪～射幸性規制の相関関係/ネット広告と射幸性/ゲームと射幸性～「ガチャ」を中心に/ゲームプレイと射幸性～「賞金」論を中心に						
第11回	消費者保護を巡る法制度（3）～決済と金融 金融を巡る法制度概論/決済行為と金融/資金決済法の適用範囲/デポジット（プリペイド）の法規制/クラウドファンディングの法規制/仮想通貨を巡る法規制/与信を巡る法規制						
第12回	消費者保護を巡る法制度（4）～モノの製造者責任 機器の供給者と利用者の責任分界点/取扱い説明書の機能と限界/消費者に機器の安全性をどう伝えるか/PSEマーク（電安法）概論/技適マーク概論/JISマーク概論/製造物責任法概論/その他の製造供給者責任						
第13回	消費者保護を巡る法制度（5）～ネット取引 ネットを入口にすることについて/事業規制について/リアルな事業の規制体系外観/・ネット系ビジネスと準拠法と規制実施						
第14回	労働に関する法制度 働く契約の主類型/雇用・労働関係規律の基本思考/労働法の役割/労働組合/雇用主として守るべき主たる労働条件規律/労働規律の構造変化						

第15回	まとめと補遺 行政庁と各種規制の機能と効果/電気通信の規制と表現の規制/知的財産の機能と効果/知的財産侵害リスクの考え方/リーガルマインド
成績評価の方法	毎授業時実施するグループワーク及び中間レポート50% 期末レポート50%
準備学修（予習・復習、課題等）	法令については、次回授業で触れる法律については適宜e-Gov法令検索（ https://elaws.e-gov.go.jp/ ）などで調べる。また、授業時に次の主要事項を指示した場合には、インターネットなどで事前調べをしておくこと。なお、授業で言及する話題は情報技術、経済原理や現実のサービス動向、商品動向まで多岐に及ぶが、授業で言及したキーワードについては、インターネットなどで関連分野のことがらと共に調べる（各回30～60分程度は必要）
教科書	
参考書	教科書：指定しません。授業時に毎回レジュメ及び必要により参考資料を配布する。 参考文献： 事業時に参照した法令は、適宜e-Gov法令検索（ https://elaws.e-gov.go.jp/ ）などで調べる。産業動向や業界事情については、ITmedia（ http://www.itmedia.co.jp/ ）やCNET Japan（ http://japan.cnet.com/ ）など各種情報通信関連サイトなどに定期的に目を通し、最新の状況をキャッチアップすること。
備考	
昨年度からの振り返り	情報通信法制、著作権法制、消費者保護法制の三本柱は適切だったと実感。 本年度より労働法をリテIIに集約すべくリテIの内容を調整しているが、リテIIは前年度のリテIを受けているので、引き続き労働法（発展）のみを受け持っている。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	ファイナンス入門					授業形態	講義
授業コード	FIB1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	<p>一般に、企業は資金を調達し、それらを運用して、収益を生むという活動をおこなう。そのため、ビジネスリーダーは、資金調達活動、投資活動、財務活動を、つねに考えて行動する必要がある。その際、会計情報を利用してファイナンス(財務：企業財務あるいは経営財務ともいう)をおこなうことは重要である。</p> <p>最近、ICTを利用したビジネスの現場で、コーポレートガバナンスの強化とともに、このファイナンスの重要性が増している。そこで、この授業では、将来ビジネスリーダーを目指す学生を対象に、経営プロセスにそって、会計の知識をもとにファイナンスの基礎とその考え方を修得してもらう。それにより、経営の効率性や収益性を高め、企業価値の最大化を目指すファイナンス本来の基本的スタンスが理解できるようになる。</p>						
授業の目的・到達目標	ICTを利用してビジネスの世界で活躍する人材の育成をめざし、必要とされるファイナンスの基礎知識を修得することを目的としている。単なる技術的手法を学ぶだけでなく、理論的考察をおこなうことで、実践力と創造力を養い、会計とともにビジネスの世界で必要なツールとして利用できるようになることが目標である。						
授業計画							
第1回	ファイナンスとは何かを考える。 －ファイナンスの意義と必要性－						
第2回	投資とは何か、現在と将来の価値を考える。 －事業投資への意思決定について－						
第3回	株式会社とは① －会社の種類について理解する－						
第4回	株式会社とは② －会社の設立、会社の機関設定を考える－						
第5回	会計とファイナンス －営業循環と資金の流れ、会計とファイナンスの役割について考える－						
第6回	比例縮尺図を作成する。 －財務3表(B/S, P/L, C/F) の関係－						
第7回	会社の利益構造を考える。 －利益とキャッシュ・フローとの係わり－						
第8回	黒字倒産の事例を考える。 －キャッシュ・フロー計算書の枠組みと間接法表示－						
第9回	キャッシュ・フローの管理(資金繰り) －キャッシュ・フローを増やすためのポイント－						
第10回	資本コストとは －企業価値向上のために－						
第11回	有利子負債コストの計算						
第12回	有利子負債コストの節税効果について						
第13回	株主資本コスト率の計算 －CAPM(資本資産評価モデル)について－						
第14回	会社全体の資本コストを考える。 －WACC(加重平均資本コスト率)について－						
第15回	企業価値について考える(応用)。 －資本効率と企業価値を高める方法とは－ KPIの利用とDCF法等の概要を説明する。						

成績評価の方法	試験および成績評価の方法と基準 ・授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点30% ・最終試験70%（授業範囲すべてを含む）
準備学修（予習・復習、課題等）	準備学習（予習・復習、課題等） 予習：毎回完結型のテーマによる授業のため、関連する事例等をインターネット等で調べておく。 復習：授業時に適宜配布するレジュメと講義内容の復習 授業時に適宜課す課題については平常点に係るので、提出準備しておく。 （各回1～2時間程度）。
教科書	
参考書	教科書／参考文献 教科書：毎回、レジュメ形式で配布した資料により授業をおこなう。 参考文献： 『あわせて学ぶ 会計&ファイナンス入門講座』 保田隆明(著)、田中慎一(著)、ダイヤモンド社、2013年 『ビジネスリーダーが学んでいる 会計&ファイナンス』 日沖健(著)、中央経済社、2015年 『図解 簿記からはじめる企業財務入門』 津森信也(著)、東洋経済新報社、2014年 『コーポレートファイナンス入門〈第2版〉』 砂川伸幸(著)、日本経済新聞出版社、2017年 『新・企業価値評価』 伊藤邦雄(著)、日本経済新聞出版社、2014年 『コーポレート・ファイナンス<第10班>上・下』 リチャード・ブリリー(著)、スチャワート・マイヤーズ(著)、フランクリン・アレン(著)、 藤井真理子(翻訳)、國枝繁樹(翻訳)、日経BP社、2014年
備考	本講座は、アカウンティング応用受講者のみを前提として講義する。また、理解度の程度により、講義テーマで取り扱う内容も多少変える予定である。 なお、授業クラスごとに作られたグーグルクラスルームで授業用資料を配布・連絡する。 履修者はこちらからの連絡後、速やかにクラスルームへ登録し、資料を授業前に用意して授業に臨んでいただきたい。
昨年度からの振り返り	一昨年度から初めて開講した科目で、最初にお話ししたように、アカウンティング応用履修者のみを受講対象とした授業であった。（今年も同様）。内容はなるべく平易に、会社の起業を起点として、「会計とファイナンス」との係わりから、その後の会社の成長にともなって必要となる資金繰り、利益構造、資本コストと行った項目を順に取り上げ、ファイナンスの必要性・重要性を説明した。今年も同様の手法で授業を進めていく予定である。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	問題形成と問題解決					授業形態	演習
授業コード	SPS1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	三澤 一文						
授業概要	本授業では、アップル、ソニー、ディズニー、トヨタ、マイクロソフトなどの世界的企業に加え、近年、急拡大しているスポティファイ、GoPro、SAP、など数多くの革新的企業で活用されている経営手法を学習する。これらの企業のように、技術革新を起点に、その市場性を見極め、俊敏に行動して産業の発展に繋げるためには、ビジネスと技術の相互発展に必要な方法論が重要となる。具体的には、①問題を明確にする②問題をブレイクダウンする③達成目標を決める④真因を考え抜く⑤対策を立てる⑥対策をやりぬく⑦結果とプロセスを評価する⑧成果を定着させる、といった8つのステップから成る問題発見・解決手法が有用となり、本授業ではそれらを事例学習やグループワークを通じて体系的に学ぶ。						
授業の目的・到達目標	本授業を受講することで、履修生は、イノベーションや産業発展に貢献するリーダーとなる人材が理解しておくべき経営手法を習得することができる。具体的には、いかなる問題の発見と解決に役立つ物事の進め方、すなわち「思考の型」「仕事の型」が身に付く。また、ビジネスのみならず日常の様々な問題も経営の視点でうまく解決できるようになる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション：本授業で学ぶ方法論の概要 ビジネスと技術の相互発展の考え方と方法論 問題の発見と解決には論理的思考・心理学・組織論の3つが必要 新ビジネス・新製品の開発手法と手順の概要						
第2回	ステップ1：問題を明確にする 隠れた問題を見つける方法とは？ ユーザーエクスペリエンス（UX）の視点からビジネスの問題を発見する UXデザインの視点で顧客の深層ニーズの発見に成功した「アップルストア」						
第3回	ステップ2：問題をブレイクダウンする あいまいな問題を具体化していく方法とは？ 広範な顧客ニーズを正しく分類する「30の価値要素」理論 人生を変える価値を提供して成功した「GoPro」						
第4回	事例研究（1）：社会課題編 SDGsの観点から交通問題を解決するには？ 小田急電鉄のMaaS(Mobility as a Service)の事例 日本国内でのMaaS普及のための課題						
第5回	ステップ3：達成目標を決める 挑戦的で具体性のある目標を設定する方法とは？ 適切に目標設定するためのフレームワーク「SMART」 ユーザービリティ優先の達成目標でイノベーションに成功したソニー「ウォークマン」						
第6回	ステップ4：真因を考え抜く 問題の原因を深く考える「5回のなぜ」とは？ 人間の無意識の思い込み「アンコンシャス・バイアス」の壁 根本原因を追究することで問題の再発防止に成功した「トヨタ生産方式」						
第7回	事例研究（2）：情報システム編 生成AIが企業の情報システムに与えるインパクト オープンAI社によるチャットGPTの開発事例 統合基幹業務システム（ERP:Enterprise Resource Planning)の要点						
第8回	ステップ5：対策を立てる 実行性の高い対策に絞り込むための方法論とは？ ボディ・ストーミングやゲーミフィケーションの活用 独自のアイデア創出法で数多くのユニークな企画開発に成功した「ディズニー」						
第9回	ステップ6：対策をやりぬく チーム一丸で対策をやりぬくための5つの条件とは？ 対策をすばやく実行するアジャイル手法の要点 スパイラル開発方式で複雑なソフトウェアの開発に成功した「マイクロソフト」						
第10回	事例研究（3）：プロジェクト・マネジメント編 プロジェクトのQCD（品質、コスト、納期管理）管理の事例 シングルタスクとマルチタスクの違い 富士通のプロジェクト・マネジメント手法						

第11回	<p>ステップ7：結果とプロセスを評価する 結果とプロセスを振り返るKPT(Keep, Problem, Try)手法とは？ 正しく振り返ることを妨げる人間の心理 失敗に学ぶ組織文化で音楽配信事業の先駆けに成功した「スポティファイ」</p>			
第12回	<p>ステップ8：成果を定着させる 次に取り組むべき問題を発見する4つの戦略とは？ 成果を仕組みとして標準化し共有化することの重要性 業務のベストプラクティスの標準化システムを世界展開して成功した「SAP」</p>			
第13回	<p>事例研究（4）：起業編 なぜ、多くの起業はプランどおりにいかず失敗するのか？ 起業後に先行きが見えなくなったときにやるべきこと 住宅リフォーム会社紹介サイトのホームプロの起業事例</p>			
第14回	<p>問題発見・解決手法のまとめとFAQ（よくある質問） 問題発見・解決の心構え7ヶ条</p>			
第15回	<p>授業内期末レポート： 本授業を通じての気づきや発見、将来のビジネスに応用したいこと、などについて授業内でレポートを作成する</p>			
成績評価の方法	<p>毎回の授業内討議への参加、発表：30% 毎回の授業課題の提出：40% 授業内期末レポート：30%</p>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>毎回の授業内クラス討議を円滑に進めるために、授業前にUNIPAに掲示する講義資料や参考書の読了などの予習が必要。 毎回の授業の課題を指定期日までにUNIPAにアップすること。 第15回授業での授業内期末レポートの作成方法については、別途、担当教員から指示する。</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『トヨタ式リーダー育成法』、三澤 一文、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-31944-1			
備考	「問題形成と問題解決」の方法論はビジネスだけでなく広範囲に多くの場面でも応用できますので、学内外のプロジェクトや日常生活でも活用する（練習する）ようにこころがけてください。			
昨年度からの振り返り	昨年度授業のフィードバックにもとづき、毎講義の授業内グループ討議の学習効果を上げるため、学生間の相互学習がさらに図れるようにする。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	組織行動論					授業形態	講義
授業コード	OBH1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	大木 由美子						
授業概要	組織は至る所に存在しており、組織と関係せずに生活はできなくなっている。本講義では様々な組織の中での人間行動について理解する。人間行動を規定する働きのある組織の構造や形態、組織文化を扱い、仕事への意欲の程度を示すものともいえる動機づけや働き方を学び、個人が生かされ組織も創造性を増す組織開発を探求する。						
授業の目的・到達目標	「人事」は企業を経営する上で重要な機能であるにも関わらず、いわゆる「手なり」で実践されることが多い。しかし、人事には多くの場合「原理原則」があり、それを習得しておくことが重要だ。そこで、本講義では人事における原理原則・基本について解説する。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	組織行動論とは何か						
第3回	会社の組織						
第4回	モチベーション						
第5回	組織コミットメント						
第6回	キャリアマネジメント						
第7回	リーダーシップとマネジメント						
第8回	フォロアーシップとマネジメント						
第9回	チームビルディングと心理的安全性						
第10回	コーチング						
第11回	経営理念と行動指針						
第12回	企業文化						
第13回	企業不祥事						
第14回	組織行動論の総復習と確認テスト						
第15回	確認テストの解説と質問を元にした回答会						
成績評価の方法	参加態度（50%）、確認テスト（50%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業内にて指示される予習（90分程度）及び復習（90分程度）を、授業外学習として行うこと。						
教科書							
書名	著者	出版社			ISBN		備考
指定なし							
参考書	開本浩矢（編著）『組織行動論』中央経済社						
備考	特に上記参考書の購入の必要はない。						
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。						

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ビジネスゲームによる経営意思決定					授業形態	講義
授業コード	DMT1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	菊地 祥由						
授業概要	世の中にある様々な経営現象（人事現象、市場現象等）を理解するには、なぜそれが起こったかの現象を説明する原理を学ぶ必要があり、その1つがゲーム理論がある。ゲーム理論は、人はなぜそう決めるのか、企業はなぜそう決めるのか、という「決める」ことに関する理論である。本講義では、「決める（意思決定）」ことは経営現象全てに関わる事を理解し、ゲーム理論を活用し、主にICT業界の経営実務における、合理的な意思決定の手法を修得する。						
授業の目的・到達目標	ゲーム理論の基礎的な理屈を理解し、ビジネスへの応用が可能な水準を目標とする。						
授業計画							
第1回	ガイダンス：なぜ社会設計やビジネスにとって有益なのか						
第2回	ゲーム理論とはなにか -囚人のジレンマとナッシュ均衡-						
第3回	戦略形ゲームのモデルを理解する						
第4回	完全情報の展開形ゲーム						
第5回	不完全情報の展開形ゲーム						
第6回	不完全情報の戦略形ゲーム						
第7回	クールノー競争とベルトラン競争①						
第8回	クールノー競争とベルトラン競争②						
第9回	混合戦略と純粋戦略①						
第10回	混合戦略と純粋戦略②						
第11回	企業経営における事例研究①						
第12回	競争原理と戦略策定①						
第13回	企業経営における事例研究②						
第14回	競争原理と戦略策定②						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	講義への参加状況を含む平常点、及び各講義後に提出する簡易レポート（50%）、及び期末レポート（50%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	事前の予習は要求しない。 講義後は扱った内容について復習するとともに、簡易レポートに取り組むこと。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	特に設定しない。講義資料で包括できる範囲とする。						
備考	課題（簡易レポート）についても講義中の実践を通して一定程度包括できる範囲にする予定であり、講義に集中して臨めば講義外学習の負担が重くならないよう配慮する。						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	人的資源管理論					授業形態	講義
授業コード	HRM1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	大木 由美子						
授業概要	経済・社会活動がグローバル化するなかでの競争激化や経済社会の成熟化により、日本企業は事業運営においてこれまでにない模索を強いられ、時に大きな事業革新を求められている。一方で、人口高齢化と人口減少の進行は、企業の人的資源の担い手を大きく変えつつある。本講義では、以上のような状況のもとで、日本企業が進めている人的資源管理の取り組みとその背景を理解し、今後のあり方について検討を行うための視点を身につけることを目的とする。						
授業の目的・到達目標	「人事」は企業を経営する上で重要な機能であるにも関わらず、いわゆる「手なり」で実践されることが多い。しかし、人事には多くの場合「原理原則」があり、それを習得しておくことが重要だ。そこで、本講義では、2年次の「組織行動論」からの発展として、より実践的な人材・組織領域における考え方について解説する。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	人的資源管理とは何か						
第3回	人事部の仕事（採用、配属、評価、昇進、教育など）						
第4回	「ヒト」の管理の歴史① テイラーの科学的管理法						
第5回	「ヒト」の管理の歴史② ホーソンの照明実験						
第6回	モチベーション						
第7回	組織コミットメント						
第8回	リーダーシップ						
第9回	フォロアーシップ						
第10回	雇用形態の多様化とキャリア開発						
第11回	終身雇用の限界と中途採用						
第12回	変わる「ヒト」管理① ダイバーシティ・インクルージョン						
第13回	変わる「ヒト」管理② 働き方改革（フレックス・在宅勤務など）						
第14回	人的資源管理の総復習と確認テスト						
第15回	確認テストの解説と質問を元にした回答会						
成績評価の方法	参加態度（50%）、確認テスト（50%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業内にて指示される予習（90分程度）及び復習（90分程度）を、授業外学習として行うこと。						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
指定なし							
参考書	奥林康司 他（編著）『入門 人的資源管理』中央経済社、上林憲雄（編著）『人的資源管理』中央経済社						
備考	特に上記参考書の購入の必要はない。						
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。						

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	地域創生とイノベーション					授業形態	演習
授業コード	RR11220001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行						
授業概要	墨田区はじめ講師が関与して地域創生に成功した全国の事例を学ぶ。その現場で産業・観光・文化・教育振興や、SNS等の情報発信で活躍したキーパーソンをゲスト講師に招いて議論し、理解を深める。 また、実際に街あるきや工場見学などのフィールドワークを行い、受講生自らが地域の魅力を発見・発掘してSNSで発信する。その成果を学生目線の墨田区観光マップにまとめ、地域のキーパーソンに報告し、講義webやSNS等で発表する。						
授業の目的・到達目標	地域創生のキーパーソンや、コミュニティビジネスの起業家として活躍するための基礎知識と、SNS等を活用した実践的な発信スキルを身につける。 地域のキーパーソンと講義・フィールドワーク・SNS等で交流を結び、より深く学びながらプロジェクトを協働するパートナーを見つける。数名のチームを結成し、グループでフィールドワークをしながら、観光マップなどの成果物を作成し発表するとともに、キーパーソンへの提言を行う。						
授業計画							
第1回	◎概要 教員紹介とガイダンス。Instagram・facebookへの投稿を講義用facebookへ投稿する方法 ◎事前準備 インスタグラムとFacebook（講義用新設可）を開設しておくこと ◎詳細 1) SNSを活用してキャリアを積んで来た講師の自己紹介をします 2) 教員のSNS投稿事例を紹介しながら、受講生のみなさんに受講半年後の可能性を示します 3) 各自が取材してSNSに投稿するアクティブラーニングの進め方についてお伝えします						
第2回	◎概要 SNSを活用した地方創生・観光地域づくりの手法 ◎事前準備 墨田区の魅力について、インターネットで調べておくこと ◎詳細 1) 教員が全国の観光協会などで講演している内容を講義します 2) インターネット上の情報の量と質が地方創生の成否に関わることを体感します 3) 当該地域の魅力をインターネットで調べる方法を学びます						
第3回	◎概要 前回調べた墨田区の魅力と課題について各自発表します ◎事前準備 墨田区と地元を比較し魅力と課題についてクラスルームに書いて提出すること ◎詳細 1) 観光・産業・文化・教育・市民活動の5項目について地元と墨田区の魅力と課題を考えます。 2) 数名ずつのグループワークで、墨田区の魅力と課題の表を完成させます。 3) グループ毎に発表をして、それを聴きながら、自グループの表に追補します。						
第4回	◎概要 お店やスポットの探し方と、墨田区イチオシのパン屋さんの発表 ◎事前準備 墨田区にあるパン屋さんの中からイチオシのお店とパンを投稿 ◎詳細 1) ネットや専門誌などを活用して、お店やスポットを探す方法を学びます 2) 学生のパン投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します						
第5回	◎概要 インスタ映える写真の撮り方と、墨田区イチオシのラーメン屋さんの発表 ◎事前準備 墨田区にあるラーメン屋さんの中からイチオシのお店とラーメンを投稿 ◎詳細 1) スマホでインスタ映える写真の構図・撮り方・フィルターのかけ方を学びます。 2) 学生のラーメン投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します						
第6回	◎概要 投稿で紹介した店主とSNSで仲良くなる方法と、墨田区イチオシのカレー屋さんの発表 ◎事前準備 墨田区にあるカレー屋さんの中からイチオシのお店とカレーを投稿 ◎詳細 1) 写真を撮る時のあいさつと、投稿後のお礼メッセージの出し方を学びます						

	<p>2) 学生のカレー投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。</p> <p>3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第7回	<p>◎概要 読者の興味を惹くタイトルやキャッチコピーの付け方と、墨田区イチオシのスイーツ屋さんの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にあるスイーツ屋さんの中からイチオシのお店とスイーツを投稿</p> <p>◎詳細 1) 投稿記事につけるタイトルやキャッチコピーのつけ方について学びます 2) 学生のスイーツ投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第8回	<p>◎概要 検索してもらえるハッシュタグのつけ方、墨田区イチオシの看板の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にある面白い看板あるいは美しい看板を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 投稿記事につけるハッシュタグの選び方つけ方について学びます 2) 学生の看板投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第9回	<p>◎概要 Facebookで目立って信用される自己紹介文の作り方と、墨田区イチオシの風景の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にある美しい絶景あるいは面白い珍風景を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 興味を惹き信用されて自己プロデュースにつながる自己紹介文について学びます 2) 学生の風景投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第10回	<p>◎概要 SNS向きのプロフィール写真の作り方と、墨田区イチオシミュージアムの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にある好きな美術館・博物館を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 顔と人物像を憶えてもらえるプロフィール写真について学びます 2) 学生のミュージアムの投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第11回	<p>◎概要 自分らしさを強調する独自のこだわりテーマの見つけ方と、墨田区のおすすめスポット発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にあるおすすめのスポットを見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 個性を発揮しつつ生涯めたくなるこだわりテーマの見つけ方を学びます。 2) 学生のおすすめスポット投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第12回	<p>◎概要 自分らしさを表現しSNSへと導く個人名刺の作り方と、墨田区のおすすめ動物・植物発表</p> <p>◎事前準備 墨田区で見つけたおすすめ動物・植物を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 教員が親しい達人たちの名刺を紹介しながら個性的な名刺作成法について学びます 2) 学生のおすすめ動物の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第13回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10&マップの作り方と、私のこだわりテーマ発表</p> <p>◎事前準備 墨田区で見つけたこだわりテーマに関するものごとを投稿</p> <p>◎詳細 1) これまで10回にわたって投稿してきたお勧めをA4用紙の裏表にまとめる方法を学びます。 2) 学生のこだわりテーマの投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p>
第14回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10&マップの最終発表会1</p> <p>◎事前準備 これまで投稿してきた内容をA4用紙の裏表にまとめて前日までにネットで、当日授業前に印刷して提出。</p> <p>◎詳細 1) 私の墨田区ベスト10&マップを発表してもらいます（発表できるところまで）</p>

	<p>2) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します</p> <p>3) 優秀作は後日、発表動画と合わせて墨田区長や墨田区観光協会理事長などにも謹呈します。</p>
第15回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10&マップの最終発表会2</p> <p>◎事前準備 前回の発表を見て改良した場合は、印刷して当日授業前に提出。</p> <p>◎詳細 1) 私の墨田区ベスト10&マップを発表してもらいます(前回の続き) 2) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します 3) 優秀作は後日、発表動画と合わせて墨田区長や墨田区観光協会理事長などにも謹呈します。</p>
成績評価の方法	<p>試験は行わず、毎回のレポートと課題、ならびに最終発表で評価します。 (出席していてもレポートと課題が提出されなければ単位取得はできません)</p> <p>1. 出席代わりに授業中に書くレポート 30% (各回 2% × 15回) 毎回の学びのまとめと学生発表への評価と投票。クラスルームで提出。 当日中に提出できなかった場合は、提出しても1%換算</p> <p>2. 第4~13回まで、10のテーマについてのSNS投稿 50% (各回 5% × 10回) 自分のSNSにアップした上で、授業用facebookページに各回前日の17時までに投稿 各回前日17時までに提出できなかった場合は、提出しても3%換算</p> <p>3. 14回と15回に行う私のベスト10とマップの提出と発表 20% (クラスルームと印刷各10%) 自分のSNSにアップした上で、授業用facebookページに前日の17時までに投稿 14回目の前日17時までにクラスルームで、15回目の前日17時までに印刷で 提出できなかった場合は、提出しても各5%換算</p>
準備学修(予習・復習、課題等)	<p>1. 当授業を受講する前の準備 Instagramとfacebookアカウントの開設(既存の個人と別アカウントも可)</p> <p>2. 授業開始前の予習 10のテーマに従い、墨田区のイチオンを調べておく 4回目以降、毎回のテーマに合わせて、前日17時までに自分のSNSと授業のfacebookに投稿する。</p> <p>3. 授業中の課題 毎回、授業中に当日の学びを簡潔にまとめるレポートと、学生の発表に対する評価コメントと投票をクラスルームに提出する</p> <p>3. 授業開始後の復習 当授業の学びを活かしInstagramとfacebookのプロフィールや記事投稿の不備を直していく</p> <p>4. 最終発表の予習 10のテーマを、自分なりのレイアウトで私のベスト10とマップにまとめる。 14回目の授業の前日17時までに講義facebookに投稿し、クラスルームにもアップする。 プリントアウトしたもの14回目の授業前に提出する。</p>
教科書	
参考書	
備考	<p>受講する際の注意点</p> <p>1 iUのある墨田区を各自が授業時間外にフィールドワークをして魅力を発掘します。 街を探訪して歩くことが好きで、記事投稿に時間と手間がかけられる人向けの授業です。</p> <p>2 実名顔出しにてfacebook投稿をすることで墨田区のキーパーソンにも見てもらいながら、自分のブランド価値を高めますので、実名投稿ができる人向けの授業です。</p> <p>3 毎回、数名の受講生に、投稿した記事を、クラスの前で発表してもらい、プレゼン力も高めていきますので、積極的に人前で発表する力を身につけたい人向けの授業です。</p> <p>4 出席率100%でも、毎週の記事投稿が出来ない人、最終発表の課題が提出されない人は単位取得できませんのでご注意ください。</p>
昨年度からの振り返り	<p>この授業を選んでくれたみなさんが、墨田区を愛し、独自の視点で魅力を発見し楽しまれていることに感動しました。最終発表には、墨田区観光協会理事長、墨田区商店街連合会事務局長、すみだ向島EXPO実行委員長も参席してくれましたが、みなさんの発表の素晴らしさに感激されていました。みなさんの知的好奇心と行動力に驚き、感謝しています。みなさんが充実して下さったfacebookを、後輩たちがさらに充実させてくれるでしょう。どうもありがとうございました。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーション特論					授業形態	講義
授業コード	SIB1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	三澤 一文						
授業概要	<p>本授業では、イノベーションにかかわる重要な時事的テーマを学習する。たとえば、近年の生成AIの爆発的普及は、イノベーションの考え方に大きな影響を与えている。チャットGPTは、これまでのAIシステムと比べて特段に能力が高いわけではないが、人間のフィードバックによる強化学習を徹底して、きわめてユーザーフレンドリーにして成功した。また、AIスタートアップがコンサルティング・ファームと提携して、これまでのマーケティングなどの概念を根本から変えるような動きも始まっている。社会から指摘されがちなAIの品質問題にも、新たに敵対的学習の手法をとり入れて、品質向上のペースを上げている。</p> <p>以上のように、これからのイノベーションは、人と情報を中核にして、企業価値を加速的に向上させることに目的が移りつつある。実際、生成AIのみならず、デジタル・ツイン、サービタイゼーション、エコ・システム、アジャイル・イノベーション、汎用人口知能、ノーコード・ローコード、といった新たなイノベーションの課題への取り組みが、多くの企業で急がれている。本講義では、以上のようなイノベーションにかかわる重要テーマについて俯瞰し、第一線の企業人と議論する。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>今後の市場、顧客、技術などの最新動向を踏まえ、イノベーションを実践する際の典型的課題と取り組み方法を先進企業の事例で学習する。それにより、イノベーションを具体的に実現、加速させる高度なスキルを習得する。加えて、実社会に入る直前の3年次の授業として、イノベーションをICTと経営の両方から複眼的に考えることの必要性や、技術やマーケティング、営業、管理など様々な専門の人たちと協働的に活動することの重要性を認識する。</p>						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション：本授業全体の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化し続ける時代の中で、国際社会と地域社会の産業発展へ貢献し、新たなサービスやビジネスを生み出すには、単独のビジネス活動だけでは不可能 継続的なイノベーションにはエコシステム（ビジネス生態系）が必須 エコシステムの中で活躍できる人材となるためには、経営と技術の両方に関する知識と実践力を組み合わせた応用力を身に付けることが重要 デジタルな未来に必要な経営と技術の知識・スキルを著名企業との産学連携形式で講義（対面もしくはオンラインのハイブリッド形式の講義） 						
第2回	<p>DX（デジタルトランスフォーメーション）の成功事例（1）：国内企業</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的：ICTを活用したビジネスモデルの変革、顧客対応時間の短縮と利便性の向上、管理業務の効率化、など 方法：AIなどの新技術を利用してサプライチェーン全体での利便性向上を図った新情報システムの導入、など 結果：新サービス提供による顧客満足度の格段の向上、自動化による業務生産性の向上、など <p>（注：プロジェクト事例は他の事例に変更になることもあります）</p>						
第3回	<p>DX（デジタルトランスフォーメーション）の成功事例（2）：グローバル企業</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的：デジタルを活用してさまざまな社会課題をビジネスとして解決できる事業形態の開発、など 方法：従来の現場力を最大限に活かしながら多くのデジタルデータの活用が可能となる情報基盤の構築、など 結果：デジタルツインにより故障予知可能なスマートファクトリー（先進的な工場）、ビッグデータ活用による自然環境保護プロジェクト、など <p>（注：プロジェクト事例は他の事例に変更になることもあります）</p>						
第4回	<p>イノベーションを促す経営サービス（1）：コンサルティング・サービスの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルティングの仕事と業界地図 ITコンサルティングの仕事と業界地図 コンサルティング・サービスの具体事例 その他 						
第5回	<p>イノベーションを促す経営サービス（2）：経営コンサルティングの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略コンサルティングの事例 業務コンサルティングの事例 経営コンサルティングの将来 その他 						
第6回	<p>イノベーションを促す経営サービス（3）：ITコンサルティングの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> IT戦略コンサルティングの事例 ITシステムコンサルティングの事例 ITコンサルティングの将来 その他 						
第7回	<p>イノベーションを促す情報システムサービス（1）：情報システムサービスの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹情報システムサービスの仕事と業界地図 総合情報システムサービスの仕事と業界地図 情報システムサービスの具体事例 その他 						

第8回	イノベーションを促す情報システムサービス（2）：基幹情報システムサービスの実際 <ul style="list-style-type: none"> 企業情報システムの意味と位置づけ ERP (Enterprise Resource Planning：統合基幹情報システム)とは？ 基幹情報システムの将来 その他 			
第9回	イノベーションを促す情報システムサービス（3）：総合情報システムサービスの実際 <ul style="list-style-type: none"> 社会課題を解決する総合情報システムとは？ SDGsの貢献にカギとなるデジタル技術 総合情報システムの将来 その他 			
第10回	イノベーションを促すソフトウェア（1）：ソフトウェア・ビジネスの概要 <ul style="list-style-type: none"> これまでのソフトウェア・ビジネスの仕事と業界地図 これからのソフトウェア・ビジネスの仕事と業界地図 ソフトウェア・ビジネスの具体事例 その他 			
第11回	イノベーションを促すソフトウェア（2）：これまでの企業向けソフトウェアの実際 <ul style="list-style-type: none"> 企業向けソフトウェアの歴史 企業向けソフトウェアの機能 企業向けソフトウェアの進化 その他 			
第12回	イノベーションを促すソフトウェア（3）：これからの企業向けソフトウェアの実際 <ul style="list-style-type: none"> 企業活動の総合的データ基盤（プラットフォーム）となるソフトウェア プロコード vs. ローコード/ノーコード 生成AIを含む企業向けソフトウェアの将来 その他 			
第13回	イノベーションを促す起業サービス（1）：起業サービスの概要 <ul style="list-style-type: none"> 起業サービスの仕事と業界地図 起業サービスの具体事例 授業の振り返りと授業内最終レポート作成・提出 			
第14回	イノベーションを促す起業サービス（2）：ベンチャー・キャピタルの実際 <ul style="list-style-type: none"> 起業の世界地図と現実 なぜ多くの起業はプランどおりにいかず失敗するのか？ 起業の成功率を上げる方法 その他 			
第15回	ゲスト講師と履修生を交えてのパネル討議、質疑応答			
成績評価の方法	毎回の授業内討議への参加、発表：60% 課題のレポート提出：40%			
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> 授業前にUNIPAに掲示される講義資料がある場合には、事前に内容を学習すること。 課題レポートは指定期間までに必ずUNIPAにアップすること。 			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『DXとは何か』、坂村健、株式会社KADOKAWA、ISBN978-4-04-082339-3 『Why Digital Matters? "なぜ"デジタルなのか』、プレジデント経営企画研究会編、プレジデント社、ISBN978-4-8334-5130-7 『両極化時代のデジタル経営 ポストコロナを生き抜くビジネスの未来図』、デロイトトーマツグループ、ダイヤモンド社、ISBN 978-4-4781-1027-0 『グローバル経営のモダンイゼーション』、NTTデータグローバルソリューションズ、日経BP、ISBN978-4-2961-0212-9 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 本授業は就業や起業の前に修得すべき重要な職業スキルを中心に、企業や大学から多数のゲスト講師が講義されます。そのため、通常の講義日程とは異なり、後期授業開始前の9月の連続5日間に一日3コマ（2限～4限）の授業を実施する集中講義形式となります。ただし、単位認定の日程は通常の後期の学年暦に従います。 多数のゲスト講師が講義されるため、講師のスケジュールの都合で、対面授業とオンライン授業の組み合わせによるハイブリッド型の講義形式になります。初回授業は対面講義としますが、2回目講義以降の講義形式については、初回授業の際に説明します。 本授業では、企業や団体から多数のゲスト講師が講義されますので、授業に遅刻しないように十分に注意してください。 参考書の『DXとは何か』は、できれば本授業の開始前に一読することを推奨します。その他の三冊の参考書は、関心の程度に応じ、本授業の前後に一読することを推奨します。 			
昨年度からの振り返り	最新のトピックを盛り込んだ産学連携形式の講義のメリットを活かせるように、毎年、授業構成をアップデートします。また、9月の夏季休暇期間中の講義につき、履修生の受講機会を増やすため、講義形式をハイブリッド形式とします。			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	コーポレートファイナンス					授業形態	講義
授業コード	CFI1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	辻 貴之						
授業概要	企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることを目的とする。具体的には、基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債権と株式の評価方法、現在価値の概念を用いてキャッシュフローを評価する方法、デリバティブに関する基本的な理論とリスクヘッジのためのデリバティブの利用などに関する知識を修得し、企業の財務意思決定の基礎理論を理解する。						
授業の目的・到達目標	起業を志したり、企業に勤めたりする人が、知識だけではなく、思想と理論を踏まえて、自らの「コーポレート」において「ファイナンス」を活用できるようになることを目指す。単に知識を得るのではなく、自分自身や他の履修者の問題意識や課題解決を意識しながら学ぶことで、体得することを狙う。その過程を経て、履修者同士が今後も「ファイナンス」をきっかけにしたコミュニティとなり、授業後の日々でも課題解決しあえる関係になることを期待する。						
授業計画							
第1回	コーポレートファイナンス						
第2回	財務諸表（B/S、P/L、C/F計算書）及びその企業活動との関係						
第3回	資本収益性（ROA・ROEなど）						
第4回	資本収益性（ROICなど）						
第5回	資本収益性（CAPM・WACC）						
第6回	現在価値と将来価値						
第7回	投資家の視点（ポートフォリオ理論・市場の効率性など）						
第8回	資金調達方法（エクイティとデット）と最適資本構成（MM理論）						
第9回	ファイナンスを意識した事業計画、資本政策						
第10回	株主還元（配当・自己株式取得）						
第11回	デリバティブの種類と活用方法						
第12回	M&Aやアライアンスの活用方法						
第13回	コーポレートガバナンスとサステナビリティ						
第14回	ラップアップ（レポートの事前プレゼン、質疑応答を通じたインプット）						
第15回	ラップアップ（レポートの事前プレゼン、質疑応答を通じたインプット）						
成績評価の方法	・平常点50%（参加態度40%、質疑応答やチャットへの参加10%） ・最終レポート50%（事前プレゼンと質疑応答20%、レポート30%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回のテーマに関する自身の課題や問題意識を整理しておく。講義中に示したサイト等を事前に読んでおく。（各回90分程度） 復習：前回の講義中に行った質疑応答（オンラインでのチャットのやりとり等）を改めて自分自身で行う。（各回90分程度）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「コーポレートファイナンス 戦略と実践」田中慎一、保田隆明著（ダイヤモンド社） ・「なるほどファイナンス」岩壺健太郎著（有斐閣） ・「起業のファイナンス」磯崎哲也著（日本実業出版社） ・「ファイナンス思考」朝倉祐介著（ダイヤモンド社） 						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファイナンス入門」を履修していることが望ましい。過去の履修者の状況に鑑み、今年度も財務会計の初歩的なことを、講義の初期段階で行うようにする。また、講義開始時は、前回の復習と質疑応答の時間を設け、履修者の疑問を残さず進むよう心がける。 ・講義の第3回～第13回はオンラインで行う予定である。その際は、極力顔出しの上、積極的にチャットでのリアクションや、質問などを行うことを強く期待する。 						

	<p>・履修者の理解度等に応じて、テーマや講義の構成をシラバス記載の内容や順番から変更する可能性がある。その際は、授業に必要な連絡を行う。</p>
昨年度からの振り返り	<p>・好評だった昨年度の構成を踏まえ、より起業や企業勤務時に有益な「資本市場」との向き合い時に使える内容を充実させるとともに、学びを深めるのに資する履修者の興味関心にそった事例演習やディスカッションなども行う。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	グローバル企業戦略論					授業形態	講義
授業コード	GES1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	楊 殿閣						
授業概要	<p>企業は単にその事業を成功させるだけでなく、株主に対してその利益の還元や企業のもつ価値をより高める必要がある。特に、ICTやグローバル化が進む今、従来の枠組みにとらわれず、サステナビリティへの取り組み、企業の内外から経営資源を獲得し活用することが求められている。これは企業のイノベーションや成長を導くためにも不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、こうした観点から、実際の企業経営における意思決定のメカニズムとその際に用いられるツールやフレームワークを検討することを目的とする。具体的には、企業価値の定義とその向上策に関してどのような議論や取り組みがされたか、また、企業の成長と多角化に関してどんな戦略やマネジメント手法が考えられるかを具体的な事例を用いて学ぶ。あわせて、グローバル展開についてもとりあげ、これをすすめるために必要な組織管理、ルール、考え方についても、具体的な企業を取り上げ、理解を深める。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>企業経営における意思決定のメカニズムとその際に用いられるツールやフレームワークを理解し、起業や事業活動の意思決定への軸・切り口を獲得することを目的とする。戦略検討の軸を設定できるようになり、比較・分析を通して、企業の付加価値・持続性を高める創造力を養うことが目標である。</p> <p>具体的には、企業の戦略分析を通して、企業の戦略設定を評価し、事業として成長させる方法と進め方を毎回の授業で、段階を追って学習する。</p>						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション： グローバル企業戦略概論 (戦略を学ぶ意義、戦略相関、多国籍企業概念、ステークホルダーとの関係)</p>						
第2回	<p>ケイパビリティ理論①： 戦略経営プロセスと競争優位の獲得、ビジネスモデル・キャンパス、事業計画の重要性確認</p>						
第3回	<p>ケイパビリティ理論②： 外部環境分析（分析データ取得、他社比較、SWOT概念 他）</p>						
第4回	<p>ケイパビリティ理論③： 内部環境分析（リソース・ベースト・ビュー、VRIOフレームワーク、バリューチェーン 他）</p>						
第5回	<p>ケイパビリティ理論④： 外部・内部環境分析の具体的な事例研究</p>						
第6回	<p>グループ・ディスカッション： 具体的な企業の事例を題材に</p>						
第7回	<p>サステナビリティ時代のグローバル戦略①： サステナビリティに向けたグローバルな動向</p>						
第8回	<p>サステナビリティ時代のグローバル戦略②： CSR/CSVの取り組みとサステナブル経営</p>						
第9回	<p>サステナビリティ時代のグローバル戦略③： サプライチェーン・マネジメント</p>						
第10回	<p>サステナビリティ時代のグローバル戦略④ マルチ・ステークホルダー・イニシアティブ</p>						
第11回	<p>ケーススタディ①： グループで対象企業の戦略考察</p>						
第12回	<p>ケーススタディ②： グループで対象企業の戦略発表</p>						
第13回	<p>ソーシャル・ビジネスとソーシャル・イノベーション</p>						
第14回	<p>ビジネスプラン・コンテスト</p>						
第15回	<p>授業の振り返り・まとめ</p>						
成績評価の方法	<p>毎回の授業への参加：30% 毎回の授業内発言内容：30% グループワーク・プレゼンテーション：20% ビジネス・コンテストへの貢献：20%</p>						

準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習（90分程度）： 各回の授業テーマに該当する内容を以下参考書で確認する。グループでの発表に向けケーススタディ企業の戦略事例等についてインターネット等を活用して調査・準備する。</p> <p>復習（90分程度）： 授業での学修内容の振り返り、グループワーク・プレゼンテーションのポイント整理。</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメント・テキスト グローバル経営入門（新装版）、浅川和宏、日本経済新聞出版 ・ [新版]競争戦略論I、マイケル E. ポーター、ダイヤモンド社 ・ 不確実性の経営戦略（ハーバード・ビジネス・レビュー・ブックス）、ダイヤモンド社 ・ [新版]企業戦略論【中】事業戦略編、ジェイ B. バーニー／ウィリアム S. ヘスタリー ・ [新版]企業戦略論【下】全社戦略編、ジェイ B. バーニー／ウィリアム S. ヘスタリー 			
備考	<p>グローバル企業戦略論の分析の切り口は、起業のみならず、今後の研究や社会人生活において広範囲に多くの場面でも応用できますので、授業内でのグループ毎の分析に積極的に参加し、積極的な発言をお願いします。</p>			
昨年度からの振り返り	<p>昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	新興市場における事業開発					授業形態	講義
授業コード	NBE1220001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	曾根原 幹人						
授業概要	ビジネスのグローバル化を進めるうえで、海外市場を理解する視点や海外拠点・海外パートナーとの協働は重要である。また多様化していく市場を理解したうえで、的確に事業を行っていくためのマネジメントについても正しく理解しておく必要がある。本授業では、経済発展著しい新興国に進出した事例の紹介、新興市場特有のマネジメントに関する知識や手法の紹介を行うとともに、実際に自分たちが新興国へ参入することを想定したビジネスプランや戦略の立案を通じて、新興市場での事業開発の考え方や手法を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	アジアなど新興市場において、新たに事業開発する時に必要なスキルを身につける。法律、商慣習、市場環境、宗教、生活習慣、人口などをどのように調べるのか？調べた結果、戦略をどのように立案、実行するのか？新興国市場における組織はどのようなものがあるのか？そのような知識を得ることで、実際のビジネスシーンで役立つことを目標とする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション（学びたいこと、問題意識の共有）						
第2回	企業活動・企業経営の基本（経営学等、過去の学びの振り返り）						
第3回	グローバルビジネスの動向（とりわけ新興市場での動き等）						
第4回	社会課題解決の考え方（SDGsの動向、日本企業の事例紹介）						
第5回	新興地域の市場概観（アジア、とりわけASEANの状況整理等）						
第6回	新興市場進出の事例研究（企業の事例紹介）						
第7回	新興国特有の課題・注意点（商習慣、宗教・価値観、文化等）						
第8回	新興国事業開発・展開における事例研究（日本企業の具体事例等）						
第9回	ビジネスプラン作成～事業開発プロセス（プロマネ）の全体像						
第10回	ビジネスプラン作成ワーク① WHY形成（どんな問題に向かうか、動機は）						
第11回	ビジネスプラン作成ワーク② WHERE形成（どこで勝負するか）						
第12回	ビジネスプラン作成ワーク③ WHAT・HOW形成（どんな事業を、どのように）						
第13回	ビジネスプラン作成ワーク④ まとめ						
第14回	ビジネスプラン発表会（チーム別発表）						
第15回	チーム発表の結果とプロセスの振り返り						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での発表・討議への参加度・貢献度、質問等：30% ・各回の授業レポート：40% ・チーム事業開発プラン制作発表：30% 						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：事前に提示される検討テーマ、事例の検討や発表に向けた準備（チーム討議含む）等（各回1.5時間程度） 復習：授業で学んだことについての事後レポート提出（各回1.5時間程度）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	『海外戦略ワークブック』河瀬誠（著）、日本実業出版社（2014/11/10）ISBN 978-4534052308 『ビジネス教養 東南アジア』助川成也（監修）、新星出版社（2021/4/7）ISBN 978-4405120136 『60分でわかる！SDGs超入門』バウンド（著）、機能聡子（監修）、佐藤寛（監修）、技術評論社（2019/11/16）ISBN 978-4297109691						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業に臨む際、「自分自身がこの授業で学びたいこと」や「アジアを中心とした新興国市場において知りたいこと」を考えた上で出席すること。 ・各授業で、必要に応じて次回までに検討しておく事項について指示するので、期日までに取り組む（または提出する）こと。 ・各回の授業後、学び・気づきの振り返りを行い、その内容をレポートにして提出すること。 ・演習等の進捗状況によって講義内容及び講義の前後関係を一部変更する可能性がある。 						

昨年度からの振り返り	・授業の後半は、チームを形成してビジネスプラン作成を行うため、授業への出席及びチーム討議への貢献（事前調査、アイデア立案、積極的なコミュニケーション）を意識して参加すること。
------------	---

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	クロスステックビジネスデザイン					授業形態	講義
授業コード	XTD1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	幡鎌 博						
授業概要	<p>情報通信技術の発展の中で、金融や教育、医療、農業などの既存のビジネス領域とテクノロジーを融合し、産業構造の変化が進んでいる。これは既存のビジネスモデルの拡大や高度化、他分野やベンチャー企業の新規参入など、多様な論点が含まれている。</p> <p>本科目ではこれらの産業のイノベーションの事例を紹介するとともに、テクノロジーと融合した既存のビジネスがどのように発展・成長してきたか、技術軸・時間軸の観点から概観する。あわせて、それぞれの産業特有の法律や規制などの課題や論点を整理し、ビジネスとテクノロジーの融合のあり方、ビジネスモデルについて、検討、議論を通じて理解を深めていく。</p> <p>スタートアップ企業が特定の業界の課題を解決するサービスを提供することで成長できる場合がよくある。そのため、起業する場合でも、業界の動向・課題をしっかりと理解することは重要である。</p>						
授業の目的・到達目標	既存のビジネスがどのように発展・成長してきたかを技術軸・時間軸の観点から理解した上で、テクノロジーを活用したビジネスモデルを説明・評価・設計できるようになる。						
授業計画							
第1回	授業の目的・構成、基礎的な知識						
第2回	IT関連の法律・規制、IT化促進のための制度、DX推進のための政策、オープンデータなど						
第3回	経営戦略の概要、ビジネスモデルの手法・記法、プラットフォーム・エコシステム化						
第4回	業界毎の動向・事例等 ネットショッピング/EC (BtoC、CtoC、BtoB、越境EC等)						
第5回	業界毎の動向・事例等 流通、オムニチャネル/OMO						
第6回	業界毎の動向・事例等 金融・広告・教育のDX						
第7回	業界毎の動向・事例等 物流・旅客・モビリティ・旅行のDX						
第8回	業界毎の動向・事例等 製造・農業のDX						
第9回	業界毎の動向・事例等 建設・不動産・インフラのDX						
第10回	業界毎の動向・事例等 医療・ヘルスケア等のサービスのDX、PHR活用、個人情報ビジネス						
第11回	ビジネスモデル特許（ビジネス方法特許）の概要と事例						
第12回	ビジネスモデルの設計方法・発想法						
第13回	ビジネスモデルの設計演習（個人毎の発表）						
第14回	ビジネスモデルの設計演習（グループワーク、グループの発表と議論）						
第15回	振り返り・全体のまとめ						
成績評価の方法	最終レポート60%、授業内での発表・発言等の貢献度40%						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習は、次の回で学ぶ内容（用語など）について各自十分な下調べを行う。ビジネスモデルの設計演習の回では、個人毎の発表資料の作成やグループワークに向けての検討なども必要となる。（90分） 復習では、授業で学んだ内容の中で特に関心の高い内容を詳しく調査し、自分自身でもビジネス案などを考えてみる。（90分）						
教科書							
書名	著者	出版社			ISBN	備考	
指定なし							
参考書	アレックス・オスターワルダー他「インビンシブル・カンパニー」翔泳社、2021年（ISBN：978-4798167862） 幡鎌博「eビジネス・DXの教科書ーデジタル経営の今を学ぶー」創成社、2022年（ISBN：978-4794425980） 幡鎌博「DXのためのビジネスモデル設計方法 改訂版 ビジネスアーキテクトの必須知識」インプレス、2023年（ISBN：978-4295602286）						
備考	幡鎌が日本ビジネスプレス社のJIRに連載している各社のDX戦略の解説を参考にしてもらうことがあります。 https://jbpress.ismedia.jp/list/jir/follow/author/幡鎌+博						

昨年度からの振り返り	昨年度はグループワークができなかったので今年度は取り入れたい。ディスカッションの時間では、もっと話をしてもらうように工夫したい。
------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	デザインと経営					授業形態	講義
授業コード	DIB1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	新谷 幸弘						
授業概要	ICTによる急速な社会変化への対応が企業にとって重要な経営課題となる中で、旧来のビジネスモデルを刷新し、それを構築・実現する社外の人材やその知見を柔軟に取り入れることが求められている。 本授業ではビジネスモデルに着目した新しいビジネスのデザインの方法論と社外の知見の活用方法としてのオープンイノベーションについて、そのタイプと導入・実践の手法を学ぶ。また、デザイナーやアーティストなどとの協働によるイノベーション（インターベンション）を行うことで、自らイノベーションを起こすために必要な知識やスキルを習得する。						
授業の目的・到達目標	<p>★デザインとは何かを理解し、デザインを経営に活かす術（すべ）を身に付ける。</p> <p>★オープンイノベーションの意義を理解し、周りを巻き込むイノベーションの術（すべ）を身に付ける。</p>						
授業計画							
第1回	イントロダクション：デザインとは何か？（本授業の背景、目標など）						
第2回	イントロダクション：デザインと経営の関わりとは？（本授業の背景、目標など）						
第3回	誰でもできる『イノベーション』1 イノベーションとは何か（教科書①第1章）						
第4回	誰でもできる『イノベーション』2 デザイン思考の5ステップ（教科書①第1章）						
第5回	始まりは『ニーズ』1 顕在化ニーズと潜在的ニーズ（教科書①第2章）						
第6回	始まりは『ニーズ』2 共感を得るための手法（教科書①第2章）						
第7回	目指すは究極の『いいとこ取り』1 顧客の願望を充たす（教科書①第3章）						
第8回	目指すは究極の『いいとこ取り』2 当たり前を疑う（教科書①第3章）						
第9回	『新たな価値』を創造する1 1人のアイデアより皆のアイデア（教科書①第4章）						
第10回	『新たな価値』を創造する2 ナンバーワンよりオンリーワン（教科書①第4章）						
第11回	オープンイノベーション1 イノベーション論の変遷（教科書②第1章）						
第12回	オープンイノベーション2 オープンイノベーションの特徴と類型（教科書②第1章）						
第13回	イノベーション事例1 国内企業のイノベーション事例（教科書②第4章）						
第14回	イノベーション事例2 海外企業のイノベーション事例（教科書②第4章）						
第15回	まとめ&振り返り						
成績評価の方法	<p>★平常点（授業内課題、授業への参加状況、提出物）60%、最終レポート40%</p> <p>★必要に応じて、グループワークによる発表・レポート提出を求めることがある（加点方式にて評価）。</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：教員が指定する教科書・参考書の範囲を事前に読んでおくこと。（2h）</p> <p>復習：講義資料並びに教科書・参考書等の該当部分を復習すること。（2h）</p>						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
デザイン思考2.0	松本勝	小学館	978-4098254408				
オープンイノベーション白書 第三版	NEDO	NEDO		<ダウンロード先URL> https://www.nedo.go.jp/content/100918466.pdf			
参考書	<p>参考書①：松本勝『破壊的イノベーションの起こし方』東洋経済新報社、978-4492522356</p> <p>参考書②：荒木博行『世界「失敗」製品図鑑』日経BP、978-4296000395</p> <p>参考書は適宜紹介する。</p>						
備考							

昨年度からの 振り返り	
----------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	税務会計・会計処理					授業形態	講義
授業コード	TAT1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	辻 貴之						
授業概要	<p>税務会計とは、税法の様々な規程に基づき、企業が課税されるべき所得税を算出するものである。本授業では業界・業種ごとの会計処理の特徴やルールを学びながら、税務会計の基礎から講義を行う。税務会計を通じ、様々な業界の特色を理解するとともにそのビジネスの展開やICTの活用の可能性について理解を深める。あわせて、申告書の作成までの一連の税務申告の流れを学ぶことで、実践的な税務会計についての知識を習得する。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>税務会計は、財務会計の理解のもと、活用できるものである。しかし、財務会計に不慣れな履修者が大半であることを想定し、講義の前半は財務会計の基礎を学ぶ時間に充てる。その上で、起業を志したり、企業に勤めたりする人が、知識だけではなく、思想と理論を踏まえて、税務会計を活用できるようになることを目指す。単に知識を得るのではなく、自分自身や他の履修者の問題意識や課題解決を意識しながら学ぶことで、体得することを狙う。その過程を経て、履修者同士が今後も本講義をきっかけにしたコミュニティとなり、授業後の日々でも課題解決しあえる関係になることを期待する。</p>						
授業計画							
第1回	税務と会計						
第2回	財務会計の基礎（財務諸表（B/S、P/L、C/F計算書）と企業活動の関係など）						
第3回	財務会計の基礎（資本収益性とその指標など）						
第4回	日常生活における税金（国民の三大義務など）、財政と課税						
第5回	課税所得計算（財務会計の利益計算との関係など）						
第6回	課税所得計算（益金と損金など）						
第7回	益金について（売買損益の基礎、営業外収益（受取配当金や有価証券の譲渡損益など）						
第8回	益金について（収益認識基準、権利確定主義など）						
第9回	損金について（債務確定、売上原価、減価償却、特別償却など）						
第10回	損金について（資本的支出、繰延資産の償却、寄附金、租税公課など）						
第11回	税額の計算、申告・納付まで（課税所得計算、欠損金、法人税額の計算、税額控除など）						
第12回	日本国内の税制（日本国内の税制全般、連結納税、組織再編税制など）と海外の税制						
第13回	会計や税務を対象としたビジネスの展開（税理士、会計事務所、SaaSなど）						
第14回	ラップアップ（レポートの事前プレゼン、質疑応答を通じたインプット）						
第15回	ラップアップ（レポートの事前プレゼン、質疑応答を通じたインプット）						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点50%（参加態度40%、質疑応答やチャットへの参加10%） ・最終レポート50%（事前プレゼンと質疑応答20%、レポート30%） 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：各回のテーマに関する自身の課題や問題意識を整理しておく。講義中に示したサイト等を事前に読んでおく。（各回90分程度） 復習：前回の講義資料の見直しや講義中に行った質疑応答（オンラインでのチャットのやりとり等）を、改めて自分自身で行う。（各回90分程度）</p>						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
指定なし							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「税務会計の基礎」本郷孔洋、田中弘著（税務経理協会） ・「コーポレートファイナンス 戦略と実践」田中慎一、保田隆明著（ダイヤモンド社） ・「なるほどファイナンス」岩壺健太郎著（有斐閣） ・「ファイナンス思考」朝倉祐介著（ダイヤモンド社） 						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「コーポレートファイナンス」を履修していることが望ましい。 ・会計に関する知識が無いと自覚している場合は、少なくとも簿記3級程度を事前に自習しておくことを強く勧める。 						

	<p>・履修者の理解度等に応じて、テーマや講義の構成をシラバス記載の内容や順番から変更する可能性がある。その際は、授業に必要な連絡を行う。</p>
昨年度からの振り返り	<p>・好評だった昨年度の構成を踏まえ、より起業や企業勤務時に有益な財務会計の講義を「資本市場」との向き合い時に使える内容を充実させるとともに、学びを深めるのに資する履修者の興味関心にそった事例演習やディスカッションなども行う。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトⅠ					授業形態	演習
授業コード	IP11250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、斎藤 祐士、引野 創、乗浜 誠二、得上 竜一、志村 一隆						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 Ⅰでは、身近な街の生活者など身の回りの人々の行動観察から課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リスタートアップのメソドロジーを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる 観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる 身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る 礼儀、挨拶、時間を守るなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンパス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第12回	<p>ストーリーの構想とプレゼンテーション練習</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしてくる（約2～3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトII					授業形態	演習
授業コード	IP21250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、齋藤 祐士、引野 創、乗浜 誠二、得上 竜一、志村 一隆						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 IIでは、チームで作成したビジネスプランを12月に発表することを主目的にする。身近な街の生活者など身の回りの人々の行動観察から課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる ・観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる ・身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る ・礼儀、挨拶、時間を守るなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 ・他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンパス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第12回	<p>ストーリーの構想とプレゼンテーション練習</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしてくる（約2～3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。また、12月にビジネスプランの発表会を設定、開催する。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	スタートアップ基礎（起業論）					授業形態	講義
授業コード	TEN1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	江端 浩人						
授業概要	<p>新しい領域が確立され、技術革新が著しく、新しい価値が世の中に多数提供されるときには既存の価値提供モデル（ビジネス制度、社会制度、生活様式など）を進展させることよりも、新しいモデルを確立することが必要であろう。まさに現代はその時期にあたりIT革命（デバイス、通信技術、AI、IoT、Big Data活用など）や多様な価値観（働き方改革、Diversity & Inclusion、SDGsなど）に基づく多様な変化が数多く起こっている。</p> <p>本授業では、これまで成功した企業やビジネスモデル、起業家が輩出された背景やそれぞれの想いや取ってきた手法をもとに、起業に必要な要素に分けて学びを深めることで、今、起業家に必要と思われる要素を推測し実証する。そのうえで、自らの想いを形にするためのビジネスモデルやビジョン・ミッションを作り、今後の自分自身の成長計画につなげる。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>授業を受けた個人が必要に応じ起業を検討できるように、各種基礎知識のインプットとそれを自分ごと化できる素地を与える。具体的に世の中の進展とそれに伴う個人が貢献できる価値提供、起業に必要な心構え（マナー、モラル、リスク管理含む）やビジネス知識を講義・ディスカッションする。</p> <p>また、個人あるいは組織としてどのように社会に価値提供できるかというフレームワークを身につけ、自らのビジョンに基づくビジョン・ミッションを構築することを目標とする。さらにそのために必要な各種資産を棚卸して自分の今後の成長計画を作ることを目指す。</p>						
授業計画							
第1回	イントロダクション：本授業に必要な心構えと授業の目標の明確化						
第2回	現代の社会・経済環境：戦後に起業した日本や海外の事例研究						
第3回	グループワークショップ：現代の日本企業の立ち位置、経営や技術のトレンド／ビジネスモデルキャンパス						
第4回	ビジネスモデルⅠ：成功したビジネスのビジネスモデルの事例研究／カスタマージャーニー						
第5回	ビジネスモデルⅡ：よいビジネスモデルの条件／収支計算						
第6回	グループワークショップ：ビジネスモデル発表・ディスカッション						
第7回	競争ルールと成長戦略：事業ドメインなど環境の把握、競争ルールとその検討方法						
第8回	経営資源とマネジメント：活用できる資源、特に資金調達的手段と特徴						
第9回	ビジョン・ミッション：ビジョナリーカンパニーとは？継続に必要な要素						
第10回	グループワークショップ：ビジョナリーカンパニー発表・ディスカッション						
第11回	起業における諸問題Ⅰ：現代社会における価値創造、環境変化、ビジネス状況など						
第12回	起業における諸問題Ⅱ：マナー、モラルハザード、リスク管理など						
第13回	ビジョン・ミッションⅠ レポート およびディスカッション						
第14回	ビジョン・ミッションⅡ レポート およびディスカッション						
第15回	総括：起業家としての要素およびそれを活かす方法 ディスカッションなど						
成績評価の方法	最終評価はビジョン・ミッション レポートの個別提出（60％）による。グループワークショップへの参加度やディスカッションへの参加も考慮に入れる（40％）。						
準備学修（予習・復習、課題等）	個人による事前資料の理解。グループワークでの準備が毎回1～3時間ほど要求される。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	<p>資料を適宜配布します。</p> <p>参考文献： 『ビジョナリー・カンパニー — 時代を超える生存の原則』 ジム・コリンズ（著）山岡洋一（翻訳）、日経BP社、1995年</p>						

	<p>『[新版]競争戦略論Ⅰ』 マイケル E. ポーター（著）竹内弘高（翻訳）、ダイヤモンド社、2018年 『サステナビリティ sustainability × innovation：多様性時代における企業の羅針盤』 藤原 遠（著）、日経BP社、2020年</p>
備考	<p>本科目は「大学等における修学支援に関する法律」において本学が申請した、実務経験のある教員による授業科目です。</p>
昨年度からの振り返り	<p>本科目は学生の皆様に知識を与えながらも、学生の皆様にグループで考えていただくことを中心に考えています。是非、グループの課題を皆様できちんと時間を作って議論されてください。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトⅢ					授業形態	演習
授業コード	IP31250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、坡山 里帆、齋藤 祐士、乗浜 誠二、三宅 志穂、志村 一隆						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 Ⅲでは、最終的に投資家、起業家にも評価されるに資する事業プラン作成を主目的とする。そのために、投資家、起業家にプレゼンする機会を設ける。身近な街の生活者など身の回りの人々の行動観察から課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リーンスタートアップのメソッドを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる 観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる 身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る 礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンバス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第12回	<p>ストーリーの構想とプレゼンテーション練習</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしておく（約2~3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。また、投資家、起業家に説明できる事業プラン作成を目的とする。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ビジネスフィールドリサーチⅠ					授業形態	実習
授業コード	FR11220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、川上 慎市郎、山本 名美、徳本 昌大、乗浜 誠二						
授業概要	<p>実際の企業が直面している課題の分析とその解決策の立案実習を通じて、実務における経営学の応用力を体得する。</p> <p>具体的には、前半の回で国内外の企業のケースを用いて「ケースを解き、クラスで議論する」というケーススタディの基本的な学習方法とその学習目的を理解・習得する。そのうえで、本学が連携する企業から提示された事例に基づき、グループでその事例に対し、調査（企業訪問、現場観察、2次情報収集、インタビュー等）、仮説形成、分析し、課題解決策をまとめ、企業の担当者にプレゼンテーションするための資料作成、パフォーマンス等準備を行う。実際の企業担当者から講評を得る。</p> <p>経営戦略や財務会計を中心としたケースを主に扱い、1年次前期に履修した「マネジメント（経営学基礎）」を実際の企業の経営に当てはめて検討した場合の経営判断における示唆を得、またそれを実際の企業の担当者に評価されることを目指す。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトベースドラーニング（課題解決型学習）という学習方法を正しく理解し、スピーディーに問いと検証を回せるようになる ・企業の戦略について、定性、定量の両方の側面から分析を深め、実現可能な施策を導ける ・戦略や財務などの分析ツールを正しく使いこなし、その適用条件や限界についても理解する 						
授業計画							
第1回	本コースの全体像と学習の進め方のオリエンテーション						
第2回	問題解決（1） 問題（イシュー）を発見する／問題の箇所（where）とロジックツリー						
第3回	問題解決（2） 問題の原因分析（why）						
第4回	問題解決（3） 因果構造図						
第5回	問題解決（4） 問題の解決方法（how）						
第6回	問題解決（5） 期限・目標・C/P						
第7回	論理思考（1） 説得力の論理構造（PS）						
第8回	論理思考（2） 演繹法と帰納法						
第9回	論理思考（3） 主張と根拠の三角形						
第10回	論理思考（4） PSの構築						
第11回	フレームワーク思考（1） マトリクス（四象限法）						
第12回	フレームワーク思考（1） マトリクス（四象限法）						
第13回	フレームワーク思考（2） プロセス						
第14回	フレームワーク思考（2） プロセス						
第15回	フレームワーク思考（3） 要素						
第16回	フレームワーク思考（3） 要素						
第17回	起業とサービスのマネジメント（1） 起業のステップ						
第18回	起業とサービスのマネジメント（2） デザイン思考						
第19回	起業とサービスのマネジメント（3） サービスのデザイン						
第20回	起業とサービスのマネジメント（4） カスタマージャーニー						
第21回	起業とサービスのマネジメント（5） マルチサイド・プラットフォーム（MSP）						
第22回	起業とサービスのマネジメント（6） サービスの成長戦略						
第23回	起業とサービスのマネジメント（7） サービスのビジネスモデル						
第24回	起業とサービスのマネジメント（8） MSPのレイヤー構造						

第25回	起業とサービスのマネジメント (9) サービスのマーケティング
第26回	起業とサービスのマネジメント (10) サービスとエコシステム
第27回	起業とサービスのマネジメント (11) サービスのオペレーション分析
第28回	起業とサービスのマネジメント (12) サービスのオペレーション戦略
第29回	起業とサービスのマネジメント (13) サービス組織のマネジメント
第30回	起業とサービスのマネジメント (14) 企業文化とリーダーシップ
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス内での議論への貢献 (発言) : 各回1.5%、計45% ・ 事前・事後の課題提出 (15回) とその内容 : 各回3%、計45% ・ 振り返りレポート : 10%
準備学修 (予習・復習、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習 : ケーススタディの予習のための調べ学習 (約1時間) ・ 復習 : ケースセッションの振り返り (約30分) ・ 課題 : 指示に基づいたケースの分析とプレゼンの準備
教科書	
参考書	<p>参考文献 :</p> <p>『経営戦略言論』 琴坂 将広 (著)、東洋経済新報社、2018年</p> <p>『コンサルを超える 問題解決と価値創造の全技法』 名和 高司 (著) 東洋経済新報社、2018年</p> <p>『イノベーションのDNA 破壊的イノベータの5つのスキル (Harvard Business School Press)』 クレイトン・クリステンセン(著),ジェフリー・ダイアー(著),ハル・グレガーセン(著),櫻井祐子(翻訳)、翔泳社、2012年</p> <p>『問題解決 あらゆる課題を突破するビジネスパーソン必須の仕事術』 高田貴久・岩澤智之 (著)、英治出版、4862761240 (ISBN)、2014年</p> <p>『ロジカル・プレゼンテーション 自分の考えを効果的に伝える戦略コンサルタントの「提案の技術」』 高田貴久 (著)、英治出版、9784901234436 (ISBN)、2004年</p> <p>『改訂3版 グロービスMBAマネジメント・ブック』 グロービス経営大学院 (著)、ダイヤモンド社、447800496X (ISBN)、2008年</p>
備考	
昨年度からの振り返り	<p>BFRで学んだことを、イノプロのビジネスプランに活かしているチームが多かったことが何より嬉しいことです。さらに、今期は、みなさんの来期のインターンシップや、当期のイノベーションプロジェクトに関連するゲスト講師をお招きして、熱心に質疑応答や課題回答をしてれたことで、講師のみなさんも感心していました。その後、実際にゲスト講師を訪ねて、みなさんのイノプロ、さらには起業済みの会社などに活かされている学生もいて感激しています。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトⅣ					授業形態	演習
授業コード	IP41250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、坡山 里帆、齋藤 祐士、乗浜 誠二、仲田 朝彦、志村 一隆						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 Ⅳでは、最終的に投資家、起業家にも評価されるに資する事業プラン作成を主目的とする。そのために、投資家、起業家にプレゼンする機会を設ける。 身近な街の生活者など身の回りの人々の行動観察から課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リーンスタートアップのメソドロジーを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる 観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる 身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る 礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンバス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第12回	ストーリーの構想とプレゼンテーション練習 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしておく（約2~3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。最終的に投資家、起業家にも評価されるに資する事業プラン作成を主目的とする。そのために、投資家、起業家にプレゼンする機会を設ける。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	ビジネスフィールドリサーチII					授業形態	実習
授業コード	FR21220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、川上 慎市郎、山本 名美、徳本 昌大、乗浜 誠二						
授業概要	本講座ではビジネスフィールドリサーチIの後半と同様、本学が連携する企業から提示された事例に基づいて、課題解決を提案するプロセスを実習する。 経営戦略や財務会計に加え、オペレーションやHRM、組織行動、法務など、実際の企業経営者やマネージャーが経営において日々直面する身近な課題を含むテーマを主に扱い、あわせてこれらの領域の理論やフレームワークについても適宜復習を行う。実際の企業の事例に基づく分析・解決を目指し、担当者にプレゼンして評価されることを目指す。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディの学習について、周囲の意見も受け止めながら、より広くバランスの取れた視野から分析を行えるようになる。 ・企業の組織や構成員の行動とその制約などについて、相手の気持ちに立って考え、企業をより良くするための効果的な施策を講じることができるようになる。 						
授業計画							
第1回	本コースの全体像と学習の進め方のオリエンテーション						
第2回	財務会計（1） 財務三表とそれを用いた意思決定						
第3回	財務会計（2） マーケティング戦略と会計の関連						
第4回	財務会計（3） 価格戦略と意思決定						
第5回	財務会計（4） 起業のファイナンス（さまざまな資金調達法）						
第6回	財務会計（5） 起業のファイナンス（エクイティファイナンスとバリュエーション）						
第7回	管理会計（1） 管理会計とは						
第8回	管理会計（2） 組織管理とリーダーの役割						
第9回	管理会計（3） マネジメントシステムとは						
第10回	管理会計（4） インセンティブ						
第11回	デジタル時代の経営戦略（1） デジタル時代の戦略的競争優位性						
第12回	デジタル時代の経営戦略（2） デジタルによる顧客体験価値						
第13回	デジタル時代の経営戦略（3） グローバル化の戦略と非市場経済						
第14回	デジタル時代の経営戦略（4） デジタル時代の規制・ビジネス倫理						
第15回	リアルケーススタディ（1） 対象企業の課題分析						
第16回	リアルケーススタディ（1） 対象企業の課題解決の検討						
第17回	リアルケーススタディ（1） 対象企業の経営者へのプレゼン						
第18回	リアルケーススタディ（1） 対象企業の経営者との討論						
第19回	リアルケーススタディ（2） 対象企業の課題分析						
第20回	リアルケーススタディ（2） 対象企業の課題解決の検討						
第21回	リアルケーススタディ（2） 対象企業の経営者へのプレゼン						
第22回	リアルケーススタディ（2） 対象企業の経営者との討論						
第23回	リアルケーススタディ（3） 対象企業の課題分析						
第24回	リアルケーススタディ（3） 対象企業の課題解決の検討						

第25回	リアルケーススタディ (3) 対象企業の経営者へのプレゼン
第26回	リアルケーススタディ (3) 対象企業の経営者との討論
第27回	リアルケーススタディ (4) 対象企業の課題分析
第28回	リアルケーススタディ (4) 対象企業の課題解決の検討
第29回	リアルケーススタディ (4) 対象企業の経営者へのプレゼン
第30回	リアルケーススタディ (4) 対象企業の経営者との討論
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内での議論への貢献(発言)：各回1.5%、計45% ・(1~14回目) 事前課題等の提出物とその内容：各回2%、計28% ・(15~30回目) グループ活動での成果(プレゼンテーション) 4回：各回4%、計16% ・振り返りレポート：11%
準備学修(予習・復習、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：リアルケーススタディの予習(約1時間) ・復習：リアルケーススタディやグループ学習の振り返り(約1時間) ・課題：指示に基づいたケーススタディの分析
教科書	
参考書	<p>教科書：都度必要な資料を配布する</p> <p>参考文献：</p> <p>『経営戦略言論』琴坂 将広(著)、東洋経済新報社、2018年</p> <p>『コンサルを超える 問題解決と価値創造の全技法』名和 高司(著)東洋経済新報社、2018年</p> <p>『イノベーションのDNA 破壊的イノベータの5つのスキル (Harvard Business School Press)』クレイトン・クリステンセン(著)、ジェフリー・ダイアー(著)、ハル・グレガーセン(著)、櫻井祐子(翻訳)、翔泳社、2012年</p> <p>『HIGH OUTPUT MANAGEMENT-人を育て、成果を最大にするマネジメント』アンドリュー・S・グローブ(著)、ベン・ホロウィッツ(その他)、小林 薫(翻訳)、日経BP社、2017年</p>
備考	
昨年度からの振り返り	

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	通期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトV					授業形態	演習
授業コード	IP51250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、志村 一隆、高橋 直秀、乗浜 誠二、三宅 志穂、引野 創						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 Vでは、企業の課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リーンスタートアップのメソッドロジーを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる 観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる 身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る 礼儀、挨拶、時間を守るなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンパス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第12回	<p>ストーリーの構想とプレゼンテーション練習</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしてくる（約2~3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。企業課題を具体的に解決する事業プランを作成、評価されることを目指す

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	インターンシップⅠ					授業形態	実習
授業コード	IN11240001	単位数	12単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、加藤 直人、佐藤 紀行、富澤 豊、山内 正人						
授業概要	インターンシップⅠでは、企業活動の場での課題発見、解決を通して、主にシステム開発を行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、イノベーション人材として具備すべき知識及び技能を修得させる。具体的には、インターンシップ先で担う業務の意義や役割を理解したうえで、システム開発の作業の一工程を担う。担当する業務についての計画を立てるとともに、実際の状況に応じながら、指導者のフィードバックのもと、業務の完了を目指す。一連の実務を通じ、システム開発の実務の理解、必要なスキルや能力を養う。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた業務がどのような意義を持つのかを理解し、効率的・効果的な方法で業務を完了することを目標として作業を進めることができる。 ・課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況に応じた計画修正の必要に自ら気づき、指導者の承認を受けて修正・変更しながら最後まで実行できる。 ・チームメンバーとしてシステム開発の作業の一工程として、示された設計書の通りに実装することができる。 						
授業計画							
事前指導 (1日目)	(事前指導・4時限分) 1.オフィス実務①-1 (Officeソフトの使い方、Word関係) 2.オフィス実務①-2 (Officeソフトの使い方、Word関係) 3.オフィス実務②-1 (Officeソフトの使い方、Excel関係) 4.オフィス実務②-2 (Officeソフトの使い方、Excel関係)						
事前指導 (2日目)	(事前指導・4時限分) 5.企業内コミュニケーションの方法1 (メールの書き方) 6.企業内コミュニケーションの方法2 (手紙の書き方) 7.企業研究1 (企業研究レポートの作成) 8.企業研究2 (市場調査レポートの作成)						
事前指導 (3日目)	(事前指導・2時限分) 9.臨地実務実習の目標設定1 (PROGの受検) 10.臨地実務実習の目標設定2 (PROG受検結果の解説)						
事前指導 (4日目)	(事前指導)						
インターンシップ実践 (初日)	(初日) オリエンテーション 企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施する。また、自分自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。						
インターンシップ実践 (1週目)	(1週目) ① 実習生自らが業務の流れを見聞きし、理解したうえで、実習先企業の取り扱い製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの付随した業務内容を補助するための計画を行い実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者のフィードバックを得る。 ② システム開発者の仕事の様子(プロジェクト型業務)を見学する。 ③ システム開発を行う上での責任範囲、役割を理解し、手順に沿ってシステム開発を行うことの重要性を聴く。						
インターンシップ実践 (～3週目)	(2、3週目) ① システム開発チームメンバーとして開発作業の補助業務を行う。 ② 実習期間2週間を振り返り、補助業務内容の反省および、必要とされる知識、技術の不足部分、問題点と、実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として、企画立案、計画準備など、課題毎に取り組む。						
インターンシップ実践 (～5週目)	(4、5週目) ① システム開発の作業の一工程を、示された設計書の通りに実装する課題に取り組む。 ② 実習先から与えられた各自の課題に対しての進捗状況を適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。						
インターンシップ実践 (～7週目)	(6、7週目) ① 引き続き、与えられた課題を基に業務を遂行する。適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。						
インターンシップ実践 (～8週目)	(8週目) ① 完成した成果物についてのプレゼンテーションならびに実習目標に伴う報告を行う。 ② 実習先企業に協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。						
事後指導 (1日目)	(事後指導・3時限分) 1. 実習成果の確認① (報告資料作成の準備、他) 2. 実習成果の確認② (報告資料作成の準備、他) 3. 報告資料作成① (実習成果の確認、他)						

事後指導（2日目）	（事後指導・3時限分） 1. 報告資料作成②（報告資料作成、他） 2. 報告資料作成③（報告資料作成、他） 3. 報告資料作成④（報告資料作成、他）
事後指導（3日目）	（事後指導・4時限分） 1. 報告資料作成⑤（報告資料作成、他） 2. 報告資料作成⑥（報告資料作成、他） 3. 発表会① 4. 発表会②
事後指導（4日目）	（事後指導）
成績評価の方法	事前課題10% インターンシップ中の企業からの評価60% 事後課題30% で総合評価する。 詳細は事前指導で告知する。
準備学修（予習・復習、課題等）	インターンシップ先の企業研究、レポート作成等 図書館などでシステム開発・保守等に関する文献を調べ、視野を広げること。
教科書	
参考書	配布資料による。
備考	
昨年度からの振り返り	

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	インターンシップⅡ					授業形態	実習
授業コード	IN21240001	単位数	12単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、加藤 直人、佐藤 紀行、富澤 豊、山内 正人、坪倉 篤志						
授業概要	<p>インターンシップⅡでは、インターンシップⅠを踏まえ、実践活動の場において、情報通信技術を活用した課題発見、解決を行い、主にビジネスの観点からマーケティングや企画提案・実装するために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、企画や起業につながる知識や技能を修得させる。</p> <p>具体的には、指示された業務について、アンケートやインタビューなどの調査・分析を通じ、これまで習得した知識や技能を実践する。また、与えられた業務を推進するための調整や提案を行う。一連の業務を通じ実際の企業活動の中での実務の理解、必要なスキルや能力を養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやるべき業務を的確に判断し、効率的な方法を考え、率先して創意工夫をしながら取り組むことができる。 ・異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、状況に応じて自分の役割を適切に変えながら協力して業務を遂行することができる。 ・企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理し、ビジネス上の的確な示唆を提示できる。 ・情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができる。 						
授業計画							
事前指導（1日目）	<p>（事前指導・2時限分）</p> <p>1.オリエンテーションと事務連絡</p> <p>2.前期の反省と後期の目標確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期実習の反省内容を踏まえ、後期実習の目標を自ら設定する。 ・担当教員と個別面談を行う。 						
事前指導（2日目）	<p>（事前指導・2時限分）</p> <p>3.前期の反省と後期の目標確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期実習の反省内容を踏まえ、後期実習の目標を自ら設定する。 ・担当教員と個別面談を行う。 <p>4.前期の反省と後期の目標確認③</p>						
事前指導（3日目）	<p>（事前指導・2時限分）</p> <p>5.前期の反省と後期の目標確認④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期実習の反省内容を踏まえ、後期実習の目標を自ら設定する。 ・担当教員と個別面談を行う。 <p>6.前期の反省と後期の目標確認⑤</p>						
事前指導（4日目）	<p>（事前指導・2時限分）</p> <p>7.ビジネス実務の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Officeソフトの使い方（Word、Excel）、企業内コミュニケーション、調査・研究。 <p>8.ビジネス実務の確認②</p>						
事前指導（5日目）	<p>（事前指導・2時限分）</p> <p>9.受入企業に対する自習課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期実習に役立つと思われる課題を自ら設定し、遂行する。 <p>10.受入企業に対する自習課題②</p>						
インターンシップ実践（初日）	<p>（初日）</p> <p>オリエンテーション</p> <p>① 必要に応じ、企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施する。また、自分自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。</p> <p>② インターンシップⅠで発見した自分自身の課題等について実習先指導者とすり合わせる。</p>						
インターンシップ実践（1週目）	<p>（1週目）</p> <p>① 実習生自らが業務の流れを見聞きし、理解したうえで、実習先企業の取り扱う製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの付随した業務内容を補助するための計画を行い実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者のフィードバックを得る。</p> <p>② 実習先で行われる実際の会議やミーティングに参加させてもらう。</p> <p>③ マーケティング業務経験者や企画職経験者の仕事の様子(プロジェクト型業務)を見学する。</p>						
インターンシップ実践（～3週目）	<p>（2、3週目）</p> <p>① 営業、マーケティング業務、企画業務の補助業務を行う。</p> <p>実習期間2週間を振り返り、補助業務内容の反省および、必要とされる知識、技術の不足部分、問題点と、実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として、企画立案、計画準備など、課題毎に取り組む。</p>						
インターンシップ実践（～5週目）	<p>（4、5週目）</p> <p>① 企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理する課題に取り組む。</p>						

	② 実習先から与えられた各自の課題に対しての進捗状況を適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスをを受け、次のステップに移行する。
インターンシップ実践（～7週目）	（6、7週目） ① 前回の課題、インターンシップⅠを踏まえ、情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンテーションする課題に取り組む。 ② 課題に対し、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスをを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。
インターンシップ実践（～8週目）	（8週目） ① 完成した成果物についてのプレゼンテーションならびに実習目標に伴う報告を行う。 ② 実習先企業に協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。
事後指導（1日目）	（事後指導・3時限分） 1. 実習成果の確認①（報告資料作成の準備、他） 2. 実習成果の確認②（報告資料作成の準備、他） 3. 報告資料作成①（実習成果の確認、他）
事後指導（2日目）	（事後指導・3時限分） 1. 報告資料作成②（報告資料作成、他） 2. 報告資料作成③（報告資料作成、他） 3. 報告資料作成④（報告資料作成、他）
事後指導（3日目）	（事後指導・4時限分） 1. 報告資料作成⑤（報告資料作成、他） 2. 報告資料作成⑥（報告資料作成、他） 3. 発表会① 4. 発表会②
成績評価の方法	事前課題10% インターンシップ中の企業からの評価60% 事後課題30% で総合評価する。 詳細は事前指導で告知する。
準備学修（予習・復習、課題等）	インターンシップ先の企業研究、レポート作成等 図書館などでシステム開発・保守等に関連する文献を調べ、視野を広げること。
教科書	
参考書	配布資料による。
備考	
昨年度からの振り返り	

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	通期	科目分類	職業専門科目
授業名	イノベーションプロジェクトVI					授業形態	演習
授業コード	IP61250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行、松村 太郎、得上 竜一、志村 一隆、乗浜 誠二						
授業概要	最終的に、3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行い事業の立ち上げを目指す、一連の中核プログラムの一部である。 VIでは、企業の課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスを考案し、その開発に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リーンスタートアップのメソドロジーを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる 観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる 身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る 礼儀、挨拶、時間を守るなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する 						
授業計画							
第1回	<p>科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第2回	<p>顧客観察と理解の手法、フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第3回	<p>顧客課題の分析と特定（1）共感マップ</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第4回	<p>顧客課題の分析と特定（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第5回	<p>課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンパス</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第6回	<p>課題の解決策のアイデア創出（2）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第7回	<p>アイデアのプロトタイピング（実装）</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第8回	<p>プロトタイプテスト（1）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第9回	<p>テスト結果の分析と再実装への反映</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第10回	<p>プロトタイプテスト（2）フィールドワーク</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第11回	<p>ストーリーテリングの手法</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						
第12回	<p>ストーリーの構想とプレゼンテーション練習</p> <p>礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得</p> <p>他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践</p>						

第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・12回目までの各回の成果物提出とその内容（各回4%、計48%） ・グループ内におけるリーダーシップの相互評価（各回2%、計30%） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11%、計22%）
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて教科書の指定範囲を読み込み、解説動画を視聴しておく（約1時間） ・復習：次回講義までにその成果物をまとめ、発表できるようにしてくる（約2~3時間） ・課題：各回とも課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む
教科書	
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。
備考	
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。企業課題の具体的な解決プランを作成、評価されることを目指す

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	コンピュータとソフトウェア基礎					授業形態	講義
授業コード	CSW1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	堀田 耕一郎						
授業概要	コンピュータがどのような仕組みで動作するのか、基本的な考え方について利用シーンを意識しながら学ぶ。まず、コンピュータシステムの利用シーンの変遷について学ぶ。次に、伝統的なコンピュータを題材に、ハードウェア、ソフトウェアの両面から動作の仕組みを学ぶ。さらに、ネットワーク化されたコンピュータの活用事例とそれに伴う問題点の事例を通じて、コンピュータシステムの将来像を考える基礎とする。最後に実際の製品ソフトウェア開発の手順を照会することで、ここまで学んだ内容を実務と関連付ける。						
授業の目的・到達目標	本講義ではICTを活用するイノベータになるために、ICTの中核となるコンピュータの可能性を考える基礎を身に着ける。この成果を活かして、起業のためのアイデアを得る第一歩となることを期待する。 そのために、コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを見通すことから始め、基本的な動作原理を理解する。コンピュータハードウェアと各機能の利用方法について、ソフトウェアの動作を通じて理解する。さらに、ICT社会で懸念される問題点について議論し、これにより、コンピューティングリテラシーを身に着ける。						
授業計画							
第1回	情報技術の利用シーン：「情報」の活用と表現						
第2回	コンピュータシステムの構成要素、デジタルとアナログ						
第3回	ユーザーインターフェース、10進数、2進数、16進数						
第4回	ブール代数と論理回路、2の補数						
第5回	2進数の表現、CPUの基本動作（コンピュータの命令）						
第6回	CPUの基本動作（メモリとレジスタ）						
第7回	コンピュータのソフトウェア(1)：基本的なソフトウェアの種類						
第8回	コンピュータのソフトウェア(2)：アプリケーションプログラム						
第9回	コンピュータネットワーク(1)：ネットワークの仕組み						
第10回	コンピュータネットワーク(2)：World Wide Web						
第11回	コンピュータの応用分野(1)：大規模計算						
第12回	コンピュータの応用分野(2)：音楽や動画の配信、電話とネットワーク						
第13回	ICT社会での問題点、コンピュータのトラブル、コンピュータのセキュリティ問題						
第14回	商用ソフトウェア開発の実態(1)：ソフトウェアの設計						
第15回	商用ソフトウェア開発の実態(2)：ソフトウェアの評価						
成績評価の方法	小テストを含む課題の提出状況とその内容の評価、および講義への貢献度(質問等)					50%	
	講義中に行う小テストの得点					25%	
	期末の成果物とその評価					25%	
準備学修（予習・復習、課題等）	講義毎に復習中心の簡単な課題を提示するので、次の講義までに回答を用意すること。その内容を、次の講義内での議論のきっかけとする。						
教科書							
参考書	教科書：必要な資料を適宜配布する 参考文献： 基本を学ぶコンピュータ概論（改訂2版）、安井浩之 他 著、オーム社 サイバーフィジカル、飯尾淳著、森北出版株式会社 教養としてのコンピューターサイエンス講義、ブライアン・カーニハン著、日経BP社 数学ガールの秘密ノート/ビットとバイナリー、結城浩著、SBクリエイティブ コンピュータはなぜ動くのか～知っておきたいハードウェア&ソフトウェアの基礎知識～、矢沢久雄著、日経BP社 プログラムはなぜ動くのか 第2版 知っておきたいプログラムの基礎知識、矢沢久雄著、日経BP社 その他、講義中に随時紹介する。						

備考	この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。
昨年度からの振り返り	<p>講義をきちんと聞き、課題に取り組んでいけば理解できるようにしています。覚えるのではなく考えてください。</p> <p>資料は事前にUNIPAにアップロードしますので、読んでおいてください。講義の音声データや資料は終了後共有しますので、復習に役立ててください。</p> <p>お互いに話しやすい環境にしたいと考えております。グループワークはほとんどありませんが、くだらないと思うことでも、ぜひ質問してください。それを題材に、教室中で議論できれば幸いです。</p> <p>利用する環境は他の科目と違うと思いますが、課題の締め切り等に関するスケジュール管理は自分で心掛けてください。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	プログラミングⅠ					授業形態	実習
授業コード	PG11310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	寺脇 由紀、小沼 和彦、大島 真言						
授業概要	ソフトウェアを作る技術であるプログラミングをJava言語を通じて学びます。また、プログラミングを学習することで、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。 本講義では、まず、プログラミングの基礎概念と、基礎的なアルゴリズムを理解します。つぎに、簡潔で正確にプログラムを作成できるような技法としてのプログラミングを身につけます。プログラミングを身につけるためには訓練を経ることが必須です。 自身で簡単なプログラム作成が出来るようになることを目標として、教員とともにプログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、プログラミング技法を錬成していきます。						
授業の目的・到達目標	プログラミングの基礎概念と基礎的なアルゴリズムを理解する。 Java言語を使って、自ら簡単なプログラムを作成できるようになる。 課題がなんであるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。						
授業計画							
第1回	プログラミングの基礎知識： プログラミングの基礎知識を説明する。 また、本講義の進め方や、講義で用いる実習環境PeMT(Programming Environment for Mass Teaching)の利用方法を解説する。						
第2回	Java言語概要： プログラミング言語Java・実行環境・開発環境の3つの側面を学習する。						
第3回	プログラムの書き方： Javaアプリケーションの作成から実行までを学ぶ。						
第4回	画面への出力： 画面に情報を表示する処理の書き方を学ぶ。						
第5回	書き方のルール： 識別子、予約語、命名規約、コメントの書き方など望ましいプログラムの書き方を学ぶ						
第6回	コンパイルエラーへの対処法： 典型的なコンパイルエラーの例を紹介し、エラーメッセージの読み方やその対処法を学ぶ。						
第7回	アルゴリズムとその表現方法： アルゴリズムとは何かを学び、領域図とフローチャートを用いたアルゴリズムの表現方法を学ぶ。						
第8回	変数： 変数を扱う方法を学ぶ。						
第9回	式と演算子： 関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学ぶ。						
第10回	リテラル： 各種リテラルについて学ぶ。						
第11回	制御構造： 3つの制御構造を学び、フローチャートによる表現方法を習得する。						
第12回	アルゴリズム演習（加算・交換）： 加算・交換それぞれのアルゴリズムを理解し、演習を通してそれぞれのアルゴリズムをフローチャートで表現する。また、作成したアルゴリズムをレビューする方法を学ぶ。						
第13回	プログラム演習（加算・交換）： フローチャートに基づいて正確にプログラミングする。						
第14回	アルゴリズム演習（条件分岐1）： 条件の真偽による2分岐および、多分岐について、フローチャートで表現し、トレースを習得する。						
第15回	プログラミング演習（条件分岐1）： 2分岐や多分岐の制御フロー文をフローチャートに基づいて正確にプログラミングする。						

第16回	アルゴリズム演習（条件分岐2）： 2つ以上の条件式の結合やswitch文による条件分岐について、フローチャートで表現し、トレースを習得する。
第17回	プログラム演習（条件分岐2）： 複数の実行経路をもつ制御フロー文をフローチャートに基づいて正確にプログラミングする。
第18回	アルゴリズム演習（反復）： 反復のアルゴリズムを理解し、演習問題に基づいて反復のアルゴリズムをフローチャートで表現し、トレースを習得する。
第19回	プログラム演習（反復1）： 条件式の真偽による繰り返し処理をフローチャートに基づいて正確にプログラミングする。
第20回	プログラム演習（反復2）： 指定回数の繰り返し処理をフローチャートに基づいて正確にプログラミングする。
第21回	プログラム演習（反復3）： 後判定によるの繰り返し処理をフローチャートに基づいて正確にプログラミングする。
第22回	アルゴリズム演習（制御の多重構造）： 制御の多重構造、制御構造の強制脱出、スキップについてフローチャートで表現することにより理解する。
第23回	プログラム演習（制御の多重構造1）： 制御の多重構造、制御構造の強制脱出、スキップなどのプログラムの作成演習をする。
第24回	プログラム演習（制御の多重構造2）： 多重ループを伴うプログラムの作成演習をする。
第25回	アルゴリズム演習（配列） 配列を扱うアルゴリズムをフローチャートで表現し、トレースすることで、配列を扱うアルゴリズムを習得する。
第26回	プログラム演習（配列）： フローチャートに基づいて正確にプログラミングし、配列の走査について習得する。
第27回	アルゴリズム演習（集計・整列・探査） 集計や整列の考え方を学び、フローチャートで表現しレビューをする。また、探査については、探査法の種類について紹介する。
第28回	プログラム演習（集計1）： 単純集計、数値の偶数のみを集計するなど、複数の演習を扱いフローチャートに基づいて正確にプログラミングする技法を習得する。
第29回	プログラム演習（集計・整列・探査）： 複数の演習を扱いフローチャートに基づいて正確にプログラミングする技法を習得する。
第30回	総括： 本講義にて学んだ内容を総括し、総合解説を行う。
成績評価の方法	授業への取り組み態度・授業への貢献（40%）、授業内外に行う例題と課題、および、小テスト・小レポートなどの学習成果物の提出状況と出来栄（60%）で評価する。
準備学修（予習・復習、課題等）	プログラミングの知識や経験は不要。しかし、コンピュータの扱いと、キーボードでの文字入力に慣れていることは必須となる。 キーボードでの文字入力については、1分間に150文字以上のタッチタイピングができることが目安となる。 キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくこと。 プログラミングを身につけるためには訓練を経ることが必須である。毎回配布する教材の復習および、例題や演習を繰り返しプログラミングしてみるなど、毎回の授業につき、30分から60分の自宅学習が必要である。 なお、授業中に行う例題や課題を完成できなかった場合は、毎回配布する教材を自身で見直して、次回授業日までに完成させておくこと。
教科書	
参考書	教科書：教員の作成する教材で進める。 参考文献：参考文献は購入の必要はない。 <1> 『Effective Java 第3版』 Joshua Bloch(著), 柴田芳樹(翻訳) 参考文献は購入の必要はない。 以下に登録情報を記載する。 出版社: 丸善出版; 第3版 (2018/10/30) 言語: 日本語 ISBN-10: 4621303252 ISBN-13: 978-4621303252

	<p><2> JIS 情報処理用流れ図・プログラム網図・システム資源図 (JIS X 0121-1986)</p>
備考	<p>アクティブラーニング形式を用いた講義は、学習内容によって効果的な場合に実施しています (毎回の講義で行いません)。ただし、毎回の授業で自身でプログラムを作成していきます。</p>
昨年度からの振り返り	<p>学生同士の交流によって学ぶ形式について好評をいただきました。 学習者同士の交流を実りあるものにするためには、まず自分自身が十分に理解していることが前提となります (自身の理解を前提に他者との交流する)。もう少し具体的に表現すると、学生同士で相談しながらプログラミングの学習を進めていくためには、講義で説明された知識を各自が理解し (共通認識を持つ)、その理解に基づいてある程度プログラミング言語で表現できなければ、相談しながらプログラムを作成するという学習が成立しません。</p> <p>本講義では、初学者の方にも理解しやすいように噛み砕いて授業を進めていきます。初学者だから、コンピュータは苦手だから、と考えるのではなく、積極的かつ能動的に取り組んでいただき、学習内容についてご自身のなり理解をしていただき、理解できている箇所と理解できていない箇所を整理していただいた上で、学生同士 (または、教員) と積極的に交流していただきたいと思います。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	データ構造と処理法					授業形態	演習
授業コード	ADS1340001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>プログラミング的思考力の向上を目的として、コンピュータ・プログラム（ソフトウェア）を作成する上で基本となるデータ構造と基本的なアルゴリズム（処理法／処理手順）について学習する。内容を解説するとともに、学修する項目毎に課題を設定し、演習形式で各自が取り組む。選択するデータ構造と処理手順によって、同じ結果を得るための手間の量（所要時間等）が異なったり、処理対象のデータ量が増えた場合に必要な手間の量（所要時間等）の増え方が異なったりすることになるが、そのメカニズムについて考えることで、プログラミング的思考力を養成する。</p> <p>はじめに、文字列照合アルゴリズムおよび整列アルゴリズムを具体例として取り上げ、同一のタスクであってもアルゴリズムによって性能等に違いが生じる事を確認し、アルゴリズムの重要性を学ぶ。その後、基本的なデータ構造（キュー、スタック、木構造など）およびその操作方法（挿入、削除など）について説明し、その特性を実習により確認する。さらにはネットワーク制御など実際の課題でも用いられる最短経路問題および最小全域木問題を取り上げ、それらに対するアルゴリズムについて学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>基本的なデータ構造に対して、その基礎的な操作方法（挿入、削除、探索、整列など）とともにその特性を理解し、説明できるようになる。所望の課題に応じた適切なデータ構造および処理方法を検討する際に、必要に応じて自らより深く調べる手がかりとして、得た知識を課題解決に活用できるようになる。</p> <p>より一般的な課題（タスク）に取り組む手順を考える際にも、学んだ考え方を応用できるようになる。</p>						
授業計画							
第1回	アルゴリズムとは コース概要、授業の進め方、イントロダクション						
第2回	文字列照合アルゴリズム（1） 文字列の走査とは、素朴な方法、KMP法						
第3回	文字列照合アルゴリズム（2） BM法、演習（文字列照合アルゴリズムの手法による性能差を考え、理解を深めるとともに応用する力を身につける）						
第4回	整列アルゴリズム（1） 整列問題（ソート）とは、バブルソート、選択ソート、挿入ソート						
第5回	整列アルゴリズム（2） クイックソート、マージソート、基数ソート						
第6回	整列アルゴリズム（3） 整列アルゴリズムに関する演習を行い理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第7回	基本データ構造とその操作（1） データ構造の重要性、配列、線形リスト、ハッシュテーブル、キュー、スタック						
第8回	基本データ構造とその操作（2） 二分探索木、平衡木、ヒープ、素集合データ構造						
第9回	基本データ構造とその操作（3） 演習を行い基本データ構造に関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第10回	最短経路アルゴリズム（1） 最短経路問題とは、グラフ構造とその表現方法						
第11回	最短経路アルゴリズム（2） ダイクストラ法、ベルマン・フォード法						
第12回	最短経路アルゴリズム（3） 演習を行い最短経路アルゴリズムに関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第13回	最小全域木アルゴリズム（1） 最小全域木問題とは						
第14回	最小全域木アルゴリズム（2） 最良優先探索法、クラスカル法、プリム法						
第15回	最小全域木アルゴリズム（3） 演習を行い最小全域木アルゴリズムに関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						

成績評価の方法	単元ごとの課題レポートの内容（15% × 5単元 = 75%）、定期試験の結果（15%）、受講態度等（10%）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	特に復習によって自分なりに頭を整理して理解を深め内容を消化することが大切なので、教科書を活用すること（30-60分/回） 単元ごとにレポート課題を設定する（60-120分×5回）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
アルゴリズムとデータ構造	藤田 聡	数理工学社	978-4-901683-99-9	グラフィック情報工学ライブラリ
参考書	「図解でかんたんアルゴリズム 情報処理のかなめとなる考え方が手に取るようにわかる!」、杉浦著，サイエンス・アイ新書，SBクリエイティブ，2012			
備考	この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：授業内においてより対話的な進捗を増やすことで、履修者のエンゲージメントがさらに高まるように工夫する。			

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	オペレーティングシステム入門					授業形態	演習
授業コード	OPS1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐藤 紀行						
授業概要	情報システムの形成に必要なオペレーティングシステムの役割、基本的概念および実現方式を理解する。実際にPC、Linuxを利用し、CUIでの操作を修得する。基本的な概念を説明した後、実機演習を通じて操作を学ぶ。具体的にはコマンドを用いた操作、OS操作や管理、簡単なプログラムを用いたプロセスの自動化などを演習形式で行う。オペレーティングシステムの技術や知識の習得を通じて、コンピュータシステムの動作原理に対する理解を深める。						
授業の目的・到達目標	OSの構成要素とそれぞれの役割について説明できるようになる。 エディタによるテキストの編集、コマンドラインによるOSの操作、スクリプトによるプロセスの自動化を行えるようになる。 OSのユーザー管理、ソフトウェアインストール、資源管理など基本的な管理・設定を行えるようになる。						
授業計画							
第1回	PCの準備と基本操作 WindowsあるいはmacOSでコマンドラインインターフェースに触れる						
第2回	コマンドによるファイル、ディレクトリの操作(1) ディレクトリ、ファイルの作成 Windows、あるいはmacOSでのファイル操作を理解する						
第3回	ネットワークの管理 SSHによる安全なネットワーク利用のため秘密鍵を生成し、実際に演習用のLinuxをリモートからコマンドラインインターフェースでログインする						
第4回	コマンドによるファイル、ディレクトリの操作(2) ディレクトリ、ファイルの管理 SCPを用いたりリモートのLinuxのファイル送受を理解する。 Linuxのコマンドラインでのファイル操作を理解する。						
第5回	ユーザー管理と権限管理 ユーザーの追加と権限の管理 パーミッションの概念を理解し、実際にファイル、ディレクトリを操作する						
第6回	OSによるプログラム実行の管理 プロセスの表示、一時停止、停止 OSの"リソース"の概念を理解し、OSが行う"抽象化"に触れる						
第7回	オペレーティングシステムの機能と構成要素 リソース、抽象化の概念の理解を深化する						
第8回	スクリプトによる操作の基礎(1) テキストデータの高度な編集(grep、パイプ) コマンドラインでgrepやパイプを用い、テキスト処理を行えることを理解する						
第9回	テキストエディタの利用						
第10回	スクリプトによる操作の基礎(1) シェルスクリプト						
第11回	スクリプトによる操作の基礎(3) その他のスクリプト言語(ruby) rubyを用いた簡単なスクリプトを作成する						
第12回	ソフトウェアのインストールと設定 SLコマンドを例にとり、make、CCなどを用いてソースコードからプログラムが作成できることを理解する						
第13回	ログ管理 OSおよびソフトウェアのログの参照方法と管理 ウェブサーバのログを例にとり、OSの運用の初歩を理解する						

第14回	<p>その他のOSの基本操作</p> <p>ウェブサーバでCGIを実行することを例にとり、関連する一連の操作を行う</p>
第15回	<p>仮想環境の構成</p> <p>仮想環境としてCGI環境を例にとり、実際にCGIを実行する</p> <p>OS仮想化についても触れる。</p>
成績評価の方法	<p>各回の課題の提出状況と、その内容を評価する。(70%)</p> <p>加えて、授業中への参加度・貢献度(質問、発言など)を評価する。(30%)</p>
準備学修(予習・復習、課題等)	<p>前回までの内容は理解している前提で、講義が進みます。</p> <p>講義時間内に終わらなかった課題は、必ず次回までに提出してください。</p>
教科書	
参考書	<p>各人の理解度に合わせ、適宜書籍あるいはURL等を紹介する。</p>
備考	<p>あなたが将来経営する会社、運用するチームはほぼ間違いなくIT、インターネットをつかいます。そしてそのインターネットでLinuxは重要な位置を占めるOSです。経営者、リーダーは雇うべきエンジニアをLinuxの知識がないままに正しく評価できるでしょうか？</p> <p>この講義ではOSとしてLinuxを例に、使い方を中心に学びます。エンジニアでなくとも、エンジニアなしでビジネスの成功はありません。まずは知るところ、経験するところから始めましょう！</p>
昨年度からの振り返り	<p>課題は作業自体に時間がかかるものが多くあります。放棄される方の多くが、毎週の課題に着手しなかったことがきっかけになっています。課題は必ず講義中に着手してください。</p> <p>課題を進める途中で疑問が湧いてきます。これもコンピュータ関連の講義の特徴の一つです。オフィスアワーや、講義後の時間で積極的に声をかけてください。課題が提出できるまでお付き合いします。</p> <p>前回までの内容をもとに次回の講義が進むこともあり、前回までの講義内容の理解は講義理解の前提になっています。このため、提出物の評価の比重が決定的に重くなっています。欠席には事情もあろうかと思いますが、オフィスアワーや、講義後の時間で積極的に声をかけ、欠席の遅れを取り返してください。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	プログラミングII					授業形態	実習
授業コード	PG21310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	寺脇 由紀、小沼 和彦、大島 真言						
授業概要	オブジェクト指向プログラミング言語である Java を使い、オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、それらをプログラミングする技術を学びます。						
授業の目的・到達目標	オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを習得する。 Java言語を用いたオブジェクト指向プログラムの構築を理解する。						
授業計画							
第1回	オブジェクト指向プログラミングの基本： オブジェクト指向を用いたソフトウェア開発について学ぶ						
第2回	オブジェクト指向と図的表現： オブジェクト指向プログラミングにおいて特に重要度の高いUML記法について紹介する。						
第3回	クラスとメソッド： クラス定義、オブジェクトの生成を学習し、演習を行う。						
第4回	カプセル化と情報隠蔽： カプセル化および、情報隠蔽の意義を説明する、さらに、アクセッサ・メソッドを理解し、使えるようになる。						
第5回	カプセル化と情報隠蔽(演習)： クラス定義、オブジェクト生成などについて、クラス図とシーケンス図に基づいたプログラミング演習を行う。						
第6回	コンストラクタ： コンストラクタについて学ぶ、コンストラクタの定義と利用について理解する						
第7回	コンストラクタのオーバーロード・メソッドのオーバーロード(1)： コンストラクタのオーバーロードおよび、メソッドのオーバーロードについて学ぶ。						
第8回	コンストラクタのオーバーロード・メソッドのオーバーロード(2)： オブジェクト生成時の初期化、同じ名前のメソッドの定義等について演習を行う。						
第9回	修飾子・static変数・staticメソッド： static変数とインスタンス変数の違いを学び、演習を行う。						
第10回	継承(1)： オブジェクト抽象化のためのメカニズムである継承について学ぶ。						
第11回	継承(2)： 継承の適切な使用について理解し、演習を行う。						
第12回	継承(3)： 抽象クラス・抽象メソッドについて学び、演習を行う。						
第13回	インタフェース： メソッドの使い方の統一について学ぶ。						
第14回	抽象クラスとインタフェース： 抽象クラスとインタフェースの違いについて理解し、演習を行う。						
第15回	クラス同士の関係(1)： 関連・集約について理解する。						
第16回	クラス同士の関係(2)： 関連・集約についてクラス図とシーケンス図に基づいたプログラミング演習を行う。						
第17回	多態性(1)： 多態性の意義について理解する						

第18回	多態性(2): 多態性の活用例について学び、演習を行う。
第19回	例外処理(1): 提供されている例外クラスについて学ぶ。
第20回	例外処理(2): ユーザー定義例外について学ぶ、また例外処理の演習を行う。
第21回	パッケージ: クラスの整理整頓について学び、演習を行う
第22回	Javaの基本動作に関するクラス(1): Objectクラス、Stringクラスなど、Javaの基本動作に関するクラスについて理解する。
第23回	Javaの基本動作に関するクラス(2): Objectクラス、Stringクラスなど、JavaAPIの代表的なクラスを活用して演習を行う。
第24回	コレクションフレームワーク(1): さらに、コレクションフレームワークについて理解する。
第25回	コレクションフレームワーク(2): コレクションフレームワークの実装クラスによる演習を行う。
第26回	JavaとUMLの対応(1): クラス図とJavaとの対応を学び、UMLに基づきプログラムを作成する。
第27回	JavaとUMLの対応(2): シーケンス図とJavaとの対応を学び、UMLに基づきプログラムを作成する。
第28回	総合演習(1): これまでに習得した技法、またはマルチスレッドの利用する技法について紹介し、演習を行う。
第29回	総合演習(2): これまでに習得した技法、またはマルチスレッドの利用する技法について紹介し、演習を行う。
第30回	総括: 学んだ内容を総括し、総合解説を行う。
成績評価の方法	授業への取り組み態度・授業への貢献(40%)、授業内外に行う例題や課題、小テストや小レポートなどの学習成果物の提出状況と出来映え(60%)で評価する。
準備学修(予習・復習、課題等)	毎回配布する教材の復習および、例題や演習を繰り返しプログラミングしてみるなど、毎回の授業につき、30~60分程度の授業外学習が必要である。 もし、授業中に行う例題や課題を完成できず、遅れてしまった場合は、自分で教材を見直して、次の授業日の前日までに完成させておくこと。
教科書	
参考書	教科書: 教員の作成する教材で進める。 参考文献: 『Effective Java 第3版』 Joshua Bloch(著), 柴田芳樹(翻訳) 参考文献は購入の必要はない。 以下に登録情報を記載する。 出版社: 丸善出版; 第3版(2018/10/30) 言語: 日本語 ISBN-10: 4621303252 ISBN-13: 978-4621303252
備考	アクティブラーニング形式を用いた講義は、学習内容によって効果的な場合に実施しています(毎回の講義で行いません)。
昨年度からの振り返り	教員と一緒にプログラミングをするHands on形式に好評をいただきました。 講義する知識や技術を実践する例題に基づいたHands onを、積極的に取り入れて進めていきたいと思っております。 みなさんは、Hands onの時間に教員のプログラムを写すだけにならないように、講義で得た知識との関連を意識しながらプログラムを書くということを心がけてください。 つまり、講義で説明する知識と技術をしっかりと消化していただき、知識に基づいてプログラミングしてみるということが重要となります。 知識が欠けてしまうと、教員の入力した文字を真似して入力しているだけとなります。講義内容を聞き逃さないという姿勢で授業に臨むこと、講義で説明した技術や知識を復習し確実に自分の中に積み上げていくことを徹底してください。

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	ネットワーク技術					授業形態	講義
授業コード	NWT1330001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	現在多くのシステムがインターネットに繋がり、コンピュータネットワークは社会システムの基盤として動作している。本講義ではその根幹となる情報通信技術の基礎についてコンピュータネットワークの歴史や成り立ち、発展の経緯から通信をする上で重要となる標準化とその方法、階層化と各階層におけるプロトコル、LANの基礎、ネットワークサービス、ネットワークセキュリティの基礎、最新技術動向など幅広く解説し、インターネットがどのように構成され、動作するかを理解する。また現在インターネットで広く使用されているIPv4のみならず、今後広く使われていくと考えられるIPv6についても解説し、社会に出て役立つネットワーク技術について体系的に解説する。						
授業の目的・到達目標	通信における階層化及び各層で構成される各種プロトコル等について理解し、説明できることを目的とする。通信における階層化の概念を理解し説明できる、各層で構成される各種プロトコル等について理解し説明できる、ネットワークに関する最新動向を把握し説明できることを目標とする。						
授業計画							
第1回	ネットワークの基礎(1)(コンピュータネットワークの成り立ちや目的、構成について学ぶ)						
第2回	ネットワークの基礎(2)(通信メディアを作成し、その規格や仕組みを理解する)						
第3回	TCP/IPの基礎(各階層におけるプロトコルが果たす役割について理解することでTCP/IPでどのように通信が行われているかについて学ぶ)						
第4回	データリンク(1)(データリンクの役割及び技術、イーサネット等について学ぶ)						
第5回	データリンク(2)(MACアドレスやその役割等について学ぶ)						
第6回	IPプロトコル(1)(IPの基礎及びIPアドレスの基礎について学ぶ)						
第7回	IPプロトコル(2)(IPアドレス及びサブネットマスクについて学ぶ)						
第8回	IPプロトコル(3)(経路制御について学ぶ)						
第9回	IPプロトコル(4)(IPヘッダのヘッダチェックサムについて学ぶ)						
第10回	IPプロトコル(5)(IPv6について学ぶ)						
第11回	IPプロトコル(6)(DNSやDHCPなどIPに関連する技術について学ぶ)						
第12回	TCPとUDP(1)(トランスポート層の役割及びポート番号、TCPなどについて学ぶ)						
第13回	TCPとUDP(2)(UDP、NAT/NAPTなどについて学ぶ)						
第14回	アプリケーションプロトコル(E-mailやWWWなどで使用されるアプリケーションプロトコルについて学ぶ)						
第15回	まとめ(総まとめ及び最新のネットワーク技術の動向について学ぶ)						
成績評価の方法	最終レポート(30%)と、課題への取り組み(70%)で評価する。						
準備学修(予習・復習、課題等)	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 (あわせて各回30～60分程度)						
教科書							
参考書	教科書：適宜プリントを配布する 参考文献： 『マスタリングTCP/IP 入門編 第5版』、 竹下 隆史、村松 公保、荒井 透、苅田 幸雄(著)、オーム社、2012年 『コンピュータネットワーク 第5版』、 アンドリュウ・S・タネンバウム、デイビッド・J・ウエザロ(著)、日経BP社、2013年 『プロフェッショナルIPv6』 小川 晃通(著)、ラムダノート、2018年						
備考							

昨年度からの 振り返り	
----------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	オペレーティングシステム演習					授業形態	演習
授業コード	POS1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	鎌谷 修						
授業概要	<p>情報通信技術を活用した新たなサービスの開発、実現にあたっては、コンピュータのハードウェア構成やソフトウェア制御などコンピュータに関する様々な知識が必要となる。この科目ではコンピュータの仕組みや考え、動作原理への理解に基づき、その内部構成についてさらに理解を深めるとともに、オペレーティングシステム（以下、OS）の主な役割とその代表的な機能について学ぶ。OSの原理や仕組み、基本機能をより深く理解するために演習形式で学びを深める。あわせて、今日的な話題であるOSの仮想化やIoTなど有用なシステム開発や設計に関連する知識やスキルについても身に付け、情報通信技術を活用したシステム開発への応用につなげる。</p> <p>なお、本授業は「オペレーティングシステム」で単純なOS操作を学んだうえで、ICTを活用したシステム開発への応用につなげることを目的に設定されていることから、連続性をもって履修することを推奨する。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの内部構成や動作について理解できる。 ・OSの主な役割や機能とその設定について理解し、運用できる。 ・ユーザとハードウェア、ソフトウェアとハードウェアの関係性の中でOSが果たす役割を理解し、サービス開発に生かすことができる。 						
授業計画							
第1回	ソフトウェアの概要と種類 (オペレーティングシステムの役割、ミドルウェア、応用ソフトウェアなど)						
第2回	プロセッサの概要と種類 (基本的な特徴と要素、プロセッサの基本構造、動作原理と性能、高速化技術)						
第3回	OSのインタフェース (ユーザインタフェースとプログラミングインタフェース)						
第4回	OSの構成と基本機能 (シェルとカーネル、制御プログラム、CPUによる命令語の実行、コンパイラなど)						
第5回	プロセス管理とスケジューリング (ジョブ、プロセス、スレッドの考え方とスケジューリングなど)						
第6回	プロセス管理における同期と排他制御 (プロセスの同期と排他制御、デッドロック、プロセス間通信制御、など)						
第7回	メモリ管理機能 (メモリ管理の概要、メモリ領域管理、仮想メモリ (ページング、アドレス変換など))						
第8回	ファイル管理 (ファイル名と属性、ディレクトリ、ファイルシステムの管理)						
第9回	入出力装置と制御 (入出力装置と制御方式)						
第10回	OSのセキュリティ (アクセス制御、セキュリティモデル、暗号化、認証、認可など)						
第11回	仮想化技術(1) (仮想化技術の概要、ホスト型、実行環境の構築と動作確認)						
第12回	仮想化技術(2) (ハイパーバイザ型、コンテナ型、実行環境の構築と動作確認)						
第13回	ネットワークの制御 (通信インタフェース、プロトコル、クライアント・サーバ方式)						
第14回	組み込み機器用ソフトウェアとIoT (組み込み機器用ソフトウェアの種類とその特徴、IoTサービスの動向)						
第15回	まとめ (OSの性能と運用管理、OSのシステム性能に関する要素、運用管理の基本)						
成績評価の方法	各テーマごとに設定される課題の提出状況とその内容 (100%) 課題への説明が論理的に行われているか。 講義内容を反映した内容となっているか。						

	自身の考え、新たな視点を盛り込んだ内容となっているか。 参考文献のリストをつけているか。			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：1時間） ・Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：1時間） ・各授業で示した参考文献、Webサイト、演習課題等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
IT Text オペレーティングシステム 改訂2版	野口健一郎	オーム社	978-4-274-22156-9	(2020/1/30)
MODERN OPERATING SYSTEMS 4th Edition(第4版)	Andrew S. Tanenbaum	ピアソンエデュケーション	9781292061429	(2015/1/23)
参考書	適宜、参考となる文献やWebサイト等を指示する。 参考文献： 『オペレーティングシステムの仕組み』 河野健二(著)、朝倉書店、(2019/12/25) 『組込みエンジニアの教科書』 渡辺 登(著)、牧野 進二(著)、C&R研究所 (2020/2/25) 『IoTの基本・仕組み・重要事項が全部わかる教科書』 八子 知礼(著)杉山 恒司(著)、竹之下 航洋(著)、松浦 真弓(著)、土本 寛子(著)、SBクリエイティブ(2017/10/19)			
備考	上記教科書購入については、初回講義の際に担当教員より説明します。 この科目は「大学等における修学の支援に関する法律」において本学が申請した実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	講義の位置づけと演習内容については、初回講義にてご説明します。			

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	コンピュータアーキテクチャ					授業形態	講義
授業コード	CAT1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	堀田 耕一郎						
授業概要	コンピュータハードウェアのコンポーネントの構造と振る舞い、およびプログラムが動作するために、コンポーネントがどのように相互作用するかを学ぶ。システムの安定動作、プログラムの正確な動作を担保するための方式に重点を置く。また、主要コンポーネントであるCPU内の命令セットアーキテクチャについて、汎用コンピュータの事例を学んだ後、スーパーコンピュータがどのように高速実行を行うかについて深く検討する。ソフトウェアの動作と関連させながら学ぶことによって、プログラムを高速化させる方法を理解することができる。						
授業の目的・到達目標	コンピュータがどのように機能しているのか、各機能の動作原理と複数の機能の連携について理解する。コンピュータアーキテクチャを評価できるレベルを目指す。						
授業計画							
第1回	デジタル表現と計算回路						
第2回	ALUとレジスタ						
第3回	主記憶装置						
第4回	コンピュータ命令の動作						
第5回	命令の表現形式と命令セット						
第6回	アドレッシング、サブルーチンの実現						
第7回	命令パイプライン(1)						
第8回	命令パイプライン(2)						
第9回	命令パイプライン(3)						
第10回	記憶階層(1): 主記憶装置とキャッシュ						
第11回	記憶階層(2): 仮想記憶						
第12回	命令レベル並列処理(1)						
第13回	命令レベル並列処理(2)						
第14回	入出力と周辺装置						
第15回	例外処理						
成績評価の方法	小テストを含む課題の提出状況とその内容の評価 および 講義への貢献度（質問、発言など） 20% 講義中に行う小テストの得点 40% 期末の成果物とその評価 40%						
準備学修（予習・復習、課題等）	前期講義「コンピュータとソフトウェア基礎」を復習しておくこと。 講義の切れ目で復習中心の簡単な課題を提示するので、次の講義までに回答を用意すること。その内容を、次の講義内での議論のきっかけとする。 参考文献に挙げた 『コンピュータアーキテクチャ（電子情報通信レクチャーシリーズ）』坂井 修一（著）電子情報通信学会（編集）、コロナ社、2014年に沿って講義を進める。						
教科書							
参考書	教科書：必要な資料を適宜配布する。 参考文献： 1. 『コンピュータアーキテクチャ（電子情報通信レクチャーシリーズ）』坂井 修一（著）電子情報通信学会（編集）、コロナ社、2014年 2. 『コンピュータの構成と設計 第5版』ジョン・L.ヘネシー（著）デイビッド・A.パターソン（著）成田光彰（翻訳）、日経BP社、2014年 3. 『コンピュータアーキテクチャ技術入門 高速化の追求×消費電力の壁』, Hisa Ando著, 技術評論社						
備考							

昨年度からの振り返り	<p>前期のコンピュータとソフトウェア基礎の理解を前提として進めます。講義形式ではありますが、多くの発言ができるように運営しますので、学生諸君は活発に発言することを期待します。</p> <p>資料は事前にUNIPAにアップロードしますので、読んでおいてください。講義の音声データや資料は終了後共有しますので、復習に役立ててください。</p> <p>日常、触れたことのない内容にはなるが、講義時間と復習で理解できる内容なので、わからないときには必ず質問してください。</p>
------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ソフトウェア設計・構築					授業形態	演習
授業コード	SDD1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	桐谷 恵介、白井 貴子						
授業概要	実用的なソフトウェア・システムやソフトウェア製品を開発するために必要となる開発プロセスや開発技術（分析、設計、検証）に関する基礎知識と実践的なプロジェクトマネジメント手法を学ぶ。また、ソフトウェア設計の代表的なモデリング手法であるUML（Unified Modeling Language）を演習形式で理解する。これらの学習を通じ、ソフトウェアの設計や構築の基本的な技能と知識を習得するとともに、自らがソフトウェアやそれを使用するサービスを設計する際に協同者に対し、仕様や要件を適切に依頼できるようになることを目指す。						
授業の目的・到達目標	(1)ソフトウェアの開発及びマネジメントのプロセスを理解し、活用することができる。 (2)ソフトウェアの分析、設計手法を理解し、実際の開発に応用することができる。 (3)ソフトウェアの特徴を理解し、様々な問題に対して適切に判断し、行動することができる。 (4)ソフトウェアの代表的な設計手法であるUMLの概要を理解する。 (5)ソフトウェア開発を取り巻く社会環境や今後の動向について説明することができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス 授業ガイダンス（シラバス記載事項の確認。実習環境の確認、グループ構成など）。 ITシステムの現状、失敗事例などの例示。						
第2回	ソフトウェア開発プロセス ソフトウェアのライフサイクルにおけるプロセスモデルを概観し、プロセス改善の意義と狙いについて。						
第3回	ソフトウェア設計手法とプロジェクトマネジメント 代表的な設計手法を取り上げ、比較検討する。さらにプロジェクトマネジメントに必要なプロセスを概観し、プロジェクトの立上げから終結まで、どのような流れでプロジェクトが進むのかについて。						
第4回	ソフトウェアテストとソフトウェア品質 ソフトウェア開発におけるテストの位置付け、テストの種類、テスト技法について。ソフトウェアの品質の全体像を理解し、要求される品質を満たすための活動について。						
第5回	オブジェクト指向技術 再利用性、保守性に着目して、オブジェクト指向技術を理解する。						
第6回	UML（Unified Modeling Language）概説1 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第7回	UML（Unified Modeling Language）概説2 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第8回	UML（Unified Modeling Language）概説3 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第9回	グループ演習1 分析・設計モデリング与えられたシステムを3つの視点（機能、構造、振る舞い）で整理し、UMLの図を使って表現する。課題設定と要求分析。						
第10回	グループ演習2 分析・設計モデリング前回の続き。ユースケース設定。						
第11回	グループ演習3 分析・設計モデリング前回の続き。クラス図、アクティビティ図、ユースケース図の作成。						
第12回	グループ演習4 分析・設計モデリング前回の続き。シーケンス図、オブジェクト図、その他UML図の作成。						
第13回	グループ演習5 分析・設計モデリング前回の続き。グループ内ディスカッション。						
第14回	グループ演習6 演習レポート提出 分析・設計モデリング（発表） 分析モデリングの結果をグループ毎に発表し、全員で意見交換。						
第15回	授業まとめ						

成績評価の方法	演習結果のレポート（40%）、演習発表内容（20%）、授業での参加姿勢（20%）、授業中ワーク結果（20%）を考慮し判断する。
準備学修（予習・復習、課題等）	継続した演習を行うことから次回に備えて復習をしておくこと（各回30分～1時間程度）。
教科書	
参考書	
備考	
昨年度からの振り返り	授業の進みが早いとの意見を受け、進め方を見直します。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	データベース					授業形態	演習
授業コード	DBM1340001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	ソフトウェアシステムを構築する上で欠かせないデータベースについて講義と実習を組み合わせる形で学修する。データベースに関する一通りの知識を講義により学ぶとともに、実習により基本的な操作および設計を体験し知識を活用する実践力を体得する。データベースの基本について、仕組み・構成要素・基本的機能から、トランザクション処理・同時実行制御、障害復旧、設計の仕方、などを知識として講義形式にて学ぶとともに、知識を実践し理解を深めるために、SQL問い合わせ、トランザクション処理・同時実行制御、設計・正規化などについての実習を行う。また、NoSQLなどの最近のデータベースおよび将来に向けたデータベースの重要性について学ぶ。						
授業の目的・到達目標	データベースの原理・考え方や基本構造について理解し、説明できるようになる。 SQLを用いたデータベースの基本的な操作方法を習得し、使うことができるようになる。 小規模な関係データベースを設計構築する基礎的な能力を体験的に獲得する。						
授業計画							
第1回	データベースとは（1） コースのイントロダクション。データベースシステムとはどのようなものか、日頃利用している実例などにより理解する。また歴史的な発展を知り、その位置付けについて学ぶ。						
第2回	データベースとは（2） データベースとは何かを理解するために、DBMS、データモデル、SQLなどの概要を学ぶ。						
第3回	SQL問い合わせ（1） SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（SELECT、FROM、*、AS、DISTINCT、WHERE）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。						
第4回	SQL問い合わせ（2） SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（算術式、集約関数、GROUP BY、HAVING、ORDER BY）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。 リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（射影・選択・和・差・共通）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。						
第5回	SQL問い合わせ（3） リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（結合・直積・商）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。						
第6回	SQL問い合わせ（4） SQL言語を用いてデータベースを操作する実習を行う。						
第7回	データベースの基本要素 データベースの構成要素と基本的機能を学ぶ。データの構造として、三層スキーマとは何かを理解する。データの一貫性の維持や安全性（セキュリティ）の確保の必要性を理解し、それらを実現する仕組みの概要を学ぶ。						
第8回	データの一貫性（1） トランザクション処理とは何か、同時実行制御とは何かを理解する。それぞれを実現するために用いられる基本的な仕組みについて概要を理解する。						
第9回	データの一貫性（2） トランザクション処理および同時実行制御について、その動作を確認する実習を行う。						
第10回	障害対策 実際のデータベースの運用において重要となる、障害対策の基本について学ぶ。想定される障害の種類や、対策として用いられている代表的な方策について、その概要を理解する。						
第11回	設計・正規化（1） データベースの設計とは、どのようなものかを学ぶ。概念スキーマの設計、および論理スキーマの設計について概要および基本的な手順を理解する。						
第12回	設計・正規化（2） 概念スキーマ設計としてE-R図を用いた設計、論理スキーマ設計としてリレーションへの変換の実習を行う。（机上演習）						
第13回	設計・正規化（3） 論理スキーマ設計として正規化の実習を行う。（机上演習）						
第14回	データベース応用（1） NoSQLと呼ばれ近年注目を集めている新しいタイプのデータベースについて、その概要と特徴を理解する。						

第15回	データベース応用（2） 様々な分野で用いられているデータベースについて特徴的なものを理解し、今後どのような応用の発展が考えられるかをその重要性とともに学ぶ。			
成績評価の方法	実習レポートの内容（15%×3）、問題演習の内容（15%×3）、受講態度等（10%）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	講義については、特に復習によって自分なりに内容を消化することが大切である（30-60分/回） 項目毎に、演習問題または実習結果に基づいたレポート課題を設定する（60-120分×6回）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データベース - 基礎からネット社会での応用まで -	三木 光範・田中 美里	共立出版	978-4-320-12406-6	情報工学テキストシリーズ
参考書	「SQL第2版ゼロからはじめるデータベース操作」, ミック著, 翔泳社, 2016 「基本がわかるSQL入門」, 西村著, 技術評論社, 2020 「おうちで学べるデータベースのきほん」, ミック・木村著, 翔泳社, 2015 「SQLデータ分析・活用入門」, 西著, ソシム, 2019			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：とくに円滑な実習を実現することを意図して、実習着手前に行う説明・指示の方法を、より対話的にすることや、実習取り組み中の指導や支援の方法を工夫することで、履修者のエンゲージメントを高める。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	モバイルサービス概論					授業形態	講義
授業コード	MSD1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	磯 俊樹						
授業概要	ICTとは、“Information Communications Technology”の略で、情報通信技術全般を指すものであり、人と人だけでなく、“人”と“モノ”をつなげる（コミュニケーションする）様々なサービスに関与している。本講義では、社会生活で情報をやり取りする際に不可欠なツールとなった“ケータイ”に着目し、人とモノをつなげているモバイルサービスを実現するために使われているICTのコア技術を俯瞰する。そして、サービスシステムを実現するために、これらのコア技術がなぜ使われているのかを“アプリケーションの利用環境条件”や“サービス提供上の制約条件”の観点から技術を考察することで、各技術の特性の違いを定性的に理解する。						
授業の目的・到達目標	人とモノをつなげる“現実世界から情報を獲得する”系サービス、人と人をつなげる“自らの状態を知る”系サービス、クラウド上の“集合知利用系サービス”、さらには“モバイル端末の入出力インタフェース”に関するICTの主な技術の特徴や用途が平易な表現で説明できることを目指す。そして、“ユーザの視点”、“サービス提供者の視点”、“技術者の視点”をバランスよく持ってサービス企画立案できる“技術のソムリエになること”を究極の目標とする。						
授業計画							
第1回	「モバイルサービスの変遷」 ケータイを中心に進歩してきたモバイルサービスの動向を、社会的な役割や行動心理学の観点で分析する。						
第2回	「“外界から情報を獲得する系サービス”を実現するICT（1）」 ケータイ搭載カメラから情報が得られる二次元コード（QRコードやVisualtag）読取技術の概要を学ぶ。						
第3回	「“外界から情報を獲得する系サービス”を実現するICT（2）」 景観画像から情報を獲得する特定画像認識の概要を学ぶ。						
第4回	「“外界から情報を獲得する系サービス”を実現するICT（3）」 モーションセンサとカメラを用いたモバイルXR技術の概要を学ぶ。						
第5回	「中間演習（1）」 “外界から情報を獲得する系サービス”を実現するICTの特徴を、サービス適用条件や制約条件等の観点からまとめる。						
第6回	「“自分の状態を知る系サービス”を実現するICT（1）」 ケータイの携行方法にロバストなモーションセンサを用いた歩行状態認識の概要を学ぶ。						
第7回	「“自分の状態を知る系サービス”を実現するICT（2）」 把持センサを用いたケータイ利用中の個人認証の概要を学ぶ。						
第8回	「“自分の状態を知る系サービス”を実現するICT（3）」 生体情報センサを用いたヘルスケア技術の概要を学ぶ。						
第9回	「中間演習（2）」 “自分の状態を知る系サービス”を実現するICTの特徴を、サービス適用条件や制約条件等の観点からまとめる。						
第10回	「“集合知利用系サービス”を実現するICT（1）」 “モバイル空間統計サービス”の概要を学ぶ。						
第11回	「“集合知利用系サービス”を実現するICT（2）」 ベイズ推定を利用したレコメンドシステム等の概要を学ぶ。						
第12回	「“集合知利用系サービス”を実現するICT（3）」 “my daiz（マイデイズ）”のような質問応答系サービスの概要を学ぶ。						
第13回	「中間演習（3）」 “集合知利用系サービス”を実現するICTの特徴を、サービス適用条件や制約条件等の観点からまとめる。						
第14回	「“モバイル端末の入出力インタフェース”で利用されるICT」 ウェアラブルデバイス等の概要を学ぶ。						
第15回	「将来あるべきモバイルサービスやケータイの姿」 今後のモバイルサービスに求められるものや、それを実現するために必要な技術などを議論する。						
成績評価の方法	期末レポート：50% 課題レポート：40% 上記以外のレポート提出（適時）や授業取り組み状況等の学習意欲：10%						

準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：各単元の実例をインターネットや文献等で1つ以上調べてスライドにまとめる</p> <p>復習：各単元で学んだ内容についてインターネットや文献等で2つ以上調べてスライドにまとめる。（各回1時間程度）</p>
教科書	
参考書	<p>教科書： 必要により、授業時にプリントを配布、または参考資料を適宜指示する。</p> <p>参考文献： 『データ分析のための数理モデル入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 『分析者のためのデータ解析学入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 “データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門” 阿部真人（著）、ソシム株式会社、2021年 “本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門” 杉山聡（著）、ソシム株式会社、2022年</p> <p>『デジタル画像処理』 画像情報教育振興協会(著)、画像情報教育振興協会、2015年</p> <p>『臨床医学のためのウェーブレット解析』 石川康宏（著）、医学出版、2000年</p> <p>『iPhoneのすごい中身』 柏尾南壮(著)、日本実業出版社、2010年 『ジャイロセンサ技術』 多摩川精機株式会社（編集）、東京電機大学出版局、2011年 『わかりやすいGPS測量』 小白井亮一（著）、オーム社、2010年</p> <p>『データ解析のための統計モデリング入門』 久保拓弥（著）、岩波書店、2012年 『統計数理は隠された未来をあらわにするーベイジアンモデリングによる実世界イノベーション』 樋口知之(著)照井伸彦(著)井元清哉(著)北川源四郎(著)石井信(著)、東京電機大学出版局、2007年</p> <p>『デジカメの画像処理』 蚊野浩(監修)映像情報メディア学会(編集)、オーム社、2011年 『フリーソフトでつくる音声認識システム』 上野俊行(著)、森北出版、2018年</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けの講義である。 従って、微分積分や確率統計に関する基礎知識（「数学基礎A」ならびに「数学基礎C」履修レベル）があることが望ましい。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 ・なお、事前に担当教員に申し出があれば、科目選択しなくとも（単位取得にならない）聴講生として受講することは可能とする。 ・教員のオフィスアワー等を利用した個別対応による指導も可能である。
昨年度からの振り返り	<p>講義の内容が“技術系の専門科目”であるので、モバイルサービスの実装上の課題に対する技術選定の根拠が理解できるように解説する。</p> <p>また、スケジュール調整がつく範囲になるが、ゲストスピーカーの招聘を継続していく。</p> <p>技術の使い分けができるような観点を重視して解説をしていく。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報系数学応用A					授業形態	講義
授業コード	MIA1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	落合 慶広						
授業概要	<p>本科目では微分方程式や最適化法を中心として、各産業分野で利用される代表的な手法の原理や特徴を理解すると共に、これらの手法を実世界の問題に活用する力を習得することを目標とする。微分方程式は、自然現象や物理現象を特徴付けをして記述することができ、これを解くことにより、これらの現象の解析や将来の挙動を予測が可能となる。このため数値計算と合わせて、より多くの実世界の課題が解けるように講義する。また、最適化法は、製品設計、流通計画から高度な画像・音声認識処理に至るまで多くの分野で活用されることから、これらの導入にもなるよう講義する。本科目を通じ、これらの手法の原理や特徴を理解すると共に、実世界の課題を解く力を養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・微分方程式や最適化等の基礎知識を習得し、説明できる。 ・上記知識を用い、課題の捉え方や定式化、その課題に適した解法の選択方法や適用方法など、得た知識をもとに課題解決に活用できる。 						
授業計画							
第1回	<p>最適化法のガイダンス 最適化法（1） 最適化の基本的な考え方、様々な手法の特徴や違い</p>						
第2回	<p>最適化法（2） 線形計画法の基本的な考え方、代表的な手法の特徴や違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプレックス法 ・内点法 						
第3回	<p>最適化法（3） 非線形計画法の基本的な考え方、代表的な手法の特徴や違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制約なし非線形計画問題 ・最急降下法 ・ニュートン法 ・Levenberg-Marguardt法（修正Marguardt法） 						
第4回	<p>最適化法（4） 収束の早い非線形計画法の代表的な手法の特徴や違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共役勾配法 ・準ニュートン法(DFP(Davidon-Fletcher-Powell法、BFGS(Broyden,Fletcher, Goldfarb, Shanno)法) 						
第5回	<p>最適化法（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制約あり非線形最適化法、ペナルティ法、ラグランジュ乗数法 ・非線形最適化法とニューラルネットの学習法との関連など 						
第6回	<p>最適化法（6） 多目的最適化法やパレート効率性の考え方、使い方</p>						
第7回	<p>最適化法（7） 大域的最適化法や遺伝的アルゴリズムの考え方や計算方法と産業応用</p>						
第8回	<p>微分方程式のガイダンス 微分方程式（1） 微分方程式の概要、特徴による基本的な分類、解の分類など</p>						
第9回	<p>微分方程式（2） 変数分離形、斉次方程式などの概要、解き方、使い方</p>						
第10回	<p>微分方程式（3） 1階線形微分方程式の考え方、解き方、使い方</p>						
第11回	<p>微分方程式（4） 2階線形微分方程式の考え方、解き方、使い方</p>						
第12回	<p>微分方程式（5） 実世界の問題でよく知られている微分方程式、活用事例</p>						
第13回	<p>微分方程式の数値解法（1） いくつかの微分方程式を事例とし、より多くの問題が解けるようになる考え方や解き方、使い方（差分法、テイラー法など）</p>						

第14回	微分方程式の数値解法（2） いくつかの微分方程式を事例とし、より多くの問題が解けるようになる考え方や解き方、使い方（オイラー法、Runge-Kutta法など）			
第15回	最適化法、微分方程式の活用 工業製品における形状・機能設計、物流配送計画等、活用事例やその方法			
成績評価の方法	各授業内容の理解と応用する力を下記の観点から評価する。 ・各授業で「課題」を出します。これをノートに書き、写真を撮影して、課題レポートとして提出して下さい（80%）。課題を解くために、授業資料、本、インターネット等で調べ学習をして解いて頂いて結構です。Word、PowerPoint等により、電子文字を用いて作成したレポートは、電子的コピーが作れる為、不可とします。手書きにより作成したレポートの写真(jpegフォーマット)を原則とします。この写真をPowerPointに貼り付けて提出することはOKです。 ・授業中での取り組み状況、発表や質疑応答などを評価します（20%）。			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>■本科目では、最適化手法、微分方程式の解法の原理、特徴を学ぶだけでなく、Excelのソルバー、マクロを行って、最適化問題や微分方程式を数値的に解く方法についても講義、演習を行い、習得できるようにします。授業でも使い方などを解説しますが、下記の操作に慣れることも必要になります。</p> <p>・最適化法：Excelのソルバー(Excelに組み込まれてるプログラム)の使い方 ・微分方程式：Excelのマクロ(Visual Basic)によるプログラミング（Visual Basicプログラミング）</p> <p>授業資料：毎回、授業用の資料を配布する。</p> <p>予習：事前に提示する最適化手法、微分方程式について、概要、特徴などを調べてノートに書く（20～30分） 授業：授業で新しく気づいた事、理解した事、理解度確認課題をノートに書く（90分授業） 復習：課題に対する調べ学習、考察結果をノートに書いて、レポート提出（20～30分程度）</p> <p>■レポート提出方法</p> <p>・本演出では、授業中に演習したプログラム（Excelファイル）を提出して頂き課題が多くなりますので、Excelの操作方法を事前に、確認しておいてください。授業の中でも、操作方法をご案内致します。 ・手書きにより作成する場合、レポートの写真(jpegフォーマット、縦×横：480×640pixel)を原則とします。この写真をPowerPointに貼り付けられ、1ファイルに20枚程度の写真を付けられ、圧縮した保存すると、5ファイルまで登録できます。写真はjpeg形式で提出してください。</p> <p>■注意点</p> <p>★問題を第三者に公開することは禁止します。（著作権など、いろいろな問題が発生します） ★各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。 ★他人が作成した回答/プログラムファイルをそのままコピーしたレポート/プログラムファイル、及び、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。（バイナリレベルで比較し、同一かどうかを確認できます）</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書の項を参照				
参考書	<p>■最適化法の参考書</p> <p>・初学者向き：これなら分かる最適化数学—基礎原理から計算手法まで、金谷健一(著),共立出版,2005 ・理論的：非線形計画法,今野浩,山下浩(著),日科技連,1978(数式多く理論面が充実) ・実用向き：最適化プログラミング,茨木俊秀,福島雅夫(著),岩波書店,1991(FORTRANプログラム記載有) 最小二乗法による実験データ解析(新装版),中川徹,小柳義夫(著),2018(実課題への適用方法が幅広く扱われている)</p> <p>■微分方程式の参考書</p> <p>・初学者向き：常微分方程式(原著第8版),E.クライツィグ(著),近藤次郎,堀素夫(訳),培風館,2006 ・実用向き：微分方程式で数学モデルを作ろう,David Burghes,Morag Borrie(著),垣田高夫,大町比佐栄(訳),日本評論社,1990</p>			
備考	数学基礎A（微分積分）・数学基礎B（線形代数）の知識を前提として授業を進める為、これらの科目を履修していることが強く望まれる。履修していない場合、該当する知識を自主的に習得することを前提に本科目の履修をお願いします。			
昨年度からの振り返り	最適化法や微分方程式の数値解法を身近なツール(excel)で使えるようになるところが好評でした。これらの手法は、実際の社会課題に対しても、非常に役立つ手法ですので、技術を目指している方のみならず、起業を目指している方にもお薦めします。特に、最適化法は、ビジネス(会社)活動を効率化、省力化するためにも使うことができ、スケジューリング、荷物の配送コスト、製造の製造コストの省力化、意思決定支援などに幅広く使われています。社会科学分野では、オペレーションズリサーチ（主に線形計画法）として知られています。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報技術演習Ⅰ					授業形態	演習
授業コード	IT11310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	鎌谷 修						
授業概要	ユーザアプリケーションからサーバシステムまでを対象とした情報ネットワークシステムの全体アーキテクチャを理解し、演習による基本動作検証の体験を通じて、より実践的なスキルを習得する。また、与えられた情報ネットワークシステムの例題に対して、ユーザインタフェース設計書を作成し、デザインレビュー、基本動作検証、関係データベースの構築、プロジェクト管理までの演習を行う。						
授業の目的・到達目標	情報ネットワークシステムアーキテクチャの全体像の理解と、演習による実際の動作実証。 ユーザインタフェース設計書の作成方法の理解と、デザインレビューの演習。 与えられた要求条件を元にした、ソフトウェア設計スキルや関係データベースの設計構築スキルなどを演習を交えて習得する。 データベース連携技術を理解し、実際の動作検証手法について基本的な内容を身に付ける。						
授業計画							
第1回	授業の概要と目的、演習の進め方についての説明。アカウント作成と基本操作確認(1)						
第2回	アカウント作成と基本操作確認(2)						
第3回	インスタンス作成と動作確認(1)						
第4回	インスタンス作成と動作確認(2)						
第5回	データベース構築と動作確認(1)						
第6回	データベース構築と動作確認(2)						
第7回	インスタンスとデータベースの連携動作確認(1)						
第8回	インスタンスとデータベースの連携動作確認(2)						
第9回	プロジェクト管理ツール、その他ICTツール等の動作確認						
第10回	プロジェクト計画の策定						
第11回	プロジェクト計画の実施と動作確認(1)						
第12回	プロジェクト計画の実施と動作確認(2)						
第13回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめ(1)						
第14回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめ(2)						
第15回	まとめと振り返り						
成績評価の方法	各テーマごとに設定されるレポートの提出状況とその内容（100%） レポートの記述が論理的に行われているか。 講義内容を反映した内容となっているか。 自身の考え、新たな視点を盛り込んだ内容となっているか。 参考文献のリストをつけているか。						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：1時間） ・Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：1時間） ・各授業で示した参考文献、Webサイト等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	適宜、参考となる文献やWebサイト等を指示する。 参考文献： 「Amazon Web Services 基礎からのネットワーク&サーバー構築 改訂3版（日本語）」 - 2020/2/6 大澤 文孝（著）、玉川 憲（著）、片山 暁雄（著）、今井 雄太（著） 「AWSではじめるLinux入門ガイド（日本語）」 - 2020/4/30 山下 光洋（著）						
備考							

昨年度からの 振り返り	演習を円滑に進めるための参考資料等を適宜提示させていただきます。
----------------	----------------------------------

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	システム設計演習					授業形態	演習
授業コード	PSD1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	桐谷 恵介、白井 貴子						
授業概要	企業活動における販売管理、生産管理、会計の管理システム、または我々の社会生活に広く浸透しているSNSまで、情報システムは、私達が暮らす社会では欠かすことができない重要なものとなっている。情報システムがどのように作られているか、その設計を理解することは、将来、設計者の立場であっても、利用者の立場であっても役立つ知識となる。この講義では、社会における情報システムの重要性を理解し、講義や演習を通じて情報システム設計に関わる際に必要な知識を得ることを目的とする。						
授業の目的・到達目標	情報システムの構築、および設計とは何かを理解すること。 情報システムの設計方法を理解すること。 演習を通じて情報システム設計の知識を定着させること。						
授業計画							
第1回	ガイダンス 授業ガイダンス（シラバス記載事項の確認。実習環境の確認、グループ構成など）。						
第2回	情報システムにおける設計、設計の全体像と基本方針 情報システム開発工程概要、代表的な情報システム構成、ソフトウェア・エンジニアリング、プロジェクトマネジメントについて。						
第3回	要件定義でやっておくべきこと 要件定義(ビジネス要件、機能/非機能要件)の概要、手法について。						
第4回	データ設計のセオリー 基本設計(データ設計)の概要、手法。概念データモデル、論理データモデル、物理データモデルについて。外部インターフェイスの設計について。						
第5回	プロセス設計のセオリー 基本設計(プロセス設計)の概要、手法。業務プロセスの概要定義／詳細定義について。						
第6回	機能の概要定義 基本設計(機能概要)の概要、手法について。画面・帳票、バッチ処理の概要、論理CRUD、物理CRUDについて。						
第7回	機能の詳細定義 詳細設計(機能詳細)の概要、手法について。画面・帳票、バッチ処理の詳細定義、共通機能の定義について。						
第8回	グループ演習1 要件定義について、業務要件定義書の作成。						
第9回	グループ演習 2 要件定義について、システム要件定義書の作成。						
第10回	グループ演習 3 基本設計について、データ設計、プロセス設計の作成。						
第11回	グループ演習 4 基本設計について、機能概要設計の作成。						
第12回	グループ演習 5 詳細設計について、機能詳細設計の作成 1。						
第13回	グループ演習 6 詳細設計について、機能詳細設計の作成 2、ユーザビリティ設計の作成。						
第14回	グループ演習 7 演習レポート提出 グループ内ディスカッション。演習成果発表。全員で意見交換。						
第15回	授業まとめ						
成績評価の方法	演習結果のレポート（40%）、演習発表内容（20%）、授業での参加姿勢（20%）、授業中ワーク結果（20%）を考慮し判断する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	継続したグループ演習を行うことから次回に備えて復習をしておくこと（各回30分～1時間程度）。						

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
システム設計のセオリー	赤 俊哉	株式会社リックテレコム	978-4-86594-005-3	
参考書				
備考				
昨年度からの 振り返り	授業の難易度が高い、進みが早いとの意見を受け、難易度、進め方を見直します。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	データサイエンス					授業形態	講義
授業コード	DSC1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	磯 俊樹						
授業概要	<p>データサイエンスは、文字通り、“データを科学（分析）する”ものであるが、人間の代わりに機械が代替することを目的としているAIとは異なり、分析結果を“人間が解釈する”ことで実社会に有益な知見（価値）を提供するものである。これを実践するためには、単にデータを統計解析だけでなく、分析対象の背後にある知識を駆使してデータを観察することが重要となる。特に、以下の3つのスキルが必要になる。</p> <p>（1）ビジネス力（課題背景を理解した上で、ビジネス課題を整理し、解決する力）</p> <p>・分析対象の背景や知識に基づき、分析結果を評価・解釈すること</p> <p>（2）データサイエンス力（数理モデル、統計モデル、機械学習モデルを駆使して、適材適所で使いこなす力）</p> <p>・分析対象の特性や目的に応じて、適切な分析手法を選択すること</p> <p>（3）データエンジニア力（実際にデータを意味のあるような形に加工・表現する力）</p> <p>・計算機を用いてデータを加工し、人間が解釈し易い形に処理すること</p> <p>本講義では、はじめに、データサイエンスに必要なこれら3つのスキルの概要について学ぶ。そして、データサイエンスの主役である“データ”を解釈するための手法（データの特性分析等）やモデリング手法（数理モデル、統計モデル、機械学習モデル化等）の基礎についても学ぶ。</p> <p>さらに、実データとPythonのサンプルコードを使ってデータ分析の実習することで、の各手法の特徴を体感しながら理解を深めていく。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>実応用の分野で用いられている代表的なデータサイエンスに関する手法を用途に応じて適材適所で見極められることを究極の目標とし、各手法の特徴や用途が平易な表現で説明できることを目指す。</p>						
授業計画							
第1回	<p>データサイエンスの概要 実社会での適用事例からデータサイエンスの役割と全体的な流れ、さらにはAIとの違いを学ぶ</p>						
第2回	<p>データサイエンスに必要な3つのスキル ビジネス力、データサイエンス力、データエンジニア力の概要を学ぶ</p>						
第3回	<p>データ分析時に用いるモデリング手法 数理モデル、統計モデル、機械学習モデルの基礎を学ぶ</p>						
第4回	<p>データ分析の具体的な流れの概要 「データ前処理」、「分析モデルの構築」、「モデルの妥当性評価」を学ぶ</p>						
第5回	<p>中間演習（1） これまでの内容をまとめる。</p>						
第6回	<p>データ前処理（1） データの特性を評価する手法を学ぶ</p>						
第7回	<p>データ前処理（2） 規格化・標準化や特徴量抽出などデータを加工する手法を学ぶ</p>						
第8回	<p>データ前処理の実践 Pythonを用いて、「データ前処理」を実習する。</p>						
第9回	<p>データ分析時に用いるモデリング手法 データ分析におけるモデリング手法の1つである機械学習モデルを例にとり、このモデルが持つ特性と使い分けるときのポイントについて学ぶ。</p>						
第10回	<p>データ分析時に用いるモデリング手法の実践 データ分析のモデリング手法の1つである機械学習モデルを例にとり、Pythonを用いて、「データ分析モデルの構築」を実習する。</p>						
第11回	<p>モデルの妥当性評価 汎化性評価など機械学習モデルを最適化するための基本的な評価方法を学ぶ</p>						
第12回	<p>モデルの妥当性評価の実践 Pythonを用いて、「機械学習モデルの妥当性評価」を実習する。</p>						
第13回	<p>総合演習（1） Pythonを用いて、データ分析の一連の作業を実習する。</p>						
第14回	<p>総合演習（2） 総合演習（1）で実施した分析結果の評価・解釈を実習する。</p>						

第15回	データサイエンスのまとめ 目的や用途に応じて使い分けができるようにデータサイエンスの各手法をまとめる			
成績評価の方法	期末レポート：50% 課題レポート：40% 上記以外のレポート提出（適時）や授業取り組み状況等の学習意欲：10%			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各単元の実例をインターネットや文献等で1つ以上調べ、スライドにまとめる 復習：各単元で学んだ内容についてインターネットや文献等で2つ以上調べ、スライドにまとめる。 また、教科書付属のサンプルコードを動作させながら学習内容の理解を深める。 (各回1時間程度)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
応用基礎としてのデータサイエンス	北川源四郎	講談社	978-4-065-30789-2	2022年
Pythonで儲かるAIをつくる	赤石雅典	日経BP	978-4-296-10696-7	2020年
参考書	<p>教科書： 上記に加え、授業時にプリントを配布、または参考資料を適宜指示する。</p> <p>◎準教科書的な参考文献 『データ分析のための数理モデル入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 『分析者のためのデータ解析学入門』 江崎貴裕（著）、ソシム株式会社、2020年 “データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門” 阿部真人（著）、ソシム株式会社、2021年 “本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門” 杉山聡（著）、ソシム株式会社、2022年</p> <p>◎参考文献（データ解釈関連） 『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』 中室牧子他（著）、ダイヤモンド社、2017年 『新版 統計学のセンス—デザインする視点・データを見る目—』 丹後俊郎（著）、朝倉書店、2018年 『効果検証入門～正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎』 安井翔太（著）、技術評論社、2020年</p> <p>◎参考文献（モデリング手法関連） 『イラストで学ぶ機械学習』 杉山将(著)、講談社、2013年 『見えないものをさぐる—それがベイズ: ツールによる実践ベイズ統計』 藤田一弥(著)、フォワードネットワーク(監修)、オーム社、2015年</p> <p>◎参考文献（データエンジニアリング関連） 『RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習』 有賀友紀（著）、大橋俊介（著）、技術評論社、2019年 『機械学習のための特徴量エンジニアリング—その原理とPythonによる実践』 Alice Zheng、Amanda Casari他、オライリー・ジャパン、2019年 『データサイエンスのための統計学入門 第2版—予測、分類、統計モデリング、統計的機械学習とR/Pythonプログラミング』 Peter Bruce（著）他、オライリー・ジャパン、2020年</p>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けの講義である。 従って、微分積分や確率統計に関する基礎知識（「数学基礎A」ならびに「数学基礎C」履修レベル）があることが望ましい。 ・アルゴリズムの動作確認のためにプログラムのサンプルコードを活用するが、授業の中でプログラミング言語の教育は設定していないので、自習できるスキルがあることを前提する。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 ・なお、事前に担当教員に申し出があれば、科目選択しなくとも（単位取得にならない）聴講生として受講することは可能とする。 ・教員のオフィスパワー等を利用した個別対応による指導も可能である。 			
昨年度からの振り返り	データサイエンスの事例を紹介しながら、“データサイエンスで何ができるか”、や“何が重要なのか”等、大枠について解説する。 また、データサイエンスの分析方法を体感するために、教科書に付属しているプログラムを動作させるなど実習の機会を増やしていく。 解析モデルの説明にあたっては、“数式を読む（解釈する）”ことが手法を使い分ける上で重要性であることを、具体的な例を交えながら解説する。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報系数学応用B					授業形態	講義
授業コード	MIB1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>本科目では、数理論理学や計算理論を中心に、関連する議論も含め、ICT技術を支える中核的な数学的理論の基礎を広く学修する。各理論／概念については具体的な応用先の例もあわせて学ぶことで、理解をより深いものとする。ソフトウェアを形式的に特徴づけたり解析するためには、計算や論理に関する知識が不可欠である。</p> <p>具体的には、集合・論理・関係・写像・代数系・数え上げ・グラフ理論についてその入門的な内容（用語・定義・記法、基本的概念・原理、応用先の例など）を順次学ぶことで、論理的、数理的に課題解決へのアプローチができるようになることを目指す。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数理論理学や計算理論等の基礎知識を修得し、説明できるようになる。 ・上記知識を用い、実際の課題についてソフトウェアを用いて解決する際に、必要に応じて自らより深く調べる手がかりとして、得た知識を課題解決に活用できるようになる。 						
授業計画							
第1回	<p>コース導入 コース全体の概要、授業の進め方を理解する。</p> <p>集合（１） 集合の基礎知識として、集合の定義、集合の数学的表現方法、いろいろな集合とその性質、集合に対する基本的演算などを学ぶ。</p>						
第2回	<p>集合（２） 引き続き集合の基礎知識として、ベン図による複数の集合の間の関係の表現方法、包除原理などを学ぶ。また実課題で用いられている集合の応用事例をいくつか紹介する。</p>						
第3回	<p>論理（１） 論理学の基礎知識として、命題の定義、命題に対する演算としての論理演算、条件付き命題、命題関数／述語などを学ぶ。</p>						
第4回	<p>論理（２） 推論の定義、推論の枠組みにおける必要条件と十分条件、全称記号と存在記号などを学ぶ。また実課題で用いられている論理の応用事例をいくつか紹介する。</p>						
第5回	<p>関係（１） 関係の定義を直積集合から理解する。関係を表現する方法として関係グラフ・隣接行列・有向グラフを学び、関係の合成についても学ぶ。</p>						
第6回	<p>関係（２） 関係の上で定義できる基本的な性質（反射的・対称的・反対称的・推移的）を学び、集合の分割、同値関係、剰余類などを学ぶ。また実課題で用いられている関係の応用事例をいくつか紹介する。</p>						
第7回	<p>写像（１） 写像の定義、単射・全射・全単射・逆写像、写像の合成について学び、鳩の巣原理を理解する。</p>						
第8回	<p>写像（２） 写像の特別な形としての置換、集合の濃度、写像による集合の表現方法などについて学ぶ。また実課題で用いられている写像の応用事例をいくつか紹介する。</p>						
第9回	<p>代数系（１） 代数系の基礎知識として、二項演算および代数系の定義、結合律と交換律、剰余和と剰余積、単位元と逆元などについて学ぶ。</p>						
第10回	<p>代数系（２） 代数系の構造として、半群・モノイド・群について学ぶ。また、群の構造を比較する方法として、準同型写像と同型写像について学ぶ。</p>						
第11回	<p>計算の複雑さ・数え上げ 巡回セールスマン問題や分割問題を紹介し、数え上げの原理を学ぶ。また順列および二項係数について理解する。</p>						
第12回	<p>順序集合から束へ（１） 半順序関係の定義、半順序集合・比較可能・比較不能・全順序集合などについて学び、半順序集合の要素の関係を図式化するハッセ図の描画方法を理解する。</p>						
第13回	<p>順序集合から束へ（２） 最大元・最小元、極大元・極小元、上界と上限・下界と下限、束、分配束と可補束などについて学ぶ。</p>						
第14回	<p>グラフ理論（１） グラフ理論の基礎知識として、グラフの数学的定義、グラフの表現方法として隣接行列・接続行列、特別なグラフとして完全グラフ・正則グラフ・２部グラフ、グラフにおける経路・連結・非連結・閉路などについて学ぶ。</p>						

第15回	グラフ理論（2） グラフの応用事例として、オイラーグラフ、ハミルトン閉路、平面グラフなどを紹介する。			
成績評価の方法	単元ごとの演習課題の内容（10%×8）、定期試験の結果（10%）、受講態度等（10%）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	特に復習によって自分なりに内容を消化することが大切である（30-60分/回） 単元ごとに演習課題に取り組む（30-60分×8単元）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
応用事例とイラストでわかる 離散数学: カンタンな数学で AIも理解できる!?(第2版)	延原 肇	共立出版	978-4320114685	
参考書	「イラストで学ぶ 離散数学」, 伊藤著, KS情報科学専門書, 講談社, 2019			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：対話的な説明/授業進行をすることで、履修者のエンゲージメントが高まりまた理解が深まるように工夫する。			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報系数学応用C					授業形態	講義
授業コード	MIC1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>本科目では、離散数学や情報理論を中心に、関連する議論も含め、ICT技術を支える中核的な数学的理論の基礎を広く学修する。前半では、離散数学の中の一分野である代数学およびグラフ理論について取り上げ、公開鍵暗号やネットワーク解析などの実課題に適用されている手法の原理を学ぶ。後半は情報理論の基礎として、情報量・符号理論などの基礎的内容を理解するとともに、その理論が実際に適用されている事例について学ぶ。授業全体として、例題とその解説によって理解を深めるとともに、各種の課題をICT/情報システムにより解決する場合に求められる数理的考え方や応用力を修練する。</p> <p>なお本科目は、「数学基礎C」および「情報系数学応用B」の内容を理解していることを前提とした発展的な内容となっているため、履修に当たってはこれらの科目を双方とも履修していることが強く望まれる。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離散数学および情報理論の基本知識を修得し、説明できるようになる。 ・ 離散数学や情報理論を中心に数学的発想と論理的思考について学び、実際の課題解決を検討するための能力を獲得する。 						
授業計画							
第1回	<p>コース導入 コース全体の概要、授業の進め方を理解する。</p> <p>代数学の基礎（1） 合同式の基本的な考え方、数学的な定義、数学的な証明の例（ユークリッドの互除法）</p>						
第2回	<p>代数学の基礎（2） 有限体の基本的な考え方、数学的定義、フェルマーの小定理</p>						
第3回	<p>代数学の基礎（3） RSA公開鍵暗号の仕組みを代数学の考え方から理解する</p>						
第4回	<p>グラフ（1） グラフ構造の基本的性質、パス、連結性の基本的な定理、手法の基礎</p>						
第5回	<p>グラフ（2） グラフ理論の問題とその解を求める難しさ（計算複雑性）の尺度について</p>						
第6回	<p>グラフ（3） グラフ彩色問題を事例に、代表的な問題設定とそれに対する代表的な手法の概要</p>						
第7回	<p>グラフ（4） 複雑ネットワークに関する構造の解析と有用性（中心性、スケールフリー性、スモールワールド性、PageRank）</p>						
第8回	<p>情報理論の基礎（1） 情報理論の概要、確率の基礎的な知識の復習</p>						
第9回	<p>情報理論の基礎（2） エントロピーの意味、計算方法</p>						
第10回	<p>情報理論の基礎（3） ダイバージェンスの意味、2つの確率分布間のダイバージェンスの計算方法</p>						
第11回	<p>符号（1） 様々な符号の定義や違い、計算の方法</p>						
第12回	<p>符号（2） 木構造や数直線を用いた語頭符号、クラフトの不等式</p>						
第13回	<p>符号（3） 符号化アルゴリズムの基本的な考え方</p>						
第14回	<p>通信理論 通信路符号化（通信路モデル）、通信路容量、誤り訂正符号など</p>						
第15回	<p>情報理論の応用 情報理論の応用として音声・画像・動画などで用いられている符号化方式、スペクトル拡散通信方式、情報ハイディングなどのセキュリティ技術</p>						

成績評価の方法	単元ごとの演習課題の内容（75%：15%×5通）、定期試験の結果（15%）、受講態度等（10%）により評価する。
準備学修（予習・復習、課題等）	特に、授業内で出された事例・例題を用いて、復習によって自分なりに内容を消化することが大切である。（30-60分／回） 単元ごとに演習課題に取り組む。（30-60分×5単元） また、授業範囲について講義前日に配布されるプリントにより（必要に応じて参考書等も活用して）予習を行うことが望ましい。
教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ◎『情報工学のための離散数学入門』（該当授業：第1～5回） 西野哲朗(著)、若月光夫(著)、グラフィック情報工学ライブラリ、数理工学社、2015年、ISBN：978-4-86481-032-6 ○『初等離散数学』（該当授業：第6回） 秋山仁・占部正承(共著)、新数学入門シリーズ、森北出版、1998年、ISBN：978-4-627-03551-5 ○『ソーシャルメディア論－行動データが解き明かす人間社会と心理－』（該当授業：第7回） 土方嘉徳(著)、サイエンス社、2020年、ISBN：978-4-7819-1486-2 ◎『はじめての情報理論』（該当授業：第8～15回） 小嶋徹也(著)、近代科学社、2011年、ISBN：978-4-7649-0413-2 ○『情報量－情報理論への招待－』（該当授業：第8～13回） 山本宙(著)、コロナ社、2019年、ISBN：978-4-339-02890-4
備考	
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：「数学基礎C」および「情報系数学応用B」の内容を理解していることを前提とした発展的な内容となっていることをシラバスに明記した。また、授業をより一層対話的に進めることで、履修者のエンゲージメントを高め理解が深まるように工夫する。

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	Webシステム演習					授業形態	演習
授業コード	PWS1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	落合 慶広						
授業概要	本授業ではWeb上統合的システムを構築するための知識とスキルの習得を行う。『プログラミングⅠ・Ⅱ』や『ネットワーク技術』で習得した知識やスキルは、WebやAndroid上でのアプリケーション開発やWeb上で使用する様々な業務システムの開発につながるものである。授業内では大規模なWeb統合システムの統合のプロセスを題材に、Webシステムの設計、開発を演習形式で行う。授業内での演習を通じ、自分が実現したいサービスを形にする力を養う。						
授業の目的・到達目標	本授業では、大規模分散型のWeb統合システムを開発する際に用いられる技術、及び、高可用性と事業継続性を考慮した設計方法などを理解すると共に、簡易実装の演習を通じて、実現する力を習得する。						
授業計画							
第1回	HTML（1） （基礎）HTMLを用いたWebページ制作を実施 （発展）Web技術の変遷と現状						
第2回	HTML（2） （基礎）HTMLを用いたWebページ制作を実施 （発展）Webシステムの開発方法とリスク						
第3回	HTML（3） （基礎）HTMLを用いたWebページ制作を実施 （発展）並列分散型Webシステムを設計・構築する際の課題と解決方法						
第4回	CSS（1） （基礎）CSSを用いたデザイン演習を実施 （発展）プロジェクト開発管理ツール～redmine						
第5回	CSS（2） （基礎）CSSを用いたデザイン演習を実施 （発展）負荷分散とセキュリティを考慮したWebシステムの出入口の設計方法						
第6回	CSS（3） （基礎）CSSを用いたデザイン演習を実施 （発展）スマートなWebシステム：テンプレートエンジンの活用						
第7回	データベース（1） （基礎）SQLite3を用いた演習を実施 （発展）RESTによる柔軟な連携						
第8回	データベース（2） （基礎）SQLite3を用いた演習を実施 （発展）分散DB設計：高可用性と分散設計～MySQL・PostgreSQL						
第9回	データベース（3） （基礎）SQLite3を用いた演習を実施 （発展）コミュニティサイト、映像配信サイト等で用いられる高負荷対策技術、						
第10回	Webサイト（1）、PHP（1） （基礎）PHPを用いたデータ入出力の演習を実施 （発展）様々な認証方式とサイト間の連携認証						
第11回	Webサイト（2）、PHP（2） （基礎）PHPを用いたデータ入出力の演習を実施 （発展）Webシステムの動作検証、及び、ボトルネックとパフォーマンス検証方法						
第12回	Webサイト（3）、PHP（3） （基礎）PHPを用いたデータ入出力の演習を実施 （発展）ネット上でのファイルサーバ機能の構築～WebDAV						
第13回	総合演習1 各自が想定する起業/新規ビジネスについて、その企業のサイト、ショップサイトなどのWebシステムを構築します。						

第14回	総合演習 2 各自が想定する起業/新規ビジネスについて、その企業のサイト、ショップサイトなどのWebシステムを構築します。			
第15回	課題発表会と最新動向について			
成績評価の方法	各授業において出題する理解度確認課題（80%）と総合演習課題（20%）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>・ Webシステムを構築するための基本技術(HTML、CSS、PHP、データベース)について演習形式で学びます。</p> <p>・ 授業は講義と演習で構成され、演習ではWebサイトの構築演習をする為、パソコン/ノートパソコン等が必要となります。</p> <p>授業では、OSはWindowsのみを扱います。Macの方は、自身で環境構築ができることを前提として、受講して下さい。</p> <p>各授業、課題では、各自のノートパソコンを使って演習を行うため、chromeブラウザ、PHP、sqliteのインストールを行い環境構築を行います。</p> <p>このために100Mbyte程度のdisk空き容量が必要です。</p> <p>★問題を第三者に公開することは禁止します。(著作権など、いろいろな問題が発生します)</p> <p>★但し、各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。</p> <p>■レポート提出方法</p> <p>・ 本演習では、作成したプログラム(HTML,CSS等)を提出して頂き課題が多くなりますので、ご自身で扱い易い、エディタ、画像編集ソフトなどを ご準備ください。授業の中でも推奨ソフト(無料)をご案内致します。</p> <p>・ 手書きにより作成する場合、レポートの写真(jpegフォーマット,縦×横:480×640pixel)を原則とします。</p> <p>この写真をPowerPointに貼り付ければ、1ファイルに20枚程度の写真を付けられ、圧縮した保存すると、5ファイルまで登録できます。</p> <p>写真はjpeg形式で提出してください。</p> <p>■注意点</p> <p>★問題を第三者に公開することは禁止します。(著作権など、いろいろな問題が発生します)</p> <p>★但し、各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。</p> <p>★他人が作成した回答/プログラムファイルをそのままコピーしたレポート/プログラムファイル、及び、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。(バイナリレベルで比較し、同一かどうかを確認できます)</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
各授業ごとに資料を配布				
参考書				
備考				
昨年度からの振り返り	授業時、課題共に、演習(プログラミング)が中心となります。 最終的には、簡単なWebサイトを構築します(総合演習)。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	インタラクティブ・システムデザイン					授業形態	演習
授業コード	ISD1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐藤 紀行						
授業概要	<p>スマートフォンやPCなどにインストールされたアプリケーションを、ユーザが操作し、コンピュータが応答する。その応答に対してまたユーザが操作を行う（インタラクティブ・システム）。</p> <p>よいアプリケーションは、この相互のやり取りが優れているアプリケーションである。ユーザは違和感無く操作を始めることができ、自然に操作に習熟して、効率よく自分の目的を達成することができるようになる。</p> <p>ユーザとコンピュータの優れたやり取りは、設計と実装によって実現される。開発されたアプリケーションは、テスト・評価され、結果は次のバージョンに反映される。設計・実装・評価の一連の活動は、適切に計画されている必要がある。</p> <p>本講では、ユーザと相互にやりとりするシステムの計画・設計・実装・評価のための知識と技法を、実習を通じて学習する。</p>						
授業の目的・到達目標	個人演習とグループ演習を行い、インタラクティブなシステムの計画・設計・実装・評価を実施する基本的な技法について、知識と技能を身に付ける。						
授業計画							
第1回	<p>インタラクティブシステムの概要</p> <p>身近なインタラクティブを複数あげ、どのようなものが「インタラクティブシステム」に該当するか大まかに理解する。</p> <p>次回までに調査しておくべき対象を伝える</p>						
第2回	<p>システムデザインのためのユーザ調査法と、インタラクティブシステムの要件の整理</p> <p>実在するシステムを題材に、特に対人インターフェースを持つシステムを設計する時の調査と方法について概観する</p>						
第3回	<p>システムデザインのプロセスの全体像とシステムデザインの計画法</p> <p>「システム」をデザインする時に用いられるプロセスをなぞり、システムを作るプロセスを大まかに理解する</p> <p>デザイン思考の考え方</p> <p>システムの設計を行う際に有益な「デザイン思考」について概観し、考え方を理解する</p>						
第4回	<p>インタラクティブシステムの設計(1)</p> <p>Webで使えるコンポーネント について概要を理解する。</p> <p>Web特有の特性（問題点）を理解し、実装方法がデザインに影響を及ぼすことを理解する</p>						
第5回	<p>インタラクティブシステムの設計(2)</p> <p>ユーザ導線の検討</p> <p>利用者の視点でシステムの利用シーンを考え、自身のデザインを評価する方法を理解する</p> <p>ユーザ導線、ユーザ体験の違いによるシステムの評価が左右されることを理解する</p> <p>ワイヤーフレームの制作</p> <p>ユーザ導線を書面に残す手法を理解し、自身のデザインの綻びを確認し、協力者に自身の考えを伝える方法を学ぶ</p>						
第6回	<p>インタラクティブシステムの設計(3-1)</p> <p>インタラクティブシステムの企画を考え、調査すべき項目のリストを作成する</p>						
第7回	<p>インタラクティブシステムの設計(3-2)</p> <p>前回検討したインタラクティブシステムの企画からワイヤーフレームを制作する</p> <p>作成したワイヤーフレームはクラスに公開し、チームメンバーを募る</p>						
第8回	<p>システムのデザイン</p> <p>システムアイデア発表会と、チーム分け</p>						
第9回	<p>インタラクティブシステム実装演習(1)</p> <p>チームでシステムアイデアを検討し、ブラッシュアップする</p>						

第10回	インタラクティブシステム実装演習(1) 要件定義と設計			
第11回	インタラクティブシステム実装演習(2) 実装			
第12回	インタラクティブシステム実装演習(3) 実装			
第13回	インタラクティブシステムの評価			
第14回	インタラクティブシステム実装演習(4) 評価とフィードバックによる改修			
第15回	インタラクティブシステム実装演習(5) 評価			
成績評価の方法	(40%) チーム演習における担当作業の担当範囲と作業成果を加味し、提出物の提出状況と内容を評価する (70%) 講義への参加度・貢献度 (質問、発言など) を評価する。(30%)			
準備学修 (予習・復習、課題等)	講義では主に説明・解説を行う。次回までに指示された調査を行い、課題、あるいは自習で内容を理解しておくこと。 講義の時間内に演習が終わらないときは、次回までに作業を完遂させておくこと。 次の講義では前回の内容を理解していることを前提に講義を進める。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	参考書籍： UXデザインの教科書 安藤昌也著 インタラクティブシステムデザイン ウィリアムM・ニューマン、マイケルG・ラミング著 北島宗雄監訳 (こちらは絶版のようですが、図書館に1冊寄贈してありますのでご参照ください。良い本です。)			
備考				
昨年度からの振り返り	<p>前半ではすでに実用されているシステムについて調査し、検討します。 指定された対象などをできれば実際に操作し、その経験を次の講義にもってきてください。 また、自身の考えたシステムを他者に説明する手法も学びます。</p> <p>後半ではチームでインタラクティブシステムのデザインに取り組みます。 この講義では、自身が興味のあるテーマを実施するチームに所属することが講義内容の理解に有効です。</p> <p>しかし、チームの評価が高いことと、個人の評価が高いことは連動しません。 チームの評価が高くと、そのメンバー個々ではD評価の方が発生します。</p> <p>自身の興味のあるテーマに基づくシステムを他者に説明し、 自身が中心となってチームを集めることに、ぜひとも挑戦してください。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報システムのプロジェクト管理					授業形態	講義
授業コード	PMS1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 敏弘						
授業概要	前半は、プロジェクトマネジメントの国際標準およびデファクトスタンダードの知識体系である「PMBOK(Project Management Body of Knowledge)」を構成する10スキルの概要を学び、プロジェクト管理の基礎を理解する。後半では、実務につながるように、実質的なプロジェクト計画やマネジメントの方法を理解するため、ソフトウェアの開発～テスト～リリースまでの一連の流れにおける、開発工程とテスト工程の対応関係を表したモデルである「V字モデル」や、対応するプロジェクトフェーズ双方向の関連性を確保するために考えだされた「トレーサビリティ・マトリクス」を学び理解を深める。また理論に止まらず、個人特性に基づいたチームビルディング手法やチーム力アップに不可欠なモチベーションアップ手法/ビジネスコミュニケーション等、実際の現場で必ず必要となる実践力を学ぶ。加えて履修生自身の身近なスケジュール例をWBS (Work Breakdown Structure) 化するなどを通して、どのような場面でもプロジェクト管理が有用であることを理解する。						
授業の目的・到達目標	PMBOKを通じてプロジェクトマネジメントの基本的知識を得て、情報システムのプロジェクト管理の基礎を理解することを目的としている。そのために以下の項目ができることを目標とする。 (1)PMBOKを通じて、プロジェクトのライフサイクルと運営のしくみを理解する (2)WBSをベースとしたプロジェクト計画書を作成することができる (3)V字モデルやトレーサビリティ・マトリクスを学び、プロジェクトの品質管理をシンプルに確実にこなせるようになる また当講義は、プロジェクト管理の理論に止まらず、実際にプロジェクトを推進する際に必須となるチームビルディングが実践できるように、「自分の強み診断」「モチベーションアップ手法」「ビジネスコミュニケーション」などのチーム力を高めるための実践力についても、演習を通じて理解することを目標とする。						
授業計画							
第1回	(1) プロジェクト管理とは プロジェクト管理とは何か、どのようなことを考えなければいけないのか、プロジェクトを成功に導くためには何が必要なのかのポイントを理解することにより、次回以降に学ぶ学習内容の前提知識を身に付けます。						
第2回	(2) PMBOKとは (1) PMBOK (Project Management Body of Knowledge : ピンボック) を構成する10の知識エリア、「品質管理」、「原価管理」、「スケジュール管理」、「スコープ管理」、「要員管理」、「コミュニケーション管理」、「リスク管理」、「調達管理」、「ステークホルダー管理」、「統合管理」とは何かについて学びます。						
第3回	(3) PMBOKとは (2) 「立ち上げ」、「計画」、「実行」、「監視・管理」、「終結」という5つに分割されたプロセスについて学び、知識エリアとのマトリクスによって、どのプロセスで何を作成・管理すべきについて学びます。						
第4回	(4) PMBOKとは (3) PMBOKで定義されている、「入力」、「ツールと実践技法」、「出力」という3つのパートを学び、知識エリアとプロセスとの関連性についての理解を深めます。						
第5回	(5) プロジェクト・フェーズ プロジェクトでは、「要件定義」から「システムテスト」まで複数のフェーズがあります。各フェーズでどのようなことを実施するのかについて学びます。						
第6回	(6) プロジェクトスケジュール PMBOKの知識エリアである「プロジェクト・スケジュール・マネジメント」の計画プロセス群に含まれる「アクティビティの順序設定」「アクティビティ所要時間の見積」「スケジュールの作成」の3つのプロセスを中心に説明を行い、プロジェクトスケジュールが作成できるようになることを目標とします。						
第7回	(7) スケジュールの作成 プロジェクトスケジュールの様々な技法を学び、その技法を利用して身近な例でスケジュールを作成する演習を行います。						
第8回	(8) プロジェクトスコープからのWBS (ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー) スコープとして定義された成果物を、その構成要素単位で詳細化、細分化した結果を木 (ツリー) 構造で表した、WBS (Work Breakdown Structure) について学びます。						
第9回	(9) WBS演習 履修生の身近にある計画 (プロジェクト) について、WBS化する演習を実施することでWBSの理解を深めます。						
第10回	(10) マスタースケジュール マスタースケジュールとは、プロジェクト全体の流れが最初から最後まで分かる主要な工程表のことです。プロジェクト規模が大きくなればなるほど、各パートの進捗は細分化されるため、全体感を常に把握しておくことが重要になります。マスタースケジュールを理解することで、プロジェクト全体が進む中で、今どこに立ち位置があるのかを確認することが出来るようになります。						
第11回	(11) マスタースケジュール作成演習 マスタースケジュール作成の順序を学び、自身の例をもとにしたマスタースケジュール作成の演習を実施して理解を深めます。						

第12回	(12) 要員計画とコスト管理 プロジェクトで重要となるコスト見積もりの手法を学びます。また要員計画におけるリソースヒストグラムと山崩しとは何かを学び、プロジェクトにおけるコスト管理を理解します。			
第13回	(13) 要員管理とモチベーション プロジェクトメンバーのモチベーションをアップさせることは、プロジェクトのチーム力アップに繋がります。モチベーション理論を学ぶことにより、メンバーが一丸となって共通のゴールに向かってチャレンジするチームビルディングを論理的に実現できるようになります。			
第14回	(14) プロジェクトにおける追跡可能性 上位要件と下位要件との追跡可能性や、要件と下流の作業成果物との追跡可能性を格子表（マトリクス）に整理した「トレーサビリティ・マトリクス」について学びます。			
第15回	(15) 成功裏に導くプロジェクト管理 プロジェクト管理においては、理論を学ぶことはもちろんであるが、それだけではプロジェクトを成功裏には導けません。多くのプロジェクト開発関連の裁判において問題とされる「プロジェクトマネジメント義務違反」について、判例に基づく検証から、プロジェクト管理の重要性を理解し、当講義で学んだことを実践で活かす必要性を理解します。			
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて 定期試験に準じた最終レポートを提出して頂きます。 (2) 試験以外の評価方法 毎回の講義時に提出する提出物（授業内容確認小レポート）、および演習内容・発表により評価をします。 (3) 成績の配分・評価基準等 最終レポートの評価に加え、毎回の授業時に提出する小レポートや授業への貢献度、および演習発表などを下記の割合で判断して評価します。 (最終レポート50%、授業への貢献度30%（毎回の授業時に課す小レポート）、授業時演習課題の成果物および発表20%）			
準備学修（予習・復習、課題等）	(予習) 次回講義内容について、インターネットや参考資料などを利用して、調査しておくこと。また自身の特性診断などを予め実施しておく場合あり。(標準学習時間：1時間) (復習) 講義内容を復習して、確認しておくこと。また演習や分析作業の講義後には、次回講義時に発表できるための資料準備。(標準学習時間：1時間)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ITエンジニアのためのプロジェクトマネジメント入門」、飯尾淳 他、ISBN-9784274225925 ・「モチベーション3.0」、ダニエル・ピンク(著)、大前研一(翻訳)、ISBN-4062144492 ・「さあ、才能（じぶん）に目覚めよう〈ストレンダス・ファインダー2.0〉」、トム・ラス(著)、古屋博子(翻訳)、ISBN - 9784532321437 ・「図解入門よくわかる 最新PMBOK第6版の基本」、鈴木安而、ISBN-9784798053561 ・「実務で役立つWBS入門」、Gregory T. Haugan (著)、伊藤衡(翻訳)、ISBN-4798108499 			
備考				
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は難しかったが、有意義な授業であったとの声が多かったので、授業レベルは維持していきたい。 ・演習が多かったので理解が深まったとのコメントも多くあるので、座学で学んだ内容を演習で確認し、理解を深めるといった講義形態は継続していきたいと思います。 ・また、演習の理解を深めるために、授業の最初の段階より、履修生自身のケースを意識して実施してもらえるように進めていきます。 			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報技術演習II					授業形態	演習
授業コード	IT21310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	鎌谷 修						
授業概要	少人数グループ毎に、実際の社会課題及びサービス事例の調査を行い、新たなサービス事例の企画立案、検討を行う。検討結果から、ユースケースの議論及び、要求条件の明確化を行い、業務フローや機能一覧、ネットワーク構成等の基本設計と、機能設計やデータベース設計等の詳細設計を作成する。ユーザアプリケーション及びサーバアプリケーションを実際に構築し、情報ネットワーク統合システムの基本的な動作検証までの演習を行う。グループ毎に動作検証結果の中間報告を行い、改善点について議論し、基本設計・詳細設計の改訂を行う。最終的に得られたサービスの検証を行い、グループ毎に最終報告を行い、演習全体を総括する。						
授業の目的・到達目標	社会課題を解決するためのサービス検討、ユースケース及び要求条件検討を通じた、情報ネットワークアーキテクチャの全体像の実践的な理解と、演習による実際の動作実証。サービス導入までのプロジェクト管理と進捗確認によるフィードバックを演習することによる、実践的なプロジェクトマネジメントスキルの習得。						
授業計画							
第1回	授業の概要と目的、演習の進め方、動作検証環境についての説明。検証用アカウント作成と基本動作確認(1)						
第2回	検証用アカウント作成と基本動作確認(2)						
第3回	実際の社会課題、サービス事例の調査(1)						
第4回	実際の社会課題、サービス事例の調査(2)						
第5回	プロジェクト計画の策定(1)						
第6回	プロジェクト計画の策定(2)						
第7回	プロジェクト計画についての、中間発表会を実施する。						
第8回	プロジェクト修正計画の策定						
第9回	プロジェクト計画の実施と動作確認(1)						
第10回	プロジェクト計画の実施と動作確認(2)						
第11回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成(1)						
第12回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成(2)						
第13回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成(3) 評価結果についての発表会を実施する。						
第14回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成(4) 評価結果についての発表会を実施する。						
第15回	まとめと振り返り						
成績評価の方法	前半及び後半で設定されるレポートの提出状況とその内容（100%） レポートの記述が論理的に行われているか。 講義内容を反映した内容となっているか。 自身の考え、新たな視点を盛り込んだ内容となっているか。 参考文献のリストをつけているか。						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：1時間） ・Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：1時間） ・各授業で示した参考文献、Webサイト等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	参考文献： 適宜、参考となる文献やWebサイト等を指示する。						
備考							

昨年度からの 振り返り	
----------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ソフトウェアプロセスと品質					授業形態	講義
授業コード	PQS1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	寺脇 由紀						
授業概要	ソフトウェアのもつ独特の性質、ソフトウェア開発のライフサイクルモデル、品質の概念についてソフトウェア工学、および、ソフトウェア開発の発展の歴史を通して学ぶ。歴史や概念をはっきりと定義した上で、ソフトウェア品質に関する現行規格に対して理解を深め、プログラムの構造設計・開発工程において、プログラムの品質を確保するためのレビュー技術とテスト技術の基本的な技術を学習する。						
授業の目的・到達目標	ソフトウェアのもつ独特の性質に着目し、それを作るプロセスや手法を学ぶ。さらには、ソフトウェア品質に対する変遷を学び、高品質なソフトウェアを開発するための考え方を説明できるようになり、各種技法を使えるようになる。						
授業計画							
第1回	ソフトウェアの品質管理： ソフトウェアの品質問題とその影響について学ぶ						
第2回	ソフトウェアの品質： ソフトウェアの品質に対する考え方の変遷を概説する。また、ISO/IEC25010システム・ソフトウェアの品質を参照しながら、ソフトウェア品質を理解する。						
第3回	ソフトウェアの開発工程と品質管理： ソフトウェア開発工程と個々の工程での品質向上について理解する						
第4回	レビュー技術(1)： プログラム開発におけるレビューの役割および分類について理解する。						
第5回	レビュー技術(2)： レビューの計画、準備、実施について理解する。						
第6回	レビュー技術(3)： 例題をもとにレビュー演習を行う。						
第7回	テスト技術： ソフトウェア開発におけるテストの目的、テストの種類、テストのタイプについて学ぶ						
第8回	構造ベース技法： 構造ベース技法（ホワイトボックス）を学び、制御パステストの演習を行う。						
第9回	仕様ベース技法(1)： 仕様ベース技法（ブラックボックス）について学び、仕様ベース技法のメリット・デメリットを理解する。						
第10回	仕様ベース技法(2)： 同値分割・境界値分析について学び、演習を行う。						
第11回	仕様ベース技法(3)： デシジョンテーブル・状態遷移テストについて学び、演習を行う。						
第12回	プログラム開発におけるテスト作業： プログラム開発におけるテストの計画、準備、実施について学ぶ。						
第13回	プログラムの品質評価： プログラムの品質評価について学び、評価の手順と観点を理解する。						
第14回	品質データの分析： P-B曲線、また、QCの手法を説明する。レビューおよびテストの結果の分析について理解する。						
第15回	評価結果に対する処置： テスト結果の合格基準や作業改善について学ぶ。						
成績評価の方法	授業への取り組み態度（20%）、授業中に行う小テスト（30%）、課題・レポート（50%）として評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回の授業につき、30分から60分の自宅学習が必要である。 演習について、授業内で演習時間を十分に確保できない回は、授業外（自宅学習）で演習を完了させ提出する。 もし授業や演習に遅れた場合は、毎週配布する教材を各自で復習し、次回授業までにキャッチアップすること。						

教科書

参考書	SQuBOK策定部会編, ソフトウェア品質知識体系ガイドーSQuBOK Guide, 株式会社オーム社, 2007, ISBN 978-4-274-50162-3. ISO/IEC25010:2011- Systems and software engineering Systems and Software Quality Requirements and Evaluation(SQuaRE) - System and Software Quality Models.
備考	教科書は, 教員の作成する教材にて進める。 授業では, 講義だけでなく演習に取り組む。技法の性質に合わせて, 個人演習, ペア演習, グループ演習を行う。 毎回の授業でノートパソコンを持参すること。
昨年度からの振り返り	授業時間中に行う演習に好評をいただきました。今年度もレビューやテストの技法をなるべく平易な事例で示していきますので, 学生各位にて積極的に手を動かしてください。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	モデル化と要求開発					授業形態	講義
授業コード	MRD1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	寺脇 由紀						
授業概要	<p>要求開発とは、顧客の「要求」を「開発」することを意味する。ソフトウェアシステム開発は、顧客の要求をインプットとして、ソフトウェアとしてアウトプットすることと理解できるが、最初のインプットが誤っていると、顧客の満足は得られない。</p> <p>要求開発をするプロセスは、要求獲得、要求記述、要求検証、要求管理である。本講義では、要求定義のプロセスを理解し、さらには、要求獲得、要求記述、要求検証を対象とし、ステークホルダの特定に始まり、構造化分析および、UMLを用いた要求仕様化の方法と手法を学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>要求工学の取り組みを理解する。 要求を定義するプロセスを理解する。 平易な事例に基づき、要求仕様化の各種手法を扱えるようになる。</p>						
授業計画							
第1回	ソフトウェア開発の歴史： 大規模ソフトウェア開発の歴史を巡り、その歴史の中ででてきた問題を考察する。						
第2回	ソフトウェア工学と要求工学： 大規模ソフトウェア開発の歴史を踏まえ、ソフトウェア開発の課題とソフトウェア工学および、要求工学の取り組みを理解する。						
第3回	ソフトウェアプロセスモデル： 代表的なソフトウェアのライフサイクルモデルを説明し、各ソフトウェアプロセスモデルにおける特徴を理解する。						
第4回	ソフトウェア開発における手戻り： 各ソフトウェアプロセスモデルの特徴を踏まえ、ソフトウェア開発における手戻りについて考察する。						
第5回	要求定義： 要求定義について外観し、要求と仕様について理解する。						
第6回	要求定義プロセス： IEEE, SQuaRE シリーズなどの標準規格を参照し、要求定義のプロセスとプロダクトを理解する。						
第7回	要求獲得(1)： 要求抽出のための各種技法を外観し、要求工学と、経営学、心理学、など周辺領域との関わりを理解する。						
第8回	要求獲得(2)： 抽出した要求の合意形成や意思決定の手法を理解する。						
第9回	要求獲得(3)： 合意形成や意思決定のための各種手法を用いた演習を行う。						
第10回	要求仕様化技法(1)： 構造化分析を説明し、演習を行う。						
第11回	要求仕様化技法(2)： オブジェクト指向分析を説明する。						
第12回	UML(1)： 静的な側面を表現するモデル表現について理解する。						
第13回	UML(2)： 動的な側面を表現するモデル表現について理解し、演習を行う。						
第14回	UML(3)： 状態を表すモデル表現について理解し、演習を行う。						
第15回	総括： 学んだ内容を総括し総合解説を行う。						
成績評価の方法	授業への取り組み態度（20%）、授業中に行う小テスト（30%）、課題・レポート（50%）として評価する。						
準備学修（予習・復習、課	毎回の授業につき、30分から60分の自宅学習（予習・復習）を標準とします。 授業中に行う演習等に遅れた場合は、配布した教材を各自で復習し、次回授業までにキャッチアップすること。						

題等)	
	教科書
参考書	lan Sommerville, Software Engineering 10th ed., Pearson, 2015 (ISBN-10: 0133943038). ISO/IEC25010:2011- Systems and software engineering Systems and Software Quality Requirements and Evaluation(SQuaRE) - System and Software Quality Models IEEE, Recommended Practice for Software Requirements Specifications. Std 830-1998, 1998.
備考	教科書は、教員の作成する教材にて進める。 技法の性質に合わせて、個人演習、ペア演習、グループ演習を行う。毎回の授業でノートパソコンを持参すること。
昨年度からの振り返り	例題に基づいてモデル表現を実践していく形式に好評をいただきました。 今年度も、講義によって知識を吸収するだけでなく、事例に基づいて要求仕様を実際にモデル化していきたいと思います。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業
授業名	システムインテグレーション					授業形態	演習
授業コード	SIT1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 敏弘、桐谷 恵介						
授業概要	<p>情報システムを構築するサービスを行うにあたり、要件定義や設計、開発、保守運用を行うITコンサルティングの一連の流れを理解するとともに、失敗事例やリスク事例などを学ぶことで、情報システムを通じ、ビジネスに貢献していくことを目指す。</p> <p>前半では、過去の情報システムの失敗例や大規模障害事例などを通じ、成功のために何を注意しなければならないかについて学ぶ。また社会やビジネスモデルの変革に影響を与えた情報システム事例などを通じて、情報システムが社会に与える影響について学ぶ。後半では、ビジネスに役立つITシステムを導入するために発注者側と受注者側が何をすべきか理解する。実践的なプロジェクトマネジメント体系を用いて、経営に役立つITシステムを企画・計画し、プロジェクトの実践を通して、成功に導いていく方法について学んでいく。</p> <p>情報システムの導入、活用、改善に向けて、発注者側と受注者側の双方にメリットを生み出しビジネスに貢献していくことを目指す。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>情報技術分野におけるシステムインテグレーションとは、「異なるコンピューティングシステムとソフトウェアアプリケーションを物理的または機能的に接続し、1つの連携したシステムとして振る舞わせるプロセスである」と定義されている。しかし、システムインテグレーション・プロジェクトの約半数が失敗であるとの調査報告もあり、インターネットで接続された現代の世界では、システムインテグレーション担当者の役割は重要である。</p> <p>当講義では、受注側のシステム専門家だけでなく、発注側の立場であっても必要な、下記の内容を理解することを目標としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの開発・構築を行う際のリスクやプロジェクトの失敗例を学び、分析することで、成功に導くために必要な検討項目を理解する ・問題の洗い出しから課題のまとめ、施策の立案方法について理解する ・システムの企画から設計、開発、運用、保守までの流れについて理解する ・事業価値をあげるITシステムの活用方法。特に新しい技術（AIやIoT技術など）をどのように取り入れていくかを理解する。 						
授業計画							
第1回	(1) ガイダンス システムインテグレーションとは、ITシステムとプロジェクトマネジメントの視点より学びます。						
第2回	(2) 要件分析入門 要求から要件への変換、機能要件と非機能要件とは何かを学びます。						
第3回	(3) システム構想策定プロセスとは システム構築の超上流工程の進め方について、その意義と進め方、成果物例を学びます。 またシステム構築ロードマップに関して、上流工程の成果物としてのロードマップの意義と作成方法について学びます。						
第4回	(4) 要件定義の重要性 システム開発プロジェクトの失敗と要件定義のポイントについて学びます。						
第5回	(5) 情報システムの失敗 情報システムトラブルの三大リスク（システム開発失敗、セキュリティ、システムダウン）から、失敗の理由を学びます。						
第6回	(6) システム開発の失敗とは 機能要件が実現されない点が、プロジェクトの失敗に直結することを学びます。						
第7回	(7) 非機能要件から見るリスク管理 非機能要件項目から、大規模なシステムダウンや事業継続等に関するリスク管理を考えられるようになります。						
第8回	(8) 新たな脅威「セキュリティ視点」での対策とその検討 サイバー攻撃によるセキュリティ被害を想定した、リスクと注意点について学びます。						
第9回	(9) 社会やビジネスモデルの変革に影響を与えた情報システム事例 ビジネスモデルとは何か、社会を変えたIT技術とはどのようなものであったのかを、講師が経験した事例を通じて学びます。						
第10回	(10) まとめ① レポート作成演習 失敗事例の調査とシステム開発の際に注意すべき点、およびその対応方法について、レポートを作成し、提出してもらいます。						
第11回	(11) 要求定義（RFP）の作り方 業務要件のまとめ方、およびRFP（Request for Proposal：提案依頼書）で伝えるポイントについて学びます。						
第12回	(12) 発注側の要求定義(RFP)の作成（演習） 新ビジネス構想や課題対策シートから要求仕様書（RFP）を作成する流れと実際に要求仕様書を作成するワークを行います。						
第13回	(13) 提案書の作り方 受注者側が要求定義書(RFP)を受け取った後、どのようにして提案書を作成していくのか、構成、ドキュメント形式、書くべき内容など提案書の作り方を具体的に学びます。						

第14回	(14) 提案書作成の実務（演習） RFPから提案書を作成する流れを、具体的なサンプルをもとに提案書として作成する演習・ワークを行いません。
第15回	(15) まとめ② これまでの学習を踏まえた提案依頼書(RFP)、提案書の発表、講評を行いません。
成績評価の方法	下記の割合で評価します。 ・まとめ①および②での課題、レポート提出。(70%、(まとめ①30%、まとめ②40%)) ・毎回の講義時に提出する授業内容確認小レポートによる評価(30%)。
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：次回講義内容に関する事例を参考資料などを利用して事前に調査する 復習：授業内で完了しなかった課題については次回発表できるよう準備する。 (各回1時間程度)
教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『動かないコンピュータ ～情報システムに見る失敗の研究～』 日経コンピュータ、日経BP社、2002年 ・『イノベーションを確実に遂行する 実践プログラムマネジメント』 吉田 邦夫 (著), 山本 秀男 (著) 日刊工業新聞社、2014年 ・『100の失敗事例に学ぶ！！ ITプロジェクトの危険予知訓練』 青島弘幸 (著)、ソフト・リサーチ・センター、2009年 ・『プロジェクトのトラブル解決大全』 木部智之 (著)、KADOKAWA、2022年
備考	
昨年度からの振り返り	二人の教員で担当するので、実務に基づいた話が聞けてお得であるとのコメントもありましたので、二人の教員でより連携して授業を進めるようにしていきます。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	クラウド					授業形態	演習
授業コード	CLS1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	菊地 祥由						
授業概要	<p>近年のシステム開発の現場では、一般にクラウド技術が利用されるようになってきた。本講義では、クラウドに関する基本的な知識を修得する。また、大手クラウドサービス事業者のサービスを実際に利用・操作して、その基本スキルを学び、システムの実装を行う。具体的には、クラウドの分類、ネットワーク構成、クラウドサーバー・ストレージ・データベースの管理や運用、セキュリティ、負荷分散技術などについて、各テーマごとに知識の習得と演習を行い、スキルを習得する。あわせて、発展・機能追加の早い分野であることから、新たな技術動向についても適宜解説し、クラウド上で実現されている機能の利用やクラウドの果たす役割や可能性について考え、実装できるようになる。</p>						
授業の目的・到達目標	クラウドコンピューティングの概論とビジネスにおける活用方法を学ぶ。非エンジニアとして、エンジニアとシステム開発のディスカッションができる水準を目標とする。						
授業計画							
第1回	授業ガイダンス クラウドコンピューティングとは何か						
第2回	ビジネスから見るクラウドコンピューティング①						
第3回	ビジネスから見るクラウドコンピューティング②						
第4回	大手クラウドサービスについて クラウドコンピューティング実践①						
第5回	クラウドサーバーとストレージ						
第6回	クラウドコンピューティング実践②						
第7回	データベースとビジネスの歴史						
第8回	クラウドコンピューティング実践 DB						
第9回	データベース構築概論と活用事例						
第10回	クラウドコンピューティング実践③						
第11回	分散化技術概論 -ブロックチェーンの基礎と活用事例-						
第12回	クラウドコンピューティング技術動向						
第13回	日本企業とクラウドコンピューティング						
第14回	クラウドコンピューティング実践④						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	講義への参加状況を含む平常点、及び各講義後に提出する簡易レポート（50%）、及び期末レポート（50%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	事前の予習は要求しない。 講義後は扱った内容について復習するとともに、簡易レポートに取り組むこと。						
教科書							
書名	著者	出版社			ISBN	備考	
指定なし							
参考書	特に設定しない。講義資料で包括できる範囲とする。						
備考	課題（簡易レポート）についても講義中の実践を通して一定程度包括できる範囲にする予定であり、講義に集中して臨めば講義外学習の負担が重くならないよう配慮する。						
昨年度からの振り返り	昨年度のフィードバックを踏まえて、実践や生徒間でのディスカッションをやや増加させる予定である。						

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	ビッグデータ					授業形態	演習
授業コード	BDP1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	加藤 直人、落合 慶広						
授業概要	近年、コンピュータ、センサー、機器類が生成するデータの種類、量が爆発的に増大しており、今までのデータ管理ツールでは取り扱うことが困難な規模のデータ（ビッグデータ）になっている。こうしたビッグデータに潜む解析対象（人の行動、環境、社会現象）の傾向や異種データ間の関係性を洗い出すことにより、従来では発見できなかった知見を見出し、新たな学問領域やビジネスを開拓できる可能性がある。本授業では、こうしたビッグデータ解析に関する基本的な知識や解析技術等を修得する。ビッグデータには、ICカードやGPSデータなどのような数値データ、SNSなどからの言語データに大別されるので、それぞれについてその処理技術を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ解析の一連の処理、データ収集→解析・可視化→結果の解釈における基本的なデータの取り扱い方法や解析手法・手順を理解する。 ・ビッグデータ解析特有の問題点や、これを解決する方法・技術などについて理解する。 ・様々な分野の多種多様なデータを適切に取り扱う方法を習得する。 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ解析を可能にするための解析環境を構築できるようになる。 ・適切な解析技術の適用方法を選択し、的確に結果の吟味ができるようになる。 ・新しい知見を発見ができるようになる。 						
授業計画							
第1回	オリエンテーション 講義の進め方など						
第2回	テキストビッグデータとは 文字コード、コーパス						
第3回	テキストビッグデータの解析 形態素解析						
第4回	テキストビッグデータの解析 構文解析						
第5回	テキストビッグデータの解析 Rによるテキスト解析						
第6回	テキストビッグデータの解析 テキスト分類、重要文抽出、tfidfなど						
第7回	テキストビッグデータの解析 テキストマイニングの事例紹介。データジャーナリズム、評判分析など						
第8回	テキストビッグデータのまとめ						
第9回	構造化ビッグデータの解析 世の中の課題と構造化ビッグデータ、データ分析環境構築						
第10回	構造化ビッグデータの解析 データ入出力、基本統計量と求め方、データの可視化						
第11回	構造化ビッグデータの解析 2変数間の特徴を捉える。相関分析など。						
第12回	構造化ビッグデータの解析 線形回帰分析。単回帰分析、重回帰分析。						
第13回	構造化ビッグデータの解析 主成分分析						
第14回	構造化ビッグデータの解析 因子分析						
第15回	ビッグデータまとめ テキストマイニング、データマイニング。						

成績評価の方法	各授業において出題する下記により評価する ・理解度確認課題（70%） ・課題レポート（30%）			
準備学修（予習・復習、課題等）	授業で、各種ツール類を利用する為、Linux/Windows/MacOSの取扱いに慣れていることが望ましい。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布				
参考書	黒橋禎夫著「自然言語処理〔改訂版〕（放送大学教材）」NHK出版 奥村学著「自然言語処理の基礎」コロナ社 西内啓著「統計学が最強の学問である」ダイヤモンド社 北川源四郎ら編著「教養としてのデータサイエンス」講談社			
備考				
昨年度からの振り返り	データによる演習を中心に、その分析の手法や意義について講義を行う。			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	IoT					授業形態	演習
授業コード	IOT1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐藤 紀行						
授業概要	IoT (Internet of Things) は身近なものをインターネットとつなげ、新たなサービスやシステムを生み出す仕組みを指す。IoTを通じ、新たなサービスやシステムを生み出すためには、データベース、ネットワーク、ソフトウェアなど、本学で学ぶ情報通信技術に関する様々な知識とスキルが必要となる。本科目では、ユーザアプリケーションからサーバシステムまでを対象としたIoTシステムの全体アーキテクチャを理解し、演習による基本動作検証の体験を通じて、IoTに関する基本的なスキルを習得する。国際標準に準拠したIoTシステムを構築するための組み込みコンピュータ、各種センサ、アクチュエータの制御手法について理解し、与えられた要求条件を満たすためのIoTシステムの構築について演習を行う。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際標準に準拠したIoTアーキテクチャ全体像の理解と演習による実際の動作実証。 ・ 与えられた要求条件を元にしたIoTシステム設計スキルの習得。 ・ 組み込みコンピュータ、各種センサ、アクチュエータの制御手法の理解。 ・ 演習による実際の動作検証の手法を身に付ける。 						
授業計画							
第1回	<p>テーマ：IoTでなにができるか。</p> <p>IoT、と呼ばれるいくつかの物品の実例に基づき、IoTでなにができるようになるのか考える。</p> <p>課題：</p> <p>IoT事例を3例あげ、そのうち1例について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用シーン 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） ・ 動作の模式図 ・ それにより解決した課題 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） <p>を翌週までにまとめる</p>						
第2回	<p>テーマ：IoTの実例と、機能性による分類</p> <p>機能、役割の複雑性による分類 RFID、FeliCa、Bluetoothビーコン Arduino、M5Stack、RaspberryPi</p> <p>機能による分類 センサー センサーコントローラー データ収集サービス、データ分析機構</p> <p>課題：</p> <p>第1回目で調べた例で使われている通信路について調べ、翌週までにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） ・ なぜ採用されたか 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） ・ あなたが調べた事例以外での採用例1件 						
第3回	<p>テーマ：IoT機器がなにをインターネットに送り出すのか、どうやってそれを送り出すのか（センサーと通信）</p> <p>通信路 有線/無線/無線マルチホップ 短距離：I2C、SPI 中距離：RS232/422/423/485、Ether、WiFi、Bluetooth 長距離：携帯網、Wi-SUN</p> <p>センサー 接触式、非接触式 明るさ、温度、湿度、風向風量、各種ガス濃度 電界、磁界、放射線、接触、 加速度、気圧</p> <p>課題：</p> <p>第1回目で調べた例で使われているセンサーについて調べ、翌週までにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） ・ 動作機序 300文字以上（おおむねXで2ポスト程度） ・ あなたが調べた事例以外での採用例1件 						

第4回	<p>企画・予備調査</p> <p>IoT関連で製品企画を行う。 需要・技術・市場価値などから総合的に調査、検討を行い、製品企画にまとめる</p> <p>課題： 企画概要：150文字程度（おおむねXで1ポスト程度） 企画説明：600文字程度（おおむねXで4ポスト程度）</p>
第5回	<p>発表・予備調査・チーム勧誘</p> <p>企画概要を発表し、チームに人を勧誘し、チームビルドをおこなう。 チームの参加者の適正に合わせ、企画をブラッシュアップすること。</p> <p>課題： 予備調査：最低4機能各300文字（おおむねXで8ポスト程度）</p>
第6回	<p>設計レビュー・チーム決定</p> <p>第5回で作った企画と予備調査から設計を行う。 方針が決まったチームから技術レビューを受けること。</p> <p>課題： 設計：動作のフローがわかること。</p>
第7回	<p>詳細設計・担当範囲決定</p> <p>第6回のレビューをもとに、詳細な設計を行う。 設計が終わり次第、チームメンバーで責任分担を決定し、スケジュール表を作成する。</p> <p>設計書を制作し、それには必ず試験項目表を含むこと。</p> <p>課題： 前回作ったフローの各部分で使う機能について、 自身が担当する部分、それぞれの機能について300文字程度の調査を行うこと。 課題はチームで1つで構わない。ただし、担当分に署名を行うこと。</p>
第8回	<p>制作</p> <p>各自担当範囲の実装を行う。 試験項目表に共付き、設計仕様を満たしていることを確認する</p> <p>講義中課題： 制作スケジュールを各機能毎に列挙し、スケジュール予想をたてること。 各スケジュールの担当者がわかるように明記すること。</p> <p>課題： 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告をおこなうこと。</p>
第9回	<p>制作</p> <p>各自担当範囲の実装を行い、チームメンバー担当部分との結合を行う。 試験項目表に共付き、設計仕様を満たしていることを確認する</p> <p>課題： 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告をおこなうこと。</p>
第10回	<p>制作</p> <p>結合時の不具合を改修し、完成を目指す 試験項目表に共付き、設計仕様を満たしていることを確認する</p> <p>課題： 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告をおこなうこと。</p>
第11回	<p>制作</p> <p>結合後の制作物の不具合を修正し、試験項目表に共付き、設計仕様を満たしていることを確認する 制作物を完成させる</p>

	<p>課題： 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告をおこなうこと。</p>
第12回	<p>発表資料作成</p> <p>企画についての発表資料を制作する。</p> <p>課題： 発表資料はパワーポイント、グーグルスライド等で作成すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要：1ページ ・解決する課題：1ページ ・期待される利益：1ページ（計算根拠を示すこと） ・予想される制作コスト：1ページ（計算根拠を示すこと） ・設計の概要：1ページ ・各人の担当範囲と技術課題：各人1ページ
第13回	<p>発表</p> <p>講義中課題： 他チームの発表を見て、懸念点を指摘する：各チームに150文字以上</p>
第14回	<p>改善</p> <p>講義中課題： 先週受け取った懸念点への回答を行う</p> <p>課題： 振り返り資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画概要：1ページ ・制作実態報告：1ページ ・企画の不備：1ページ ・技術的課題：1ページ ・企画の改善すべき点のまとめ：1ページ ・ほんとうに儲かるか？なにか改善するのか？：1ページ
第15回	<p>振り返り</p> <p>前回課題を発表すること。</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課す課題の内容を持って評価する。 ・制作物の完成度により、評価を上方に修正する。 ・グループワークでも個々個人を別に評価する。
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>講義中に課題を提示します。</p> <p>この課題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌週はその課題を行ってきた前提で講義を進めます。 ・成績評価の根拠とします。 <p>ですので、課題には真剣に取り組んでください。</p>
教科書	
参考書	
備考	
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更となっているため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	スーパーコンピュータ					授業形態	演習
授業コード	SCP1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	堀田 耕一郎						
授業概要	<p>スーパーコンピュータは主として科学技術計算用途に活用される、高速計算が可能なコンピュータであり、「同時代のコンピュータに比べてはるかに高速」なコンピュータというあいまいな定義が与えられている。本講義では、スーパーコンピュータシステムの構成（アーキテクチャ）と活用についての二つの課題について考える。</p> <p>第一の課題はこのスーパーコンピュータの高速演算の方式である。高速演算をするには、計算を並列に実行することで高性能を引き出すアーキテクチャが一般的である。</p> <p>第二の課題はスーパーコンピュータを活用するプログラム開発の手法となる。単に高速計算ができて、実際に、人の生活に貢献できる用途を考える。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>スーパーコンピュータは通常のコンピュータと比べて、使いこなしてハードウェアの持つ能力を十分に引き出すことが難しい。スーパーコンピュータの構成を理解することによって、スーパーコンピュータと通常のコンピュータを比較し、スーパーコンピュータの特徴的な構成を理解することによって、ハードウェアの持つ能力を十分に引き出すための知識を獲得する。</p>						
授業計画							
第1回	スーパーコンピュータの定義と歴史						
第2回	コンピュータアーキテクチャと計算速度						
第3回	ベクトル処理と並列処理						
第4回	スーパーコンピュータのシステム構成						
第5回	並列処理アーキテクチャ						
第6回	スーパーコンピュータの通信機能とインターコネクト						
第7回	スーパーコンピュータの活用（1）プログラミング手法						
第8回	スーパーコンピュータの活用（2）並列プログラミング						
第9回	スーパーコンピュータの活用（3）並列プログラミング言語						
第10回	スーパーコンピュータの活用（4）プログラムのチューニング						
第11回	性能評価の方法						
第12回	性能向上の壁（1）スケーリング、消費電力						
第13回	性能向上の壁（2）信頼性の壁						
第14回	性能向上の壁（3）プログラミングの壁						
第15回	さらなる進歩						
成績評価の方法	<p>期末の成果物とその評価 1/3 講義中に行うミニテスト 1/3 各回の課題の提出状況とその内容の評価、講義への貢献 1/3</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>講義毎に復習中心の簡単な課題を提示するので、次の講義までに回答を用意すること。その内容を、次の講義内での議論のきっかけとする。（各回60分程度）</p> <p>教科書：必要な資料を適宜配布する 参考文献： 『スーパーコンピュータ（岩波講座 計算科学 別巻）』 小柳 義夫(著、編)、中村 宏、佐藤 三久、松岡 聡(著)、岩波書店、2012年</p>						
教科書							
参考書	<p>『スーパーコンピュータ（岩波講座 計算科学 別巻）』小柳 義夫(著、編)、中村 宏、佐藤 三久、松岡 聡(著)、岩波書店、2012年</p> <p>その他講義中に提示する。</p>						
備考							

昨年度からの 振り返り	<p>1年生の選択科目、コンピュータアーキテクチャの理解を前提として進めますが、単位取得を受講条件とはしません。コンピュータアーキテクチャの講義資料は受講者が閲覧できるようにします。</p> <p>講義形式ではありますが、多くの発言ができるように運営しますので、学生諸君は活発に発言することを期待します。</p> <p>資料は事前にUNIPAにアップロードしますので、読んでおいてください。さらに、講義の音声データや資料は終了後共有しますので、復習に役立ててください。</p>
----------------	--

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	AI					授業形態	演習
授業コード	AIT1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	落合 慶広						
授業概要	人工知能で良く用いられるニューラルネット（脳のモデル）の基本的特徴を理解し、産業応用するための実用化技術の取得、及び、応用力を養うことを目的とする。各応用分野で良く利用されるニューラルネットの構造や学習機能等の基本的特徴を理解すると共に、産業応用時の問題点、及び、これを解決するために欠かせない実用化技術の知識を修得する。また、実課題への応用力を養う為に、大手ITベンダー等が公開している人工知能関連の各種のAPI、ツール等を活用して、簡単な実課題を解くためのアプリケーションを制作する演習を実施する。演習では、産業課題の捉え方から、実課題における検証方法まで、幅広い観点からの応用力を養う。						
授業の目的・到達目標	本授業では、各種ニューラルネットの基本的な機能、特徴を理解すると共に、特に、産業応用するための実用化技術の習得、及び、応用力を養うことを目標としている。 人工知能の産業応用で良く使われるニューラルネットのモデル構造・学習方法等の基本的特徴を理解すると共に、産業応用する際に必要となる実用化技術（学習の加速化、汎化技術等）を理解する。また、ニューラルネットを実課題に応用する力を養う為、大手ITベンダー等が公開している各種機械学習ツールの使い方を習得し、これを用いて簡易な産業課題に応用する演習を実施する。演習では、産業課題の捉え方、解決方針の立案、学習データの選定、実課題での検証方法等、幅広い観点からの応用力を養う。						
授業計画							
第1回	AI ガイダンス 人工知能研究の盛衰と近年の産業活用について ～大脳の機能とニューラルネットで実現できる機能の比較なども交えて～						
第2回	機械学習モデルの種類、特徴とその応用事例（1） Google Colaboratory上での演習（1） ・Pythonプログラミング（基礎）とGoogle Colaboratoryの利用方法（1）						
第3回	機械学習モデルの種類、特徴とその応用事例（2） Google Colaboratory上での演習（2） ・多層NNの数学的要素、テンソル計算（積和計算）の構造とTensorflowについて						
第4回	・Google Colaboratory上での演習（3） 単層パーセプトロン（1層モデル）を用いた、論理関数（AND、OR、NAND、XOR）の学習と学習後の認識精度評価について						
第5回	ニューラルネットの学習法と加速化法 ・誤差逆伝搬法の原理と非線形最適化法の観点から加速化法を解説する ・様々な学習法について						
第6回	Google colaboratory上での演習（4） ■NNの学習法（誤差逆伝搬法）の実装 ・NNの順方向計算（前向き計算）の実装 ・NNの逆方向計算（誤差逆伝搬法）の実装						
第7回	・ニューラルネットを用いた学習課題、及び、過学習と汎化技法 ・深層ニューラルネットと深層学習 ～深層学習における加速化、汎化技法なども交えて～ Google colaboratory上での演習（5） ■多層NNを用いた画像認識の演習 ・多層NNを用いてファッションアイテム画像を学習し、画像の絵（服、靴等）を認識し、その性能を評価する ・上記を複数のコード(Tensorflow, Pytorch等) で実装したプログラムで実施						
第8回	画像認識モデル 畳み込みニューラルネット（CNN）と画像認識への応用 ・手書き文字認識 ・様々な対象の認識						
第9回	Google colaboratory上での演習（6） ・畳み込みニューラルネット(CNN)を用いたファッションアイテムの学習と性能評価 ・上記を複数のコード(Tensorflow, Pytorch等) で実装したプログラムで実施						
第10回	・物体検出モデル ～注意機構、transformerなどの最新の動向も含めて解説～						

	YOLO、DTER等 ・行動認識モデル SlowFast, TimeSformer等
第11回	自然言語処理と大規模言語モデル ・自然言語処理の特徴 ・大規模言語モデル (LLM) /GPT
第12回	■業務効率化の為にGPTの活用方法/GPTを用いた演習 (7) ・文書作成 ・情報収集 (リサーチ) ・文書要約 (会議議事録要約) ・アイデア出し ・プレゼンスライドの自動生成
第13回	■画像生成AI ・Stable Diffusion ・Midjourney ・GAN ■生成AIを用いた画像生成演習 (8) ・Stable Diffusionを用いたファッション (服) 画像の生成の演習 ・GANによる特徴を捉えた絵画生成等の演習
第14回	プログラムコード生成AI (ノーコード)
第15回	強化学習 確率的推論に基づくエージェントモデルとロボティクスへの応用
成績評価の方法	各演習での取り組み (60%)、及び、考察やレポート (40%) で成績を評価する。
準備学修 (予習・復習、課題等)	今年度は、演習にも力を入れて、いろいろな機械学習を利用する方法も学べるようにする。 このため、授業では演習を行うため、ノートパソコンが必須である。
教科書	
参考書	参考文献： 『深層学習 Deep Learning(監修:人工知能学会)』 麻生英樹(著)安田宗樹(著)前田新一(著)岡野原大輔(著)岡谷貴之(著)久保陽太郎(著) ボレガラ・ダヌシカ(著)人工知能学会(監修)神高敏弘(編集)、近代科学社、2015年 『機械学習のための連続最適化』 金森 敬文 (著) 鈴木 大慈 (著) 竹内 一郎 (著) 佐藤 一誠 (著)、講談社、2016年 『これなら分かる最適化数学』 金谷健一 (著)、共立出版、2005年
備考	
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ネットワーク構築Ⅰ					授業形態	演習
授業コード	DN11330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるネットワーク機器の構成や技術、動作などの概要について演習形式で実践的に学ぶ。OSI参照モデルにおける物理層、データリンク層、ネットワーク層、トランスポート層、アプリケーション層の役割やプロトコルについて理解し、IPネットワークの基礎的な構築を行う。ネットワーク層ではIPv4におけるアドレス計画について学び、小規模なネットワークにおいてアドレス計画を実践する。IPネットワークのサブネット化を学ぶことでIPネットワーク分割の概念を理解するとともに、サブネットマスクを用いたアドレス計画への対応についても学ぶ。また実際に構築したネットワークはネットワーク管理ツールなどを用いてテストし接続性に問題ないことを確認する。						
授業の目的・到達目標	小規模なネットワークを構築する技術や概念について理解し、ネットワーク機器の基本設定が出来ることを目的とする。小規模なネットワークで用いられるネットワーク機器について理解し説明できる、各ネットワーク機器の動きや動作について理解し、説明できる、小規模なネットワークにおいて正しく疎通していることを確認できる事を目標とする。						
授業計画							
第1回	ネットワーク構築の基礎(ネットワーク構築する上での環境整備及び基本用語について学ぶ)						
第2回	ローカルネットワーク(ネットワーク管理ツールなどを用いてローカルネットワークを知る)						
第3回	ローカルネットワークへの接続(ネットワークの種類やネットワークコンポーネントなどについて学ぶ)						
第4回	通信媒体と設計(ネットワークに使われる通信媒体とその特性について説明し、適切な媒体の選択方法について学ぶ)						
第5回	中間復習(これまでの内容に関する復習を行う)						
第6回	通信の原理(ネットワークを機能させるための通信規格や通信の仕組みについて学ぶ)						
第7回	イーサネットネットワークの仕組み(通信における階層型モデルや階層型設計について学ぶ)						
第8回	ネットワークの構築方法(ネットワークの適切な設計やアクセスレイヤの構築などについて学ぶ)						
第9回	ネットワーク間のルーティング(経路制御表やLANの作成について実践的に学ぶ)						
第10回	IPv4アドレス(IPv4アドレスの目的や構造について学ぶ)						
第11回	サブネットマスク(IPv4アドレスの要素とサブネットマスクとの関係について学ぶ)						
第12回	IPv4アドレスの取得方法(アドレスの割り当てとDHCPについて学ぶ)						
第13回	IPv4アドレス管理(ネットワークの境界とアドレス空間などについて学ぶ)						
第14回	IPv6でのアドレス指定(IPv4アドレスとIPv6アドレスの違いなどについて学ぶ)						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	課題やクイズ100%						
準備学修(予習・復習、課題等)	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 (あわせて各回30～60分程度)						
教科書							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	ネットワーク技術を習得済みまたは同等の知識、スキルを要していること						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報セキュリティ演習Ⅰ					授業形態	演習
授業コード	PS11330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	平山 敏弘						
授業概要	<p>国によるデジタル田園都市国家構想の推進など、ICT利用なしの世界が考えられない現在、万一企業において情報流失などの事件が発生した場合には、金銭的な損失や企業イメージの低下など、計り知れない損害を被ることになる。また近年セキュリティ人材が、日本国内において約20万人不足と叫ばれているが、セキュリティ人材といってもその役割は様々であり、その多くはセキュリティの専門家ではなく、ITを活用して通常の業務を行う中で、セキュリティ知識も身につけておいてほしい、いわゆる「プラス・セキュリティ人材」と呼ばれる人材である。</p> <p>本授業では前半にWebシステムに潜むセキュリティ脅威やSNS利用の際の注意点などを理解することで、社会人に必要なセキュリティリテラシーを学ぶ。中盤以降では、インターネットの成り立ちを学んだ後、Webシステムを中心としたコンピュータシステムの各構成要素の概要と各構成要素において注意すべきセキュリティ事項について事例を交えながら学び、情報セキュリティ全般に対する学習を行う。最後の総まとめでは授業全般を振り返り、セキュリティ専門家だけでなく、どのような分野に進んでも必要とされる「プラス・セキュリティ人材」に求められる、情報セキュリティに関する知識とスキルの定着を図る。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>ICTに大きく依存している現代社会において、情報漏えい事件やインターネット上での詐欺事件などが後を絶たない。これはICTが取り扱う情報の価値が年々高まってきていることが背景にある。将来ICTを職業とする人はもちろんのこと、ICT業界以外に進む人にとってもICTを使用せずに暮らすことがほとんど不可能な状況の中、情報の取り扱い方やその危険性について理解しておくことが、今後益々必要になってくる。</p> <p>本授業では、ICTにおける情報とは何であり、情報セキュリティの事件や事故が自分自身を含む社会全体に対して、多大な影響を与える可能性があることを、事例などを通じて理解することを目標とする。加えて情報セキュリティにおける攻撃方法とその対策についての概要を理解し、今後社会人として情報セキュリティに対して何をすべきかについて、自身で対策できる対処方法を理解し、実行できることを目標とする。</p>						
授業計画							
第1回	(1) 情報におけるリスクとは 現代における情報とは何であり、その情報がなぜ価値あるものに変化したのかについて学びます。 加えて、ITにおける情報がどのような危機に瀕しているのかを学ぶことで、情報セキュリティの重要性を理解します。						
第2回	(2) インターネット概説&Webシステム概要 インターネット誕生の背景を学び、なぜインターネットが社会に広まったのかについて学びます。またWebシステムがどのような構成で構築されているのかについて理解します。						
第3回	(3) ネットワーク基礎技術 サイバーセキュリティを理解する前提知識となるインターネットやTCP/IPプロトコルの概要を理解します。またIPアドレスを使用してデータがどのように相手に届き、通信が行われるのかについて学びます。						
第4回	(4) ネットワークリスク ネットワークに潜んでいる脅威やリスクについて理解し、ネットワーク基礎技術で学んだネットワークの仕組みを利用して、どのようにセキュリティインシデントが発生するのかについて学びます。						
第5回	(5) Webサーバーシステムリスク Webシステムにおいて、WebサーバーおよびDBサーバーなどWebシステムを構成するコンポーネントにおけるリスクを理解すると共に、その対策例について学びます。						
第6回	(6) Webアプリケーションへの脅威 Webアプリケーションの仕組みを学ぶと共に、どのようなセキュリティ脅威があるのかを理解し、Security by DesignなどWebアプリケーション作成時における、設計段階からのセキュリティを考慮する重要性について学びます。						
第7回	(7) 映画に学ぶ情報セキュリティ基礎技術 情報セキュリティがテーマの映画を鑑賞し、その中で使用されているサイバー攻撃手法について、第6回までの講義で学んだ知識を利用して見つけ出すことで、セキュリティスキルの整理と定着を図ります。						
第8回	(8) サイバーセキュリティ対策基礎技術まとめ Webシステムを構成する各コンポーネントの役割とそこに潜む脅威やリスクについてのまとめを行い、各回の講義で学んだ内容を総合的に理解します。						
第9回	(9) オペレーティングシステムにおけるセキュリティ オペレーティングシステムにおけるセキュリティリスクを理解し、その対策を学びます。						
第10回	(10) 認証とアクセス制御 認証技術とアクセス制御方法について理解し、データ保護の重要性とその対策方法を学びます。 また暗号化の基本技術については、簡易的なデータ暗号化および復号化を体験することで理解を深めます。						
第11回	(11) クラウドセキュリティ クラウドコンピューティングの概要、およびクラウド環境におけるセキュリティ/プライバシーの脅威と対策について学びます。						

第12回	(12) 新たな働き方に潜むセキュリティの脅威と事業継続におけるセキュリティの在り方 攻撃者のターゲットが個人へ移行している現状を理解することと、自然災害などと同様にセキュリティにおいても事業継続の考え方が必要なことを理解します。			
第13回	(13) スマートデバイスにおけるセキュリティの脅威と防御策 スマートデバイスやSNSの標準設定は、世界基準で考えられているため、利用者自身が設定内容を理解していないことで、予期せぬ自身の情報公開をしているケースがあり、その結果情報漏えい事件に発展している場合があります。そのような危険に巻き込まれないため、サイバーセキュリティ脅威の理解と防御策を学びます。			
第14回	(14) 自分の身の回りに潜むセキュリティ 大学を狙ったサイバー攻撃事例などをもとに、身近にある情報漏えいの危険性を理解すると共に、企業・組織としてのリスクを学ぶことにより、企業における情報漏えい対策を学びます。			
第15回	(15) 情報セキュリティ基礎総括 今日の社会で求められている「プラス・セキュリティ人材」とは、どのような人材であるのかを知ることにより、全15回講義で学んだことが、どのような分野に進んだとしても受講者自身が実践の場で活用出来る内容であることを理解し、講義終了後もセキュリティ意識が必要であることを理解します。			
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて 定期試験を実施します。 (2) 試験以外の評価方法 講義時に提出する授業内容確認小レポートによる評価をします。 (3) 成績の配分・評価基準等 定期試験の評価に加え、毎回の授業時に提出する小レポートおよび確認テストを下記の割合で評価します。 (定期試験70%、授業内での提出物30% (小レポート15%、確認テスト15%))			
準備学修 (予習・復習、課題等)	(予習) 次回講義内容について、インターネットなどを利用して、具体的なセキュリティインシデント (事件・事故) 事例などを調査しておくこと。また自身や自分の周りでの身近な事例があるかについても調べておくこと。(標準学習時間：1時間) (復習) 毎回講義の最後に確認テストを実施するので、その正解と理由について学んだ講義内容を復習して、確認しておくこと。答え合わせは、翌週講義の最初に実施する。(標準学習時間：1時間)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報セキュリティ白書2023」 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)、2023.ISBN 978-4-905318-79-8 ・「CISOのための情報セキュリティ戦略」 日本ネットワークセキュリティ協会、技術評論社、2023.ISBN 978-4297132941 ・「サイバーセキュリティ2020 脅威の近未来予測」 日本ネットワークセキュリティ協会未来予測プロジェクト、インプレスR&D(NextPublishing)、2015.オンデマンド (ペーパーバック) 			
備考				
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと手を動かしたりしたり、グループワークをしたいとの授業コメントに対しては、当講義は知識習得の座学中心のため本格的なグループワーク導入は難しいですが、質問形式の仕組みを駆使したり、履修生自らが「体を使って体験」することで理解を深めるなどの工夫をしています。 ・当講義のレベルは、セキュリティリテラシー+αの「プラス・セキュリティ人材」向けのレベルを継続していきます。さらにアドバンスの学習をしたい方は、3年生前期に開講する情報セキュリティ演習IIや平山ゼミの履修も是非検討ください。 ・「動画があるのでわかりやすかった」や、「コンピテンシーやコミュニケーションに関する内容が興味深く、また役立った」などの声もありましたので、その点については継続していきます。 			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業名	ネットワーク構築Ⅱ					授業形態	演習
授業コード	DN21330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるルーティングプロトコルやネットワークサービス、トラブルシューティングについて演習形式で実践的に学ぶ。ルーティングプロトコルの動作について理解し、IPv4及びIPv6での設定を行うことでIPv4とIPv6の共通点及び相違点について学ぶ。またルーティングプロトコル以外にもIPv4アドレスの自動設定方法としてDHCPの設定を行い、IPv6アドレスの自動設定方法のStateless Address Auto Configuration(SLAAC)やDHCPv6との仕組みの違いなどについて考察する。またトラブルシューティングの方法について学ぶことで問題の切り分けを行い、ネットワーク管理者へ問題や挙動について正しく説明することが出来るようになる。						
授業の目的・到達目標	ネットワーク機器を設定し、小規模なネットワーク構築が出来るスキル習得を目的とする。小規模なネットワークで用いられるネットワーク機器について理解し説明できる、ネットワーク機器の働きや動作について理解し、説明できる、小規模なネットワークにおいて正しく疎通していることを確認できる事を目標とする。						
授業計画							
第1回	クライアントとサーバ(ネットワークを構築するための環境構築及びクライアントとサーバの関係について学ぶ)						
第2回	TCP/IP(TCP/IPプロトコルスイートについて学ぶ)						
第3回	アプリケーションプロトコルとサービス(Web, FTP, Telnet, 電子メールなどのアプリケーションプロトコルについて学ぶ)						
第4回	ホームネットワークの基礎(ホームネットワークで使われるネットワーク技術について学ぶ)						
第5回	復習						
第6回	ホームネットワークの適切な設定(SSIDなどの適切な設定について学ぶ)						
第7回	ホームネットワークにおけるセキュリティ(ホームネットワークにおける脅威と対策について学ぶ)						
第8回	周辺機器との接続(周辺機器と接続するための近距離無線通信について学ぶ)						
第9回	ネットワークセキュリティ1(攻撃者とマルウェアについて学ぶ)						
第10回	ネットワークセキュリティ2(攻撃の方法とそれに対するセキュリティツール等を使用してネットワークを保護する方法について学ぶ)						
第11回	ネットワークセキュリティ3(ファイアウォールなどを使用してネットワークを保護する方法について学ぶ)						
第12回	セキュリティの基本的な考え方について学ぶ						
第13回	セキュリティインシデントを擬似体験し、インシデントレスポンスについて学ぶ						
第14回	ルータOSについて学ぶ						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	課題やクイズ100%						
準備学修(予習・復習、課題等)	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 (あわせて各回30~60分程度)						
教科書							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	ネットワーク技術、ネットワーク構築1を習得済みまたは同等の知識、スキルを要していること						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	情報セキュリティ演習II					授業形態	演習
授業コード	PS21330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 敏弘						
授業概要	<p>当講義は、セキュリティコンサルタントの現場でも実施されているリスクアセスメント手法を学生でも理解できるように、グローバルで多く実施されているサイバー脅威の机上演習（TTX：Table Top Exercise）を取り入れて進めていく。</p> <p>最初に情報セキュリティマネジメントの視点より、企業で準備しなければならないセキュリティポリシーを学び、ビジネスにおける情報の価値を理解することにより、情報におけるリスクとは何かを他者に説明できることを目指す。中盤以降では、学生では経験することが難しいリスクアセスメントやセキュリティインシデント対応・手法について、グローバル標準であるサイバーセキュリティフレームワーク（CSF）などを参考に、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法を意識したサイバー脅威を想定した机上演習を通じて、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法などを学ぶ。また独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）から毎年発表される「情報セキュリティ10大脅威」など最新セキュリティ状況を交えることで、最新のセキュリティ脅威に対応したセキュリティシステム対策ができることを目標にしている。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>デジタル田園都市国家構想の推進など、デジタル化時代が進む現代において、セキュリティは基盤技術と変化しているが、そのセキュリティ分野は知識を学んだだけでは、身に付けた能力を活かす事ができない分野である。また近年セキュリティ人材が約20万人不足と叫ばれているが、セキュリティ人材といってもその役割は様々であり、その多くはセキュリティの専門家ではなく、ITを活用して通常の業務を行う中で、セキュリティ知識も身につけておいてほしい、いわゆる「プラス・セキュリティ人材」と呼ばれる人材である。</p> <p>当授業では、学生では学ぶことが難しいセキュリティインシデント発生時の対応をケーススタディ形式での演習を通じて学ぶことにより、セキュリティに携わる仕事の種類や役割を理解すると共に、セキュリティマネジメントやセキュリティ運用についての理解を深め、学生が下記のことができるようになることを目標としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティインシデント発生時の対応について、基本行動を実行できること ・セキュリティに携わる仕事の種類や役割を説明できること ・セキュリティマネジメントに必要な管理項目を列挙できること ・セキュリティ運用に必要な作業項目や運用体制について説明できること 						
授業計画							
第1回	(1) 身の回りにおける危険と個人レベルでのリスク管理 一般人においてもセキュリティを考慮しなければならない時代である点を理解するため、個人レベルでのリスクとは何かを学びます。						
第2回	(2) 身近なインシデント事例 身近なインシデント事例や情報セキュリティ10大脅威を学んだ後、インシデント事例調査の演習を行います。						
第3回	(3) 身近なインシデント事例の発表 第2回で調査したインシデント事例についての発表を行います。						
第4回	(4) セキュリティ運用体制とセキュリティインシデント初動対応演習 セキュリティ運用についてCSIRT（Computer Security Incident Response Team）とは何であり、そのチーム内でのそれぞれの役割について理解します。 運用体制について理解した後、自分のPCがウィルス感染し、いきなりマルウェアに「感染しました」とのポップアップ画面が表示された時を想定した演習を実施して理解を深めます。						
第5回	(5) 身近なインシデントを分類 第2回および第3回の演習で調査した身近なインシデント事例を攻撃毎に分類する演習を実施します。						
第6回	(6) 通販サイトの問題点と改善策 ケーススタディを通して、通販サイトで発生したセキュリティインシデントの問題点と改善策を考える演習を行います。						
第7回	(7) 非機能要件とセキュリティ（当通販サイトで検討すべき非機能要件演習） 機能要件と非機能要件の概要を学び、非機能要件の中で検討すべきセキュリティ項目について学びます。 ケーススタディである通販サイトにおいて、検討すべき非機能要件の検討を行う演習を行います。						
第8回	(8) セキュリティマネジメント基礎 企業活動を行なう上で、個人情報などの秘密性の高いデータを取り扱うことが必須となり、そのようなデータ取り扱い時のセキュリティ対策や方針をセキュリティポリシーとして取りまとめます。セキュリティポリシーとはどのようなものかなど、セキュリティマネジメントの基礎を学びます。						
第9回	(9) サイバーキルチェーンとは 近年、サイバー攻撃は段階を踏んで行われるようになってきました。この攻撃を構造化したものが「サイバーキルチェーン」であり、標的型攻撃の一連の行動を軍事行動に似せてモデル化されたものですが、事例を通じてサイバーキルチェーンの理解を深めます。						
第10回	(10) セキュリティ運用と通販サイトでの封じ込め対応演習 グローバル標準であるCSF（サイバーセキュリティフレームワーク）やJPCERT/CCインシデントハンドリングマニュアルなどを参考に、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法の基礎を学びます。 その後、サイバーキルチェーンの考え方にに基づき、ケーススタディの通販サイトにおける封じ込め対応について、リアル感を持った机上演習を実施します。						

第11回	(11) 封じ込め対策の経営層への報告演習 演習で検討した封じ込め対策について、経営層を意識した模擬報告の発表（演習）を行いません。
第12回	(12) 多層防御とスイスチーズモデル 事故モデルとして提唱された「スイスチーズモデル」は、事故は単独で発生するのではなく複数の事象が連鎖して発生するとしたものが、情報リスク管理の多層防御の考え方にも通じるものです。スイスチーズモデルと多層防御とは何かを学び、ケーススタディの通販サイトにおける多層防御対策を検討する演習を行います。
第13回	(13) 再発防止策検討結果の発表 演習で検討した多層防御の視点からの再発防止対策について、経営層を意識した模擬報告の発表（演習）を行いません。
第14回	(14) 情報漏えい被害額の算定 漏えいした個人情報について、1人当たりの損害賠償額は、500円ではありません。今回情報漏えいしてしまったケーススタディ企業での、想定される損失額を算出する演習を行い、情報漏えいが企業経営へ大きな影響を与えることを理解します。
第15回	(15) まとめ 演習を通じての気づきや学びについて、履修生各人から発表すると共に、第一線での経験がある教員が発表に対して補足説明を行なうことで、学生では学ぶことが難しいセキュリティマネジメントやセキュリティインシデントハンドリングについての理解を深めます。
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて ・定期試験に準ずる最終レポートを提出していただきます。 (2) 最終レポート以外の評価方法 ・講義時に提出する演習資料と発表評価 ・授業時の貢献度（毎回の講義時に提出する小レポートなどにより判断） (3) 成績の配分・評価基準等 最終レポートの評価に加え、授業時作成資料・発表内容および授業への貢献度を総合的に判断して評価します。 (最終レポート70%，授業への貢献度（毎回課す小レポート）30%）
準備学修（予習・復習、課題等）	演習成果を発表することが含まれる講義のため、チームおよび個人での演習資料作成など、約2時間程度の講義時間以外の予習復習が必要。 復習） 講義内で実施した演習について、講義時間内で終了しない内容の継続検討および、演習結果資料のまとめを行なっておくこと。（標準学習時間：1時間） 予習） 次回講義にプレゼンテーション実施できるため発表資料の準備。または、次回講義の際における講義内で使用される言葉の内容などを調べておくなどの事前調査を行なっておくこと。（標準学習時間：1時間）
教科書	
参考書	教科書：必要な資料については、講義時に配布する資料を使用する。 参考文献： 『CSIRT:構築から運用まで』 日本シーサート協議会(著)、エヌティティ出版、2016年 『すべてわかるセキュリティ大全2018』 ITpro、日経コンピュータ(編集)、日経BP社、2017年
備考	
昨年度からの振り返り	机上演習（TTX：Table Top Exercise）中心の講義であり、サイバー攻撃や情報漏えい事件での被害額想定など、セキュリティ専門家を目指す人はもちろんのこと、経営視点でのセキュリティを考えたり、マネジメント面での対応など、「プラス・セキュリティ人材」向けとしても、学んでもらいたい講義内容になります。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業名	ネットワーク構築Ⅲ					授業形態	演習
授業コード	DN31330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるスイッチドネットワーク、仮想的なLANセグメント、ネットワークの冗長化及びトラブルシューティングについて演習形式で実践的に学ぶ。ネットワーク機器であるスイッチの動作について理解し、LAN環境での冗長性、リンク集約、トラブルシューティングの方法について学ぶことで問題の切り分けを行うことが出来るようになる。具体的には仮想的なLANセグメント(VLAN)の概念やその設定、VLAN間ルーティング及びスパンニングツリープロトコル、ファストホップ冗長プロトコル、ゲートウェイロードバランシングプロトコル、リンクアグリゲーションの概要とその設定方法、トラブルシューティング方法について学ぶ。						
授業の目的・到達目標	ネットワーク機器を設定し、ネットワーク構築及びネットワークの冗長化が出来るスキル習得を目的とする。ネットワーク機器について理解し説明できる、ネットワーク機器の動作について理解し、説明できる、信頼のおけるネットワークを構築し疎通していることを確認できる事を目標とする。						
授業計画							
第1回	ルータの構成と起動について学ぶ						
第2回	ルータOSのナビゲート						
第3回	ルータOSの基本設定1(showコマンドなどの基本操作について学ぶ)						
第4回	ルータOSの基本設定2(各種設定コマンドなどの基本操作について学ぶ)						
第5回	スイッチとルータを使用したネットワーク構築						
第6回	トラブルシューティングの基本について学ぶ						
第7回	トラブルシューティングの実践1(トラブルシューティングに使用するツールについて学ぶ)						
第8回	トラブルシューティングの実践2(名前解決に関するトラブル)						
第9回	トラブルシューティングの実践3(Wi-Fiに関するトラブル)						
第10回	トラブルシューティングの実践4(トラブル解決に向けたヒアリング)						
第11回	これまでの内容を復習する						
第12回	ネットワークの構築実践1(実践的なネットワークの構築に必要な知識について学ぶ)						
第13回	ネットワークの構築実践2(実践的なネットワークの構築を行う)						
第14回	ネットワークの構築実践3(実践的なネットワークの構築を行う)						
第15回	ネットワークの構築実践4(実践的なネットワークの構築を行う)						
成績評価の方法	課題やクイズ 100%						
準備学修(予習・復習・課題等)	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 (あわせて各回30-60分程度)						
教科書							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	ネットワーク技術、ネットワーク構築1、ネットワーク構築2を習得済みまたは同等の知識、スキルを要していること						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	ビジネス英語実習Ⅰ					授業形態	実習
授業コード	PE11410001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	柿崎 理、阿部川 久広、栗田 昭宏、平野 麻紀子、Joe Hug、後藤 亮						
授業概要	<p>ビジネスとICTを用いて、世界に変革を起こしていくためには、さまざまな国の人々と協同することが重要である。様々な価値観や文化的背景の異なる人々と協働するために多様性の受容、コミュニケーションやプレゼンテーションなどを共通言語となる英語で行う必要がある。ビジネス英語実習Ⅰでは、ビジネスの基本となる挨拶やマナー、簡単な電話やメール等でのやり取り、会議や出張の手配など、初歩的なビジネス英語での会話力、表現力を習得する。本授業終了時には、英語を用いて、簡単なビジネス応対や観光案内、機器の操作説明ができるようになることを目標とする。</p> <p>In order to transform the world using business and ICT, it is important to work with people from different countries. In order to work with people with different values and different cultural backgrounds, it is necessary to accept diversity, communicate and present in a common language, English. In Business English Practice I, you will learn basic conversational and expressive skills in business English, such as greetings and manners that are fundamental to business, exchanges by simple telephone and email, and arrangements for meetings and business trips. At the end of this class, the goal is to be able to provide simple business correspondence, sightseeing guidance, and equipment operation explanations in English.</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿った内容を英語で理解し、表現する。 <p>Understand and express themes in English.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通じ、グローバルでのコミュニケーションに必要な技術や知識を習得する。 <p>Acquire the skills and knowledge necessary for global communication through classes.</p>						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker Feb11 (1) Management ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker Feb11 (2) Management ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 12 (1) Business Purpose ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 12 (2) Business Purpose ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker February 27 (1) What is our business ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker February 27 (2) What is our business ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 17 (1) Profit ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 17 (2) Profit ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker February28 (1) Customer ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker February28 (2) Customer ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 1 (1) Leader ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 1 (2) Leader ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 6 (1) Risk ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 6 (2) Risk ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker April 5 (1) Leader ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第16回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker April 5 (2) Leader ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第17回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 1 (1) Manage oneself ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第18回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June1 (2) Manage Oneself ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第19回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 26 (1) Enjoy working ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第20回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 26 (2) Enjoy Working ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第21回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 11 (1) Results ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第22回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 11 (2) Results ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習
第23回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 1 (1) Know Thy Time ・ Philip Kotlar スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習

第24回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 1 (2) Know Thy Time ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第25回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker October 3 (1) Decision Making ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第26回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker October 3 (2) Decision Making ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第27回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 29 (1) Stone cutter ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第28回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 29 (2) Stone Cutter ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第29回	まとめと振り返り 総合演習			
第30回	まとめと振り返り 総合演習			
成績評価の方法	<p>Attitude: 授業へ積極的に参加しているか、思考し発言しているか、理解しようと努めているか (15%)</p> <p>Contribution: 授業に貢献しているか、グループ内で発言しているか、議論に参加しリードし議論内容を進化させようとしているか (15%)</p> <p>Willingness: 積極的に参加しようと努めているか、グループの議論を助けようとしているか、何かを得ようとやる気を出しているか (10%)</p> <p>Assignment: 授業中のタスク、授業中のプレゼンテーション、授業中の発言、授業後の提出物など、課されているものをしっかり理解し、対応しようとしているか (60%)</p>			
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>各回ごとに設定されるテーマをもとに、表現や内容の準備と振り返りを行う。配布された資料の単語などを辞書で調べておくとよい。フィールドワークに向けて地域の事柄を説明できるようになる。(各回30~60分)。</p> <p>Preparation study (preparation, review, assignment, etc.).</p> <p>Prepare and reflect on expressions and content based on themes set each time. It is advisable to look up words in the distributed materials in a dictionary.</p> <p>Be able to explain local matters for fieldwork. (30-60 minutes each time).</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
公式TOEIC Listening & Reading 問題集10	ETS	IIBC	978-4906033713	
Daily Drucker	Peter F. Drucker	Routledge	978-0750665995	Kindle版でも可
スティーブジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン	CNN English Express	朝日出版	978-4255006796	
人を動かす気配りの英語表現 Navigating Difficult Situations	マヤバーダマン	The Japan Times 出版	978-4789017916	
参考書	<p>TOEIC Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題</p> <p>適宜資料を配布する。Textbooks: distribute materials as needed.</p> <p>参考文献：References: 『ドロッカー 365の金言 単行本 - 2005/12/2』 ISBN-13: 978-4478300732 単行本: 416ページ</p>			
備考	<p>講義はTOEICテキストの解釈、音読、問題演習、ジョブズなど経営者によるスピーチやプレゼンの解釈、音読、ドロッカーなどビジネスに直結する内容や表現の解釈、音読、などを行います。またDaily DruckerのAction Pointを用いてクラスで討議したり、クラス内のグループでミ</p>			

	<p>ニプレゼンを作り、発表+QAなども行います。</p> <p>ビジネス英語実習（全科目）の単位が認定されるためには、クラス担当2名の各教員それぞれのクラスの出席数を、2/3以上満たす必要があります。（全講義数の2/3、ではありません）</p>
<p>昨年度からの振り返り</p>	<p>① 講義難易度については、現状のレベルで、平易な表現を選択しますが、その分、話す、聞く力を意識して練習します。</p> <p>② ブレイクアウトなどグループで討議したり、発表したりする機会を増やし、また事前に時間を区切ることで、効率よく、かつ集中力の途切れない講義構成とします。</p> <p>学生各位の積極的、自主的な授業への参加を希望します。</p>

授業年度	2024年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	ビジネス英語実習Ⅱ					授業形態	実習
授業コード	PE21410001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平野 麻紀子、阿部川 久広、柿崎 理、栗田 昭宏、Joe Hug、後藤 亮						
授業概要	ビジネスとICTを用いて、世界に変革を起こしていくためには、さまざまな国の人々と協同することが重要である。様々な価値観や文化的背景の異なる人々と協働するために多様性の受容、コミュニケーションやプレゼンテーションなどを共通言語となる英語で行う必要がある。ビジネス英語実習Ⅱでは会社や事業の紹介、使用説明や問い合わせ対応時に必要な用語や表現、日常会話ではなくビジネスの現場で使用する用語や表現と、それらを用いた説明時や会議時に必要な会話力や表現力を習得する。本授業終了時には、英語を用いて、説明書や仕様書を作成できること、ネイティブの方と英語を交えて会議ができることを目標とする。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った内容を英語で理解し、表現する。 ・授業を通じ、グローバルでのコミュニケーションに必要な技術や知識を習得する。 						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker Feb11 (1) Management ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker Feb11 (2) Management ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 12 (1) Business Purpose ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 12 (2) Business Purpose ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker February 27 (1) What is our business ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4]+自己紹介と演習 ・ [ドロッカー] Daily Drucker February 27 (2) What is our business ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 17 (1) Profit ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 17 (2) Profit ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker February28 (1) Customer ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker February28 (2) Customer ・ Steve Jobs スピーチ&プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー+練習 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 1 (1) Leader 						

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Steve Jobs スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 1 (2) Leader ・ Steve Jobs スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 6 (1) Risk ・ Steve Jobs スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker March 6 (2) Risk ・ Steve Jobs スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker April 5 (1) Leader ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第16回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker April 5 (2) Leader ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第17回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 1 (1) Manage oneself ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第18回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June1 (2) Manage Oneself ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第19回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 26 (1) Enjoy working ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第20回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker June 26 (2) Enjoy Working ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第21回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 11 (1) Results ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第22回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 11 (2) Results ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第23回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 1 (1) Know Thy Time ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第24回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker September 1 (2) Know Thy Time ・ Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション ・ [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習
第25回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [TOEIC L&R part 3, Part 4] ・ [ドロッカー] Daily Drucker October 3 (1) Decision Making

	<ul style="list-style-type: none"> Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第26回	<ul style="list-style-type: none"> [TOEIC L&R part 3, Part 4] [ドラッカー] Daily Drucker October 3 (2) Decision Making Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第27回	<ul style="list-style-type: none"> [TOEIC L&R part 3, Part 4] [ドラッカー] Daily Drucker September 29 (1) Stone cutter Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第28回	<ul style="list-style-type: none"> [TOEIC L&R part 3, Part 4] [ドラッカー] Daily Drucker September 29 (2) Stone Cutter Philip Kotlar スピーチ & プレゼンテーション [Navigating Difficult Situations] 各章レビュー + 練習 			
第29回	まとめと振り返り 総合演習			
第30回	まとめと振り返り 総合演習			
成績評価の方法	<p>Attitude: 授業へ積極的に参加しているか、思考し発言しているか、理解しようと努めているか (15%)</p> <p>Contribution: 授業に貢献しているか、グループ内で発言しているか、議論に参加しリードし議論内容を進化させようとしているか (15%)</p> <p>Willingness: 積極的に参加しようと努めているか、グループの議論を助けようとしているか、何かを得ようとやる気を出しているか (10%)</p> <p>Assignment: 授業中のタスク、授業中のプレゼンテーション、授業中の発言、授業後の提出物など、課されているものをしっかり理解し、対応しようとしているか (60%)</p>			
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>各回ごとに設定されるテーマをもとに、表現や内容の準備と振り返りを行う。配布された資料の単語などを辞書で調べておくとよい。フィールドワークに向けて地域の事柄を説明できるようになる。(各回30~60分)。</p> <p>Preparation study (preparation, review, assignment, etc.).</p> <p>Prepare and reflect on expressions and content based on themes set each time. It is advisable to look up words in the distributed materials in a dictionary.</p> <p>Be able to explain local matters for fieldwork. (30-60 minutes each time).</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
公式TOEIC Listening & Reading 問題集10	ETS	IIBC	978-4906033713	
Daily Drucker	Peter F. Drucker	Routledge	978-0750665995	Kindle版でも可
スティーブジョブズ伝説のスピーチ & プレゼン	CNN English Express	朝日出版	978-4255006796	
人を動かす気配りの英語表現	マヤバーダマン	The Japan Times出版	978-4789017916	
参考書	<p>TOEIC Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題</p> <p>適宜資料を配布する。Textbooks: distribute materials as needed.</p> <p>参考文献: References: 『ドラッカー 365の金言 単行本 - 2005/12/2』 ISBN-13: 978-4478300732 単行本: 416ページ</p>			
備考	<p>講義はTOEICテキストの解釈、音読、問題演習、ジョブズなど経営者によるスピーチやプレゼンの解釈、音読、ドラッカーなどビジネスに直結する内容や表現の解釈、音読、などを行います。またDaily DruckerのAction Pointを用いてクラスで討議したり、クラス内のグループでミニプレゼンを作り、発表+QAなども行います。</p> <p>ビジネス英語実習(全科目)の単位が認定されるためには、クラス担当2名の各教員それぞれのクラスの出席数を、2/3以上満たす必要があります。(全講義数の2/3、ではありません)</p>			
昨年度からの振り返り	<p>① 講義難易度については、現状のレベルで、平易な表現を選択しますが、その分、話す、聞く力を意識して練習します。</p> <p>② ブレイクアウトなどグループで討議したり、発表したりする機会を増やし、また事前に時間を区切ることで、効率よく、かつ集中力の途切れない講義構成とします。</p> <p>学生各位の積極的、自主的な授業への参加を希望します。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	ビジネス英語実習Ⅲ					授業形態	実習
授業コード	PE31410001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	柿崎 理、阿部川 久広、平野 麻紀子、Joe Hug、後藤 亮、Adelaide Vambe						
授業概要	<p>ビジネスとICTを用いて、世界に変革を起こしていくためには、さまざまな国の人々と協同することが必要であり、様々な価値観や文化的背景の違う人々と協働するために多様性の受容、コミュニケーション、ディベート、ネゴシエーション、プレゼンテーションなどを共通言語となる英語で行うことができることは重要である。</p> <p>ビジネス英語実習Ⅲでは、1年次の「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ」を土台とし、ケーススタディを通じてビジネスやICTのトレンドを活かす力、英語でビジネスプランや新たな製品やサービスの提案を行うことができる力、英語で業務の指示や相談ができる力を身に付ける。授業の後半ではグローバル企業での1dayインターンシップや職業体験などを行う。本授業終了時にはビジネスの現場で滞りなく業務を遂行できる英語力を習得することを目指す。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った内容を英語で理解し、表現できる ・授業を通じ、グローバルなビジネスの場の英語実践を行う。 						
授業計画							
第1回	Introduction to course, Textbooks, and Expectations						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter1 (1) ・ [Drucker] p. 1-33 “January” ・ Entrepreneurs' English/Jeff Bezos-1 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter1 (2) ・ [Drucker] p. 35-65 “February” ・ Entrepreneurs' English/Jeff Bezos-2 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter1 (3) ・ [Drucker] p. 67-99 “March” ・ Entrepreneurs' English/Jeff Bezos-3 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter2 (1) ・ [Drucker] p.10-132 “April” ・ Entrepreneurs' English/Jeff Bezos-4 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter2 (2) ・ [Drucker] p. 133-165 “May” ・ Entrepreneurs' English-Elon Musk-1 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Wickman] Chapter2 (3) ・ [Drucker] p. 167-198 “June” ・ Entrepreneurs' English/Elon Musk-2 						

第8回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter3 (1) • [Drucker] p. 199-231 “July” • Entrepreneurs' English/Elon Musk-3
第9回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter3 (2) • [Drucker] p. 233-265 “August” • Entrepreneurs' English/Elon Musk-4
第10回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter3 (3) • [Drucker] p. 267-298 “September” • Entrepreneurs' English/Mark Zuckerberg-1
第11回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter4 (1) • [Drucker] p. 299-331 “October” • Entrepreneurs' English/Mark Zuckerberg-2
第12回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter4 (2) • [Drucker] p. 333-364 “November” • Entrepreneurs' English//Mark Zuckerberg-3
第13回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter4 (3) • [Drucker] p. 365-397 “December” • Entrepreneurs' English/Steve Jobs-1
第14回	<ul style="list-style-type: none"> • [Wickman] Chapter5 (1) • Entrepreneurs' English/Steve Jobs-2 • [Ohno] Philip Kotler-1
第15回	<ul style="list-style-type: none"> [Wickman] Chapter5 (2) • Entrepreneurs' English/Steve Jobs-3 • [Ohno] Philip Kotler-2
第16回	<ul style="list-style-type: none"> [Wickman] Chapter5 (3) • Entrepreneurs' English/Bill Gates-1 • [Ohno] Philip Kotler-3

第17回	<p>[Wickman] Chapter6 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 1-33 “January” • Entrepreneurs' English/Bill Gates-2 • [Ohno] Philip Kotler-4
第18回	<p>[Wickman] Chapter6 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 35-65 “February” • Entrepreneurs' English/Bill Gates-3 • [Ohno] Philip Kotler-5
第19回	<p>[Wickman] Chapter6 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 67-99 “March” • Entrepreneurs' English/Larry Page and Sergey Brin-1 • [Ohno] Philip Kotler-6
第20回	<p>[Wickman] Chapter7 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p.10-132 “April” • Entrepreneurs' English/Larry Page and Sergey Brin-2 • [Ohno] Scott Galloway-1
第21回	<p>[Wickman] Chapter7 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 133-165 “May” • Entrepreneurs' English/Larry Page and Sergey Brin-3 • [Ohno] Scott Galloway-2
第22回	<p>[Wickman] Chapter7 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 167-198 “June” • Entrepreneurs' English/Jack Ma-1 • [Ohno] Scott Galloway-3
第23回	<p>[Wickman] Chapter8 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 199-231 “July” • Entrepreneurs' English/Jack Ma-2 • [Ohno] Scott Galloway-4

第24回	<p>[Wickman] Chapter8 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 233-265 “August” • Entrepreneurs' English/Jack Ma-3 • [Ohno] Scott Galloway-5
第25回	<p>[Wickman] Chapter8 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 267-298 “September” • Entrepreneurs' English/Jimmy Wales-1 • [Ohno] Scott Galloway-6
第26回	<p>[Wickman] Chapter9 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 299-331 “October” • Entrepreneurs' English/Jimmy Wales-2 • [Ohno] Yuval Noah Harari-1
第27回	<p>[Wickman] Chapter9 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 333-364 “November” • Entrepreneurs' English/Jimmy Wales-3 • [Ohno] Yuval Noah Harari-2
第28回	<p>[Wickman] Chapter9 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drucker] p. 365-397 “December” • [Ohno] Yuval Noah Harari-2
第29回	<p>[Wickman] Chapter10</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Ohno] Yuval Noah Harari-2
第30回	FINAL EXAMS
成績評価の方法	<p>Attitude: 授業へ積極的に参加しているか、思考し発言しているか、理解しようと努めているか (15%) Contribution: 授業に貢献しているか、グループ内で発言しているか、議論に参加しリードし議論内容を進化させようとしているか (15%) Willingness: 積極的に参加しようと努めているか、グループの議論を助けようとしているか、何かを得ようとやる気を出しているか (10%) Assignment: 授業中のタスク、授業中のプレゼンテーション、授業中の発言、授業後の提出物など、課されているものをしっかり理解し、対応しようとしているか (60%)</p>
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>Prior to each week's class, students will be expected to per-read the weekly assignments, be aware of homework, quizzes, or other assignments that are due, and ensure all work is completed on time. 毎週の授業に先立ち、学生は毎週の課題を熟読し、宿題、小テスト、その他の課題の期限に注意し、すべての課題を時間内に完了することが求められる。</p>

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
[Cosmopia] Entrepreneurs' English	Cosmopia	Cosmopia	978-4864541282	

[Drucker] The Daily Drucker	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社	978-0750665995	
[Ohno] On the Frontline of Wisdom	大野 和基	ジャパンタイムズ	978-4789017138	
[WICKMAN] Traction	Gino Wickman	BenBella Books, Inc	978-1936661831	
参考書	[Wickman] Tracstion (Japanese) 978-4-8282-0854-8 (English) 978-193666183-1 [Drucker] The Daily Drucker (Japanese) 978-4478300732 (English) 978-0750665995 [Aulet] Discipline Entrepreneur (Japanese) 978-4478029152 (English) 978-1118692288			
備考	ビジネス英語実習（全科目）の単位が認定されるためには、クラス担当2名の各教員それぞれのクラスの出席数を、2/3以上満たす必要があります。（全講義数の2/3、ではありません）			
昨年度からの振り返り	<p>Each class session will follow the "flipped classroom" format, which means it is a student-centered style. Therefore, students must be well prepared before coming to the classroom. Students will be given all the information, study materials, and other documents to self-study at home. When students come to class, they will complete traditional "homework" exercises -in order to test their ability, skills, and understanding. Groups will be created, and students must contribute to the group's success.</p> <p>各回の授業は「反転授業」という形式に沿って行われますので、生徒中心のスタイルになります。そのため、教室に来る前に十分な準備をしておく必要があります。生徒には、自宅で自習するための資料や学習資料などがすべて配布されます。生徒が授業に来ると、伝統的な「宿題」の演習を行います-自分の能力、スキル、理解力を試すために。グループを作り、生徒はグループの成功に貢献しなければなりません。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	ビジネス英語実習Ⅳ					授業形態	実習
授業コード	PE41410001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平野 麻紀子、阿部川 久広、柿崎 理、Joe Hug、後藤 亮、Adelaide Vambe						
授業概要	<p>ビジネスとICTを用いて、世界に変革を起こしていくためには、さまざまな国の人々と協同することが重要である。様々な価値観や文化的背景の異なる人々と協働するために多様性の受容、コミュニケーションやプレゼンテーションなどを共通言語となる英語で行う必要がある。ビジネス英語実習Ⅳでは、「ビジネス英語実習Ⅰ～Ⅲ」を土台とし、カンファレンスやビジネスプランコンテストなどで、ビジネスプランを英語でプレゼンテーションするという想定で講義のゴールを設定する。そのためのビジネスプランそのもの、そのストーリー化、スクリプト化、プレゼンテーション資料の作成、発表に向けた段取りなどについて学習を進める。TED、SLUSH、STARTUP WORLDCUPなど、世界的なスタートアップのイベントやプレゼンテーションの機会で本学の学生がネイティブと対等にプレゼンテーションやコミュニケーションを図ることができることを目標とする。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った内容を英語で理解し、表現できる ・授業を通じ、グローバルなビジネスの場の英語実践を行う。 						
授業計画							
第1回	Daily Dracker-1 (2.2) Traction Chapter 1 (1) Discussion and presentation						
第2回	Daily Dracker-2 (2.13) Traction Chapter 1 (2) Discussion and presentation						
第3回	Daily Dracker-3 (2.27) Traction Chapter 1 (3) Discussion and presentation						
第4回	Daily Dracker-4 (2.28) Traction Chapter2 (1) Discussion and presentation						
第5回	Daily Dracker-5 (2.29) Traction Chapter2 (2) Discussion and presentation						
第6回	Daily Dracker-6 (3.12) Traction Chapter2 (3) Discussion and presentation						
第7回	Daily Dracker-7 (3.17) Traction Chapter3 (1) Discussion and presentation						
第8回	Daily Dracker-8 (3.21) Traction Chapter3 (2) Discussion and presentation						
第9回	Daily Dracker-9 (4.1) Traction Chapter3 (3) Discussion and presentation						
第10回	Daily Dracker-10 (4.24) Traction Chapter4 (1) Discussion and presentation						
第11回	Daily Dracker-11 (5.9) Traction Chapter4 (2) Discussion and presentation						
第12回	Daily Dracker-12 (5.27) Traction Chapter4 (3) Discussion and presentation						
第13回	Daily Dracker-13 (6.8) Traction Chapter5 (1)						

	Discussion and presentation
第14回	Daily Dracker-14 (6.26) Traction Chapter5 (2) Discussion and presentation
第15回	Daily Dracker-15 (7.18) Traction Chapter5 (3) Discussion and presentation
第16回	Daily Dracker-16 (8.10) Traction Chapter6 (1) Discussion and presentation
第17回	Daily Dracker-17 (8.11) Traction Chapter6 (2) Discussion and presentation
第18回	Daily Dracker-18 (8.12) Traction Chapter6 (3) Discussion and presentation
第19回	Daily Dracker-19 (8.13) Traction Chapter7 (1) Discussion and presentation
第20回	Daily Dracker-20 (8.25) Traction Chapter7 (2) Discussion and presentation
第21回	Daily Dracker-21 (8.26) Traction Chapter7 (3) Discussion and presentation
第22回	Daily Dracker-22 (8.27) Traction Chapter8 (1) Discussion and presentation
第23回	Daily Dracker-23 (9.9) Traction Chapter8 (2) Discussion and presentation
第24回	Daily Dracker-24 (10.3) Traction Chapter8 (3) Discussion and presentation
第25回	Daily Dracker-25 (10.30) Traction Chapter9 (1) Discussion and presentation
第26回	Daily Dracker-26 (10.31) Traction Chapter9 (2) Discussion and presentation
第27回	Daily Dracker-27 (11.12) Traction Chapter9 (3) Discussion and presentation
第28回	Daily Dracker-28 (supplement) Traction Chapter10 (1) Discussion and presentation
第29回	Daily Dracker-29 (supplement) Traction Chapter10 (2) Discussion and presentation
第30回	Daily Dracker-30 (supplement) Traction Chapter10 (3) Discussion and presentation

成績評価の方法	<p>Attitude: 授業へ積極的に参加しているか、思考し発言しているか、理解しようと努めているか (15%)</p> <p>Contribution: 授業に貢献しているか、グループ内で発言しているか、議論に参加しリードし議論内容を進化させようとしているか (15%)</p> <p>Willingness: 積極的に参加しようと努めているか、グループの議論を助けようとしているか、何かを得ようとやる気を出しているか (10%)</p> <p>Assignment: 授業中のタスク、授業中のプレゼンテーション、授業中の発言、授業後の提出物など、課されているものをしっかり理解し、対応しようとしているか (60%)</p>			
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>Prior to each week's class, students will be expected to per-read the weekly assignments, be aware of homework, quizzes, or other assignments that are due, and ensure all work is completed on time. 毎週の授業に先立ち、学生は毎週の課題を熟読し、宿題、小テスト、その他の課題の期限に注意し、すべての課題を時間内に完了することが求められる。</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
The Daily Drucker	Peter F. Drucker	HarperCollins		
Traction	Gino Wickman	BenBella Books, Inc	978-1936661831	
参考書	<p>1. "Blitzscaling: The Lightning-Fast Path to Building Massively Valuable Companies" Reid Hoffman (Currency) ISBN 978-1-5247-6142-4 ブリッツスケールリング 苦難を乗り越え、圧倒的な成果を出す武器を共有しよう</p> <p>2. "Crossing the Chasm" Geoffrey A. Moore (HarperCollins) ISBN 978-0-06-229298-8 キャズム: 版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論</p> <p>3. "Inside The Tornado" Geoffrey A. Moore (HarperCollins) ISBN 978-0-06-074581-3</p>			
備考	<p>ビジネス英語実習 (全科目) の単位が認定されるためには、クラス担当 2 名の各教員それぞれのクラスの出席数を、2/3以上満たす必要があります。(全講義数の2/3、ではありません)</p>			
昨年度からの振り返り	<p>Each class session will follow the "flipped classroom" format, which means it is a student-centered style. Therefore, students must be well prepared before coming to the classroom. Students will be given all the information, study materials, and other documents to self-study at home. When students come to class, they will complete traditional "homework" exercises -in order to test their ability, skills, and understanding. Groups will be created, and students must contribute to the group's success.</p> <p>各回の授業は「反転授業」という形式に沿って行われますので、生徒中心のスタイルになります。そのため、教室に来る前に十分な準備をしておく必要があります。生徒には、自宅で自習するための資料や学習資料などがすべて配布されます。生徒が授業に来ると、伝統的な「宿題」の演習を行います-自分の能力、スキル、理解力を試すために。グループを作り、生徒はグループの成功に貢献しなければなりません。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	多文化理解					授業形態	演習
授業コード	CCM1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	白河 桃子、岩澤 康一						
授業概要	本授業では、日本のみならず世界中の事例をとりあげ、複数の異文化が混在する「多文化社会」の中で知っておきたい人種・文化・宗教、価値観と学んだ知識をもとに適切に行動し、異文化を受容する素地を養う。具体的には、多文化の中でのキーワードや事例を取り上げ、グループでの調査やプレゼンテーションを行い、相互理解を深める。多様性が入り混じる社会やビジネスの現場において、様々な考え方や文化を受け止め、最大限のパフォーマンスを引き出せるリーダーとしての素養や実務を支える理論・知識を講義やディスカッション、ロールプレイを通じて習得する。						
授業の目的・到達目標	私たちの出発点は、異文化（different culture）の理解ではなく、多様な文化が混在し、協調しあう多文化（multiculture）の理解である。それは文化の単なるテキスト（text文章）の集積ではなく、コンテクスト（context文脈）の包括的理解である。そのための切り口が知識、概念、体験、問いかけであり、それらをグループで討議し、まとめ、クラス全体の共有知とした上で、それを行動に結びつける（行動に結びつかない知性は道半ばである）。行動は、国籍、地域、人種、宗教、文化、男女などに関わるあらゆる偏見を超える必要がある。多様なバックグラウンドを持つ2人の個人的な俊英がそれぞれの体験と考察に基づき具体的な文化論を諸君とともに展開する。この講義は君たちがグローバルで活躍するための太い知性の幹、他の世界人と競い、高め合うための強力な武器となる。						
授業計画							
第1回	CMはなぜ炎上するのか？ ビジネス、クリエイティブに必要なジェンダー視点をアップデート（担当：白河）						
第2回	コロナから始まった若者への食糧支援とグリ下の居場所づくり（担当：白河） （ゲスト講師：今井紀明氏 1985年札幌生まれ。立命館アジア太平洋大学（APU）卒。高校生のとき、イラクの子どもたちのために医療支援NGOを設立。その活動のために、当時、紛争地域だったイラクへ渡航。その際、現地の武装勢力に人質として拘束され、帰国後「自己責任」の言葉のもと日本社会から大きなバッシングを受ける。結果、対人恐怖症になるも、大学進学後、友人らに支えられ復帰。偶然、中退・不登校を経験した10代と出会う。親や先生から否定された経験を持つ彼らと自身のバッシングされた経験が重なり、2012年にNPO法人D×Pを設立。経済困窮、家庭事情などで孤立しやすい10代が頼れる先をつくるべく、LINE相談「ユキサキチャット」や定時制高校での授業や居場所事業を行なう。10代の声を聴いて伝えることを使命に、SNSなどで発信を続けている。）						
第3回	台湾にみる多様性 アジアトップのジェンダー平等を実現した台湾から学べることは？（担当：白河） （ゲスト講師：近藤弥生子氏 台湾のオードリー・タン デジタル担当相への取材、コーディネートを多数手がけ、著書も多数出版。近著に『まだ誰も見たことのない「未来」の話しよう』（SBクリエイティブ）台湾在住の編集・ライター）						
第4回	LGBTQとは何か、見えないマイノリティであるLGBTQが社会的にどう認められつつあるか（担当：白河） （ゲスト講師：松中権氏 電通退社後、NPOグッド・エイジング・エールズ代表／プライドハウス東京代表／一般社団法人Marriage for All Japan結婚の自由をすべての人に 理事）						
第5回	ビジネスの基礎教養としての「モラル」と「人権」 Netflixの現場改革などの事例から（担当：白河）						
第6回	国際派キャリアの作り方：経済・経営学理論で考える自分育成論（担当：岩澤） ：多文化、多言語、国際的感覚を身につけ、キャリアを形成していくことが授業の大きな目的のひとつであることに加え、多文化理解を学ぶ醍醐味、意義を再確認するために、講師の経験を活かしたキャリア形成論をビジネスの世界に即した角度から展開する講義を予定。						
第7回	中東、アラブ、イスラームへの偏見と現在（担当：岩澤） （ゲスト講師：モハメド・アルマンズール氏。シリア出身。元アレppo大学教授。元アレppo日本文化センター長。在シリア日本大使館のアレppoにおけるパートナーとして長年、日本文化普及に努める。現在は日本国籍を取得。大学で国際理解やイスラームなどを教える。昨今のハマス・イスラエル間の武力衝突やアラブの春にまつわる内容にも触れる予定。）						
第8回	米国人として米国外資系企業の日本人で働きながら直面する多文化問題（担当：岩澤） （ゲスト講師：ジョセフ・ラッテリ氏。米国オレゴン州出身。葛飾区在住。メルトウォーター日本法人エリアディレクター。同社のSNSモニタリングツールはグローバル市場においても業界屈指。多数の大型クライアントを抱えている。週末は地元のサッカーコーチ。）						
第9回	世界の映画を通して見る異文化・多文化理解（担当：岩澤） （ゲスト講師：菊地裕介氏 東京国際映画祭プロモーション部チーフプロデューサー。世界有数の国際映画祭（毎秋開催）のプロモーションを統括。日本も含めた世界の映画の紹介やプロモーション、その調整過程で経験してきた異文化・多文化理解についての講義を予定。）						
第10回	カメラマンとして世界中の有名人との撮影を通じて学んだキャリア理論（担当：岩澤） （ゲスト講師：リチャード・コロポ氏 イタリア系イギリス人。ハリウッドスター、スポーツ選手、大手報道機関などでビデオプロデューサー兼ディレクターとして活躍。生き残りが難しい業界で長年、国際的な成功を収めてきたそのキャリア理論についての講義を予定。）						
第11回	SFで読み解く異文化・多文化理解とグッドアンセスターになるために（担当：岩澤） （ゲスト講師：小谷知也氏 WIRED日本版副編集長、SFプロタイピング研究所所長。「未来を実装するメディア」WIREDでは最先端の技術を切り口に、人間社会や地球の未来を見据える記事を量産。多文化を生物全般にも拡張した概念も紹介。特にSFを切り口にして、いかにグッドアンセスター（よき祖先）になるかを問うような講義を予定。）						

第12回	芥川賞作家が考える文学的な象徴と異文化・多文化理解（担当：岩澤） （ゲスト講師：上田岳弘氏 「ニムロッド」で2019年、第160回芥川賞を受賞。塔や重力などの象徴を駆使して、時にSF的な作風の作品を展開。村上春樹の後継者との声も高い。芥川賞作家による異文化・多文化についての見解や考察についての講義を予定。）			
第13回	たかが英語、されど英語の重要性とインドの文化的多様性（担当：岩澤） （ゲスト講師：クシャール・キレーティ氏 インド出身。建築家として来日。後に英語教師として再来日。現在は複数の大学や専門学校で英語教師として教壇に立つ。インドのシリコンバレーと呼ばれるバンガロール出身。英語がすべてではないが、それでもいかに英語が多文化・異文化環境へのカギになるかについて、インドの文化的多様性にも触れるような講義を予定。）			
第14回	非暴力コミュニケーションで築く平和と異文化・多文化共生（担当：岩澤） （ゲスト講師：今井麻希子氏 非暴力コミュニケーション（NVC）のトレーナー。共感に重きをおいたコミュニケーションによって、感情やニーズを理解した上で、互いにリクエストし合うような関係を構築するためのNVCを全国で講演・講義。異文化・多文化の目的として、平和構築を目指せるような人材になるための知識やコツ、考え方についての講義を予定。）			
第15回	総括：多彩なゲスト講師の発表から得た知見のまとめ（担当：岩澤）			
成績評価の方法	定期試験は実施しない。 成績は、 ①出席による講義への質的参加度合と回数 ②毎回の講義で講師が指示する提出課題の内容と提出回数 ③各講師がそれぞれの講義の最終回に課する最終レポートの提出と内容の3つで評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	各講師がシラバスで掲げる概要に関して、自分なりに予習することが望ましい。また、復習を必ず行うこと。（予習・復習をあわせて各回180分程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ハラスメントの境界線	白河桃子	中央公論新書	978-4-12-150656-6	
異文化理解入門	原沢伊都夫	研究社	978-4-327-37734-2	
参考書				
備考	【岩澤康一】 ゲスト講師のスケジュールの都合で、登場回が変更になる可能性あり。また、発表内容は講義回前にゲスト講師と調整予定。			
昨年度からの振り返り	【白河桃子】 多彩なゲストをお招きすることで、みなさんの視点が広がり、多様性の一助となることを期待しています。また社会変革、社会インパクトのプロのゲストなので、事業の立ち上げについての知見が得られます。 【岩澤康一】 授業での質的参加度や課題への優れた取り組みをより成績に反映するために、登録者名簿をもとにして、より学生一人一人に寄り添った授業スタイルを予定。			

授業年度	2024年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	比較宗教論					授業形態	演習
授業コード	CRS1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	藤井 修平						
授業概要	本授業では、宗教の定義や歴史、世界の主要な宗教の基本的な概念の理解とその比較を通して、宗教と人間、文化、社会の関係性について検討を行う。これまでの歴史において、宗教と無関係の社会や文化はない。諸宗教の理解を通じて、グローバル時代にふさわしい宗教についての中立的で幅広い知識を身に付ける。あわせて、人間の生活や文化、生き方に大きな影響をもたらす宗教がそれぞれどのような理念体系を持ち、また人々や社会にどのように受け入れられているのかを知ること、より深く人間を理解することを目標とする。ビジネスの場面において、宗教や社会を理解した発想や応用ができるよう理論や知識を習得する。						
授業の目的・到達目標	(1) 「宗教」という概念に含まれるさまざまな要素を整理して述べることができる。 (2) 世界の宗教についての知識を、時事問題の理解や日常的問題の解決に応用することができる。 (3) 政治やビジネス、芸術など社会の諸側面に、宗教がいかに影響を与えているかを適切に説明することができる。						
授業計画							
第1回	【導入（第1回～第2回）】 オリエンテーション						
第2回	宗教学的思考—宗教はどのように研究できるか						
第3回	【世界の宗教を学ぶ（第3回～第7回）】 仏教—地域によってさまざまに違う教え						
第4回	キリスト教—西洋文明の根本						
第5回	イスラム教—ますます身近になる宗教						
第6回	ユダヤ教とヒンドゥー教—古代から現在まで続く教え						
第7回	日本宗教—多様な信仰の形						
第8回	【身近な宗教的事象（第8回～第10回）】 スピリチュアル・ブーム—新しい宗教性のあり方						
第9回	神話—創作へのインスピレーションの源						
第10回	宗教のネガティブな側面—疑似科学とカルト問題						
第11回	【社会のさまざまな側面と宗教（第11回～第15回）】 宗教と政治—なぜ宗教のもとで人は動くのか						
第12回	宗教と哲学—世界のあり方をめぐる知的な戦い						
第13回	宗教とジェンダー—宗教への異議と、それへの応答						
第14回	宗教とビジネス—関わりの歴史と新たな応用の試み						
第15回	宗教とテクノロジー—技術発展の背後にある宗教的思想						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加状況 30% 評価基準：予習・復習が行えており、授業に真面目に取り組む姿勢が見られること ・ 授業後課題 30% 評価基準：学んだことや問いに応じた意見が記述されていること ・ 期末レポート 40% 評価基準：選んだテーマに対して、授業で学んだ内容を踏まえて自分の考えが提示できていること 期末レポートの課題内容は初回授業時に伝えます。						
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習（90分） 各授業の最後に次回のテーマを提示するので、そのテーマに関わるニュースや用語などを予習してください。同時に、次回の授業の導入で取り上げる問いも提示するので、自分の答えを考えてきてください。 ・ 復習（90分） 授業後に課題を提示するので、授業内容を踏まえて回答してください。次回の授業開始時に設ける復習の時間で、提出された課題について講評を行います。また、期末レポートのために毎回の授業の中から関心のあるテーマを1つ選び、情報を収集しておいてください。 						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			

指定なし				
参考書	<p>毎回、教員が作成した資料を使用するため教科書は用いませんが、授業の理解を助けるものとして以下を参考書として指定します。</p> <p>井上順孝『本当にわかる宗教学』日本実業出版社、2011年 櫻井義秀、平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年 伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義編『宗教学』昭和堂、2023年</p>			
備考	<p>受講者との双方向性を重視し、授業内で特定のトピックについて議論する時間を設けるほか、授業毎に質問や感想を受け付けます。授業中の疑問点や分かりにくかった点、質問、感想などは積極的に述べてください。</p>			
昨年度からの振り返り	<p>学習達成度や理解等に関するアンケート結果は概ね平均程度であったので、そのため引き続き同様の授業内容で進めていきたい。一方で学生同士の関わりに関するアンケートの値はやや低く、自由記述にもグループワークの要望が多かった。そのため今年度はグループワークを重視する形で授業を組み立てることを意図している。</p>			

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	グローバルビジネスと通訳					授業形態	講義
授業コード	EIB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	阿部川 久広						
授業概要	ビジネスの現場では、語学や専門知識に関する理解力や運用能力に格差があるチームメンバーとともに仕事を進めなければならない場面が数多くある。 グローバルな場面でリーダーシップを発揮していく中では、ビジネスや会議の内容をその場でまとめ、共有する場面や、相手の反応に応じて理解できるスキルやコミュニケーション力が求められる。本授業では、上記のような場面でも通用するグローバルコミュニケーションの技法の1つとして、通訳を取り上げ、ビジネスの現場で多方面に展開できる通訳スキルとコミュニケーション力を修得する。						
授業の目的・到達目標	多様な人種・文化・宗教・価値観が入り混じるグローバル社会について、ロールプレイを通じ体感しながら知識を習得し、文化の違いを受容しつつ、リーダーシップを発揮し多方面にわたり円滑にビジネスを展開していくことができるようになる。						
授業計画							
第1回	通訳史、翻訳史、理論的バックグラウンドと周辺理論-1						
第2回	通訳史、翻訳史、理論的バックグラウンドと周辺理論-2						
第3回	内容の理解-1 (小松第四章) 理解と実習						
第4回	内容の理解-2 (小松第四章) 理解と実習						
第5回	内容の理解-3 (小松第四章) 理解と実習						
第6回	ノートの取り方-1 (小松第五章) 理解と実習						
第7回	ノートの取り方-2 (小松第五章) 理解と実習						
第8回	ノートの取り方-3 (小松第五章) 理解と実習						
第9回	声に出して表現してみる-1 (小松第六章) 理解と実習						
第10回	声に出して表現してみる-2 (小松第六章) 理解と実習						
第11回	サイトトランスレーションと同時通訳-1 (小松第七章、第八章) 理解と実習						
第12回	サイトトランスレーションと同時通訳-2 (小松第七章、第八章) 理解と実習						
第13回	翻訳入門-1						
第14回	翻訳入門-2						
第15回	まとめ：通訳とは何か、翻訳とは何か (歴史、考え方、テクニック、ビジネス現場での応用など)						
成績評価の方法	(1) 毎回の講義内での議論、討議、実習の内容の理解と、実習に取り組む姿勢65% (2) 実習での達成度25% (3) 最終実習試験10%						
準備学修 (予習・復習、課題等)	(1) 講義内での実習に集中し、講義時間内に内容を理解し、さらなる実践への手がかりを掴むこと、(2) 講義後に必ず実践の復習を行うこと。(3) 毎日継続して実習すること						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
通訳の技術	小松達也	研究社		978-4327451912			
参考書	よくわかる翻訳通訳学 (鳥飼玖美子編著) ミネルヴァ書房 よくわかる逐次通訳 (ベルジュロ伊藤宏美他) 東京外国語大学出版 実践英語スピーチ通訳 (ピンカートン瞳子ほか) 大修館書店						
備考	実際のビジネスで用いられたPowerPointを用いて、英語での読み、英日逐次訳、日英逐次訳などもトレーニングします。						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	国際情勢論					授業形態	講義
授業コード	INS1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	柿崎 理、藤井 修平						
授業概要	世界で起こっている出来事とそれに伴う各国の変化や動きなどを地政学・歴史・地理・経済などの観点から読み解く視点を養う。具体的には、各回ごとにこれまで起こった国際情勢の変化の代表的な出来事や時事の話題を取り上げ、その背景と結果を分析、解説する。また、現在起こっているグローバル化について、これまでの事例から日本の社会や私たちの生活、ビジネスにどのような影響を及ぼすのかを検討する。本講義を通じ、国際情勢を分析する視点を養い、グローバル化が進む現代でビジネスや事業を展開する上で必要な判断力や応用力を養う。						
授業の目的・到達目標	一見混沌として見える国際関係にある切り口で眺められ、個々の事象について自分なりに整理でき、その背景や原因、影響について説明できる。						
授業計画							
第1回	序論						
第2回	国際政治学の諸原理						
第3回	国際関係史1－ウエストファリアから第一次世界大戦まで						
第4回	国際関係史2－第一次世界大戦から第二次世界大戦まで						
第5回	国際関係史3－冷戦						
第6回	国際関係のマクロ理論						
第7回	国際関係のミクロ理論						
第8回	現代の国際情勢－冷戦後の展開						
第9回	現代の国際情勢－現在の紛争地域						
第10回	現代の国際情勢－テロリズム						
第11回	現代の国際情勢－グローバル化						
第12回	現代の国際情勢－国際経済と相互依存関係						
第13回	現代の国際情勢－ICTと国際関係						
第14回	現代の国際情勢－トランスナショナルな諸問題と国際関係						
第15回	授業のまとめ・確認テスト						
成績評価の方法	講義時に指示された課題の提出状況（40%）、講義や講義内で示された課題に対して取り組む姿勢、議論等への貢献度（30%）、確認テスト（30%）により評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習として、入江昭『新日本の外交』（中公新書）、中西寛『国際政治とは何か』（中公新書）などの入門書を読むこと。また、日頃から様々な媒体で国際情勢に触れてみる（計90分）。 復習としては、講義を聞いて関心を抱いたことについて、関連図書を読んだり、徹底的に調べてみる（90分）。						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
『国際紛争－理論と歴史』原書第10版	ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ著、田中明彦、村田晃嗣訳	有斐閣		978-4641149175			
参考書	滝田賢治、大芝亮、都留康子編『国際関係学 第2版』有信堂、2017年 広瀬佳一、小笠原高雪、小尾美千代編著『よくわかる国際政治』ミネルヴァ書房、2021年 『今がわかる時代がわかる 世界地図 2024年版』成美堂出版、2023年 赤木完爾、国際安全保障学会編著『国際安全保障がわかるブックガイド』慶應大学出版会、2024年						
備考	講義中は、私語や指示がある場合を除いてPC、タブレット、スマートフォンの操作は慎むこと。						

昨年度からの振り返り	学習の内容に関するアンケート結果は概ね平均的、難易度と学習量に関してはほとんどが適切という結果だった。引き続き同様の授業方式を維持しつつ、情勢の変動に鑑みた最新の情報を取り入れられるように取り組みたい。
------------	---

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	日本文化					授業形態	演習
授業コード	JCS1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	渡辺 祐真						
授業概要	現在、世界ではゲームやアニメなどのポップカルチャーを中心にクール・ジャパン現象への関心が寄せられているが、これはジャポニズムから始まる近現代の日本文化ブームの一連の流れの一つである。本講義では、近現代も含めた時代ごとの「日本文化論」とそれを構成する要素、またそれらの国内外での評価をもとに「日本文化」自体の形成過程を論じる。様々な文献や映像、絵画、マンガ等を教材とし、日本独自の文化の歴史的な変遷や海外の文化との関係性についても理解を深める。日本文化への理解を通じ、文化や社会の形成の観点からもビジネスの思想や発想ができるよう理論や知識を習得する。						
授業の目的・到達目標	鑑賞した作品について、複数の見方ができるようになる。 「好き」を共有できない相手にも理解可能な仕方でも文化を語り伝えることができる。 ポピュラーカルチャーを通じて、現代という時代や日本社会の特性を論じることができる。 友人とともに、事柄のより深い理解を目指して主張し、議論することができる。 論説文を適切かつ妥当に読解することができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス、自己紹介、本の読み方、資料の作り方						
第2回	日本文化の見方を学ぶ① 日本文化論への入門～日本文化史1～						
第3回	日本文化の見方を学ぶ② 日本文化論への入門～日本文化史2～						
第4回	日本文化の見方を学ぶ③ 日本文化論への視点～日本文化史3～						
第5回	日本文化の見方を学ぶ④ 日本文化論への視点～日本文化史4～						
第6回	日本文化の見方を学ぶ⑤ 日本文化論の分析と考察～日本文化各論 文学～						
第7回	日本文化の見方を学ぶ⑥ 日本文化論の分析と考察～日本文化各論 文学～						
第8回	日本文化の見方を学ぶ⑦ 日本文化論の深化～日本文化各論 文学～						
第9回	日本文化の見方を学ぶ⑧ 日本文化論の深化～日本文化各論 アニメ・漫画～						
第10回	日本文化の見方を学ぶ⑨ 日本文化論の考察と展開～日本文化各論 アニメ・漫画～						
第11回	日本文化の見方を学ぶ⑩ 日本文化論の考察と展開～日本文化各論 アニメ・漫画～						
第12回	日本文化の見方を学ぶ⑪ 日本文化論の発展～日本文化各論 芸能～						
第13回	日本文化の見方を学ぶ⑫ 日本文化論の発展～日本文化各論 芸能～						
第14回	日本文化の見方を学ぶ⑬ 日本文化論の総括と今後～日本文化各論 芸能～						
第15回	日本文化の見方を学ぶ⑭ 日本文化論の総括と今後						
成績評価の方法	授業内での発言等（30%）、授業内での発表（50%）、期末課題（20%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	受講生は、この授業を通じて2冊程度の本を専門家たる教員の案内を受けながら、厳密に、そして深く読み込んでいく。1人で読んでわかるものを読んでも仕方がないので、それなりの難易度があったり、読み込み甲斐のある文献を指定している。第2回以降では、参加者は指定された箇所を事前に読むこと。担当者は、発表資料を作り、発表の準備をしておくこと。予習120分程度・復習30分程度の時間配分を想定している。期末課題は、テストではなく提出物を予定している。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
批評理論入門	廣野由美子	中央公論新社	978-4121017901	電子版でもよい			
物語のカギ	渡辺祐真	笠間書院	978-4305709653	電子版でもよい			
野の古典	安田登	紀伊國屋書店	978-4314011808	電子版でもよい			
参考書	・田畑書店編集部編『小川洋子のつくり方』田畑書店、2021年						

備考	教科書を第2回目が始まるまでに入手しておくこと。電子版でもよい。 授業は、教科書の講読+ディスカッション+レクチャーの形で進めていく。講読パートでは、事前に指定された受講生が該当箇所を整理し、発表することになる（参加者は必ず1回発表する）。担当者は初回に決定するので、受講希望者は初回に必ず参加するように。
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート					授業形態	演習
授業コード	EDB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	浦嶋 直						
授業概要	グローバルにおける会議や交渉の場では、参加者が意見を伝え、対話するという、よりよい答えを導くプロセスを全員で形成する必要がある。本授業ではそういった場面での対話手法として、ディスカッションやディベートのスキルを身に付けることを目的とする。ディスカッションでは提示されるテーマを基に、資料、調査、質問事項などの準備を行い、発表や討議する。あわせて自身の意見や討議をエッセーにまとめる。ディベートでも同様に事前準備の上、賛否に分かれ議論し、ジャッジを行なうとともに議論の要点、強みと弱み、改善点などをグループでまとめ、次の学びにつなげる。一連の流れの中で、グローバルビジネス現場での会議など、文化的背景の異なる人々と協業や実践の場で応用できるディスカッション力、ディベート力を養う。なお、授業では国内の事例だけでなく、海外でのテレビ会議を想定した実践やオンラインの英文記事なども活用する。						
授業の目的・到達目標	ビジネスの現場において、自分の論点を相手に正しく理解してもらうこと、建設的な議論を進めることで有益な結論を導き出すことは、大きな価値をもたらすことにつながる。ディスカッションやディベートに共通する論理の作法や英文構成について理解を深め、身近な問題から世界的な社会問題に至るまで、様々なテーマで議論するための力を実践的な学びを通じて醸成する。その過程の中で、議論の技術のみならず、その基盤となる教養を深め、日本を発信するために必要な英語能力の向上を目指す。なお、教科書は英文で書かれているが、深い思考、批判的に思考する力を養うため、授業で使用する言語は主として日本語とする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション（自己紹介や授業の目標や進め方、教科書の紹介や評価方法について）						
第2回	Unit6 English ①: Before you read, Reading, Understanding the main ideas						
第3回	Unit6 English ②: Listening, Pros & Cons, Discussion tactics, Taking it further						
第4回	Unit2'Freeters'①: (同上)						
第5回	Unit2'Freeters'②: (同上)						
第6回	Unit4 Marriage ①: (同上)						
第7回	Unit4 Marriage ②: (同上)						
第8回	Unit5 Smoking and drinking ①: (同上)						
第9回	Unit5 Smoking and drinking ②: (同上)						
第10回	Unit10 Working parents ①: (同上)						
第11回	Unit10 Working parents ②: (同上)						
第12回	Unit11 Computers ①: (同上)						
第13回	Unit11 Computers ②: (同上)						
第14回	Unit14 Gender gap ①: (同上)						
第15回	Unit14 Gender gap ②: (同上)						
成績評価の方法	(1) 毎授業の演習における関与度（積極的な参加、発言、回答）：30% (2) 指示する課題の達成度：30% (3) 最終レポートの内容：40%						
準備学修（予習・復習、課題等）	各Unit①に関しては、「Reading」にある2つのコラムを予習の上、臨むこと。授業内で英文解釈の詳細は扱わないので、各自で読解してくる。取り上げるテーマについて、自分の視点や考えを整理してくる。各Unit②に関しては、クラスにて議論する際の、自分の論点を整理し用意してくる。具体的な内容については、授業の進捗状況に応じて指示していく。（各回予習90分・復習90分程度）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
Which side are you on?	Gillian Flaherty	SEIBIDO	9784791960286	2,100円（税別）			
参考書	『異文化理解力』エリン・メイヤー著、英治出版、9784862762085						
備考	授業は主として日本語で行います。日本語で深い思考が出来て初めて、英語での議論やディベートが効果的に行えるからです。進捗状況によって、英語に切り替える可能性があります。単なる勝ち負けでなく、より良い結論を導く思考訓練としての議論の作法を学んでいきましょう						

	う。英文解釈の詳細は授業内で扱わないので、DeepLなどの機械翻訳を活用しながら、必ず予習してから臨んでください。みなさんと大いに議論をする機会を楽しみにしています。
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	国際メディア論					授業形態	講義
授業コード	IMB1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	堂満 一成						
授業概要	劇的な変化と膨張を遂げている21世紀のメディア。新聞、テレビ、映画といった旧来のマスメディアに加え、インターネットやスマートフォンの普及によりソーシャルメディアが発達し、大都市からジャングルの奥地まで一瞬で同じ情報を共有し、世界が一斉に反応を始める新たなメディア時代に入っている。一方、エコーチェンバー、フィルターバブルといった情報の閉鎖空間に陥る問題も生じてきている。本講義では、メディアの起源や歴史と発展、グローバル化とデジタル化の進展により、新たなメディア・コミュニケーションを基盤とした社会の課題や可能性について学習する。						
授業の目的・到達目標	メディアの起源、発展プロセス、近現代のメディアの歴史を押さえ、ITのインフラやソーシャルメディアも加わったグローバルなメディアの体制を理解する。あわせて、最新の国際メディアの可能性や問題点、課題等について議論する。激しい環境変化の渦中にある世界の情報コミュニケーションの現状と未来像に批判的な視点も加えつつ目を向け、その役割と特性を理解し、情報メディアを賢く活用できるようになることを目指す。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ～身の回りを見るメディアとコンテンツ、そしてネット～						
第2回	世界のメディアのいま ～コンテンツとプラットフォームのせめぎ合い～						
第3回	メディア史#1 グーテンベルク、コーヒーハウス、新聞とビジネス						
第4回	メディア鎖国はどこまで可能か? ～ロシアと中国のいま～						
第5回	メディア史#2 音声・映像の時代へ ～蓄音機、映画、そしてエジソン～						
第6回	西洋のメディア見取り図 イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、イスラム世界など						
第7回	メディア史#3 日本のメディアの源流 遊行僧、かわら版、蔦屋重三郎						
第8回	日本のメディア見取り図 新聞・テレビ・映画・ネット						
第9回	メディア史#4 戦争、Me Too、ジャーナリズムと広告の微妙な関係						
第10回	アジアのメディア見取り図 中国、韓国、インドなど						
第11回	自分を守るための情報キュレーション ～フェイク対策、ファクトチェック～						
第12回	未来のメディア・公共放送、そしてコミュニケーションのゆくえ						
第13回	地域活性化、セルフブランディングのためのメディア活用術①						
第14回	地域活性化、セルフブランディングのためのメディア活用術②						
第15回	まとめ、確認テスト						
成績評価の方法	定期試験は実施しない。講義中のミニテストや議論・アクティブラーニングへの取り組み（30%）、講義時に指示した課題の提出・内容（30%）と、最終確認テスト（40%）で評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習として、「世界のメディアーグローバル時代における多様性」（小寺敦之編：春風社）や「図説 日本のメディア[新版]」（藤竹暁、竹下俊郎編著：NHKブックス）などを読み、BBCやCNN等海外メディアに触れる（90分）。 復習として、講義で関心を抱いたことについてWebや書籍で情報を読み、徹底的に調べてみる。こと。（90分）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料は授業中に指示する。						
備考	学生間・教員と学生の建設的で積極的なコミュニケーションを評価する。明るく楽しく元気よく、好奇心の熱量を授業にぶつけてほしい。自ら情報を収集し、最先端で起こっている事象、その背景や未来を考えてほしい。講義中は私語を慎むこと。						
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	製造業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GMI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小宮 昌人						
授業概要	情報通信・デジタル技術関連（AI・生成AI、ロボティクス、デジタルツイン・メタバース、IoT、データスペースなど）はもちろんのこと、広く製造業全般（自動車・産業機械、半導体などエレクトロニクス、その他プロセス製造業など）のテーマを扱い、製造業におけるグローバル化やイノベーション・デジタル化の事例を通じ、ビジネスの特性や専門性の理解を図る。具体的には、製造業の現場で用いられている技術文書に加え、製造業系のグローバルメディアや各企業・産学官機関のホワイトペーパーなどを利用し、技術や戦略・構造変化への理解を深める。日本語だけでなく英語でも事例を検討し、業界内の専門的なビジネスについて理解するとともに、経営やデジタル技術の専門知識をもとに製造業における新たなビジネス展開やイノベーションに活用できる応用力を身に付ける。ディスカッションや、事業案等の創出に重きを置き、最終講義では仮想的にグループや自らの製造業領域での起業プラン・事業案を提案・具体化する。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業の産業構造やグローバル化の動向を理解し関心を持つ ・生成AI・ロボティクス・デジタルツイン等による製造業の今後の変化について理解する ・グループワークを通じてアイデアを作り上げ課題解決を行う力を身に付ける ・製造業を題材に事業構想や起業を行う視点・アプローチを身に付ける 						
授業計画							
第1回	オリエンテーション・ガイダンス（Miroボード・生成AIの使い方、デザイン思考について）						
第2回	製造業の歴史・日本の強みと、グローバル化する製造業の中での位置付け						
第3回	製造業のエンジニアリングチェーンとグローバルサプライチェーン						
第4回	製造業のデジタル化：欧州発インダストリー4.0とIoTプラットフォーム						
第5回	デジタル化による水平分業とEMS・ラインビルダーと、中国・新興国製造業の台頭						
第6回	デジタルツインと、産業メタバースによる変革						
第7回	インダストリー5.0とデータスペースによるイノベーション						
第8回	【業界洞察】自動車業界の変化：CASE革命と、Catena-X						
第9回	【業界洞察】FA（ファクトリーオートメーション）業界とロボティクス						
第10回	【業界洞察】日本家電・半導体業界の台頭・後退とこれから						
第11回	【業界洞察】ディスクリートとプロセス産業の違いと、素材産業のグローバル展開						
第12回	産業政策による製造業への影響、米国大統領選挙とサプライチェーン						
第13回	製造業における起業とグローバルスタートアップ、スタートアップ連携・CVC						
第14回	生成AIによる製造業の構造変化						
第15回	製造業での起業・事業案ワークショップ						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法：出席コメントカードの提出と事後レポート・最終レポートで算出。 ・出席コメントカード提出35%＋事後レポート40%＋最終レポート25%の点で算出。 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 ・授業ではグループワークを行い、その結果に基づいて事後レポートを作成します。 ・最終講義においてはグループで製造業での起業案を作り、最終レポートを作成します。 						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	<p>参考書籍（関心ある学生のみ、購入は必須ではない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『日本型プラットフォームビジネス』（日本経済新聞出版社） ・『製造業プラットフォーム戦略』（日経BP） ・『メタ産業革命～メタバース×デジタルツインでビジネスが変わる～』（日経BP） ・『事例から見る生成AIビジネスモデル～新時代の産業戦略で利益を生成する～』（ソフトバンククリエイティブ） <p>※適時授業で参考書籍を紹介します。</p>						

備考	・議論や事業案構想など、自ら考えていくことに主軸を置く。アクティブ・ラーニング（グループディスカッション・グループワーク等）をしながら進める。 ・私語など他の学生の迷惑となる行為には厳正に対処する（理由：クラスメイトの講義受講の妨げとなる為）
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション					授業形態	演習
授業コード	EPB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug						
授業概要	自身の事業やビジネスのアイデアや企画を周囲に説明し採用されるためには、内容だけでなく効果的に説得するための情報伝達技法が必要とされる。 本授業では提示されるテーマをもとに日本語・英語双方でプレゼンテーションに必要な内容や資料の準備、場面に応じたパフォーマンスや技法等を学ぶ。あわせて、質疑応答やジャッジ等一連のやり取りを行いプレゼンテーションの目的、役割、手法について理解を深める。プレゼンテーション力だけでなく、文化的背景の異なる人々に対し日本語・英語問わずビジネスプランやアイデアを伝え、グローバルな場での実践に直結させるためのスキルを習得する。						
授業の目的・到達目標	各授業計画の記載を参照						
授業計画							
第1回	<p>このコースでは、ChatGPT、Perplexity AI、および WordTune、ProWritingAid、Quillbot などのその他の AI 駆動型テキスト生成ツールを使用して、学生にアカデミック ライティングを紹介します。AI ツールを使用して、クラスでのディスカッションやライティング課題のコンテンツを生成します。学習プロセスの一環として、足場、フレーミング、リフレーミングも組み込まれます。最終論文を修正する方法を学ぶことに加えて、学生は GPTZero を使用して学術的な不正行為や盗作を回避します。</p> <p>This course introduces students to academic writing by using ChatGPT, Perplexity AI, and other AI-driven text generation tools such as WordTune, ProWritingAid, and Quillbot. The use of AI tools will be used to generate content for class discussions and writing assignments. As part of the learning process, scaffolding, framing, and reframing will also be incorporated. In addition to learning how to revise their final thesis papers, students will also use GPTZero to avoid academic dishonesty or plagiarism.</p> <p>Active Listening + Organizing Your Speech This project covers the difference between hearing and listening, and steps for exploring the ways listening helps build strong, lasting connections.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to demonstrate your ability to listen to what others say. o Overview: Fulfill the role of Topicsmaster. As Topicsmaster, comment on each speaker's Table Topics speech to demonstrate your active listening skills. For example, you might say, "Thank you. That was a compelling opinion on the benefits of ☺☺. I understand you feel strongly that everyone needs to spend some time doing something they love."</p> <p>The following is a list of competencies that you will learn and practice in this project.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Apply listening skills to increase comprehension and connection. • Acknowledge the need for active listening. • Recognize the difference between hearing and listening. • Improve basic listening skills. <p>This project includes: o Serving as Topicsmaster.</p>						
第2回	<p>Impromptu Speaking This project is meant to help speakers learn how to outline carefully, become familiar with the general structure, and be prepared for a successful impromptu presentation.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is for the member to develop their method for giving impromptu speeches and practice adapting rehearsed stories during a presentation.</p> <p>The following is a list of competencies that you will learn and practice in this project.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use of an outline to build a clear impromptu story. • The use of pauses, gestures, and vocal variety/emphasis. • Ability to highlight keywords or sentences to present information effectively. • Follow the 5-step formula: <ol style="list-style-type: none"> 1. Listen 2. Pause 3. Confirm 4. Tell 5. End <p>This project includes: o A 1- to 2-minute impromptu speech</p>						
第3回	<p>Icebreaker This foundational project is designed to introduce you to the class and the skills you need to begin your speaking journey.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to introduce yourself to the class and learn the basic structure of a public speech.</p>						

	<p>o Overview: Write and deliver a speech about any topic to introduce yourself to the club. Your speech may be humorous, informational, or any other style that appeals to you.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o A 4- to 6-minute speech
第4回	<p>Introduction to Vocal Variety and Body Language This project focuses on the fundamentals of delivering a speech—vocal variety and body language. The project specifically focuses on how to recognize body language used when speaking publicly and how to use gestures to enhance speech content.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to practice using vocal variety and body language to enhance a speech that lends itself to expression through your movement and gestures. Video record your presentation and get feedback from your mentor or another reviewer before speaking at the next class session.</p> <p>o Overview: The primary focus of the evaluation is your vocal variety and body language. Present a 5- to 7-minute speech on any topic.</p> <p>The primary focus of the evaluation is your vocal variety or your body language and gestures. You will identify the skills you are working on for your evaluator before you deliver your speech and be evaluated on those skills. Your speech can be persuasive, humorous, informational, or crafted in any style that appeals to you and supports your speech content.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o Feedback and evaluations from the entire class. The member may choose to be evaluated on only their body language, only their vocal variety, or both. o A 5- to 7-minute speech.
第5回	<p>Connect With Storytelling This project addresses storytelling techniques and descriptive skills to help make every speech relatable and interesting.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to practice using a story within a speech or giving a speech that is a story.</p> <p>o Overview: Choose an established story, a story about your life, or a fictional tale of your own creation. Deliver the 5- to 7-minute speech. Your evaluator must be present for your speech.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o A 5- to 7-minute speech.
第6回	<p>Persuasive Speaking This project focuses on helping you to develop and support a viewpoint and identify the most appropriate type of persuasive speech for your topic.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to understand the types of persuasive speeches and deliver a persuasive speech.</p> <p>o Overview: Choose any topic that lends itself to speaking persuasively and prepare a speech. Present your 5- to 7-minute speech. Your evaluator must be present for your speech.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o The Persuasive Speech Outline Worksheet. o A 5- to 7-minute speech.
第7回	<p>Engage Your Audience with Humor This project focuses on understanding what makes you laugh and how to share that with an audience.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to begin developing a collection of humorous stories and to present a speech that includes humor.</p> <p>o Overview: Give a 5- to 7-minute speech on a topic of your choosing. Your speech should include at least one anecdote or story intended to entertain or bring humor into your presentation. Your evaluator must be present for your speech.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o A 5- to 7-minute speech.
第8回	<p>Using Descriptive Language This project addresses the difference between literal and figurative language along with how to determine when to use each to create vivid descriptions.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to practice writing a speech with an emphasis on adding language to increase interest and impact.</p> <p>o Overview: You may speak on any topic. Develop a 5- to 7-minute speech describing the topic in detail and present it. Your evaluator must be present for your speech.</p> <p>This project includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> o A 5- to 7-minute speech
第9回	<p>Inspire Your Audience This project addresses how to present a speech in an enthusiastic and inspiring fashion to establish a strong rapport with your</p>

	<p>audience.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to practice writing and delivering a speech that inspires others.</p> <p>o Overview: Select a topic with the intent of inspiring your audience and prepare a 5- to 7-minute speech for your club.</p> <p>This project includes:</p> <p>o A 5- to 7-minute speech</p>
第10回	<p>Creating Effective Visual Aids</p> <p>This project addresses effective methods for choosing the best visual aid for your presentation along with the creation and use of each type. This project addresses the use of presentation software—from identifying topics that benefit from the use of technology to effective slide design and presentation.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to practice selecting and using a variety of visual aids during a speech.</p> <p>o Overview: Select a speech topic that lends well to a visual presentation using technology. Create at least one but no more than three visual aids to enhance your presentation. Your speech can be humorous, demonstrative, or informational, and it may include stories or anecdotes. Deliver your 5- to 7-minute presentation. Your evaluator must be present for your speech.</p> <p>This project includes:</p> <p>o Creating one to three visual aids.</p> <p>o A 5- to 7-minute speech.</p>
第11回	<p>Questions & Answers Session</p> <p>This project addresses how to prepare to answer questions and provide information clearly, concisely, and with confidence.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to learn about and practice facilitating a question-and-answer session.</p> <p>o Overview: Select a topic of which you are particularly knowledgeable. Prepare and deliver a speech on this topic, followed by a question-and-answer session. Together, the speech and question-and-answer session must be 15 to 20 minutes. Use your time effectively to ensure both segments are completed.</p> <p>This project includes:</p> <p>o A 5- to 7-minute speech.</p> <p>o A question-and-answer session after the speech.</p>
第12回	<p>Moderate a Panel Discussion [Part 1]</p> <p>This project addresses the skills needed to successfully moderate a panel discussion and how to be an effective participant on a panel.</p> <p>o Purpose: The purpose of this project is to apply your skills as a public speaker and leader to facilitate a panel discussion.</p> <p>o Overview: Plan and moderate a 20- to 40-minute panel discussion. The panel discussion can be on any topic. Students who participate as panelists do not receive credit.</p> <p>This project includes:</p> <p>o Planning and moderating a 20- to 40-minute panel discussion.</p>
第13回	Moderate a Panel Discussion [Part 2]
第14回	Preparation for FINAL SPEECH CONTEST
第15回	SPEECH CONTEST
成績評価の方法	<p>格付けは、次の内容で構成されます。</p> <p>テーブルトピック マスター、役割 = 20% [役割は最低 1 回実行する必要があります]</p> <p>テーブルトピック (即興) スピーカー、役割 = 15% [役割は最低 3 回 (各 5%) 実行する必要があります]</p> <p>テーブルトピック 評価者、役割 = 15% [役割は最低 3 回 (各 5%) 実行する必要があります]</p> <p>準備スピーカー、役割 = 30% [役割は最低 3 回実行する必要があります (各 10%)]</p> <p>準備スピーカー 評価者、役割 = 15% [役割は最低 3 回 (各 5%) 実行する必要があります]</p> <p>グラマリアンおよび/またはタイマー、役割 = 5% [役割は最低 5 回実行する必要があります (各 1%)]</p> <p>Table Topics Master, role = 20% [role must be done a minimum of 1 time]</p> <p>Table Topics (Impromptu) Speaker, role = 15% [role must be done a minimum of 3 times (each 5%)]</p>

	<p>Table Topics Evaluator, role = 15% [role must be done a minimum of 3 times (each 5%)]</p> <p>Prepared Speaker, role = 30% [role must be done a minimum of 3 times (each 10%)]</p> <p>Prepared Speaker Evaluator, role = 15% [role must be done a minimum of 3 times (each 5%)]</p> <p>Grammarian and/or Timer, roles = 5% [roles must be done a minimum of 5 times (each 1%)]</p>
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>すべてのクラスミーティングは、組織化された一連のスピーチに基づいています。スピーカーは、多くの場合、同僚や教師からフィードバックを受けます。フィードバックを提供する論評者は、メインスピーカーのパフォーマンスに基づいた建設的なフィードバックを含む即席のスピーチを行います。</p> <p>クラスミーティングの一部は、トピックスマスターによってその場で割り当てられる即席のスピーチであるテーブルトピックスに費やされます。この目標は、学生が最小限の準備で自分の足で考えることを奨励することです。各即興スピーチの後、クラスは誰が最も優れた即興スピーチを提供したと思うかを投票するよう求められます。</p> <p>このコースは、人前で話すこととリーダーシップのスキルを構築することに重点を置いており、対人コミュニケーション、管理、戦略的リーダーシップ、動機、および自信の要素が含まれています。毎週、最終的なスピーチコンテストに向けたさまざまなテーマ/プロジェクトで構成されます。外部審査員を招待して最終スピーチコンテストを審査します。</p> <p>Every class meeting is based on a set of organized speeches. Speakers are given feedback, often by peers and the teacher. Evaluators who provide feedback give an impromptu speech with constructive feedback based on the main speaker's performance.</p> <p>Part of the class meetings is devoted to Table Topics, which are impromptu speeches that are assigned on the spot by a Topicsmaster. The goal of this is to encourage students to think on one's feet with minimal preparation. After each impromptu speech, the class is asked to vote on whom they thought provided the best impromptu speech.</p> <p>The course places a large emphasis on building public speaking and leadership skills and includes elements of Interpersonal Communication, Management, Strategic Leadership, motivation, and Confidence. Each week will consist of different themes/projects that build towards a final speech contest. External judges will be invited to attend and judge the final speech contest.</p>
教科書	
参考書	<p>本講座のテキストを購入する必要はありません。</p> <p>ChatGPT や Perplexity AI などの最近の技術的ブレイクスルー アプリケーションは、このコースの執筆および研究セクションで学習および適用されます。</p> <p>Students will not be required to purchase textbooks.</p> <p>Recent technological breakthrough applications such as ChatGPT and Perplexity AI are studied and applied in the writing and research sections of this course.</p>
備考	None.
昨年度からの振り返り	<p>各回の授業は「反転授業」という形式に沿って行われますので、生徒中心のスタイルになります。そのため、教室に来る前に十分な準備をしておく必要があります。生徒には、自宅で自習するための資料や学習資料などがすべて配布されます。生徒が授業に来ると、伝統的な「宿題」の演習を行います-自分の能力、スキル、理解力を試すために。グループを作り、生徒はグループの成功に貢献しなければなりません。</p> <p>Each class session will follow the "flipped classroom" format, which means it is a student-centered style. Therefore, students must be well prepared before coming to the classroom. Students will be given all the information, study materials, and other documents to self-study at home. When students come to class, they will complete traditional "homework" exercises -in order to test their ability, skills, and understanding. Groups will be created, and students must contribute to the group's success.</p>

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	国際開発論					授業形態	講義
授業コード	IND1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	楊 殿閣						
授業概要	国際開発の分野で注目されている論点を取り上げ、開発途上国の現状と課題を外観し、経営や情報通信技術の観点からの開発援助や持続可能な開発目標（SDGs）など国際開発の動向を理論と事例から検討する。具体的には国内外の貧困問題、地域紛争、教育、環境、資源など様々な問題に対して理解を深めるとともに、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどへの具体的な開発・協力事例を取り上げる。国際開発や協力の手法への理解を深め、ビジネスや情報通信技術など専門分野の観点からの課題解決について検討することで、グローバル化が進む現代でビジネスや事業を展開する上で必要な判断力や応用力を養う。						
授業の目的・到達目標	グローバルな社会課題への理解を深め、諸課題の関係を具体的に説明できるようになる。国際感覚を醸成することで、多様な価値観に対応し、次世代のグローバル人材が必要とする知識を分類できるようになる。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション。地球規模課題に関する国際的な議論の潮流を概観する。						
第2回	工業化・近代化に拍車をかける国際開発の功罪について考える。						
第3回	資本主義が進化する現代における自律性とリスクを考える。						
第4回	国際的な貧困問題と不平等の構造を考察する。						
第5回	国際取引の構造とオルタナティブ・トレード理念について理解する。						
第6回	国際開発・協力についてグループ・ディスカッションとプレゼンテーション。						
第7回	グローバル・サプライチェーンを考える① フードシステムにかかる現状把握と具体事例～コーヒーとチョコレート生産～						
第8回	グローバル・サプライチェーンを考える② テキスタイル産業にかかる現状把握と具体事例～サステナブル・コットンの基準～						
第9回	グローバル・サプライチェーンを考える③ エシカル消費にかかる現状把握と具体事例～認証システムの利用～						
第10回	サステナビリティへの取り組み① 「ビジネスと人権」						
第11回	サステナビリティへの取り組み② 「環境リジェネレーション」						
第12回	サステナビリティへの取り組み③ 「社会的連帯経済」						
第13回	サステナビリティについてグループ・ディスカッションとプレゼンテーション。						
第14回	ソーシャルマーケティングの概念と応用を検討する。						
第15回	総括。SDGsの理念と取り組みについての確認。期末レポートについて。						
成績評価の方法	試験は実施しない。期末レポート（50％）による評価に加え、授業への参加・議論（グループ・ディスカッション含む）への貢献度、積極性及びユニークな意見を評価する（50％）。						
準備学修（予習・復習、課題等）	習として、マスメディア等で得られるSDGsにかかる情報をまとめ、右情報への個々人の意見を準備する（90分程度）。また、複数回グループ・ディスカッションの機会を設けるので、その際に発表することも可能。 復習として、講義への参加を通じて得た情報を参考に、来年以降の社会人としての活動にどのような変化をもたらせるか熟考し、思考のポイントを整理する（90分程度）。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	持続可能な開発のための2030アジェンダ（The 2030 Agenda for Sustainable Development） 英語： https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101401.pdf 日本語： https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf						

備考	国際開発に関する学びを通じて、これからの社会人の方々が必要とする教養を習得するのみならず、地球規模課題と個々人の日常生活や仕事との関係性を考える上でも有意義な内容になると考えています。就職活動などで、進路を悩む方々は、是非、奮って履修ください。
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	ファイナンス業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GFI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	高橋 敦						
授業概要	<p>昨今の企業活動は国内だけでは成り立たず、グローバル化が進んでいます。そして企業活動にかかわる為替・社債・株式などの金融市場には、日々世界中のお金が流入し、また流出しています。たとえば、2024年3月、東京株式市場に流入しているのは海外投資マネーが6割であり、日経平均株価は4万円を超えることになりました。こうしたファイナンスに関連する出来事は、日本一国だけでなく、世界中の国々や経済に大きな影響を及ぼしています。このようなファイナンスのグローバル化の進展は、ビジネスや情報通信技術の変化と密接に結びついています。</p> <p>本授業では、制度、歴史、政策などの多角的な視点から、現在進行中のファイナンスのグローバル化の本質と意義を理解し、新規ビジネスや既存事業のイノベーションにつなげる方法を検討する応用力を身につけることを目指します。なお、実態に即したケーススタディを多用して授業を進めます。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>実際のビジネスの現場でファイナンスがどのように活用されているかを理解するとともに、近年進むグローバル化とビジネスモデルの変化を理解することを目的とする。本授業を通じて社会人として最低限必要なファイナンスの知識を身につけ、正しい問題意識をもってファイナンスに関わる事象を把握できるようになることを到達目標とする。</p>						
授業計画							
第1回	オリエンテーション 及び「日本におけるバブル崩壊とその後のデフレーション経済」						
第2回	「高い賃上げによる好循環とデフレ脱却へ」						
第3回	「会計・ファイナンス」ケーススタディ『イタリアンレストラン開業・運営』						
第4回	「ファイナンスの基礎：3つの意思決定と資金調達方法」						
第5回	「ファイナンスの基礎：お金の時間的価値」						
第6回	「ファイナンスの基礎：現在価値と将来価値」						
第7回	「投資の意思決定：Net Present Value (NPV) 法」						
第8回	中間まとめ 及び 質疑応答						
第9回	「キャッシュフロー・運転資金マネジメント」ケーススタディ『アップルvs.パナソニック』						
第10回	「収益率・資本効率 (ROE)」ケーススタディ『明治ホールディングスの資本効率改善』						
第11回	「外食ビジネスモデル」ケーススタディ『サイゼリヤvs.壱番屋』						
第12回	「効率的在庫管理」ケーススタディ『アップルvs.サムスンvs.TSMC』						
第13回	最終課題の説明：チームプレゼンテーション、個人レポート提出について						
第14回	「チームプレゼンテーション①」						
第15回	「チームプレゼンテーション②」及びまとめ						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加、貢献、小テスト 30% ・ チームプレゼンテーション 30% ・ 個人レポート 40% 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>各回の主要テーマにつき、用語の理解等の事前学習を行うこと。また、ケーススタディに関しては全て精読の上、自分なりの答えをもって授業に参加されたい。(90分程度)</p> <p>復習は各授業の後、知識の定着化を図るために十分に時間を取ること。(90分程度)</p>						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書							
備考	教科書は指定しない。授業は講義用資料（Google Classroomにて配布）を用いて進める。アクティブ・ラーニング型の授業としてケーススタディや直近のビジネストピックを多く扱うため、授業への積極参加を望むとともに、広くビジネス関連トピックに関心を持って情報を収集						

	されたい。 各授業の最後に小テストを行い、成績評価に加味する。
昨年度からの 振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業名	サービス業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GSI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	神田 達哉						
授業概要	産業構造のシフトによって、医療や福祉、教育、接客業などサービス業の需要や経済に与える影響が世界中で高まっている。他方、高まるニーズに対し、人材不足や専門性に対するスキル不足などの課題は多く存在している。 この授業では、まず前半5回でサービス業の構成や特性、サービスモデルなどを理解する。その後の7回の授業では、グローバル化やイノベーションがどのように推進されているか、主に国内企業の具体的な事例に基づいて検討する。そして最後の3回の授業では、サービス業の国際展開に至る成功の鍵の探求へと繋がる理論や知識を習得する。						
授業の目的・到達目標	「グローバルビジネスにおけるサービス業のあり方を理解するとともに、その特性に応じた課題解決やイノベーションの実行を可能とする理論や知識を説明することができるようになること」を授業の目的とする。 到達目標は、「本授業が対象とする領域について、現状の課題や自分自身の意見を文章で説明することができること」とする。						
授業計画							
第1回	ガイダンス 本授業の構成 産業構造におけるサービス業の分類						
第2回	サービス経済化進展の背景 サービス経済化の国際比較 サービス業の労働生産性						
第3回	サービス業のとらえ方 サービス業の戦略的業態分類						
第4回	サービスの特色と品質特性 サービス提供の基本的課題 価値共創の新たな方向性						
第5回	サービス業のマーケティング戦略						
第6回	小売サービスの国際展開 事例：良品計画						
第7回	運送サービスの国際展開 事例：日本郵船、スターアライアンス						
第8回	飲食サービスの国際展開 事例：大戸屋						
第9回	警備サービスの国際展開 事例：セコム						
第10回	教育サービスの国際展開 事例：公文教育研究会、キッズニア						
第11回	コンテンツサービスの国際展開 事例：ウォルト・ディズニー						
第12回	コンサルティング・サービスの国際展開 事例：日立コンサルティング						
第13回	顧客満足の向上 サービス生産性の向上						
第14回	「理念の伝道師」主導の現地経営 相互作用が生まれる「場」の輸出						
第15回	授業のまとめ 期末レポート						
成績評価の方法	以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。 なお、60点以上の評点に対して単位を付与する。 1. 期末レポート (50%) 2. 授業ごとにその場でGoogle classroomへ提出を求めるコメントの内容 (30%) ※コメントとは「自分自身の意見とそう考える理由や根拠」のこと 3. 授業中の発言や課題発表などによるクラスへの貢献、受講態度および参加意欲 (20%)						
準備学修 (予習・復習、課題等)	予習 授業ごとに紹介する書籍や論文を読む (90分程度) 復習 授業ごとに紹介する書籍や論文を読むとともに、Google classroomにアップロードされた講義資料をもとに授業内容を振り返る (90分程度)						
教科書							
書名	著者	出版社			ISBN	備考	
指定なし							
参考書	1. 江夏健一・大東和武司・藤沢武史編著 (2008)『サービス産業の国際展開』中央経済社、ISBN 978-4502664601 2. 南方建明・宮城博文・酒井理 (2015)『サービス業のマーケティング戦略』中央経済社、ISBN 4502135011 3. 伊丹敬之・高橋克徳・西野和美・藤原雅俊・岸本太一編著 (2017)『サービスイノベーションの海外展開－日本企業の成功事例とその要因分析－』東洋経済新報社、ISBN 978-4492502945 ※授業の進捗状況に応じて、上記以外についても随時紹介する。						

備考	<p>1. Google classroomに提出されたコメントは、原則として次回授業の冒頭でその全部もしくは一部についてフィードバックする。その他必要なフィードバックについては、適宜Google classroomやメール等に対応する。</p> <p>2. 授業冒頭において、開講日直近にリリースされたサービス業の国際展開に関するトピックを題材として、教員・受講生間あるいは受講生同士で、その課題や可能性に関わる議論の場を設定することがある。学修効果を高めるためにも、日々それらの情報を可能な限り吸収しておいて欲しい。</p> <p>3. 問題意識を持ちそれに基づく課題をアウトプットする能力を醸成する観点から、授業中に受講生の発言を求める機会が圧倒的に多い。提供された話題に対して、自身の経験や他者との議論を通じて適切な解釈を施したうえで、自分の意見を適宜発表してもらった授業形態となる。そのことを予め認識したうえで受講選択することが望ましい。</p>
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	グローバルビジネスにおけるネゴシエーション					授業形態	演習
授業コード	ENB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Yu Li Shein						
授業概要	ビジネス交渉は世界中のあらゆる場面で生まれ、最も重要視されるべきものの1つである。本演習では、相手がどのようなタイプの交渉を行うネゴシエーターかを把握し、文化的背景の異なる人々に対して場面にあわせた様々な交渉手順や戦略を取り入れながら最善の交渉術を見出すことを目標とする。文化が交渉に与える影響力や感情の働き、人種・性差別、緊急を要する困難な状況における交渉場面を取り扱う。学生はグローバルビジネスの現場で活躍できるよう英語でも交渉理論・戦略方法を学び、幅広いテーマによるロールプレー形式で実践演習を行う。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿った内容を英語で理解し、表現できる。 ・ 授業を通じ、グローバルビジネスの場の英語での交渉実践を行う。 						
授業計画							
第1回	Introduction to course and expectations Introductions and Icebreakers ・ Assess English abilities						
第2回	Polish and improve your basic communication skills before the negotiation Workshop/Role Play 1						
第3回	Know and polish yourself, know YOUR cards Workshop/Role Play 2						
第4回	Guess/read THEIR cards Workshop/Role Play 3						
第5回	Try to find common ground and Handle objections Workshop/Role Play 4						
第6回	Decide to Negotiate & Plan your negotiation Quiz						
第7回	Calculating your opening offer & Leveraging different negotiation tactics Quiz						
第8回	How to Trade & Closing Quiz						
第9回	Negotiation in Business: CUSTOMER DEVELOPMENT Workshop/Role Play 5						
第10回	Negotiation in Business: Marketing Workshop/Role Play 6						
第11回	Negotiation in Business: Co-Founder & Employee Workshop/Role Play 7						
第12回	Negotiation in Business: Sales Workshop/Role Play 8						
第13回	Negotiation in Business: Strategic Partnership Workshop/Role Play 9						
第14回	Negotiation in Business: Investor Workshop/Role Play 10						
第15回	Wrap-up and Progress Measuring Workshop						
成績評価の方法	Attitude, Contribution, Willingness, Participation (35%) Workshop/Role Play (35%) Assignment & Quiz & Progress (30%)						
準備学修 (予習・復習、課題等)	Prior to each class, students will be expected to pre-read the weekly readings, be aware of homework, quizzes, and other assignments that are due, and ensure that all work is completed on time.						

Please come with an open mind and a willingness to speak and participate, even if you are not yet completely comfortable speaking English fluently. 90 minutes of preparation and 90 minutes of review are recommended for each class.

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	国際経営と商習慣					授業形態	講義
授業コード	IBP1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	吉田 和広						
授業概要	企業が海外進出するとはどのようなことなのか。海外に進出しない企業でもグローバル競争に巻き込まれるのはなぜなのか。国際経営と国内経営は何がどう違うのか。グローバル化以前と以後のビジネスでは何がどう変わったのか。ビジネスにとって、商習慣が各国・各地域によって異なることで何が問題となるのか。これらの疑問をきっかけに、ビジネスを国際的に展開するために何が必要かについて具体的な事例と理論的な枠組みを学びながら考えることで、ビジネスの国際展開や協働を考える上で必要な理論や知識、考え方を修得する。						
授業の目的・到達目標	グローバル化が急速に進むビジネス環境の中で、「異文化」を言い訳にしない、真のグローバルビジネスパーソンになるために必要な思考を身に付ける。						
授業計画							
第1回	イントロダクション						
第2回	目に見える違い（言語、食事、ファッション、法制度、表情やジェスチャーなど）						
第3回	目に見えない違い（価値観、思考パターンなど）						
第4回	多国籍企業論と国際経営論						
第5回	日本的思考を知る（日本企業の国際経営）						
第6回	国際マーケティング① マーケティングの理論						
第7回	国際マーケティング② 事例から考察するマーケティング						
第8回	グローバル・サプライチェーン						
第9回	国際経営と人事						
第10回	国際経営とリスクマネジメント						
第11回	国際経営戦略						
第12回	グローバルなコミュニケーション能力・思考力を高める						
第13回	事例研究① 国際経営の成功例						
第14回	事例研究② 国際経営の失敗例						
第15回	まとめ・振り返り						
成績評価の方法	授業への参加と貢献20%、ミニレポート（複数回実施）40%、期末レポート40%とする。						
準備学修（予習・復習、課題等）	各クラス後に知識の定着化のため2時間程度の復習と次回授業のための予習或いは準備のため2時間程度の時間を割くことが求められる。						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
指定なし							
参考書	特になし。						
備考	講義用のスライドを元に進める。						
昨年度からの振り返り	昨年度の授業改善アンケートの結果によると、学習量に関して「やや少ない」という声が比較的多かったため、ミニレポートの回数を少し増やす予定である。また、講義内容に関しては昨年度同様、受講生が社会人となった後にも実践的に役立つものとなるよう、「わかりやすさ」を重視して展開する予定である。						

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業名	農業・林業・漁業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GAF1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小林 久美子						
授業概要	産業の最も基本である第一次産業（農業、林業、漁業）におけるグローバル化やイノベーション事例を学ぶ。具体的には、農業を取り巻く環境や資源、政策などをビジネスの観点から基本的な理解を深める。同様に林業や漁業について環境とあわせて、基本的な理解を図る。また、情報通信技術を駆使したマネジメント手法や新たなビジネスモデルを活用した事例や農林漁業の6次産業化など、日本に限らず世界の事例をもとに検討し、産業の発展と課題解決について理解を深める。これらを通じ、一次産業でのビジネスや経営・情報通信技術を活用した新たなビジネスモデルを構築する応用力を身に付ける。なお、海外の事例検討などを行うことを考慮し、授業は日本語・英語両方を用いて進行する。						
授業の目的・到達目標	既存産業においてテクノロジーを駆使した経営管理や情報通信技術の活用事例について、産業の最も基本である第一次産業から学び、自身のビジネスプランや他分野への展開方法について検討できるようになる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス						
第2回	ライフサイクルアセスメント						
第3回	バイオテクノロジー、遺伝子組み換え・ゲノム編集						
第4回	農業① 農法・農業政策						
第5回	農業② 農業におけるビジネスモデル・イノベーション事例						
第6回	農業③ 農業とDX（スマート農業）						
第7回	林業① 環境と政策						
第8回	林業② ビジネスモデルとイノベーション事例						
第9回	漁業① 環境と政策						
第10回	漁業② ビジネスモデルとイノベーション事例						
第11回	農林漁業の6次産業化① 基礎情報						
第12回	農林漁業の6次産業化② ビジネスモデル事例						
第13回	農林漁業の6次産業化③ DX・イノベーション事例						
第14回	国際基準（ISO、HACCP）						
第15回	農業・林業・漁業のまとめ、課題発表						
成績評価の方法	授業内課題50% 最終課題50%						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：テーマに関する文献リサーチ（45分） 復習：授業課題への取り組み（60分）						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	参考書・資料等は授業の中で適宜紹介する。						
備考							
昨年度からの振り返り	海外の先端技術やビジネス事例を多く紹介する。 グループワークおよび個人ワークをより深く取り組める内容にする。						

授業年度	2024年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	総合科目
授業名	総合理論演習					授業形態	演習
授業コード		単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中嶋 隆一、寺脇 由紀、江端 浩人、久米 信行、平山 敏弘、川上 慎市郎、志村 一隆、富澤 豊、三澤 一文、磯 俊樹、片桐 雅二、加藤 直人、鎌谷 修、堀田 耕一郎、落合 慶広、桐谷 恵介、石村 源生、山内 正人、阿部川 久広、乗浜 誠二、松村 太郎、奥村 耕一、Joe Hug、各務 茂雄、境 真良、佐藤 紀行						
授業概要	学生の興味関心に基づき、4年次卒業課題を見通した研究を行う。研究方法について学ぶと共に、先行研究・ビジネスケース等を学び合う。また、卒業課題設定のための課題抽出、立論のための技法を学ぶ。さらにグループ発表では、抽出課題に沿った研究がなされているか（調査、製作などの方法とそのまとめ方）教員の指導を受けながら、広く柔軟な視野を持ち、4年次卒業課題に向けて自らのテーマを創造的に発展させ、論文形式でまとめる。また、卒業課題の仮テーマ設定と計画書もあわせて作成する。						
授業の目的・到達目標	興味関心のあるテーマに基づき、関連図書・研究論文の講読、フィールドワーク等を通して知見を増やすと同時に、卒業課題の設定を目的に、自ら課題抽出をする力を養う。また、自ら抽出した課題についての先行研究・ビジネスケース・既存製品等を批判的に考え、論文形式でまとめる力を養う。また、卒業課題の仮テーマ設定と計画書もあわせて作成する。						
授業計画							
第1回	総合理論演習の進め方						
第2回	研究方法の学習						
第3回	先行研究・ケース等の発表：課題抽出						
第4回	先行研究・ケース等の発表：課題抽出						
第5回	文献研究1						
第6回	グループ発表・ディスカッション						
第7回	文献研究2						
第8回	グループ発表・ディスカッション						
第9回	文献研究3						
第10回	グループ発表・ディスカッション						
第11回	卒業課題テーマ探求の為のフィールドワーク学習						
第12回	グループ発表・ディスカッション						
第13回	振り返り・卒業課題テーマ設定に向けた文献研究						
第14回	振り返り・卒業課題テーマ設定に向けた文献研究						
第15回	卒業課題の仮テーマ設定と計画書作成						
成績評価の方法	グループ発表・ディスカッション内容（40%） 個人課題（卒業課題のテーマおよび概説、課題設定、計画設計）（40%） その他演習への参加・取り組み姿勢（20%）						
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回の授業で出す小課題については、次回授業までに必ず取り組むこと。 指摘された事項を踏まえ、各自必ず振り返りを行うこと。 発表に当たっては、自ら文献を探すなど念入りに準備をし、発表技術の向上に努めること。						
教科書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
指定なし							
参考書	配布資料による。						
備考							
昨年度からの振り返り							

授業年度	2024年度	配当学年	4年	学期	通期	科目分類	総合科目
授業名	総合実践演習					授業形態	演習
授業コード		単位数	4単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中嶋 隆一、寺脇 由紀、江端 浩人、久米 信行、平山 敏弘、川上 慎市郎、志村 一隆、富澤 豊、三澤 一文、磯 俊樹、片桐 雅二、加藤 直人、鎌谷 修、堀田 耕一郎、落合 慶広、桐谷 恵介、石村 源生、山内 正人、阿部川 久広、乗浜 誠二、松村 太郎、奥村 耕一、Joe Hug、各務 茂雄、境 真良、佐藤 紀行						
授業概要	<p>総合理論演習において設定したテーマおよび仮説を、専任教員の指導の下「卒業課題」として検証（実証）、実践にまとめる。卒業課題については公開の場でプレゼンテーションを行うとともに、書面及びデータで提出する。尚、課題は個人、グループのいずれかの方法での提出を可能とする。</p> <p>・卒業課題に必要な条件について 以下の項目が提出物内で具体的かつ明確に説明されていること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 新規性があり、産業界からのニーズに適した、理論と実務を架橋するテーマであること 「イノベーション人材」になるためのステップとしてふさわしいテーマであること <p>・提出形式</p> <ol style="list-style-type: none"> ビジネスプラン <ul style="list-style-type: none"> i) 新規性があり、産業界からのニーズに適したビジネスプラン 論文 <ul style="list-style-type: none"> i) 産業界における新規性、先見性の認められる仮説を立て、それを検証した論文 作品 <ul style="list-style-type: none"> i) 新規性があり、かつコンテンツ産業および関連産業から特に優れたものと評価された作品 						
授業の目的・到達目標	<p>以下を目標として卒業課題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ビジネスプラン <提出形式> <ul style="list-style-type: none"> i) 新規性があり、産業界からのニーズに適したビジネスプラン <アウトプットイメージ> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプランとして必要となる「市場分析」「コンテンツ（製品・サービスなど）の特徴」「事業戦略」「事業計画」を明記すること ・ビジネスプランにとりあげるサービスなどを作成 論文 <提出形式> <ul style="list-style-type: none"> i) 産業界における新規性、先見性の認められる仮説を立て、それを検証した論文 <アウトプットイメージ> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを取り上げる目的や先行研究・事例、研究の方法とそれに基づく結果、そこから考察されることなどから構成されるもの 作品・プロダクト <提出形式> <ul style="list-style-type: none"> i) 新規性があり、かつコンテンツ産業および関連産業から特に優れたものと評価された作品 <アウトプットイメージ> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術を用いて制作した作品および作品説明（企画書等）とする。 						
授業計画							
第1回	授業の進め方と卒業課題の概要、テーマ、スケジュール説明						
第2回	卒業課題の設定に向けた準備：文献研究、調査、情報収集等						
第3回	卒業課題の設定に向けた準備：文献研究、調査、情報収集等						
第4回	グループ発表・ディスカッション						
第5回	グループ発表・ディスカッションの振り返り						
第6回	卒業課題テーマの決定・発表						
第7回	卒業課題計画の決定・発表						
第8回	課題内容の構想と準備						
第9回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第10回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第11回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第12回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						

第13回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第14回	中間まとめ（発表）
第15回	中間まとめ（振り返り）
第16回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第17回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第18回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第19回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第20回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第21回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第22回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第23回	課題進捗状況の報告・ディスカッション
第24回	卒業課題の提出
第25回	卒業課題発表準備
第26回	卒業課題発表準備
第27回	卒業課題発表準備
第28回	卒業課題発表内容の決定
第29回	卒業課題発表会
第30回	卒業課題発表会
成績評価の方法	<p>課題への取り組みと提出課題に基づいて評価（90%）、卒業課題発表会の内容（10%）</p> <p>（評価基準）</p> <p>【ビジネスプラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定条件への適合 ・テーマに対する事業アプローチの設定根拠 ・先行事例・関連事例の調査状況 ・ビジネスプランとしての競争優位性・分析・評価等の調査手法 ・市場環境の分析・調査手法 ・財務計画の適切性 <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定条件への適合 ・テーマに対するアプローチの設定論拠 ・先行研究・関連研究の調査状況 ・論文としての新規性 ・分析・評価等の調査手法 ・研究を通じた学術への貢献 ・卒業課題の完成度／発展性 <p>【作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定条件への適合 ・テーマに対する作品アプローチの設定根拠 ・先行事例・関連事例の調査状況 ・作品としての競争優位性・分析・評価等の調査手法 ・市場環境の分析・調査手法 ・学外の学会、展示会での発表、学術誌、新聞等に掲載され、高い評価を得ることができる作品であるか否か
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のテーマに沿って、自ら学習の計画を立て、その計画に沿って進めること。 ・指摘された事項を踏まえ、各自必ず振り返りを行うこと。 ・発表に当たっては、自ら文献を探するなど念入りに準備をし、発表技術の向上に努めること。
教科書	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	配布資料による。			
備考				
昨年度からの 振り返り				